講義要項/シラバス

多摩大学大学院

令和 4(2022)年度

April 1, 2022

目 次(フィールド別)

MBA開講科目一覧

実践知考具/志

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
経営者の志と実践知	佐々木 弘明	春	2	1
企業理念経営	佐々木 弘明	秋	2	3
スーパージェネラリスト論	田坂 広志	春	2	6
ネオ・リベラルアーツ論	田坂 広志	秋	2	8
ライフシフト:人生の成長戦略	荻阪 哲雄	春	2	10

実践知考具/イノベーション

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
知識創造経営のプリンシプル	紺野 登	春	2	13
イノベーションマネジメントシステム(IMS)と目的工学	紺野 登	秋	2	16
シナリオプランニングワークショップ	紺野 登	春	2	19
デザイン思考ワークショップ	紺野 登	秋	2	21
ビジネスモデルイノベーション	河野 龍太	春	2	23
イノベーターのための顧客創造戦略 理論と実践技法	河野 龍太	秋	2	25
起業/社内起業の事業創造実践論	本荘 修二	秋	2	27

実践知考具/顧客創造

\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\				
科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
マーケティングマネジメント概論	河野 龍太	春	2	29
マーケティングマネジメント概論	河野 龍太	秋	2	31
Webマーケティング戦略	土屋 有	春	2	33
最新ロジスティクス戦略	角井 亮一	春	2	35
BtoBマーケティング	徳永 朗	秋	2	37
観光インバウンドマネジメント	中山 こずゑ	秋	2	39
商品ブランドマネジメント	佐野 扶美枝	春	2	41

実践知考具/リーダーシップと人事

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
ヒューマンリソース概論I-A	徳岡 晃一郎	春	2	44
ヒューマンリソース概論I-B	佐々木 弘明	春	2	46
ヒューマンリソース概論II	徳岡 晃一郎	秋	2	48
インナーコミュニケーション	徳岡 晃一郎	春	2	50
カルチャーベースマネジメント	徳岡 晃一郎	秋	2	52
実践組織変革	浜田 正幸	秋	2	54
ストレスマネジメントと精神回復力	水木 さとみ	春	2	56
キャリアマネジメントとモチベーション	片岡 裕司	春	2	58
実践ポジティブ心理学	三田 真美	秋	2	60
オーセンティックリーダーシップ	荻野 淳也	秋	2	62

実践知考具/ファイナンス&ガバナンス

CPA/H-4X/7/1/V/100/1-/V/1				
科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
ファイナンス基礎I(経営財務)	宇佐美 洋	春	2	65
ファイナンス基礎II(リスクマネジメント)	宇佐美 洋	秋	2	67
法の経済分析入門	宇佐美 洋	春	2	69
組織と戦略の経済学	宇佐美 洋	秋	2	71
企業会計•簿記入門	井村 順子	秋	2	73
財務分析	井村 順子	秋	2	75
行動経済学	真壁 昭夫	春	2	77
M&A戦略と実践企業ファイナンス	中岡 英隆	春	2	79
中小企業の価値創造と事業承継	藤本 江里子	春	2	81
コーポレートガバナンスの理論と実務	菅原 貴与志	秋	2	83

実践知考具/データドリブン経営

大阪加 ラスバナー シモラシマ 歴日				
科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
データ活用入門	今泉 忠	春	2	86
集中ゼミ(統計検定)	今泉 忠	春	2	88
マーケティングリサーチ	今泉 忠	秋	2	90
統計的データ分析	久保田 貴文	秋	2	92
DX変革:データサイエンスによる企業変革	前田 英志	春	2	94
DX変革:AI/Watsonに学ぶ知のデジタル化の実践知	鈴木 至	秋	2	96
クリティカルシンキング	柏木 吉基	秋	2	98
データドリブンの戦略構築	栗山 実	秋	2	100
サービスサイエンス	中野 未知子	秋	2	103
マーケティング実践	佐藤 洋行	秋	2	106

最新ビジネス実践知/アジアビジネス戦略

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
世界潮流と企業戦略	金 美徳	春	2	108
日本企業の中国ビジネス	徐 向東	春	2	111
日中企業比較論	柯 隆	秋	2	113

最新ビジネス実践知/ヘルスケア

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
日本の製薬企業の未来	佐々木 弘明	秋	2	115
医療·介護経営I	真野 俊樹	春	2	118
医療・介護経営Ⅱ	真野 俊樹	秋	2	120
医療・介護マネジメントの実践知	真野 俊樹	秋	2	122
高齢社会のまちづくり	川井 真	春	2	124
地域包括ケアのビジネスモデル	石井 富美	春	2	126
ヘルスケアビジネスイノベーション	山本 伸	秋	2	128

最新ビジネス実践知/ソーシャルインパクトビジネス

我物でするのでは、一つでは、	7 1			
科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
ソーシャルビジネスの事業・資金計画	堀内 勉	秋	2	130
まちづくり最新事情	長島 剛	春	2	133
トライセクターリーダー論	金野 索一	春	2	135
実践を通して学ぶソーシャルビジネス	宮城 治男	秋	2	138
ベンチャーCFO養成講座	新村 和大	秋	2	141
ソーシャル・ファイナンス	小林 立明	春	2	143
持続可能な地域創生と地域金融の役割	渡邉 泰之	春	2	146

最新ビジネス実践知/テクノロジー&ベンチャー

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
最新テクノロジーとAIの世界	金野 索一	春	2	148
ITビジネス原理と事業創出演習	金野 索一	秋	2	151
SDGS(社会課題)×Tech ビジネス	金野 索一	秋	2	154
プロジェクトマネジメントの基本と応用	中分 毅	春	2	157

最新ビジネス実践知/ルール形成戦略

12.4/1 C V 1 V 1 V 1 V 1 V 1 V 1 V 1 V 1 V 1				
科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
社会課題起点のルール形成戦略	國分 俊史	春	2	160
国際通商と企業のルール形成	羽生田 慶介	春	2	162
経済安全保障Ⅰ	井形 彬	春	2	164
経済安全保障II	井形 彬	秋	2	167
議院内閣制度における公的ルール形成プロセス論	福田 峰之	秋	2	170
ルール形成のためのメディア戦略	岡田 宏記	秋	2	172

教養基盤

科目名	担当教員	開講	単位数	ページ
インターゼミ(寺島実郎学長ゼミ)	金 美徳	春	2	174
インターゼミ(寺島実郎学長ゼミ)	金 美徳	秋	2	176
フィールドスタディ	金 美徳	春	2	178
フィールドスタディ	金 美徳	春	1	181
フィールドスタディ	金 美徳	秋	2	184
フィールドスタディ	金 美徳	秋	1	187
ビジネス実践知探究	佐藤 勝彦	春	2	190
21世紀の日本の社会課題	近藤 洋介	秋	2	192
実践リベラルアーツ論	矢萩 邦彦	秋	2	195
ビジネスリーダーのための実践的課題解決	高田 貴久	春	2	197
【留学生対象】留学生のための日本経済・経営基礎	佐藤 勝彦	春	2	199
【留学生対象】ビジネスジャパニーズI	藏夛 礼佳	春	1	201
【留学生対象】ビジネスジャパニーズII		秋	1	203
【留学生対象】論文スタートアップI	劉 麗娜	春	1	206
【留学生対象】論文スタートアップII	劉 麗娜	秋	1	208
【留学生対象】留学生のためのビジネス日本地理・日本史Ⅰ	瀧川 浩人	春	2	210
【留学生対象】留学生のためのビジネス日本地理・日本史II	瀧川 浩人	秋	2	213
【留学生対象】論文実践I	齋藤 春光	春	2	216
【留学生対象】論文実践II	齋藤 春光	秋	2	219
論文演習	河野 龍太	春	1~2	222
論文演習	河野 龍太	秋	1~2	224
論文演習	宇佐美 洋	春	1~2	226
論文演習	宇佐美 洋	秋	1~2	228
論文演習	紺野 登	春	1~2	230
論文演習	紺野 登	秋	1~2	232
論文演習	佐々木 弘明	春	1~2	234
論文演習	佐々木 弘明	秋	1~2	236
論文演習	徳岡 晃一郎	春	1~2	238
論文演習	徳岡 晃一郎	秋	1~2	240
論文演習	今泉 忠•久保田 貴文	春	1~2	242
論文演習	久保田 貴文・今泉 忠	秋	1~2	244
論文演習	國分 俊史	春	1~2	246
論文演習	國分 俊史	秋	1~2	248
論文演習	真野 俊樹	春	1~2	250
論文演習	真野 俊樹	秋	1~2	252

目 次(担当教員五十音順)

MBA開講科目一覧

	科目名	担当教員(五十音順)	開講	単位数	ページ
1	経済安全保障I	井形 彬	春	2	164
2	経済安全保障II	井形 彬	秋	2	167
3	地域包括ケアのビジネスモデル	石井 富美	春	2	126
4	データ活用入門	今泉 忠	春	2	86
5	集中ゼミ(統計検定)	今泉 忠	春	2	88
6	マーケティングリサーチ	今泉 忠	秋	2	90
7	論文演習	今泉 忠・久保田 貴文	春	1~2	242
8	企業会計•簿記入門	井村 順子	秋	2	73
9	財務分析	井村 順子	秋	2	75
10	ファイナンス基礎I(経営財務)	宇佐美 洋	春	2	65
11	ファイナンス基礎II(リスクマネジメント)	宇佐美 洋	秋	2	67
12	法の経済分析入門	宇佐美 洋	春	2	69
13	組織と戦略の経済学	宇佐美 洋	秋	2	71
14	論文演習	宇佐美 洋	春	1~2	226
15	論文演習	宇佐美 洋	秋	1~2	228
16	ルール形成のためのメディア戦略	岡田 宏記	秋	2	172
17	ライフシフト:人生の成長戦略	荻阪 哲雄	春	2	10
18	オーセンティックリーダーシップ	荻野 淳也	秋	2	62
19	日中企業比較論	柯 隆	秋	2	113
20	最新ロジスティクス戦略	角井 亮一	春	2	35
21	クリティカルシンキング	柏木 吉基	秋	2	98
22	キャリアマネジメントとモチベーション	片岡 裕司	春	2	58
23	高齢社会のまちづくり	川井 真	春	2	124
24	世界潮流と企業戦略	金 美徳	春	2	108
25	インターゼミ(寺島実郎学長ゼミ)	金 美徳	春	2	174
26	インターゼミ(寺島実郎学長ゼミ)	金 美徳	秋	2	176
27	フィールドスタディ	金 美徳	春	2	178
28	フィールドスタディ	金 美徳	春	1	181
29	フィールドスタディ	金 美徳	秋	2	184
30	フィールドスタディ	金 美徳	秋	1	187
31	統計的データ分析	久保田 貴文	秋	2	92
32	論文演習	久保田 貴文・今泉 忠	秋	1~2	244
33	【留学生対象】ビジネスジャパニーズI	藏夛 礼佳	春	1	201
34	データドリブンの戦略構築	栗山 実	秋	2	100
35	ビジネスモデルイノベーション	河野 龍太	春	2	23
36	イノベーターのための顧客創造戦略 理論と実践技法	河野 龍太	秋	2	25
37	マーケティングマネジメント概論	河野 龍太	春	2	29
	マーケティングマネジメント概論	河野 龍太	秋	2	31
_	論文演習	河野 龍太	春	1~2	222
	論文演習	河野 龍太	秋	1~2	224
	社会課題起点のルール形成戦略	國分 俊史	春	2	160
	論文演習	國分 俊史	春	1~2	246
	論文演習	國分 俊史	秋	1~2	248
	ソーシャル・ファイナンス	小林 立明	春	2	143
	21世紀の日本の社会課題	近藤 洋介	秋	2	192
	トライセクターリーダー論	金野 索一	春	2	135
	最新テクノロジーとAIの世界	金野 索一	春	2	148
	ITビジネス原理と事業創出演習	金野索一	秋	2	151
_	SDGS(社会課題)×Tech ビジネス	金野索一	秋	2	154
	知識創造経営のプリンシプル	紺野 登	春	2	13

	科目名	担当教員(五十音順)	開講	単位数	ページ
51	イノベーションマネジメントシステム(IMS)と目的工学	紺野 登	秋	2	16
52	シナリオプランニングワークショップ	紺野 登	春	2	19
53	デザイン思考ワークショップ	紺野 登	秋	2	21
54	論文演習	紺野 登	春	1~2	230
55	論文演習	紺野 登	秋	1~2	232
56	【留学生対象】論文実践I	齋藤 春光	春	2	216
57	【留学生対象】論文実践II	齋藤 春光	秋	2	219
58	経営者の志と実践知	佐々木 弘明	春	2	1
59	企業理念経営	佐々木 弘明	秋	2	3
60	ヒューマンリソース概論I-B	佐々木 弘明	春	2	46
61	日本の製薬企業の未来	佐々木 弘明	秋	2	115
62	論文演習	佐々木 弘明	春	1~2	234
63	論文演習	佐々木 弘明	秋	1~2	236
64	ビジネス実践知探究	佐藤 勝彦	春	2	190
65	【留学生対象】留学生のための日本経済・経営基礎	佐藤 勝彦	春	2	199
66	マーケティング実践	佐藤 洋行	秋	2	106
67	商品ブランドマネジメント	佐野 扶美枝	春	2	41
68	日本企業の中国ビジネス	徐 向東	春	2	111
69	ベンチャーCFO養成講座	新村 和大	秋	2	141
70	コーポレートガバナンスの理論と実務	菅原 貴与志	秋	2	83
71	DX変革:AI/Watsonに学ぶ知のデジタル化の実践知	鈴木 至	秋	2	96
72	【留学生対象】ビジネスジャパニーズII		秋	1	203
73	ビジネスリーダーのための実践的課題解決	高田 貴久	春	2	197
74	【留学生対象】留学生のためのビジネス日本地理・日本史I	瀧川 浩人	春	2	210
75	【留学生対象】留学生のためのビジネス日本地理・日本史II	瀧川 浩人	秋	2	213
76	スーパージェネラリスト論	田坂 広志	春	2	6
77	ネオ・リベラルアーツ論	田坂 広志	秋	2	8
78	Webマーケティング戦略	土屋 有	春	2	33
79	ヒューマンリソース概論I-A	徳岡 晃一郎	春	2	44
80	ヒューマンリソース概論II	徳岡 晃一郎	秋	2	48
81	インナーコミュニケーション	徳岡 晃一郎	春	2	50
82	カルチャーベースマネジメント	徳岡 晃一郎	秋	2	52
83	論文演習	徳岡 晃一郎	春	1~2	238
	論文演習	徳岡 晃一郎	秋	1~2	240
85	BtoBマーケティング	德永 朗	秋	2	37
86	M&A戦略と実践企業ファイナンス	中岡 英隆	春	2	79
87	まちづくり最新事情	長島 剛	春	2	133
88	サービスサイエンス	中野 未知子	秋	2	103
89	観光インバウンドマネジメント	中山 こずゑ	秋	2	39
90	プロジェクトマネジメントの基本と応用	中分 毅	春	2	157
91	国際通商と企業のルール形成	羽生田 慶介	春	2	162
92	実践組織変革	浜田 正幸	秋	2	54
93	議院内閣制度における公的ルール形成プロセス論	福田 峰之	秋	2	170
94	中小企業の価値創造と事業承継	藤本 江里子	春	2	81
95	ソーシャルビジネスの事業・資金計画	堀内 勉	秋	2	130
	起業/社内起業の事業創造実践論	本荘 修二	秋	2	27
97	DX変革:データサイエンスによる企業変革	前田 英志	春	2	94
98	行動経済学	真壁 昭夫	春	2	77
99	医療·介護経営I	真野 俊樹	春	2	118
100	医療·介護経営II	真野 俊樹	秋	2	120
-	医療・介護マネジメントの実践知	真野 俊樹	秋	2	122
102	論文演習	真野 俊樹	春	1~2	250
-	論文演習	真野 俊樹	秋	1~2	252
104	ストレスマネジメントと精神回復力	水木 さとみ	春	2	56
105	実践ポジティブ心理学	三田 真美	秋	2	60
106	実践を通して学ぶソーシャルビジネス	宮城 治男	秋	2	138
107	実践リベラルアーツ論	矢萩 邦彦	秋	2	195
108	ヘルスケアビジネスイノベーション	山本 伸	秋	2	128
109	【留学生対象】論文スタートアップ	劉 麗娜	春	1	206
110	【留学生対象】論文スタートアップII	劉 麗娜	秋	1	208
111	持続可能な地域創生と地域金融の役割	渡邉 泰之	春	2	146

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	経営者の志と実践知		
サブタイトル / Sub Title	本的経営の神髄の探求		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Management aspirations and practical knowledge		
教員 / Instructor	佐々木 弘明	E-mail	sasaki-hi@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	志	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	志とは士の心と書く。日本的経営の神髄を探求する。経営者を取り巻く環境は激変しており、その中でどう舵取りするのか。また企業文化の創造、社風定着などについて、ゲストを迎えての金融、製薬、化学品業界の視点から見たオムニバス的な講義。授業を通じて、企業内外で活躍できる起業家精神の神髄に触れ、自らの志を語れる人材を養成する。		
到達目標 / Course Goals	経営者の志と実践知に触れ、その差が企業の成長にもたらす効果について理解し、ディプロマポリシーにあるDP1:「知識 と理解」を確実にした上で、DP2:「思考と判断」を身に着ける。他社事例の研究を通じて、起業家精神を醸成し、DP5: 「志」社内外で活躍できる判断軸を持てるようになることを目標とする。		
授業形態 / Form of Class	双方向、講義、グループディスカッション、 グループワーク、プレゼンテーション	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体	事前学習:指定図書予習及び宿題資料の読み込みで(毎回2時間程度)
的な学習内容	事後学習:講義内容の振り返り(毎回1時間程度)

授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	経営者の志とは何か~企業研究A:製薬業界の経営に触れる	
事前,事後学習ポイント	自社の経営課題を整理しておく。企業理念と経営戦略の関連性、それを支える人事戦略との関連を整理する。	
詳細	合併企業の経営管理や、人事管理、コミュニケーション管理を学ぶ。また、経営企画や人事のあり方、各部の役割、課題を 学ぶとともに、ダイアローグ、グループディスカッションで、経営陣の役割を再認識する。 ※第1~2講で取り上げた労働生産性の持続的向上モデル(リクルートワークス大久保幸夫氏PDF参照)に照らし合わせ、自社 について研究し次回以降で発表する。 これにより他社を知り、自社での実践展開の判断軸を養成する。	
第三講・第四講		
概要	経営者の志とは何か~企業研究	A:アステラス製薬を事例として考察する
事前,事後学習ポイント	経営戦略と人事戦略の関係、経	営とステークホルダーの関係を考える
詳細	労働生産性の持続的向上モデルによる経営戦略、人事戦略と人材マネジメント手法の学習。また、ダイアローグ、グループワークにより個人と組織のコミットメントづけについても学習する。第1~2講で出された課題のプレゼンテーション①自社組織について調べ、労働生産性の持続的向上モデル(リクルートワークス大久保幸夫氏PDF参照)に照らし合わせ、自社について研究し発表する。	
第五講・第六講		
概要 日本的経営の問題点とは何か~企業研究B:金融業界を考察する		企業研究B:金融業界を考察する
事前,事後学習ポイント 経営戦略と人事戦略の関係、経営とステークホルダーの関係を事前に考える		営とステークホルダーの関係を事前に考える
倒産した企業から、経営の神髄を学ぶ。目まぐるしく変わる環境変化の中で、経営陣・組織・経営企画・人事としべきかを探求する。 詳細 第1~2講で出された課題のプレゼンテーション② 自社組織について調べ、労働生産性の持続的向上モデル(リクルートワークス大久保幸夫氏PDF参照)に照らし合わついて研究し発表する。		ゼンテーション②
第七講・第八講		
概要	日本的経営の問題点とは何か~企業研究B:北海道拓殖銀行を事例として考察する	
事前,事後学習ポイント	企業の舵取りを誤った本質を考える	
詳細	またそのおかれている環境背景を推察し、教訓から生かす点は何かをダイアローグし、整理する。 第1~2講で出された課題のプレゼンテーション③ 自社組織について調べ、労働生産性の持続的向上モデル(リクルートワークス大久保幸夫氏PDF参照)に照らし合わせ、自社に ついて発表する。	
第九講・第十講		

概要	日本的経営の分岐点の考察~企業研究C:化学品業界を考察する		
事前,事後学習ポイント	経営戦略と人事戦略の関係、経営とステークホルダーの関係を事前に考えてくる		
詳細	1678年創業の日本最古の製薬企業の変遷を知り、経営の神髄を学ぶ。目まぐるしく変わる環境変化の中で、経営陣・組織・経営企画・人事として何をすべきかを探求する。 第1~2講で出された課題のプレゼンテーション④ 自社組織について調べ、労働生産性の持続的向上モデル(リクルートワークス大久保幸夫氏PDF参照)に照らし合わせ、自社について発表する。		
第十一講・第十二講			
概要	日本的経営の分岐点の考察~企業研究C:田辺三菱製薬を事例として考察する		
事前,事後学習ポイント	企業の舵取りの本質を考える		
詳細	またその合併・TOB等の経営判断から生かす点は何かをダイアローグし、整理する。 第1~2講で出された課題のプレゼンテーション⑤ 自社組織について調べ、労働生産性の持続的向上モデル(リクルートワークス大久保幸夫氏PDF参照)に照らし合わせ、自社に ついて発表する。		
第十三講・第十四講			
概要	経営者の志と実践知まとめ1		
事前,事後学習ポイント	ゲストスピーカーセッション:知識創造を実践している企業の経営陣を招聘しディスカッション		
詳細	経営者としての役割をもとに、経営の難しさを学び、「自分が経営者だったら、大事にする点」を作成し、発表、討議する。 第1~2講で出された課題のプレゼンテーション⑥ 自社組織について調べ、労働生産性の持続的向上モデル(リクルートワークス大久保幸夫氏PDF参照)に照らし合わせ、自社について発表する。		
第十五講・第十六講			
概要	経営者の志と実践知まとめ2		
事前,事後学習ポイント	知識創造型経営とはどうあるべきか、自らの考えを統合する		
詳細	第1講から第15講までの視点を踏まえて、知識創造経営を構築していく上での経営陣の役割とその推進の諸条件について、ダイアローグ・グループディスカッションする。 第1~2講で出された課題のプレゼンテーション⑦ 自社組織について調べ、労働生産性の持続的向上モデル(リクルートワークス大久保幸夫氏PDF参照)に照らし合わせ、自社について発表する。		
教科書 / Textbook	適宜、講義資料を配布する。		
指定図書 / Course Readings	「なぜ、学ぶ習慣のある人は強いのか?」佐々木弘明、土屋裕介、徳岡晃一郎著、日本経済新聞出版社		
参考文献・参考URL / Reference List	「コミットメント経営」ジョンRカッツェンバック著、ダイアモンド社 「MBB:思いのマネジメント」一條和生、徳岡晃一郎、野中郁次郎著、東洋経済新報社 「40代からのライフシフト実践ハンドブック」徳岡晃一郎著、東洋経済新報社		
評価方法 / Method of Evaluat	ion		
配分(合計100%)	出席(30%)、授業内での議論参加(35%)、プレゼンテーション内容(15%)、最終レポート (20%)		
評価基準 / Evaluation Criteria	1		
評価「A・」 (100∼90			

評価方法 / Method of Evaluation					
配分(合計100%) 出席(30%)、授業内での議論参加(35%)、プレゼンテーション内容(15%)、最終レポート(20%)					
評価基準 / Evaluation Criteria	評価基準 / Evaluation Criteria				
評価「A・」(100~90 点): 経営者の志と実践知について、自らの言葉で語り、企画・実践できる。					
評価「A」(89~80点): 経営者の志と実践知について深く理解し、自社の制度への改善案が描ける。					
評価「B」(79~70点):	経営者の志と実践知について理解でき、自社の制度の課題を指摘できる。				
評価「C」(69~60点):	経営者の志と実践知についての概要が理解できている。				
評価「F」(59点以下):	経営者の志と実践知について理解が不十分、出席も不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。				

留意点 / Additional	
田志杰 / Additional	ゲスト講演予定あり(前回は前アステラス製薬上席執行役員、現東北大学大学院教授内田氏が登壇)
Information	7.7.1 前点 1.2.0 7.1 前回移前 7.7.7 7.7 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3
IIIIOIIIIadioii	

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	企業理念経営		
サブタイトル / Sub Title	Jを残し、何を捨てるべきか		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Corporate philosophy management		
教員 / Instructor	佐々木 弘明	E-mail	sasaki-hi@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	志	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	企業理念とは、創業者精神を表すものであり不変的なもの。また経営理念とは、その時々の環境に合わせ可変的なものを経 営理念と呼ぶ。今まさに、何を残し何を捨てるべきなのか。ウェイ伝道者を招聘し深く探求する。		
到達目標 / Course Goals	にできるようにとなる。企業理念経営に触れ、	-)として、社外で創業者(entrep その差が企業の成長にもたらす)P2:「思考と判断」を身に着ける	preneur:アントレプレナー)として、活用・指針
授業形態 / Form of Class	双方向、講義、グループディスカッション、 グループワーク、プレゼンテーション	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体	事前学習:指定図書予習及び宿題資料の読み込みで、毎回(2時間程度)
的な学習内容	事後学習:講義内容の振り返りで毎回(1時間程度)

授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	企業理念とは何かを学ぶ (経営理念との違い、経営戦略と人事戦略との関連性を知る)	
事前,事後学習ポイント	自社の企業理念を整理する。企業理念と経営戦略とそれを支える人事戦略との関連を整理する。	
詳細	良い企業とは、好業績を継続している企業であり、その成功要因を深く探求する。 そのために、企業理念と経営理念、ビジョンと戦略と戦術の一貫性や、ステークホルダー観点から企業分析を行い、その効果を深く探求する。 ※自社組織について調べ、企業理念・経営理念・Vision・戦略・戦術を深く考察し、優劣点(誇れる点、もう少しの点)をパワーポイントでまとめてくる。 第15講までに全員が発表する。これにより、多くの他社事例研究し自社に展開する。	
第三講・第四講		
概要	経営理念とは何かを学ぶ (企業理念との違い、経営理念と経営戦略と人事戦略との関連性を知る)	
事前,事後学習ポイント	自社の経営理念を整理する。経営戦略とそれを支える人事戦略との関連を整理する。	
詳細	企業理念と経営理念を浸透・実践している好業績先の代表事例を共有し、自社への活用のヒントを探求する。企業価値向上のための各社取り組みをシェアし、実践活用のための重要ポイントを整理する。 ※プレゼンテーション① 自社の企業理念・経営理念・Vision・戦略・戦術を深く考察し、優劣点(誇れる点、もう少しの点)をパワーポイントでまとめてくる。 第15講までに全員が発表する。これにより、多くの他社事例に触れ、自社に展開する。	
第五講・第六講		
概要	事例研究A.花王ウェイと好業績との関係を深く探求する①	
事前,事後学習ポイント	花王の企業理念と経営理念、経営戦略とステークホルダーの関係を考える	
詳細	講師指定企業の事前分析とクラス全体のダイアローグ。 ※プレゼンテーション② 自社の企業理念・経営理念・Vision・戦略・戦術を深く考察し、優劣点(誇れる点、もう少しの点)をパワーポイントでまとめてくる。 第15講までに全員が発表する。これにより、多くの他社事例に触れ、自社に展開する。	
第七講・第八講		
概要	事例研究A.花王ウェイと好業績との関係を深く探求する②ゲスト講演予定	

事前,事後学習ポイント	講師指定企業である花王から、自社への活用点を考える		
	企業内にいる者から見た脈々として息づいている企業理念について、ゲスト講師によるレクチュア。 自社内で活用したいポイントについてダイアローグする。		
詳細	※プレゼンテーション③ 自社の企業理念・経営理念・Vision・戦略・戦術を深く考察し、優劣点(誇れる点、もう少しの点)をパワーポイントでまとめてくる。		
	第15講までに全員が発表する。これにより、多くの他社事例に触れ、自社に展開する。		
第九講・第十講			
概要	事例研究B.日本IBMフィロソフィーと好業績との関係を深く探求する①		
事前,事後学習ポイント	日本IBMの企業理念と経営理念、経営戦略とステークホルダーの関係を事前に考えてくる		
	企業内にいる者から見た脈々として息づいている企業理念について、ゲスト講師によるレクチュア。 自社内で活用したいポイントについてダイアローグする。		
詳細	※プレゼンテーション④ 自社の企業理念・経営理念・Vision・戦略・戦術を深く考察し、優劣点(誇れる点、もう少しの点)をパワーポイントでまとめてくる。		
	第15講までに全員が発表する。これにより、多くの他社事例に触れ、自社に展開する。		
第十一講・第十二講			
概要	B.日本IBMフィロソフィーと好業績との関係を深く探求する②ゲスト講演予定		
事前,事後学習ポイント	講師指定企業である日本IBMから、自社への活用点を考える		
	企業内にいる者から見た脈々として息づいている企業理念について、ゲスト講師によるレクチュア。 自社内で活用したいポイントについてダイアローグする。		
詳細	※プレゼンテーション⑤ 自社の企業理念・経営理念・Vision・戦略・戦術を深く考察し、優劣点(誇れる点、もう少しの点)をパワーポイントでまとめてくる。 第15講までに全員が発表する。これにより、多くの他社事例に触れ、自社に展開する。		
第十三講・第十四講			
概要	C.アサヒビール 企業理念と好業績との関係を深く探求する①		
事前,事後学習ポイント	アサヒビールの企業理念と経営理念、経営戦略とステークホルダーの関係を考える		
	企業内にいる者から見た脈々として息づいている企業理念について、ゲスト講師によるレクチュア。 自社内で活用したいポイントについてダイアローグする。		
詳細	※プレゼンテーション⑥ 自社の企業理念・経営理念・Vision・戦略・戦術を深く考察し、優劣点(誇れる点、もう少しの点)をパワーポイントでまとめてくる。 第15講までに全員が発表する。これにより、多くの他社事例に触れ、自社に展開する。		
第十五講・第十六講			
概要	C.アサヒビール 企業理念と好業績との関係を深く探求する②ゲスト講演予定		
事前,事後学習ポイント	講師指定企業であるアサヒビールから、自社への活用点を考える		
	企業内にいる者から見た脈々として息づいている企業理念について、ゲスト講師によるレクチュア。 自社内で活用したいポイントについてダイアローグする。		
詳細	※プレゼンテーション⑦ 自社の企業理念・経営理念・Vision・戦略・戦術を深く考察し、優劣点(誇れる点、もう少しの点)をパワーポイントでまとてくる。 第15講までに全員が発表する。これにより、多くの他社事例に触れ、自社に展開する。		
教科書 / Textbook	適宜、講義資料を配布する。		

教科書 / Textbook	適宜、講義資料を配布する。
指定図書 / Course Readings	「花王魂」 今村哲也著 生産性出版 「お客様の成功に全力を尽くす経営」 北城恪太郎・大歳卓麻著 ダイヤモンド社 「アサヒビール30年目の逆襲」 永井隆著 日本経済新聞出版社
参考文献・参考URL / Reference List	なし

評価方法 / Method of Evaluation		
出	出席(30%)、授業内での議論参加(35%)、プレゼンテーション内容(15%)、最終レポート(20%)	

配分 (合計100%)			
評価基準 / Evaluation Criteria	評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	企業理念経営に関して、自らの企画・実践が行える。		
評価「A」(89~80点):	企業理念経営を深く理解し、自社の制度への改善提案が描ける。		
評価「B」(79~70点):	企業理念経営の概要が理解でき、自社の制度への課題を指摘できる。		
評価「C」(69~60点):	企業理念経営の概要が理解できている。		
評価「F」(59点以下):	企業理念経営の理解が不十分、出席不良で、授業内の議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。		

留意点 / Additional Information	※ゲスト講師を花王、日本IBM、アサヒビールから予定していますが、講師の都合により変更の可能性有。	
---------------------------------	---	--

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	スーパージェネラリスト論		
サブタイトル / Sub Title	いかにして、垂直統合した知性を身につけるか	`	
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Super Generalist		
教員 / Instructor	田坂 広志	E-mail	tasaka@hiroshitasaka.jp
科目群 / Course Classification	志	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	21世紀の「変革の知性」を身につけた「スーパージェネラリスト」への成長をめざし、「思考」「ビジョン」「志」「戦略」「戦術」「技術」「人間力」という「7つのレベルの知性」を身につけることを目的とする。この「スーパージェネラリスト」は、社会の変革よ社会への貢献をめざし、「社会起業家」としての自覚を持ち、「ソーシャルイノベーション」に取り組む人材であるが、この講義においては、その「ソーシャルイノベーション」について学ぶことも目的とする。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーにおける「DP5:志」に沿って、思想、ビジョン、志、戦略、戦術、技術、人間力という「7つの知性」を垂直統合して身につける		
授業形態 / Form of Class	講義	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

準備学習(予習・復習等)	に必要な時間に準じる程度の具体
的な学習内容	

第十三講・第十四講

教科書『知性を磨く』の熟読(予習・復習 各講義2時間程度)

授業の概要 / Course Descri	ption	
第一講・第二講		
概要	「思想」のレベルの知性について	
事前,事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する	
詳細	「思想」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントを語る	
第三講・第四講		
概要	「ビジョン」のレベルの知性について	
事前,事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する	
詳細	「ビジョン」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントを語る	
第五講・第六講		
概要	「志」のレベルの知性について	
事前,事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する	
詳細	「志」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントを語る	
第七講・第八講		
概要	「戦略」のレベルの知性について	
事前,事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する	
詳細	「戦略」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントを語る	
第九講・第十講		
概要	「戦術」のレベルの知性について	
事前,事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する	
詳細	「戦術」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントを語る	
第十一講・第十二講		
概要	「技術」のレベルの知性について	
事前,事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する	
詳細	「技術」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントを語る	

概要	「人間力」のレベルの知性について	
事前,事後学習ポイント	和性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する	
詳細	「人間力」のレベルの知性を磨く方法と、その知性を支える人格のマネジメントを語る	
第十五講・第十六講		
概要	「多重人格」のマネジメント	
事前,事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する	
詳細	「多様な才能」を開花させるための「多重人格のマネジメント」について語る	

教科書 / Textbook	『知性を磨く 「スーパージェネラリスト」の時代』(田坂広志著:光文社新書) 『人間を磨く 人間関係が好転する「こころの技法」』(田坂広志著:光文社新書)
指定図書 / Course Readings	『人は、誰もが「多重人格」 誰も語らなかった「才能開花の技法」』(田坂広志著:光文社新書)
参考文献・参考URL / Reference List	ダイヤモンドオンライン「7つの知性を磨く田坂塾」の連載記事

評価方法 / Method of Evaluati	ion
配分(合計100%)	出席率(30%)受講姿勢(25%)質疑内容(25%)所感内容(20%)
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A·」(100~90 点):	出席率+受講姿勢+質疑内容+所感内容が特に優れ、21世紀の「変革の知性」を身につけた「スーパージェネラリスト」 への成長をめざし「7つのレベルの知性」が特に優れて身についている。
評価「A」(89~80点):	出席率+受講姿勢+質疑内容+所感内容が優れ、21世紀の「変革の知性」を身につけた「スーパージェネラリスト」への成長をめざし「7つのレベルの知性」が優れて身についている。
評価「B」(79~70点):	出席率+受講姿勢+質疑内容+所感内容が標準的で、21世紀の「変革の知性」を身につけた「スーパージェネラリスト」への成長をめざし「7つのレベルの知性」が標準的に身についており、優れて身につく段階に近づいている。
評価「C」(69~60点):	出席率+受講姿勢+質疑内容+所感内容が標準的で、21世紀の「変革の知性」を身につけた「スーパージェネラリスト」 への成長をめざし「7つのレベルの知性」が標準的に身についている。
評価「F」(59点以下):	出席率+受講姿勢+質疑内容+所感内容が悪く、21世紀の「変革の知性」を身につけた「スーパージェネラリスト」への成長が感じられず「7つのレベルの知性」が身についていない。

留意点 / Additional	識」を学ぶ講義ではなく、自身の「体験」の振り返りから「智恵」を掴む講義であり、真剣勝負 姿勢が求められる。従って、原則、遅刻、早退、欠席は認めない。 おける諸注意を伝える。
------------------	--

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	ネオ・リベラルアーツ論		
サブタイトル / Sub Title	いかにして、21世紀の変革リーダーとしての	教養を身につけるか	
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Neo Liberal Arts		
教員 / Instructor	田坂 広志	E-mail	tasaka@hiroshitasaka.jp
科目群 / Course Classification	志	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	我々が、目の前の現実を変革し、社会の変革には、「深い教養」を身につける必要がある。しかし、「深い教養」とは、単に、書物や文献索を通じて身体的に掴む「智恵」でなければなこの「ネオ・リベラルアーツ」においては、 付じて、 自身の人生の体験と思索を振り返り、こつけていく。 「言語的な知識」ではなく「身付つける。	状を通じて言語的に学ぶ「知識」 いらない。 長々な分野の多岐にわたるテーマ この「深い教養」、すなわち「新	としての教養ではなく、人生の体験と深い思 を論じた「思索的エッセイ」を読むことを通 たな教養(ネオ・リベラルアーツ)」を身に
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーにおける「DP5:志」に沿む「智恵」としての教養を身につける	らって、書物や文献で学ぶ「知識	」としての教養ではなく、経験と体験から掴
授業形態 / Form of Class	講義	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体 的な学習内容	教科書『知性を磨く』の熟読(予習・復習 各講義2時間程度)
---------------------------------------	-------------------------------

let ille lee en e	
授業の概要 / Course Descri	iption
第一講・第二講	
概要	「変革の知性」について
事前,事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	2 1世紀に求められる「変革の知性」とは何か、いかにして、それを掴むかを語る
第三講・第四講	
概要	「知性」と「知能」について
事前,事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	「知性」と「知能」の違いとは何か、なぜ、その二つを区別しなければならないかを語る
第五講・第六講	
概要	概要「知性」と「知識」について
事前,事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	「知性」と「知識」の違いとは何か、なぜ、その二つを区別しなければならないかを語る
第七講・第八講	
概要	「知性」と「専門性」について
事前,事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	「知性」と「専門性」の違いとは何か、なぜ、その二つを区別しなければならないかを語る
第九講・第十講	
概要	「知の生態系」について
事前,事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	なぜ、「知の貯蔵庫」ではなく、「知の生態系」が重要かについて語る
第十一講・第十二講	
概要	「7つの知性」について
事前,事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する

詳細	なぜ、思想、ビジョン、志、戦略、戦術、技術、人間力の垂直統合が必要かを語る
第十三講・第十四講	
概要	知の「3つの病」について
事前,事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	「知と知の分離」「知と行の分離」「知と情の分離」という「3つの病」について語る
第十五講・第十六講	
概要	「人間観」と「人間力」について
事前,事後学習ポイント	『知性を磨く』の当該部分を事前に読み、事後には、自身の当該体験を回顧する
詳細	なぜ、「人間観」と「人間力」が、21世紀に最も重要なリベラルアーツになるのかを語る
教科書 / Textbook	『知性を磨く 「スーパージェネラリスト」の時代』(田坂広志著:光文社新書)
指定図書 / Course Readings	『直観を磨く 深く考える7つの技法』(田坂広志著:講談社現代新書) 『人間を磨く 人間関係が好転する「こころの技法」』(田坂広志著:光文社新書)
参考文献・参考URL / Reference List	ダイヤモンドオンライン「7つの知性を磨く田坂塾」の連載記事
評価方法 / Method of Evaluati	
配分(合計100%)	出席率(30%)受講姿勢(25%)質疑内容(25%)所感内容(20%)
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A·」(100~90 点):	出席率 + 受講姿勢 + 質疑内容 + 所感内容が特に優れ、「新たな教養(ネオ・リベラルアーツ)」と、「言語的な知識」ではなく「身体的な智恵」としての教養を学ぶことにより、21世紀の「変革の知性」が特に優れて身についている。
評価「A」(89~80点):	出席率+受講姿勢+質疑内容+所感内容が優れ、「新たな教養(ネオ・リベラルアーツ)」と、「言語的な知識」ではなく「身体的な智恵」としての教養を学ぶことにより、21世紀の「変革の知性」が優れて身についている。
評価「B」(79~70点):	出席率+受講姿勢+質疑内容+所感内容が標準的で、「新たな教養(ネオ・リベラルアーツ)」と、「言語的な知識」ではなく「身体的な智恵」としての教養を学ぶことにより、21世紀の「変革の知性」が標準的に身についており、優れて身につく段階へ近づいている。
評価「C」(69~60点):	出席率 + 受講姿勢 + 質疑内容 + 所感内容が標準的で、「新たな教養(ネオ・リベラルアーツ)」と、「言語的な知識」ではなく「身体的な智恵」としての教養を学ぶことにより、21世紀の「変革の知性」が標準的に身についている。

評価「F」(59点以下):

留意点 / Additional

Information

出席率+受講姿勢+質疑内容+所感内容が悪く、「新たな教養(ネオ・リベラルアーツ)」と、「言語的な知識」ではなく

単に「書物」を通じた「知識」を学ぶ講義ではなく、自身の「体験」の振り返りから「智恵」を掴む講義であり、真剣勝負

「身体的な智恵」としての教養を学ぶことにより、21世紀の「変革の知性」が身についていない。

で3時間の講義に参加する姿勢が求められる。従って、原則、遅刻、早退、欠席は認めない。

第1講義において、受講における諸注意を伝える。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期	
科目名 / Course Title	ライフシフト:人生の成長戦略			
サブタイトル / Sub Title	なぜ「飛躍の7カ」は、職業の学びを稼ぐカへ	変えるメソッドになるのか?		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Life Shift and Life Growth Strategy			
教員 / Instructor	灰阪 哲雄 E-mail ogisaka@changeartist.jp			
科目群 / Course Classification	志	単位数 / Credits	2単位	

講義目的 / Aim of Course	生が「主人公」となり、自らを活かす「世界観る。具体的には、職業の学びを稼ぐ力へ変えるす。その後、チーム(全履修生)で「行動のリフのために、講義で学ぶ《荻阪式メソッド》は	」を探求して「講義の学び」を 【日本型ライフシフト論】を知 レクション(省察)」を行い「: 「飛躍の7カ®】(ななりき)と『 かにする「研究論文」の計画・	り「日々の生活」と「目の前の仕事」で試 突破の智恵」を修得することが目的となる。そ 呼ばれる人生の成長戦略。職業の道をつくる 執筆へ向かって、あなたの『志』と『職業ビジ
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーでのDP5:「志」、DP4: 下記の3つが到達目標になる。 ・社会と自分の関わりを考え、自らを省みて、 ・自らの「志」を定め、職業ビジョンストーリ ・講義で学ぶ「飛躍の7力」を試し、個人・組	研究テーマや、職業ビジョンを ーを自分の言葉で紡ぎ、内外へ	「構想」できる。 「発信」できる。
授業形態 / Form of Class	講義、ディスカッション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	無し

「予習」教科書の指定範囲を熟読し自分の意見を創る(1時間) 「復習」毎週の講義を振り返り、実験レポートを書く(2時間)

授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	『講義の全体像 / プロジェクトゼミとは/ 日本型ライフシフト論を修得する10の学び方/ 研究論文という作品』	
事前,事後学習ポイント	事前に『教科書:成長が「速い人」「遅い人」』を準備して、講義に臨む。事後には講義の学びを人へ語る。そして、自らの行動を省みて、実験レポートをアウトプットし、履修生皆で学び合い、新たな智恵を掴む。	
詳細	日本型ライフシフト論におけるプロジェクトの全体像を学び、職業人生へ活かす「ストーリーイメージ」を育てる。自らが「人間成長の問い」を立て、リフレクション(省察)を続け、自分自身の「志願の思い」を発見する。そのために、教員と履修生は『志の時代/新たな人材ビジョン/人間成長「Zの悩み」/荻阪式 逆ピラミッド法』についての「集中講義」「個別ワーク」「ペア対話」「全体ディスカッション」を行い、双方向で一緒に「人間力」を磨き合う。	
第三講・第四講		
概要	『第1の成長戦略 / 惹く「熱望力」とは、何か? どのようにして、この力を身につけるのか』	
事前,事後学習ポイント	事前に『教科書:成長が「速い人」「遅い人」』のP3~P57までを熟読し講義に参加する。事後には、その学びを人へ語る。そして、自らの行動を省みて、実験レポートをアウトプットし、履修生皆で学び合い、新たな智恵を掴む。	
詳細	惹く「熱望力」の心得と技法を学び、職業人生へ活かす「ストーリーイメージ」を育てる。自らが「人間成長の問い」を立て、リフレクション(省察)を続けながら、自分自身の「熱望の源泉」を考察する。そのために、教員と履修生は『美意識/職業の主人公/プロフェショナルの学び方/社会貢献5つの心得』についての「集中講義」「個別ワーク」「ペア対話」「全体ディスカッション」を行い、双方向で一緒に「人間力」を磨き合う。	
第五講・第六講		
概要	『第2の成長戦略 / 試す「実験力」とは、何か? どのようにして、その力を身につけるのか』	
事前,事後学習ポイント	事前に『教科書:成長が「速い人」「遅い人」』の $P61\sim P101$ までを熟読し講義に参加する。事後には、その学びを人へ語る。そして、自らの行動を省みて、実験レポートをアウトプットし、履修生皆で学び合い、新たな智恵を掴む。	
詳細	試す「実験力」の心得と技法を学び、職業人生へ活かす「ストーリーイメージ」を育てる。自らが「人間成長の問い」を立て、リフレクション(省察)を続けながら、自分自身の「実験の試し方」を考察する。そのために、教員と履修生は『心の信号機/場の理論/アクション・リサーチ/12のストロングポイント』についての「集中講義」「個別ワーク」「ペア対話」「全体ディスカッション」を行い、双方向で一緒に「人間力」を磨き合う。	
第七講・第八講		
概要	『第3の成長戦略 / 磨く「修業力」とは、何か? どのようにして、その力を身につけるのか』	
事前,事後学習ポイント	事前に『教科書:成長が「速い人」「遅い人」』のP105~P133までを熟読し講義に参加する。事後には、その学び	

	- を人へ語る。そして、自らの行動を省みて、実験レポートをアウトプットし、履修生皆で学び合い、新たな智恵を掴む。	
詳細	磨く「修業力」の心得と技法を学び、職業人生へ活かす「ストーリーイメージ」を育てる。自らが「人間成長の問い」を立て、リフレクション(省察)を続けながら、自分自身の「修業の磨き方」を考察する。そのために、教員は履修生は『師匠とす子/修業時代は人生の宝/学び方を学ぶ方法/プロの実践モデル』についての「集中講義」「個別ワーク」「ペア対話」「全体ディスカッション」を行い、双方向で一緒に「人間力」を磨き合う。	
第九講・第十講		
概要	『第4の成長戦略 / 生み出す「結果力」とは、何か? どのようにして、その力を身につけるのか』	
事前,事後学習ポイント	事前に『教科書:成長が「速い人」「遅い人」』のP137~P152までを熟読し講義に参加する。事後には、その学びを人へ語る。そして、自らの行動を省みて、実験レポートをアウトプットし、履修生皆で学び合い、新たな智恵を掴む。	
詳細	生み出す「結果力」の心得と技法を学び、職業人生へ活かす「ストーリーイメージ」を育てる。自らが「人間成長の問い」を立て、リフレクション(省察)を続けながら、自分自身の「結果の生み出し方」を考察する。そのために、教員と履修生は『実績/創作の世界観/出逢い/第1位の違い』についての「集中講義」「個別ワーク」「ペア対話」「全体ディスカッション」を行い、双方向で一緒に「人間力」を磨き合う。	
第十一講・第十二講		
概要	『第5の成長戦略 / 掴む「体験力」とは、何か? どのようにして、その力を身につけるのか』	
事前,事後学習ポイント	事前に『教科書:成長が「速い人」「遅い人」』のP155~P172までを熟読し講義に参加する。事後には、その学びを人へ語る。そして、自らの行動を省みて、実験レポートをアウトプットし、履修生皆で学び合い、新たな智恵を掴む。	
詳細	身につける「体験力」の心得と技法を学び、職業人生へ活かす「ストーリーイメージ」を育てる。自らが「人間成長の問い」を立て、リフレクション(省察)を続けながら、自分自身の「体験の掴み方」を考察する。そのために、教員と履修生は『実体験/挫折の処し方/自分の使命/自信の意味』についての「集中講義」「個別ワーク」「ペア対話」「全体ディスカッション」を行い、双方向で一緒に「人間力」を磨き合う。	
第十三講・第十四講		
概要	『第6の成長戦略 / 支え合う「盟友力」とは、何か? どのようにして、その力を身につけるのか』	
事前,事後学習ポイント	事前に『教科書:成長が「速い人」「遅い人」』のP175~P191までを熟読し講義に参加する。事後には、その学びを人へ語る。そして、自らの行動を省みて、実験レポートをアウトプットし、履修生皆で学び合い、新たな智恵を掴む。	
詳細	支え合う「盟友力」の心得と技法を学び、職業人生へ活かす「ストーリーイメージ」を育てる。自らが「人間成長の問い」を立て、リフレクション(省察)を続けながら、自分自身の「盟友となる支え方」を考察する。そのために、教員と履修生は『友の5段階/バインディング・ペア/学び合う刺激/助け合い』についての「集中講義」「個別ワーク」「ペア対話」「全体ディスカッション」を行い、双方向で一緒に「人間力」を磨き合う。	
第十五講・第十六講		
概要	『第7の成長戦略 / 良くする「好転力」とは、何か? どのようにして、その力を身につけるのか』	
事前,事後学習ポイント	事前に『教科書:成長が「速い人」「遅い人」』のP195~P220までを熟読し講義に参加する。事後には、その学びを人へ語る。そして、自らの行動を省みて、実験レポートをアウトプットし、履修生皆で学び合い、新たな智恵を掴む。	
詳細	良くする「好転力」の心得と技法を学び、職業人生へ活かす「ストーリーイメージ」を育てる。自らが「人間成長の問い」を立て、リフレクション(省察)を続けながら、自分自身の「好転のツボ」を考察する。そのために、教員と履修生は『3つ6内省/在り方とやり方/ 働き方のベクトル/好転力の公式』についての「集中講義」「個別ワーク」「ペア対話」「全体ディスカッション」を行い、双方向で一緒に「人間力」を磨き合う。	
教科書 / Textbook	『成長が「速い人」「遅い人」』(荻阪哲雄著:日本経済新聞出版社) ※毎回、実践レジュメを配布	
指定図書 / Course Readings	『社員参謀!人と組織をつくる実践ストーリー』(荻阪哲雄著:日本経済新聞出版社) 『リーダーの言葉が届かない10の理由』 (荻阪哲雄著:日本経済新聞出版社) 『結束力の強化書』 (荻阪哲雄著:ダイヤモンド社) 『終身知創の時代』 (徳岡晃一郎、名久井康宏、荒井千恵、上野正之 共著:多摩大学出版	

評価方法 / Method of Evaluati	on
配分(合計100%)	講義の出席(15%)実験レポートの提出(15%)学び合う働きかけの量(30%)プロジェクトの成果物(40%)
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A・」(100~90 点):	全講義に「出席」を果たし、自分の実務で「飛躍の7カ」を活かし、自らの行動を振り返り「内省」が深められる。 毎回の「実験レポート」が、約束の期限までに提出することを続けて行える。

『ミドルシニアのための日本版ライフシフト戦略』(徳岡晃一郎、木村勝 共著:WAVE出版)

『何のために働くのか 自分を創る生き方』 (寺島実郎著:文春新書)

『仕事の思想 なぜ我々は働くのか』 (田坂広志著:PHP文庫) 『40代からのライフシフト 実践ハンドブック』 (徳岡晃一郎著:東洋経済新報社)

会)

参考文献・参考URL /

Reference List

	自らの受講姿勢は、相手の学び方を深く学ぶことができ、他の履修生の学び方を高めることに良き影響を与えられる。 自らの「志」と「職業ビジョンストーリー」をアウトプットして、その成果物が相手の学びに役立つことができる。
評価「A」(89~80点):	全講義に「出席」を果たし、自分の実務で「飛躍の7カ」を活かし、自らの行動を振り返り「内省」が深められる。 毎回の「実験レポート」が、約束の期限までに提出することができる。 自らの「志」と「職業ビジョンストーリー」をアウトプットして、自らの言葉で、社内外に発信できる。
評価「B」(79~70点):	自分の実務で「飛躍の7カ」を活かし、自らの行動を振り返り「内省」が深められる。 講義を欠席してしまったが、毎回の「実験レポート」が、提出することができる。 自らの「志」と「職業ビジョンストーリー」をアウトプットすることができる。
評価「C」(69~60点):	最終成果物である「自らの志」と「職業ビジョンストーリー」をアウトプットすることはできたが、 講義の欠席が多くあり、毎回の「実験レポート」の提出が遅れ、実験室で他の履修生への学び方を学ぶ力が弱い。
評価「F」(59点以下):	講義の出席率が低く、実験レポートが出せず、最終成果物が提出できない。

留意点 / Additional	本講義を履修した院生の声には『プロになるためには、何が必要なのか?その人生の本質を体得することのできる講義』
Information	『自分が自分と真剣に向き合い、志を明確化することができる講義』『仕事における挑戦の総量が増えて、自分の行動が変わる講義』『TGSには様々な講義があり、それぞれに魅力があるがライフシフトを実現するために必要な「志」を見出し、大気圏を突破するところまで持っていくような講義は、この講義しかない』『自分自身が成長する道を指南してくれる講義』という履修生の声をプロジェクトに反映させている。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	知識創造経営のプリンシプル		
サブタイトル / Sub Title	知識経済社会の企業・経営・戦略・組織		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Principles of Knowledge CreatingManagement		
教員 / Instructor	紺野 登 E-mail konno-n@tama.ac.jp		
科目群 / Course Classification	イノベーション	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	現代の経済的価値や成長の主な源泉は、物的な有形資源(モノ)から無形の知識(アイデア、知財、ネットワーク)に移行している。企業活動形態も個々人が組織において自律的に価値を生み出す知識創造(たとえばソリューション、デザイン、個客サービス)やイノベーション活動にシフトしている。それに沿って経営学も変化している。本講では世界的に知られている「知識創造理論」にもとづく経営の「理念型」(ideal type)つまり知識創造経営を出発点として、戦略論、組織論、リーダーシップ論等のテーマを追いながら、経営全体を横断的に「知」で切って考え、リーダーやマネジャー、イノベータに不可欠な観点と知識を習得する。知識論などの基礎理論から、デザイン思考やアジャイル開発、リーンスタートアップなど試行錯誤的な方法の背後にあるものとして実践的な視点までマスターする講座である。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマシーポリシーでのDP1:「知識と理解」、DP2:「思考と判断」に沿って、知識社会・経済の経営を理解するための基本的な考え方としての<知識創造理論>をもとに、とくにイノベーションを念頭に置いた戦略・組織などについての経営モデル(知識創造プロセス、知識資産、「場」)を提示する。それらをてがかりに、個々人の経験を材料としながら、これからの経営のあり方を自分なりに理解し、創造し、綜合していく。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	無

的な学習内容

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体 講義内容についての自分自身の関心や経験を確認し、指定図書の熟読や周辺情報の探索を行 っておく。質問を考えておく。 (シラバスに応じて毎回2時間程度)

第一講・第二講			
概要	知識創造経営のすすめ		
事前,事後学習ポイント	「知識経済社会」の観点から経営、事業、組織、個人のあり方を理解するとともに、イノベーション経営の意味合いを考える		
詳細	①知識社会経済の経営とイノベーション 知識経営とその背景:知識社会、知識経済、分析から創造への経営の転換 知識社会経済に移行できていない日本企業 ②イノベーション経営(Innovation Management) イノベーション経営の中核としての知識創造 以上のテーマについて、(1)基本となるレクチャー、(2)全体議論、(3)補完レクチャー、(4)グループ討議、		
	(5) 総括というパタンで授業をすすめる		
概要	知識創造理論(Knowledge Creation Theory)		
事前,事後学習ポイント	知識創造経営を理論的観点から理解する		
詳細	①知識創造理論(知識論) 知識ベース理論に向けて:知識とは何か、暗黙知と形式知とは ②イノベーションのプロセス/デザイン思考やアントレプレナーシップとの関係において知識創造プロセスを理解する 「SECI (知識創造)モデル」、知識創造とイノベーション 以上のテーマについて、(1)基本となるレクチャー、(2)全体議論、(3)補完レクチャー、(4)グループ討議、 (5)総括というパタンで授業をすすめる		
第五講・第六講			
既要	知識経営企業事例研究(1)		
事前,事後学習ポイント	企業事例を通じて知識創造経営を理解する グループディスカッション、双方向(アクティブラーニング)		
 詳細	知識創造企業(知識創造プロセス)事例及び対話		

概要	「戦略論」と知識創造経営		
事前,事後学習ポイント	戦略論の系譜の中に知識創造経営を位置付けて、戦略論と組織論を統合しようとする		
詳細	①戦略論の系譜 競争から創造へ、情報から知識へ 競争優位の終焉、イノベーションのための戦略へ 知識経営の「ルート・メタファー」としての哲学 ②イノベーションの理論・類型 イノベーション経営と戦略、イノベーションのタイプ		
	以上のテーマについて、(1)基本となるレクチャー、(2)全体議論、(3)補完レクチャー、(4)グループ討議、 (5)総括というパタンで授業をすすめる		
第九講・第十講			
概要	「知識資産」の戦略		
事前,事後学習ポイント	知識の生み出す経済的価値について理解する		
詳細	①知識資産とは、知識で富を生み出すとは 現代企業にとっての資産とは Knowledge Asset, Intellectual Capital		
第十一講・第十二講			
概要	「場」の経営		
恢安			
事前,事後学習ポイント	知識創造における「場(ba)」の意味合いを理解する 場の概念は広く世界の経営において用いられる言葉となっている。それは一体どういう概念なのか。		
	①「場」とは何か暗黙知、文脈、言語 「場」の組織と経営		
詳細	②イノベーション経営における場		
	以上のテーマについて、(1)基本となるレクチャー、(2)全体議論、(3)補完レクチャー、(4)グループ討議、 (5)総括というパタンで授業をすすめる		
第十三講・第十四講			
概要	知識経営実践事例研究(2)		
事前,事後学習ポイント	ナレッジマネジメント(Knowledge Manmagement)の観点から知識創造経営を理解する		
	①ナレッジマネジメントの動向と組織的ケイパビリティとの関係		
詳細	②知的基盤のない日本企業		
	以上のテーマについて、(1)基本となるレクチャー、(2)全体議論、(3)補完レクチャー、(4)グループ討議、 (5)総括というパタンで授業をすすめる		
第十五講・第十六講			
概要	総括の対話		
事前,事後学習ポイント	これまでの総括、振り返りを行う		
詳細	①全講を通じて理解したことを基に発展的議論を行う 各自の事例企業研究を共有、知識リーダーシップ(賢慮)の事例 ②総括:知識リーダーシップ(賢慮) 各自の事例企業研究を共有、グループディスカッション		
	以上のテーマについて、(1)基本となるレクチャー、(2)全体議論、(3)補完レクチャー、(4)グループ討議、 (5)総括というパタンで授業をすすめる		
教科書 / Textbook	紺野登(2020)『イノベーション全書』東洋経済新報社		

教科書 / Textbook	超野豆(2020)『イノベーション生音』東洋経済新報社 野中郁次郎、紺野登(2012)『知識創造経営のプリンシプル』東洋経済新報社
指定図書 / Course Readings	紺野登、野中郁次郎(2018)『構想力の方法論』日経BP 野中郁次郎、紺野登(1999)『知識経営のすすめ』ちくま新書 知識創造プリンシプルコンソーシアム(2020)『企業変革を牽引する新世代リーダー ダイナモ人を呼び起こせ』日経BP

参考文献・参考URL / Reference List

エビデンスベースの知識創造理論モデルの展開に向けて 野中 郁次郎 紺野 登 廣瀬 文乃 一橋ビジネスレビュー 62(1), 86-101, 2014 東洋経済新報社

https://ci.nii.ac.jp/naid/40020138120

The Concept of 'Ba': Building a Foundation for Knowledge Creation Nonaka, Ikujiro , and Noboru Konno California Management Review 40/3 (Spring 1998): 40-54 https://cmr.berkeley.edu/search/articleDetail.aspx?article=4247

その他随時提示

	-
評価方法 / Method of Evaluati	ion
配分 (合計100%)	出席率30%/講義議論参画度 30%/最終レポート40% 3点の総合評価 レポートのフィードバックは成績評価とする
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A・」(100~90 点):	知識創造理論を十分に理解し実務で応用可能なレベルの知識とスキルを身につけている。それらをビジネスの現実の問題解決に応用できる。課題レポートにおいて知識創造理論と実践に関する深掘り・分析・独自の思考に基づいて卓越した提言を行った。
評価「A」(89~80点):	知識創造理論を十分に理解し実務で応用可能なレベルの知識とスキルを身につけている。課題レポートにおいて知識創造理 論と実践に関する理解と分析に基づいて提言を行った。
評価「B」(79~70点):	知識創造理論の基本を理解している。課題レポートにおいて知識創造理論の理解と分析を示している。
評価「C」(69~60点):	知識創造理論の基本を理解している。課題レポートにおいて知識創造理論の理解と分析、内容に不十分な点がある。
評価「F」(59点以下):	知識創造理論の基本を理解しているといえない。課題レポートにおいて知識創造理論の理解と分析を行っているが内容及び 理解が不十分な点がある。

留意点 / Additional Information	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること「ナレッジマネジメント」(知識管理)という用語も使用しますが、所謂ITをベースにしたナレッジマネジメントシステムが主テーマではありません。 カリキュラム内容についての連絡・資料共有についてはGoogle Classroomを使用。 ゲスト講師の招聘の可能性があります。 最終レポートはイノベーション経営・知識創造経営・組織的知識創造の事例研究、イノベーション・経営に関する自社の知識創造経営の提言など ①座学・インターネット検索でなく、実際に触れる(インタビュー、事業・サービス・製品の経験) ②関連文献分析・書籍書評等 ③自社のイノベーション経営提言:独自の論点を発見、展開すること
---------------------------------	--

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	イノベーションマネジメントシステム(IMS)と目的工学		
サブタイトル / Sub Title	イノベーション経営のためのシステムと賢慮	イノベーション経営のためのシステムと賢慮(ハード面とソフト面)	
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Innovation Management System and "Purpose Engineering"		
教員 / Instructor	紺野 登 E-mail konno-n@tama.ac.jp		
科目群 / Course Classification	イノベーション	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	不確実で複雑な経営環境、地球環境や人間社会の問題に満ちた21世紀の経営にはイノベーションが中核に求められる。従来は変人の仕事だとか技術革新のことだなどと言われたイノベーションもその位置付けが大きく変わっている。2019年には世界的なInnovation Managemtn System (IMS)標準規格(ISO56002)が発行されるなど、イノベーションはいかなる地域のあらゆる規模の企業にとって日々の活動になっている。そうでありながら、イノベーションは極めて創造的な人間の意志的行為である。そこでは主観的な要素である「目的」をいかに経営に取り込むかが大きな課題となっている。イノベーションとは目的のことであると言ってもよい。近年目的の経営が叫ばれるようになっているが、「善い目的」の先には「目的と手段の選択・判断」を含む実践がなければならない。こういった視点での「目的工学」(Purpose Engineering)が重要になる。本講では、イノベーション経営システムの構築の考え方と、目的に基づくイノベーションという「ハードとソフト」双方からイノベーションの実践を理解する。		
到達目標 / Course Goals	本講では、イノベーションの体系面と意志面の双方を学び、統合することを狙いとする。まずディプロマシーポリシーでのDP1:「知識と理解」に沿って、イノベーション・マネジメントシステムに準拠したイノベーションの知の体系的方法習得を目指す。さらにDP3:「関心と意欲」、DP5:「志」に沿って、「目的工学」を通じて、善い目的に基づく経営(Management On Purpose)、および社会、企業、個々人の目的を調整して成果を生み出すための経営(Management Of Purposes)からなる、イノベーションのための実践知(practical wisdom)を学ぶ。春期の「知識創造経営のプリンシプル」の実践編とも位置付けられるが単独でも受講可能である。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	無

講義内容についての自分自身の関心や経験を確認し、指定図書の熟読や周辺情報の探索を行っておく。質問を考えておく。(シラバスに応じて毎回2時間程度)

授業の概要 / Course Desci	ription			
第一講・第二講				
概要	21世紀はイノベーションと目的の時代			
事前,事後学習ポイント	「目的」というキーワードから経営、イノベーション、社会/経済の現状を考察する			
詳細	①ガイダンス イノベーション経営の背景 知識創造理論から:知識創造とイノベーション経営、目的が重視されてきた由来、契機、なぜ目的が現代の経営において重要になってきたのか ②イノベーション経営と IMS			
	イノベーションに基づく経営、属人的イノベーションの限界、マネジメントシステムと目的の経営の要請 以上のテーマについて、(1)基本となるレクチャー、(2)全体議論、(3)補完レクチャー、(4)グループ討議、 (5) 総括というパタンで授業をすすめる			
第三講・第四講				
概要	イノベーション・マネジメントシステム(IMS) (1)			
事前,事後学習ポイント	ISO56002とその背景としてのイノベーション経営の体系			
詳細	①ISO化の背景としてのイノベーション経営の体系 IMS ISO 56002の成立 ②IMS ISO 56002の構造と詳細(1)			
	以上のテーマについて、(1)基本となるレクチャー、(2)全体議論、(3)補完レクチャー、(4)グループ討議、 (5)総括というパタンで授業をすすめる			
第五講・第六講				
概要	イノベーション・マネジメントシステム(IMS) (2)			
事前,事後学習ポイント	IMS ISO 56002の構造と詳細			
 詳細	①IMS ISO 56002の構造と詳細(2)			

	②IMS ISO 56002の導入と目的の意味合い	
	以上のテーマについて、(1)基本となるレクチャー、(2)全体議論、(3)補完レクチャー、(4)グループ討議、 (5)総括というパタンで授業をすすめる	
第七講・第八講		
概要	目的工学概論	
事前,事後学習ポイント	目的工学(Purpose Engineering)へのイントロダクション	
	①目的の経営の時代 経営における目的の重要性、イノベーションと目的(v2)	
詳細	②目的工学の実践 事例	
	以上のテーマについて、(1)基本となるレクチャー、(2)全体議論、(3)補完レクチャー、(4)グループ討議、 (5)総括というパタンで授業をすすめる	
第九講・第十講		
概要	目的工学実践(1) 目的工学とプロジェクトマネジメント	
事前,事後学習ポイント	イノベーションは結局のところプロジェクトにおいて具現化する。一方イノベーションとは目的のことであるといわれている。そこでイノベーションプロジェクトマネジメントにおいて目的工学はどのように理解できるのだろうか (ゲスト講義を予定)	
	①目的工学的プロジェクトマネジメント よい目的はいかに生み出せるのか、目的の創出/判断と手段選択のメカニズム	
詳細	②目的工学の実践 目的と実践知	
	以上のテーマについて、(1)基本となるレクチャー、(2)全体議論、(3)補完レクチャー、(4)グループ討議、 (5)総括というパタンで授業をすすめる	
第十一講・第十二講		
概要	目的工学実践(2)アクティブラーニング(ワークショップ)	
事前,事後学習ポイント	いかに目的を媒介にプロジェクトマネジメントを実践するかをワークショップで体験する	
	目的工学ワークショップ	
詳細	いかに目的を媒介にプロジェクトマネジメントを実践するか 目的工学に基づく大目的/中目的/小目的の関係性を考る (演習 グループディスカッション、双方向)	
	以上のテーマについて、(1)基本となるレクチャー、(2)全体議論、(3)補完レクチャー、(4)グループ討議、 (5)総括というパタンで授業をすすめる	
第十三講・第十四講		
概要	目的工学とソーシャルイノベーション	
事前,事後学習ポイント	社会的なイノベーションにおける目的工学的な視点と実践	
	①社会的責任投資 社会的なイノベーションにおける目的工学的な視点と実践 社会的イノベーションの事例を通じてTheory Of Changeと目的 工学を対比的に理解する	
詳細	②社会的イノベーションと目的工学目的工学に基づく大目的/中目的/小目的の関係性を考える(演習 グループディスカッション、双方向)	
	以上のテーマについて、(1)基本となるレクチャー、(2)全体議論、(3)補完レクチャー、(4)グループ討議、 (5)総括というパタンで授業をすすめる	
第十五講・第十六講		
概要	総括の対話、グループディスカッション、双方向	
事前,事後学習ポイント	これまでの全講義を基により深い理解を進める	
詳細	①IMSと目的工学の哲学と体系(総括) アリストテレスの四原因説、目的論的世界観、実践的三段論法など	
	②自分自身の目的を考える これまでの全講義を基により深い理解を進める 個々人の目的と企業、社会の目的をどのように調整するのか	

以上のテーマについて、	(1) 基本となるレクチャー、	(2)全体議論、	(3)補完レクチャー、	(4) グループ討議、
(5)総括というパタン	で授業をすすめる			

教科書 / Textbook	紺野登(2020)『イノベーション全書』東洋経済新報社 紺野登(2013)『利益や売上げばかり考える人は、なぜ失敗してしまうのか(目的工学)』(ダイヤモンド社)
指定図書 / Course Readings	紺野登、野中郁次郎(2018)『構想力の方法論』日経BP 紺野登他『目的工学によるイノベーション実践手法』(2019)翔泳社
参考文献·参考URL / Reference List	Konno,N.(2014)An Introduction to "Purpose Engineering": An Essay on "Practical Wisdom" and Innovation Kindai Management Review Vol. 2, 2014 (ISSN: 2186-6961) https://www.kindai.ac.jp/files/rd/research-center/management-innovation/kindai-management-review/vol2_4.pdf その他随時提示

評価方法 / Method of Evaluation

配分(合計100%)	出席率30%/講義議論参画度 30%/最終レポート40% 3点の総合評価 レポートのフィードバックは成績評価とする				
評価基準 / Evaluation Criteria	評価基準 / Evaluation Criteria				
評価「A・」(100~90 点): イノベーション経営と目的工学を十分に理解し実務で応用可能なレベルの知識とスキルを身につけている。それらをスの現実の問題解決に応用できる。課題レポートにおいてイノベーション経営と目的工学の実践に関する深掘り・分自の思考に基づいて提言を行った。					
評価「A」(89~80点): イノベーション経営と目的工学を十分に理解し実務で応用可能なレベルの知識とスキルを身につけている。課題レポおいてイノベーション経営と目的工学の実践に関する理解と分析・思考に基づいて提言を行った。					
評価「B」(79~70点):	イノベーション経営と目的工学の基本を理解している。課題レポートにおいてイノベーション経営と目的工学の理解に基づ く分析を行っている。				
評価「C」(69~60点):	イノベーション経営と目的工学の基本を理解している。課題レポートにおいてイノベーション経営と目的工学の解釈と分析 を行っているが内容及び理解が不十分な点がある。				
評価「F」(59点以下):	イノベーション経営と目的工学の基本を理解しているといえない。課題レポートにおいてイノベーション経営と目的工学の 理解と分析を行っているが内容及び理解が不十分である。				
留意点 / Additional Information	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論、演習には積極的に参画すること 最終レポートは他社事例研究、イノベーション・経営自社の知識創造経営の提言など (1)イノベーション経営/目的工学(経営)の事例研究:①座学・インターネット検索でなく、実際に触れる(インタビュー、事業・サービス・製品の経験)、②関連文献・書籍書評等 (2)自社の、「目的に基づくイノベーション経営」提言:独自の論点を発見、展開すること				

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	シナリオプランニングワークショップ		
サブタイトル / Sub Title	創造的対話手法と可能主義の戦略構想としてのシナリオプランニング		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Methodology of Scenario Planning:Strategy on Possobilism		
教員 / Instructor	structor 紺野 登 E-mail		konno-n@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	イノベーション	単位数 / Credits	2単位

これまでシナリオプランニングは、まさかのときの備えや 戦略思考の幅を広げるといった限定的活用が多かったが、イノベーション経営の時代には、より日常的な活用や新たな価値領域の発見などの役割が考えられる。このでは、未来思考とともにシナリオプランニングを、不確実・複雑な環境における思考法、未来視点での対話の方法発見し、その理論的背景をふまえながら、体験する場(集中プログラム)を通じて習得する。			
到達目標 / Course Goals	ディプロマシーポリシーでのDP2:「思考と判断」、DP3:「関心と意欲」、DP5:「志」の綜合を重視し、構想力の練磨を目指す。「知識創造」とは本質的に未来に向けた創造、イノベーションである。イノベーションとは未来へのビジョンのもとに不確実で複雑な環境の中で「可能主義」的に生きることである。それは未来について「構える」のでなく、未来に向けて判断,変容させることである。本講では未来研究に関する研究と、ワークショップによるシナリオプランニングの実践的演習をともに行うことで「可能主義(非決定論的)の戦略」について考える。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、グループ ワーク、プレゼンテーション	学外学習 / Off-Campus Learning	無

講義内容への自己の関心の確認と指定図書の熟読 事前テーマの考察、講義日間の宿題(毎回3時間程度)、事後のグループワーク(毎回3時間 程度)

授業の概要 / Course Descrip	otion	
第一講・第二講		
概要	オリエンテーション	
事前,事後学習ポイント	イノベーション経済、未来への視座。可能主義の戦略の系譜	
詳細	シナリオプランニングの背景、由来、経緯など、導入的な講義	
第三講・第四講		
概要	シナリオプランニング技法について 演繹的・帰納的 探索的・規範的	
事前,事後学習ポイント	シナリオプランニングの基本ステップについて予習しておくこと	
詳細	シナリオプランニングの基本ステップとその方法論的意味合いを理解する	
第五講・第六講		
概要	シナリオプランニング事例	
事前,事後学習ポイント	具体的事例からシナリオプランニングの活用イメージを理解する	
詳細	複数企業事例のシナリオマトリックス、その背景、活用を説明し、対話する	
第七講・第八講		
概要	シナリオプランニング演習 (1)	
事前,事後学習ポイント	ワークショップ形式で課題を設定しシナリオプランニング演習を行う	
詳細	テーマ設定の方法、スキャンニング、シナリオマトリックス策定	
第九講・第十講		
概要	シナリオプランニング演習 (2)	
事前,事後学習ポイント	ワークショップ形式で課題を設定しシナリオプランニング演習を行う	
詳細	シナリオロジック、ストーリー作成	
第十一講・第十二講		
概要	シナリオプランニング演習 (3)	

事前,事後学習ポイント	ワークショップ形式で課題を設定しシナリオプランニング演習を行う		
詳細	初期的兆候、シナリオの意味合い、戦略オプション		
第十三講・第十四講			
概要	未来の哲学:経営における未来	の意味合い	
事前,事後学習ポイント	現状のシナリオプランニングについての限界と今後の発展、活用のあり方		
詳細	「備え/構え」の受動的シナリオから能動的、対話型のシナリオプランニングへ		
第十五講・第十六講			
概要	総括、討議		
事前,事後学習ポイント	これまでの全講義を基により深い理解を進める		
詳細	各自のレポーティングの過程での学び、観点を共有する対話		
教科書 / Textbook	紺野登、野中郁次郎(2018)『構想力の方法論』日経BP		
指定図書 / Course Readings	紺野登(2020)『イノベーション全書』東洋経済新報社		

紺野登、野中郁次郎(2018)『構想力の方法論』日経BP		
紺野登(2020)『イノベーション全書』東洋経済新報社		
オグルビー,J.、紺野登、野中郁次郎(2005) 《知識創造としてのシナリオ PART 1 シナリオ・プランニングのベーシックス &PART 2シナリオ・マインドのすすめ》Think! 2005 SPR. SUM No.13&14【配布する】		
Noboru Konno, Ikujiro Nonaka & Jay Ogilvy Introduction to the Special Issue on Strategy, Story, and Emergence: Essays on Scenario Planning World Futures 70 (1):2-4 (2014) https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/02604027.2014.875717		

評価方法 / Method of Evaluation				
配分 (合計100%)	日分(合計100%) 出席率30%/講義議論参画度 30%/最終レポート40% 3点の総合評価 レポートのフィードバックは成績評価とする			
評価基準 / Evaluation Criteri	a			
評価「A・」(100~90 点):	シナリオプランニングとシナリオ思考を十分に理解し実務で応用可能なレベルの知識とスキルを身につけている。シナリオ 思考ををビジネスの現実の問題解決に応用できる。課題レポートにおいてシナリオプランニングの実践に関する深掘り・分 析・独自の思考に基づいて卓越した考察・提言を行った。			
評価「A」(89~80点):	シナリオプランニングとシナリオ思考を十分に理解し実務で応用可能なレベルの知識とスキルを身につけている。課題レポートにおいてシナリオプランニングの実践に関する理解と分析・思考に基づいて考察・提言を行った。			
評価「B」(79~70点):	シナリオプランニングの基本を理解している。課題レポートにおいてシナリオプランニングの理解に基づく分析を行っている。			
評価「C」(69~60点):	シナリオプランニングの基本を理解しているが十分でない。課題レポートにおいてシナリオプランニングの解釈と分析を行っているが内容及び理解が不十分な点がある。			
評価「F」(59点以下):	シナリオプランニングの理解が十分といえない。課題レポートにおいて内容及び理解が不十分な点がある。			

	本プログラムは全講を計3日間の集中グループワークによって行う。
留意点 / Additional	《読む·書く+聴く·話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること 講義の合間に文献作業等あり。ワークショップ形式ゆえ継続出席が必須。
Information	授業における対話への参画を前提としつつ・・・最終レポートによる評価 シナリオプランニングを自社・自分のビジネスに応用するために:①ワークショップのレポーティング、②自社・自分のビジネスをシナリオ思考で考える、③関連文献・書籍書評等による理解を深める、④一貫したレポートとしてまとめる 単なるまとめでなく、独自の論点を発見、提示すること

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期	
科目名 / Course Title	デザイン思考ワークショップ			
サブタイトル / Sub Title	文科目名 / Course Title Design Thinking Workshop QualitativeResearch Methodologies in Action			
英文科目名 / Course Title (Eng.)				
教員 / Instructor	紺野 登	E-mail	konno-n@tama.ac.jp	
科目群 / Course Classification	イノベーション	単位数 / Credits	2単位	

講義目的 / Aim of Course	「デザイン思考」は今世紀に入って急速に普及どとともにスタートアップのみならず大企業のいる。デザイン思考は個人の脳でできるロジカ体を動員する実践的な活動である。「デザインが実は、デザインの発展の中で必然的に生まれ践する方法論でもある。本講では理論的背景なや知識創造組織にとって応用可能な「デザイン	ウイノベーションプロジェクトな リル思考などとは異なり、他者と V思考はいわゆる(色やカタチの いてきたものだ。デザイン思考は などをふまえつつ、業種・職種を	の共感や協業など、論理のみならず感情・身) デザインとは違うもの」という意見もある 知識創造モデルをイノベーションの現場で実
到達目標 / Course Goals	近年世界中の経営大学院などでもデザイン思考理分析的思考では限界があり、組織横断的な構られない。そこで本講ではディプロマシーポリ経営の関係を把握し、DP3:「関心と意欲」のガトタイピングといったデザイン思考の基本を集	射想力・実践力が要請されている シーにおけるDP1:「知識と理解 EめのエスノグラフィーやGTAな	ためである。また、それは机上の学習では得 昇」、DP4:「表現と技能」のためにデザインと よど質的研究方法論、コンセプトの構築、プロ
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、グループ ワーク、プレゼンテーション、フィールドワ ーク	学外学習 / Off-Campus Learning	有

講義内容への自己の関心の確認と指定図書の熟読 事前テーマの考察、講義日間の宿題(毎回3時間程度)、事後グループワーク(毎回3時間程 度)

授業の概要 / Course Descr	iption		
第一講・第二講			
概要	デザイン思考への誘い:知識創	造を現場・日常・プロジェクトで実践するための方法、ロジカルシンキングを超えて	
事前,事後学習ポイント	デザイン思考に関する概略を書	籍などを通じて学んでおくこと	
詳細	知識創造の観点からデザイン思	考を理解する	
第三講・第四講			
概要	フィールドワーク演習(1)		
事前,事後学習ポイント	フィールドワークを通じてデサ	イン思考の実践的理解を行う	
詳細	エスノグラフィー、GTA(Groun	nded Theory Approach)等文献研究などの紹介	
第五講・第六講			
概要	質的研究方法論	質的研究方法論	
事前,事後学習ポイント	質的研究方法論についての文献	質的研究方法論についての文献学習(持続して輪読を行う)	
詳細	コンセプトデザインの方法論お	よび質的研究方法論(Qualitative Research Methodologies)概論、などについて学ぶ	
第七講・第八講			
概要	概要 フィールドワーク演習(2)		
事前,事後学習ポイント	特定の課題に沿って、グループワークを行う		
詳細	観察(Observation)あるいは共同化の方法		
第九講・第十講			
概要	フィールドワーク演習(3)		
事前,事後学習ポイント	特定の課題に沿って、グルーフ	プロークを行う:前回の復習、作業の継続	
詳細	概念化(Ideation) あるいは表出	化の方法	
第十一講・第十二講			

概要	フィールドワーク演習(4)	
事前,事後学習ポイント	特定の課題に沿って、グループ	プロークを行う:前回の復習、作業の継続
詳細	プロトタイピング(prototyping)	/ストーリーテリング(storytelling)あるいは連結化/内面化の方法
第十三講・第十四講		
概要	企業のイノベーションとデザイ	ン思考
事前,事後学習ポイント	ケースを読んでおくこと	
詳細	具体的企業事例からデザイン思	考がイノベーションにいかに活用され得るかを考える
第十五講・第十六講		
概要	総括の対話	
事前,事後学習ポイント	これまでの全講義を基により深	い理解を進める
詳細	各自のレポーティングの過程で	の学び、観点を共有する対話、輪読の発表、デザイン思考の次なる発展とは

教科書 / Textbook	紺野登(2010)『ビジネスのためのデザイン思考』東洋経済新報社(指定図書)
指定図書 / Course Readings	フリック,U. (2002)『質的研究入門—「人間の科学」のための方法論』春秋社(指定図書) グレイザー,B.G.,A.L.シュトラウス (1996) 『データ対話型理論の発見』新曜社(指定図書)
参考文献・参考URL / Reference List	無し

評価方法 / Method of Evaluat	ion	
配分(合計100%)	出席率30%/講義議論参画度 30%/最終レポート40% 3点の総合評価 レポートのフィードバックは成績評価とする	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	イノベーションにおけるデザイン思考と背後の理論を十分に理解し実務で応用可能なレベルの知識とスキルを身につけた。 それらをビジネスの現実の問題解決に応用できる。課題レポートにおいてイノベーションにおけるデザイン思考の実践に関 する深掘り・洞察・独自の思考に基づいて卓越した考察・提言を行った。	
評価「A」(89~80点):	イノベーションにおけるデザイン思考と背後の理論を十分に理解し実務で応用可能なレベルの知識とスキルを身につけている。課題レポートにおいてイノベーションにおけるデザイン思考の実践に関する理解と洞察・思考に基づいて考察・提言を 行った。	
評価「B」(79~70点):	イノベーションにおけるデザイン思考の基本を理解している。課題レポートにおいてイノベーションにおけるデザイン思考 の理解に基づく洞察を行っている。	
評価「C」(69~60点):	イノベーションにおけるデザイン思考の基本を理解しているが十分でない。課題レポートにおいてイノベーションにおける デザイン思考の解釈と分析を行っているが内容及び理解が不十分な点がある。	
評価「F」(59点以下):	イノベーションにおけるデザイン思考を理解しているといえない。課題レポートにおいて内容及び理解が不十分である。	

	本プログラムは全講を計3日間の集中グループワークによって行う。
留意点 / Additional	《読む·書く+聴く·話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので議論には積極的に参画すること 講義の合間に文献作業等あり。ワークショップ形式ゆえ継続出席が必須。
Information	評価は対話、グループワークなどへの参加を前提にレポートとともに行う; ①学んだことの整理、②自身としてのイノベーションのためのデザイン思考についての見解、③今後の応用、あるいは実践した経験からの学びなどを数ページ(A43-5ページ、必要に応じてパワーポイント可能)にまとめること

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	ビジネスモデルイノベーション		
サブタイトル / Sub Title	持続的競争優位が終焉を向かえた時代の新たな	戦略アプローチと実践手法	
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Business Model Innovation		
教員 / Instructor	河野 龍太	E-mail	kono-r@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	イノベーション	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	アップル、アマゾン、ユニクロを例としてあけ 差別化】に成功していることです。ビジネスモ 営においては商品・サービス単体レベルでの差 ます。本講義では、ビジネスモデルに対する本 ネスモデル構築手法を学び、受講者自らが関れ 力を錬成することを講義の目的とします。	デルとは、事業の持続的成長を 別化が難しさを増しており、ビ 質的理解を深めながら、世界の	可能にする戦略メカニズムのこと。現代の経 ジネスモデルによる差別化が重要になってい 一流企業が採用し経営の現場で実践するビジ
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーでのDP2:「思考と判断」と リーとケースを理解し実践知を身につける。ヒ デルをデザインするスキルを習得する。ビジネ	ジネスモデルキャンバスを活用	して新規事業や既存事業の新たなビジネスモ
授業形態 / Form of Class	グループディスカッション、グループワー ク、プレゼンテーション	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

課題図書、指定論文の予習。指定時にレポートの提出。予習1時間程度、復習1時間程度。

授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	ビジネスモデルとは何か	
事前,事後学習ポイント	ビジネスモデルが経営上注目される背景、事業環境を調べ理解しておくこと	
詳細	ビジネスモデルが経営上注目される背景、事業環境について、特に「一時的競争優位」が前提となる現代の経営環境について考察する。講義で取り上げる理論や方法論を受講生各自の経験や所属組織の現実課題に当てはめて考察を促す形式の個人及びグループワーク、クラスディスカッションを随時行う。	
第三講・第四講		
概要	ビジネスモデルの視覚的共有と組織的デザインのアプローチ	
事前,事後学習ポイント	イノベーションの共通言語の重要性について理解する。ビジネスモデルキャンバスの構成要素と基本的な使い方を理解する。	
詳細	現代の経営においてビジネスモデル・イノベーションの重要性が増す中でイノベーションの共通言語がなぜ重要なのかについて考察する。イノベーションの共通言語として普及するビジネスモデルキャンパスの使い方を理解し自社のビジネスモデルをビジネスモデルキャンバスで実際に可視化する個人演習及びグループワークを行い、随時クラスディスカッションを交える。	
第五講・第六講		
概要	ビジネスモデルによる差別化戦略の基本と実践	
事前,事後学習ポイント	ビジネスモデルで差別化するための方法について調べておくこと	
詳細	ビジネスモデル・イノベーションを構想するための戦略的な着眼点、アプローチ法を学ぶ。自社のビジネスモデルの強みや弱み、課題などを評価する。講義で取り上げる理論や方法論を受講生各自の経験や所属組織の現実課題に当てはめて考察を促す形式の個人及びグループワーク、クラスディスカッションを随時行う。	
第七講・第八講		
概要	ビジネスモデルにおける顧客価値の創造(1)	
事前,事後学習ポイント	参考文献(「ジョブ理論」)などをもとにジョブ理論について事前に調べ理解する。成功したビジネスモデルを調べ講義で理解した点を当てはめて自分で独自に分析し理解を深める。	
詳細	顧客視点での価値創造の方法論を学ぶ。顧客が本当に欲しているニーズを理解する方法としてジョブアプローチについて考察する。バリュー・プロポジション・キャンバスの内容と各構成要素を理解し自社の事業に当てはめて基本的な使い方を習得する。講義で取り上げる理論や方法論を受講生各自の経験や所属組織の現実課題に当てはめて考察を促す形式の個人及び	

概要	ビジネスモデルにおける顧客価値の創造(2)	
事前,事後学習ポイント	顧客視点でビジネスモデル・イノベーションを起こしたケースを調べる。バリュー・プロポジション・キャンバスを使って 自ら事例分析を行う。	
詳細	顧客視点での価値創造の具体的なケース分析を通じてプル型のイノベーションのポイントを考察する。顧客の側に立って問題を発見し解決アイデアの選択肢を広げ試行錯誤から方向性を見出す実践的スキルとしてデザイン思考について理解する。 随時グループワーク、クラスディスカッションを交えて参加型講義を行う。	
第十一講・第十二講		
概要	リーンスタートアップとビジネスモデル創造	
事前,事後学習ポイント	リーンスタートアップのセオリーと実践方法について調べる	
詳細	リーンスタートアップ、顧客開発モデル、MVPなどについて理解する。ビジネスモデルの仮説についての仮説検証方法について理解する。講義で取り上げる理論や方法論を受講生各自の経験や所属組織の現実課題に当てはめて考察を促す形式の個人及びグループワーク、クラスディスカッションを随時行う。	
第十三講・第十四講		
概要	ビジネスモデルの仮説検証の論理と実践	
事前,事後学習ポイント	リーンスタートアップに基づいた仮説検証の考え方と実践方法を調べておく	
詳細	ビジネスモデルの仮説についての仮説検証方法について理解する。講義で取り上げる理論や方法論を受講生各自の経験や所 属組織の現実課題に当てはめて考察を促す形式の個人及びグループワーク、クラスディスカッションを随時行う。	
第十五講・第十六講		
概要	ビジネスモデル・イノベーションの可能性と課題および未来展望	
事前,事後学習ポイント	ビジネスモデル・イノベーションに関するこれまでの講義の全体を振り返る	
詳細	講義の全体を振り返り、ビジネスモデル・イノベーションの取り組みを自社内でいかに実践するかについて考察する。各自 の組織の事例や個人の経験による自主的意見の発言とクラス内での知見交換を奨励しクラスディスカッションを行う。	

教科書 / Textbook	なし
	・「ビジネスモデル・ジェネレーション」 アレックス・オスターワルダー、イヴ・ピニュール著、翔泳社
指定図書 / Course Readings	・「インビンシブル・カンパニー 『無敵の会社』を作った39パターンのビジネスモデル」アレックス・オスターワルダー、 イヴ・ピニュール著、翔泳社
	・「バリュー・プロポジションデザイン」アレックス・オスターワルダー、イヴ・ピニュール他著、翔泳社
参考文献・参考URL /	・「ビジネスアイデア・テスト」デイビッド・J・ブランド、アレックス・オスターワルダー著、翔泳社
Reference List	・「イノベーションへの解」クレイトン・クリステンセン他、翔泳社

評価方法 / Method of Evaluat	tion
配分(合計100%)	出席(20%)、グループワーク、クラスディカッション (40%)、修了課題レポート(40%)
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A・」(100~90 点):	ビジネスモデル・イノベーションのセオリーとケースを十分に理解し所属組織やチームの共通言語として実践で応用している。ビジネスモデルキャンバスを活用して新規事業や既存事業のユニークなビジネスモデルをデザインできる。ビジネスモデルの仮説検証の方法論、スキルを身につけ自ら仮説検証を効果的に実行できる。
評価「A」(89~80点):	ビジネスモデル・イノベーションのセオリーと実践ケースを理解している。ビジネスモデルキャンバスを活用して新規事業 や既存事業のビジネスモデルを発案できる。ビジネスモデルの仮説検証の方法論を理解し実践している。
評価「B」(79~70点):	ビジネスモデル・イノベーションのセオリーを理解している。ビジネスモデルキャンバスを理解し実務で活用している。
評価「C」(69~60点):	ビジネスモデル・イノベーションのセオリーを基本レベルで理解している。ビジネスモデルキャンバスを理解しているが実 務での応用が不十分。
評価「F」(59点以下):	ビジネスモデル・イノベーションのセオリーやケースについての理解が基本的なレベルに留まっている。

留意点 / Additional	当講義の理解と応用を促進する上で関係の深い「マーケティング・マネジメント概論」を当講義の履修前もしくは履修中あ
Information	るいは履修後に受講することを推奨する。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	イノベーターのための顧客創造戦略 理論と実践	浅 技法	
サブタイトル / Sub Title	市場創造と事業変革のロジックと実践方法を学		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Customer Creation Strategies in Theory andP	Practice for Innovators	
教員 / Instructor	河野 龍太	E-mail	kono-r@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	イノベーション	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	アップルのスティーブ・ジョブズやアマゾンの 観の人ではない。ハーバード大のクリステンセーと実践の両方に精通したイノベーション・マ 人がその天賦の才能やセンス以外に何を志向しい求める風潮が否めない中でセオリーやロジッ 場変革と顧客創造のための代表的な戦略、セオ なイノベーション戦略、セオリー、それらを実 る。	ソン氏のイノベーション理論など マスター(達人)として知られて ているかは留意しておきたい。 クを軽視する人は危ういと言え リー、ツールを理解し習得する	を研究して自らの事業構想に生かす、セオリいる。世界を変える巨大な功績を残している即効性のあるノウハウなど表層的なものを追よう。イノベーションを志す者にとって、市ことは助けとなる。この講義では現代の重要
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーでのDP2:「思考と判断」と「知の再武装」を達成するために、市場構造を変革し顧客を創造するイノベーションの理論、ツール、スキルを習得し、新規事業開発・新商品、新サービス開発における実務上の課題解決に実践応用できる力を身につける。		
授業形態 / Form of Class	グループディスカッション、グループワー ク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

講義内容の咀嚼と指定図書、資料の熟読 事前学習(2時間程度),事後学習(2時間程度)

授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	顧客の真のニーズを理解する:ジョブメソッド	
事前,事後学習ポイント	ジョブ理論について調べておく。	
詳細	顧客創造戦略において顧客の真のニーズを理解することは極めて重要である。このための有効な理論がハーバード大学のクリステンセン教授が提唱するJobs to be doneという理論である。JTBDについて理解を深め演習を通じて実践に応用できるスキルを養う。	
第三講・第四講		
概要	破壊的イノベーションを理解する	
事前,事後学習ポイント	破壊的イノベーション理論について調べる。理論に適合した実際のケースを調べる。	
詳細	破壊的イノベーション理論はインテルのアンディ・グローブ会長が戦略転換に応用するなど有用性が高いイノベーションセオリーである。破壊的イノベーション理論の基本と本質を理解する。さらにクラスディスカッションを交え、双方向かつ主体的に認識を深める。	
第五講・第六講		
概要	ブルーオーシャン戦略を理解する	
事前,事後学習ポイント	ブルーオーシャン戦略の理論とケースについて調べる。	
詳細	イノベーション戦略論としてブルーオーシャン戦略の基本と応用を理解する。クラスディスカッションを交え、双方向かつ 主体的に認識を深める。	
第七講・第八講		
概要	マイケルポーターの戦略論を理解する	
事前,事後学習ポイント	マイケルポーターの戦略理論について調べる。	
詳細	マイケルポーターの戦略論:基本戦略、ファイブ・フォーシズ分析、バリューチェーン、戦略ポジショニングなどについて 理解を深める。	
第九講・第十講		
概要	ビジネスモデルのロジックと構築方法について理解する	
事前,事後学習ポイント	ビジネスモデル論およびビジネスモデル・キャンバスについて調べて理解する。	

詳細	ビジネスモデルをデザインするためのロジックと実践での応用方法を学ぶ。演習とクラスディスカッションを交え、双方向 かつ主体的に認識を深める。
第十一講・第十二講	
概要	イノベーションの普及理論とキャズム論を理解する
事前,事後学習ポイント	イノベーションの普及論とキャズム論について調べ理解をする。
詳細	あらゆる業界においてITと無縁のビジネス、商品サービスはもはやほとんどない。その一方でITサービス特有の戦略とマーケティングについて理解が不十分だと思わぬ落とし穴にはまる。ITビジネスの戦略理論としてキャズム論について理解を深め、IT分野の商品サービスの事業創造を効果的に行うためのセオリーと実践方法について理解を深める。
第十三講・第十四講	
概要	両利きの経営について理解する
事前,事後学習ポイント	両利きの経営論について調べ理解をする。
詳細	中核事業を確立している企業が、それら既存事業に加えて、さらに新しい収益の柱となる事業を創造しようとする場合に必要となるのが「両利きの経営」である。実績のある多くの大企業や中堅中小企業がイノベーションを生み出せずに苦しむのは、「両利きの経営」をどう行えばよいかが理解されていないことが原因ともいわれる。両利きの経営について理解を深め、既存企業がイノベーションを起こすための方法論について理解を深める。
第十五講・第十六講	
概要	アトリビュート分析について理解する
事前,事後学習ポイント	アトリビュート分析について調べて理解する。
詳細	競合に対してユニークな顧客価値をデザインする上でアトリビュート分析は有効なヒントを与える。これら分析手法について演習とクラスディスカッションを交え、双方向かつ主体的に認識を深める。
教科書 / Textbook	適宜、講義内において紹介する
指定図書 / Course Readings	「イノベーションのジレンマ」クレイトン・クリステンセン著、翔泳社 「ブルーオーシャン戦略」W・チャン・キム 、レネ・モボルニュ著、ダイアモンド社 「〔エッセンシャル版〕マイケル・ポーターの競争戦略」ジョアン・マグレッタ著、早川書房
参考文献·参考URL / Reference List	講義の進展状況に応じて適宜紹介
評価方法 / Method of Evaluat	ion
配分 (合計100%)	出席(20%)、グループワーク、クラスディカッション (40%)、修了課題レポート(40%)
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A・」(100~90 点):	市場構造を変革し顧客を創造するイノベーションの理論、ツールを十分に理解し実務に応用できるスキルを習得している。 講義で学んだ理論、スキルを実務で実践している。
評価「A」(89~80点):	市場構造を変革し顧客を創造するイノベーションの理論、ツールを概ね理解し実務に応用できるスキルを習得している。

市場構造を変革し顧客を創造するイノベーションの理論、ツールの基本を理解している。市場構造を変革し顧客を創造するイノベーションの理論、ツールの理解が一部不十分。

クラスでの発表やディスカッションなどに積極的に参加しクラス全体の学びの向上に貢献すること。

市場構造を変革し顧客を創造するイノベーションの理論、ツールの理解が不十分。

評価「B」(79~70点):

評価「C」(69~60点):

評価「F」(59点以下):

留意点 / Additional

Information

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	起業/社内起業の事業創造実践論		
サブタイトル / Sub Title	新事業の理論と演習		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Business Creation Management		
教員 / Instructor	本荘 修二	E-mail	shuji@honjo.biz
科目群 / Course Classification	イノベーション	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	ベンチャー企業、大企業の新事業(新製品・サ 思考法を学ぶ。アイデアなどシーズ(種)づく 業家、社内起業家からチーム・メンバー、投資	り、そこから実行に値する事業	案に練り上げるための力を養う。対象は、起
到達目標 / Course Goals	DP4:「表現と技能」に資する理論的バックボー 受講生による発表とディスカッションなど演習		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、グループ ワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし(仮説検証は学外を含む)

講義内容の復習と指定文献の独修、演習の準備(新事業の立案、仮説の構築と検証、グループワーク、プレゼンテーション作成・練習)。講義では事前準備に1時間、復習に1時間程度。演習では事前準備に2-3時間程度。

授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	事業創造概論	
事前,事後学習ポイント	事業創造とは何か、事業創造を実	見する人材と関係者、事業創造の学習法
詳細	新事業とイノベーション、起業人材、ベンチャーのコミュニティなどのアントレプレナーシップ実践のための基礎知識を整理し、双方向の議論を行う。また、事業創造の(準備が要らない)予行演習を行う。 宿題:ゲスト講義以外に、第6講までの講義を一人一回以上、講義レポートとして提出する(受講者とシェアしフィードバックを行う)。	
第三講・第四講		
概要	事業創造のメソドロジー	
事前,事後学習ポイント	事業機会特定、リーン・スタート	アップ、事業転換
詳細		cognition)について講義とともに双方向の議論を行う。これを踏まえて、リーン・スターる。さらに、事例を交えて既存事業の転換について双方向の議論を行う。 を。
第五講・第六講		
概要	新事業のモデリング	
事前,事後学習ポイント	新事業マーケティング、ビジネス・ グループ演習I	モデル、仮説の検証/プロトタイピング
詳細	新事業のマーケティングついて学習する。そして、各種ツールとともにビジネスモデルづくり、そして仮説の検証/プロトタイピングの方法論について学び、双方向の議論を行う。また、グループ演習の班分けを行い、各班でグループディスカッションし、テーマ設定、プレゼンテーションへの準備などのグループワークを行う。 宿題:第5講でのプレゼンテーションに向けて、各班はグループワークで準備する。	
第七講・第八講		
概要	個人演習I、ゲスト講義	
事前,事後学習ポイント	個人演習の準備	
詳細	個人の研究課題として立案したテーマのショート・プレゼンテーションと双方向の議論ならびに全員参加のグループディスカッションを行う(事前に発表準備、事後にテーマ練り上げ・練り直し)。 ゲスト講義(経営者・新事業マネジャーによる)は、双方向の質疑応答も行う(事前に質問準備、事後に学びの整理)。 宿題:妥当となったテーマは、事業コンセプトに発展させ、仮説の構築と検証に着手する。あるいは新テーマを考案。 宿題:ゲスト講義レポートを全員提出する(追加議論を次回に)。	
第九講・第十講		

グループ演習II、事業創造のスキルI

概要

事前,事後学習ポイント	グループ演習発表 プレゼンテーション、実践新事業マーケティング		
詳細	グループ演習のテーマについて、各班がプレゼンテーションし、双方向の議論ならびに全員参加のグループディスカッションを行う。グループ演習では、異なる経験・専門性を持つメンバーとのグループワークを通して、自己に閉じないアイデアの発展のさせ方や視点の持ち方、他力をいかに活用するか、といった事業創造のスキル獲得を図る。プレゼンテーションのスキルについて、そして起業のための実践的なマーケティングについて学び、切り口や視点の持ち方について双方向に議論する。		
第十一講・第十二講			
概要	個人演習II、事業創造のスキルII		
事前,事後学習ポイント	個人演習の準備 事業/プロダクトの評価、起業のファイナンス		
詳細	個人の研究課題(事業案)のプレゼンテーションを実施し、中間レビューを双方向の議論ならびに全員参加のグループディスカッションで行う。なお、発表内容を問うものでなく、最終プレゼンテーションに向けて事業案を練り上げることをねらう。したがって、他の受講者の事業案の改善・転換や発展への貢献が期待される。(プレゼンテーションに対してコメント/助言するゲスト参加の可能性あり)また、事業/プロダクトの評価や起業のファイナンスなど事業創造のスキル(受講者の特性に応じて選択)について学び、双方向に議論を行う。 宿題:事業案を練り上げ、仮説の構築と検証を進め、改善・転換(Pivot)する。		
第十三講・第十四講			
概要	個人演習IIIa		
事前,事後学習ポイント	個人演習最終プレゼンテーションの準備		
詳細	個人の研究課題(事業案)の最終プレゼンテーションと双方向の議論ならびに全員参加のグループディスカッションを行う。プレゼンの内容とともに、それに至る事業案の改善や転換(Pivot)ならびに仮説検証についても考察し、議論する。		
第十五講・第十六講			
概要	個人演習IIIb、総括		
事前,事後学習ポイント	個人演習最終プレゼンテーションの準備、本講座トータルのおさらい		
詳細	個人の研究課題(事業案)の最終プレゼンテーションと双方向の議論ならびに全員参加のグループディスカッションを行う。プレゼンの内容とともに、それに至る事業案の改善や転換(Pivot)ならびに仮説検証についても考察し、議論する。また、講義全体を振り返っての総括を行う。		

教科書 / Textbook	適宜、講義資料を配布する。
指定図書 / Course Readings	オンライン記事『インキュベーションの虚と実』 http://diamond.jp/category/s-incubation (読む箇所を指定)
参考文献・参考URL / Reference List	「ビジネス・クリエーション!」ビル・オーレット著、「Running Lean ―実践リーンスタートアップ」アッシュ・マウリャ著、「成功するビジネスプラン」伊藤良二著、「なぜ新規事業は成功しないのか―「仮説のマネジメント」の理論と実践」大江建著、「新規事業の実践論」麻生要一著。また、必要に応じて追加の参考文献を紹介。

評価方法 / Method of Evaluation	
配分 (合計100%)	出席(20%)、授業での議論参加ならびに貢献度(30%)、講義レポート(10%)、グループ演習(10%)、個人演習(30%)
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A・」(100~90 点):	事業創造の理論を応用し、授業での参加・貢献、演習の内容が特に充実している。新事業の立案や既存事業への戦略的代替 案の策定の能力を習得し、事業創造の実践力を応用的なレベルで獲得し、具体的な事業創造プランを提案できる。
評価「A」(89~80点):	事業創造の理論を理解し、授業での参加・貢献、演習の内容が充実している。新事業の立案や既存事業への戦略的代替案の 策定について理解しており、事業創造の実践力を応用的なレベルで獲得している。
評価「B」(79~70点):	授業での参加・貢献、演習の内容が、おおむね良好である。新事業の立案や既存事業への戦略的代替案の策定についておお むね理解しており、事業創造の実践力をおおむね応用的なレベルで獲得している。
評価「C」(69~60点):	授業での参加・貢献、演習の内容が、最低限の水準を満たしている。新事業の立案や既存事業への戦略的代替案の策定について初歩的に理解しているが、事業創造の実践力が基本的なレベルに留まっている。
評価「F」(59点以下):	出席不良で、授業での参加・貢献、演習の内容が不十分。新事業の立案や既存事業への戦略的代替案の策定についての理解 が限定的であり、事業創造の実践力が初歩的なレベルに留まっている。

留意点 / Additional	メーリングリスト(あるいはFacebookグループ)で継続的にコミュニケーションを行う(講義レポートのフィードバックを
Information	含む)。なお、受講者の特性に応じて講義内容は調整・修正を試みる。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	マーケティングマネジメント概論		
サブタイトル / Sub Title	_		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Marketing Management		
教員 / Instructor	河野 龍太	E-mail	kono-r@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	顧客創造	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	マネジメントの父である故ドラッカー博士はあらゆる組織に必須の最も重要な2つの機能としてマーケティングとイノベーションをあげた。激しい競争と市場の成熟化が進む今日において、顧客を創造し事業を成長に導く経営戦略のカギとしてマーケティング戦略の重要性はさらに増している。本講義では、21世紀の経営環境に適応するための新しいコンセプトも織り込みながら、現代におけるマーケティング・マネジメントの基本と本質を理解し、実際の問題解決に応用できる実践的な知識とスキルの修得を目指す。		
到達目標 / Course Goals	DP2:「思考と判断」と「知の再武装」を達成するために、デジタルテクノロジーとソーシャルメディア時代のマーケティング・マネジメントの理論と3C、STP、4Pなどの基本フレームワークとそれらを実践で活用する実践知とスキルを習得する。		
授業形態 / Form of Class	グループディスカッション、グループワー ク、プレゼンテーション	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体	講義内容の咀嚼と指定図書、資料の熟読
的な学習内容	予習2時間程度、復習1時間程度。

的な子首内谷		J'自2时间住区、该自1时间住区。
授業の概要 / Course Descripti	on	
第一講・第二講		
概要	顧客視点の経営戦略の論理	
事前,事後学習ポイント	マーケティングの経営における	目的と役割について調べる
詳細	経営におけるマーケティングの本質について理解を深める。21世紀において市場が成熟化する中で差別化が容易ではなくなっている。供給者サイドの論理ではなく顧客側の視点で価値を考えて商品サービスをデザインすることが一層重要になっている。今日の企業経営におけるマーケティングの本質的役割や意義をセオリー、事例を元にクラスディスカッションをしながら双方向かつ主体的に認識を深める。	
第三講・第四講		
概要	企業ビジョン、ミッションとマ	マーケティング戦略
事前,事後学習ポイント	企業ビジョン、ミッションとマーケティング戦略の関係や事例について調べる	
詳細		マーケティング戦略の関係性やその背景や戦略意図と企業経営への効果や影響について事例分で でえながら双方向かつ主体的に認識を深める。
第五講・第六講		
概要	事業環境を認識する	
事前,事後学習ポイント	3C、SWOT、5Fなど代表的フレームワークと分析方法について調べる	
詳細	マーケティング戦略を構築する上では、マクロ経済、市場、政治や社会動向、競合動向、テクノロジーなど事業環境におる様々な事実に基づいた客観的認識を持つことが欠かせない。事業環境分析の方法、基本的フレームワークを理解し分析ら戦略的洞察の導き方までを事例分析とクラスディスカッションを交えながら双方向かつ主体的に認識を深める。	
第七講・第八講		
概要	顧客を深く理解する	
事前,事後学習ポイント	顧客と市場を深く理解し経営に活かして成功している企業の実例を調べておく	
詳細	顧客視点での価値創造のポイントは、顧客を深く理解することにある。マーケティング戦略の起点が顧客への深い理解にあることを認識した上で、どうすれば顧客への深い理解や洞察を得ることができるのかをセオリー及び具体的な経営の事例を元に考察する。さらにクラスディスカッションを交え、双方向かつ主体的に認識を深める。	
第九講・第十講		
概要	マーケティングの基幹戦略をテ	· 「ザインする
事前,事後学習ポイント	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングの実務での応用例について調べる	
詳細	マーケティング戦略の根幹であるセグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、コンセプトデザインについて理	

解を深める。STP戦略の基本セオリーを学び具体的な経営の事例を交えながらクラスディスカッションを行いその本質と戦

	略構築の実践方法について理解をする。		
第十一講・第十二講			
概要	統合的マーケティング戦略のデザインと実施		
事前,事後学習ポイント	STP戦略を戦術手段に落とし込み統合的にマーケティングを実行する方法を調べる		
詳細	マーケティング戦略の基幹的な方針を相互に一貫性のある形で組み上げ商品、価格、チャネル、プロモーション等の各具体的施作に落とし込んで実行する。このような戦略デザインから戦術への具体化と実行、成果の診断とフィードバックまでのマーケティング戦略の全体サイクルについて理解する。顧客価値を創造する上でサービスの役割重要になっている。サービスのマーケティングの基本についても学ぶ。		
第十三講・第十四講			
概要	顧客価値を維持発展させる		
事前,事後学習ポイント	ブランド戦略の論理と実践方法について調べる		
詳細	マーケティング・マネジメントの発展形としてのブランド戦略について理解をする。今日の企業経営においてブランド・マネジメントは極めて重要な役割を担っている。企業経営におけるブランド・マネジメントの本質について考察し、ブランド戦略を構築するための基本セオリー、フレームワーク、実践的方法について、事例とクラスディスカッションを交えて理解を深める。これらテーマについて各種事例を随時に交えながらクラスディスカッションを行う。		
第十五講・第十六講			
概要	顧客視点の経営戦略の課題と実践:まとめとディスカッション		
事前,事後学習ポイント	これまでの講義を振り返りマーケティング・マネジメントの全体像を理解する		
詳細	顧客起点の経営戦略を具体化する上で要となるマーケティング戦略は、市場が成熟化し競争がグローバルレベルでますます 激化する現代の企業経営において重要性が増している。本講義で取り上げたマーケティング・マネジメントの基本的なコンセプトと本質について改めてクラスディスカッションを交えながら振り返り理解を深める。		

教科書 / Textbook	適宜、講義内において紹介する。
指定図書 / Course Readings	「マーケティング < 第 2 版 > 」恩藏直人著、日経文庫 「コトラーのマーケティング3.0」フィリップ・コトラー他著、朝日新聞出版 「コトラーのマーケティング4.0」フィリップ・コトラー他著、朝日新聞出版 「ブランド論」デービッド・アーカー著、ダイヤモンド社
参考文献・参考URL / Reference List	「レスポンシブル・カンパニー」イヴォン・シュイナード他著、ダイヤモンド社 「世界でいちばん大切にしたい会社コンシャス・カンパニー」ジョン・マッキー著、翔泳社

評価方法 / Method of Evaluati	ion		
配分(合計100%)	出席(20%)、グループワーク、クラスディカッションへの貢献(40%)、修了課題レポート(40%)		
評価基準 / Evaluation Criteria			
評価「A・」(100~90 点):	マーケティング・マネジメントのセオリーを十分に理解し自らの実務で応用可能なレベルの知識、スキルを身につけている。それらを実際に自分自身のビジネスの現実の問題解決に活用した。課題レポートにおいてマーケティング・マネジメントのセオリーと実践スキルを適切に活用し卓越した分析と提言を行った。		
評価「A」(89~80点):	マーケティング・マネジメントのセオリーを理解し自らの実務で活用可能なレベルの知識、スキルを身につけている。課題レポートにおいてマーケティング・マネジメントのセオリーと実践スキルを活用し的確な分析と提言を行った。		
評価「B」(79~70点):	マーケティング・マネジメントの基本的なセオリーを理解している。それらを実務で応用できる基本的スキルを習得している。課題レポートにおいてマーケティング・マネジメントの基本的セオリーを理解し分析と提言を行っている。		
評価「C」(69~60点):	マーケティング・マネジメントの基本的なセオリーを理解している。課題レポートにおいてマーケティング・マネジメントの基本的セオリーを理解し分析を行っているが内容及び理解が不十分な点がある。		
評価「F」(59点以下):	マーケティング・マネジメントの基本的なセオリーを理解している。課題レポートにおいてマーケティング・マネジメントの分析を行っているが内容及び理解が不十分な点が少なくない。		

留意点 / Additional Information	クラスでの発表やディスカッションなどに積極的に参加しクラス全体の学びの向上に貢献すること。	
---------------------------------	---	--

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期	
科目名 / Course Title	マーケティングマネジメント概論			
サブタイトル / Sub Title	_			
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Marketing Management			
教員 / Instructor	河野 龍太 E-mail kono-r@tama.ac.jp			
科目群 / Course Classification	顧客創造	単位数 / Credits	2単位	

講義目的 / Aim of Course	マネジメントの父である故ドラッカー博士はあらゆる組織に必須の最も重要な2つの機能としてマーケティングとイノベーションをあげた。激しい競争と市場の成熟化が進む今日において、顧客を創造し事業を成長に導く経営戦略のカギとしてマーケティング戦略の重要性はさらに増している。本講義では、21世紀の経営環境に適応するための新しいコンセプトも織り込みながら、現代におけるマーケティング・マネジメントの基本と本質を理解し、実際の問題解決に応用できる実践的な知識とスキルの修得を目指す。		
到達目標 / Course Goals	DP2:「思考と判断」と「知の再武装」を達成するために、デジタルテクノロジーとソーシャルメディア時代のマーケティング・マネジメントの理論と3C、STP、4Pなどの基本フレームワークとそれらを実践で活用する実践知とスキルを習得する。		
授業形態 / Form of Class	グループディスカッション、グループワー ク、プレゼンテーション	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

準備学習(予習・復習等)	に必要な時間に準じる程度の具体
的な学習内容	

講義内容の咀嚼と指定図書、資料の熟読 予習2時間程度、復習1時間程度。

授業の概要 / Course Desc	ription		
第一講・第二講			
概要	顧客視点の経営戦略の論理		
事前,事後学習ポイント	マーケティングの経営における目的と役割について調べる		
詳細	経営におけるマーケティングの本質について理解を深める。21世紀において市場が成熟化する中で差別化が容易ではなくなっている。供給者サイドの論理ではなく顧客側の視点で価値を考えて商品サービスをデザインすることが一層重要になっている。今日の企業経営におけるマーケティングの本質的役割や意義をセオリー、事例を元にクラスディスカッションをしながら双方向かつ主体的に認識を深める。		
第三講・第四講			
概要	企業ビジョン、ミッションとマーケティング戦略		
事前,事後学習ポイント	企業ビジョン、ミッションとマーケティング戦略の関係や事例について調べる		
詳細	企業ビジョン、ミッションとマーケティング戦略の関係性やその背景や戦略意図と企業経営への効果や影響について事例分析とクラスディスカッションを交えながら双方向かつ主体的に認識を深める。		
第五講・第六講			
概要	事業環境を認識する		
事前,事後学習ポイント	3C、SWOT、5Fなど代表的フレームワークと分析方法について調べる		
詳細	マーケティング戦略を構築する上では、マクロ経済、市場、政治や社会動向、競合動向、テクノロジーなど事業環境における様々な事実に基づいた客観的認識を持つことが欠かせない。事業環境分析の方法、基本的フレームワークを理解し分析から戦略的洞察の導き方までを事例分析とクラスディスカッションを交えながら双方向かつ主体的に認識を深める。		
第七講・第八講			
概要	顧客を深く理解する		
事前,事後学習ポイント	顧客と市場を深く理解し経営に活かして成功している企業の実例を調べておく		
詳細	顧客視点での価値創造のポイントは、顧客を深く理解することにある。マーケティング戦略の起点が顧客への深い理解にあることを認識した上で、どうすれば顧客への深い理解や洞察を得ることができるのかをセオリー及び具体的な経営の事例を元に考察する。さらにクラスディスカッションを交え、双方向かつ主体的に認識を深める。		
第九講・第十講			
概要	マーケティングの基幹戦略をデザインする		
事前,事後学習ポイント	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングの実務での応用例について調べる		
詳細	マーケティング戦略の根幹であるセグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、コンセプトデザインについて理解を深める。STP戦略の基本セオリーを学び具体的な経営の事例を交えながらクラスディスカッションを行いその本質と戦		

	略構築の実践方法について理解をする。		
第十一講・第十二講			
概要	統合的マーケティング戦略のデザインと実施		
事前,事後学習ポイント	STP戦略を戦術手段に落とし込み統合的にマーケティングを実行する方法を調べる		
詳細	マーケティング戦略の基幹的な方針を相互に一貫性のある形で組み上げ商品、価格、チャネル、プロモーション等の各具体的施作に落とし込んで実行する。このような戦略デザインから戦術への具体化と実行、成果の診断とフィードバックまでのマーケティング戦略の全体サイクルについて理解する。顧客価値を創造する上でサービスの役割重要になっている。サービスのマーケティングの基本についても学ぶ。		
第十三講・第十四講			
概要	顧客価値を維持発展させる		
事前,事後学習ポイント	ブランド戦略の論理と実践方法について調べる		
詳細	マーケティング・マネジメントの発展形としてのブランド戦略について理解をする。今日の企業経営においてブランド・マネジメントは極めて重要な役割を担っている。企業経営におけるブランド・マネジメントの本質について考察し、ブランド戦略を構築するための基本セオリー、フレームワーク、実践的方法について、事例とクラスディスカッションを交えて理解を深める。これらテーマについて各種事例を随時に交えながらクラスディスカッションを行う。		
第十五講・第十六講			
概要	顧客視点の経営戦略の課題と実践:まとめとディスカッション		
事前,事後学習ポイント	これまでの講義を振り返りマーケティング・マネジメントの全体像を理解する		
詳細	顧客起点の経営戦略を具体化する上で要となるマーケティング戦略は、市場が成熟化し競争がグローバルレベルでますます 激化する現代の企業経営において重要性が増している。本講義で取り上げたマーケティング・マネジメントの基本的なコン セプトと本質について改めてクラスディスカッションを交えながら振り返り理解を深める。		

教科書 / Textbook	適宜、講義内において紹介する。
指定図書 / Course Readings	「マーケティング < 第 2 版 > 」恩藏直人著、日経文庫 「コトラーのマーケティング 3.0」フィリップ・コトラー他著、朝日新聞出版 「コトラーのマーケティング 4.0」フィリップ・コトラー他著、朝日新聞出版 「ブランド論」デービッド・アーカー著、ダイヤモンド社
参考文献・参考URL / Reference List	「レスポンシブル・カンパニー」イヴォン・シュイナード他著、ダイヤモンド社 「世界でいちばん大切にしたい会社コンシャス・カンパニー」ジョン・マッキー著、翔泳社

評価方法 / Method of Evaluat	ion		
配分 (合計100%)	出席(20%)、グループワーク、クラスディカッションへの貢献(40%)、修了課題レポート(40%)		
評価基準 / Evaluation Criteria			
評価「A・」(100~90 点):	マーケティング・マネジメントのセオリーを十分に理解し自らの実務で応用可能なレベルの知識、スキルを身につけている。それらを実際に自分自身のビジネスの現実の問題解決に活用した。課題レポートにおいてマーケティング・マネジメントのセオリーと実践スキルを適切に活用し卓越した分析と提言を行った。		
評価「A」(89~80点):	マーケティング・マネジメントのセオリーを理解し自らの実務で活用可能なレベルの知識、スキルを身につけている。課題レポートにおいてマーケティング・マネジメントのセオリーと実践スキルを活用し的確な分析と提言を行った。		
評価「B」(79~70点):	マーケティング・マネジメントの基本的なセオリーを理解している。それらを実務で応用できる基本的スキルを習得している。課題レポートにおいてマーケティング・マネジメントの基本的セオリーを理解し分析と提言を行っている。		
評価「C」(69~60点):	マーケティング・マネジメントの基本的なセオリーを理解している。課題レポートにおいてマーケティング・マネジメント の基本的セオリーを理解し分析を行っているが内容及び理解が不十分な点がある。		
評価「F」(59点以下):	マーケティング・マネジメントの基本的なセオリーを理解している。課題レポートにおいてマーケティング・マネジメントの分析を行っているが内容及び理解が不十分な点が少なくない。		

留意点 / Additional Information	クラスでの発表やディスカッションなどに積極的に参加しクラス全体の学びの向上に貢献すること。
---------------------------------	---

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期	
科目名 / Course Title	Webマーケティング戦略			
サブタイトル / Sub Title	デジタルマーケティングの理解と活用			
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Web Marketing			
教員 / Instructor	土屋 有 E-mail happy@cc.miyazaki-u.ac.jp			
科目群 / Course Classification	顧客創造	単位数 / Credits	2単位	

講義目的 / Aim of Course	テクノロジーの進化、デイバイスの多様化、対象者(顧客)のライフスタイル・生活様式の変化に合わせたマーケティング 戦略と実行力が求求められている。 受講生の担当事業及び企業戦略、デジタルシフトを理解、活用を前提としたマーケティングの視点から構想、構築する力を 身につける。デジタル・マーケティングの本質を理解し、事業成功のための要諦の理解と実現性の高い事業計画をたてるた めの実践理論および実現力を習得する。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマ・ポリシーでのDP1:「知識と理解」とDP2:「思考と判断」を達成するために、「マーケティング戦略」をもとに上記目的に資する「顧客視点理解」と「デジタルシフト」を利活用して、実践的な事業経営に必要な判断ができるようになる。そのために、マーケティング基礎からモデルケースとなるデジタルビジネスを実践する企業担当者をゲストに迎えてのケース・ディスカッション、プレゼンテーションを通じて事業計画の設計及び提案できる力を修得する。		
授業形態 / Form of Class	グループワーク、グループディスカッショ ン、プレゼンテーション	学外学習 / Off-Campus Learning	無

概要

事前学習:予習 (課題図書、指定情報・事例調査・確認) に十分な時間をとること (2時間程度)

事後学修:毎授業後に復習及び指定時にレポートを提出すること(2時間程度)

		FRID - GRANCE READ MANNEY OF TEMEN FOR CONTRIBUTED.	
授業の概要 / Course Descr	iption		
第一講・第二講			
概要	オリエンテーション デジタル		
事前,事後学習ポイント	自社及び自らのキャリア、ライ	フスタイルの変化を10年3年5年10年で変化してきた点を確認しておく。	
詳細	自らの受講動機及び大学院修了	7時のゴール設定を再確認した上で、受講へ向けた問題意識を言語化しておくことを求める。	
第三講・第四講			
概要	デジタルマーケティング、ダイ	レクトマーケティングの基礎理解 1	
事前,事後学習ポイント	直接・間接に関わらずデジタル 効果について確認しておく。	直接・間接に関わらずデジタル化に伴う社内業務、社外業務の変化について言語化し、変化を起因とするプラス/マイナスの 効果について確認しておく。	
詳細	事業に携わる立場だけでなく、	一消費者として消費行動の変化及び企業の置かれるマーケット環境の変化を理解する。	
第五講・第六講	·		
概要	デジタルマーケティング、ダイ	・ レクトマーケティングの基礎理解 2	
事前,事後学習ポイント	直接・間接に関わらずデジタル 効果について確認しておく。	直接・間接に関わらずデジタル化に伴う社内業務、社外業務の変化について言語化し、変化を起因とするプラス/マイナスの 効果について確認しておく。	
詳細	事業に携わる立場だけでなく、	一消費者として消費行動の変化及び企業の置かれるマーケット環境の変化を理解する。	
第七講・第八講	·		
概要	カスタマーサクセスからとらえ	- -るマーケティングの変化	
事前,事後学習ポイント	事前に設定された自社の顧客と	の接点及び顧客への提供価値(提供側、顧客側)の変化を事前に確認しておく。	
詳細	カスタマーサクセスの変遷と現 プローチを理解する。	在のトレンドと方向性を捉え、事業課題についてカスタマーサクセスの視点から解決するア	
第九講・第十講			
概要	カスタマーサクセスからとらえ	- -るマーケティングの変化	
事前,事後学習ポイント	指定されたケース企業・サービ	ズについて分析を行い、強み、課題について分析をしてくる。	
詳細	カスタマーサクセス観点による	マーケティング分析力を学修する。	
第十一講・第十二講			

最新のマーケティング事例の理解とケースディスカッション

事前,事後学習ポイント	招聘するゲスト経営者の事業について分析しておく。		
詳細	過去から現在までの変化を踏まえ、今後の顧客及び市場環境の変化を捉えたマーケティング戦略について知識獲得及びケースディスカッションを行う。		
第十三講・第十四講			
概要	ケースワークを前提としたマーケティング分析の実施		
事前,事後学習ポイント	取り扱うケースについての読み込みと理解、仮説設計を行う		
詳細	学修した理論を活用し、実践的アプローチによる分析を行う。		
第十五講・第十六講			
概要	受講生の事業課題へのマーケティング理論活用による改善企画の発表		
事前,事後学習ポイント	過去の受講により得た知識とアプローチによる事業課題整理と施策について資料化して準備すること。		
詳細	本講義において学修した点を自社事業と連結させアウトプットさせることを目標とする。 講義において提出されたレポートのフィードバックを行う。		

教科書 / Textbook	講義資料を適宜配布する
指定図書 / Course Readings	なし
参考文献・参考URL / Reference List	「コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント第12版」2014,丸善出版 「コトラーのマーケティング4.0 スマートフォン時代の究極法則」2017,朝日新聞出版

評価方法 / Method of Evaluation		
配分 (合計100%)	出席:ディスカッション:レポート:プレゼンテーション 25:25:25:25	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	自社の事業課題についてデジタルシフトを前提としたマーケティング計画が提案できる	
評価「A」(89~80点):	自社の事業課題についてデジタルシフトを前提としての課題分析ができる	
評価「B」(79~70点):	自社の事業課題について課題分析ができる	
評価「C」(69~60点):	自社の事業課題について市場環境について分析ができる	
評価「F」(59点以下):	自社の事業課題を特定できない	

留意点 / Additional Information	なし
---------------------------------	----

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	最新ロジスティクス戦略		
サブタイトル / Sub Title	アマゾン、ASKUL、楽天、ニトリなどの物流戦略を研究する		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	The Most Advanced Logistics Strategy		
教員 / Instructor	角井 亮一	E-mail	rio@e-logit.com
科目群 / Course Classification	顧客創造	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	戦略物流(ロジスティクス)をベースに、成長ビジネスモデルをうまく構築させている事例を学び、理解、研究し、『イノ ベーターシップ』を養成する。		
到達目標 / Course Goals	1. DP1:「知識と理解」を、多くの身近にある流通やネット通販など小売の最新物流事例から学び、高めてもらうと同時に、日々の生活の中で物流を意識してもらう 2. 「物流思考」の視点での『問題解決』(DP2:「思考と判断」)ができるようになってもらうのが最終目的。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、プレゼン 学外学習 / Off-Campus よし と		

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体	ネット通販での購入体験や生活の中で発見した物流工程の情報整理(6時間)、指定図書の
的な学習内容	熟読(4時間)、事前課題(12時間)

授業の概要 / Course Descri	iption		
第一講・第二講			
概要	戦略物流の基本を学ぶ①(物流思考)		
事前,事後学習ポイント	指定書籍の熟読		
詳細	物流思考と戦略物流思考の2つの考え方の中の1つ、「物流思考」を理解する。また、日常の中でどんな物流が存在しているのかに気づけるようにする。発表重視のディスカッションを実施。 宿題①:ネット通販で書籍を買う体験(2社以上)の比較・発表する(1回のみ) 宿題②:日常生活で気づいた物流工程を情報整理し、それを発表する(毎回)		
第三講・第四講			
概要	ファーストフードなどから学ぶ物流効率化		
事前,事後学習ポイント	日常で、どこでどんな物流があるのかを観察。指定書籍の熟読		
詳細	ファーストフードのお店での、物流を発見・解説。店内オペレーション、食材調達などを物流視点で考える。発言重視のディスカッションを実施。宿題①を数人が発表し、宿題②を全員が発表		
第五講・第六講			
概要	戦略物流の基本を学ぶ②(戦略物流思考) 物流が、どう商品の売上アップに繋がるか? どう企業力アップにつながるか?		
事前,事後学習ポイント	前回のファーストフードでの物流のヒントから、日常で店舗観測。指定書籍の熟読		
詳細	「戦略物流思考」を理解する。アマゾンやASKULが、なぜ物流を重視するのか、企業がどう物流で成長するのかを事例から 理解する。発言重視のディスカッションを実施。宿題①を数人が発表し、宿題②を全員が発表		
第七講・第八講			
概要	消費者行動の変化、流通の変化、ロジスティクスの変化「流通が物流を変える」		
事前,事後学習ポイント	物流で成長している会社を、文献(インターネット、雑誌、書籍など)で研究。指定書籍の熟読		
詳細	個人商店→総合スーパー・百貨店→専門店(カテゴリーキラー)→ネット通販→オムニチャネルという、流通の進化における、物流の進化を学ぶ。なぜ進化することになったかの背景を学ぶ。発言重視のディスカッションを実施。宿題①を数人が発表し、宿題②を全員が発表		
第九講・第十講			
概要	国内ネット通販企業の物流競争 Amazon対楽天、Yahoo! & アスクル		
事前,事後学習ポイント	買い物で訪問した店舗の物流を詳しく観察。写真でも報告と提出。指定書籍の熟読		
詳細	国内のネット通販の競争を物流視点で整理し、「なぜ物流に強い会社が、ネット通販でも強いのか」を理論的に理解する。 発言重視のディスカッションを実施。宿題①を数人が発表し、宿題②を全員が発表		

第十一講・第十二講

概要	ラストワンマイルが勝負の宅配ビジネスとロジスティクスセブン&アイグループのオムニ7、カクヤス、UberEATS、ネットスーパー、Qコマース、食材宅配		
事前,事後学習ポイント	ネット通販での購入体験を、比較。物流の違いを理解する。指定書籍の熟読		
詳細	なんとなく理解している宅配ビジネスを、整理建てて理解する。また競争ポイントの理解を深める。発言重視のディスカッションを実施。宿題①を数人が発表し、宿題②を全員が発表		
第十三講・第十四講			
概要	米国オムニチャネル事例と最新物流ビジネス事例の紹介 米国流通事例、ネット&リアルの競争、アマゾンの対抗戦略、 UBER、Instacart、Curbside、Google Express		
事前,事後学習ポイント	宅配を体験。授業中に宅配(フードデリバリー)を注文して、実体験する。指定書籍の熟読		
詳細	オムニチャネルはサプライチェーンだという本質を理解する。新しく生まれている物流ビジネスを知ってもらう。発言重視 のディスカッションを実施。宿題①を数人が発表し、宿題②を全員が発表		
第十五講・第十六講			
概要	成長企業のサプライチェーンを学ぶ 事例研究「ザラ」「ニトリ」、または「アイリスオーヤマ」		
事前,事後学習ポイント	事例研究の企業を事前にインターネット、雑誌、書籍などで研究。指定書籍の熟読		
詳細	ザラ、ニトリ、アイリスオーヤマなどの物流戦略を学び、成長する企業の物流戦略の共通項を討論する。発言重視のディスカッションを実施。宿題①を数人が発表し、宿題②を全員が発表		

教科書 / Textbook	テキストは、GoogleDriveより後日ダウンロード		
指定図書 / Course Readings	「すごい物流戦略」(PHP新書)		
参考文献・参考URL / Reference List	「アマゾンと物流大戦争」(NHK出版)、「オムニチャネル戦略」(日本経済新聞社)、「図解 基本からよくわかる物流のしくみ」(日本実業出版社)、「物流がわかる」(日本経済新聞社)、「物流革命」「物流革命 2 0 2 0 」「物流革命 2 0 2 1 」(日本経済新聞社) < 中国語 > 簡体字、繁体字 「物流致勝」角井亮一/商業周刊台灣正版 「精益制造014:物流管理」(日)角井亮一著作/东方出版社 「精益制造057:物流全解」(日)角井亮一著作/东方出版社 「新零售全渠道战略」(日)角井亮一著/东方出版社 「服务的细节081:与零售巨头亚马逊共生」(日)角井亮一著/东方出版社 「IT物流」(日)角井亮一著/海天出版社 <英語 > Amazon: A Comparative Analysis of U.S. and Japan Logistics / Complete Edition Strategic Logistics in Japan: Complete Edition: A Comparative Report on U.S. Businesses Omni-Channel Strategies in U.S. and Japan		

評価方法 / Method of Evaluat	tion		
配分 (合計100%)	出席率30%/講義議論参画度30%/発言と発表の内容40%		
評価基準 / Evaluation Criteria			
評価「A・」(100~90 点):	十分な出席。毎回発言。毎回の宿題に創意工夫が見られる。 発表内容が深く調査され、受講生に伝わるプレゼン(話と資料)ができていて、「物流思考」の視点での『問題解決』が十 分できるようになっている。		
評価「A」(89~80点):	十分な出席。毎回発言。毎回の宿題に創意工夫が見られる。 発表内容が深く調査され、受講生に伝わるプレゼン(話と資料)ができていて、「物流思考」の視点での『問題解決』が、 他と比べても遜色なくできるようになっている。		
評価「B」(79~70点):	十分な出席。毎回発言。毎回宿題を事前提出している。 発表内容が調査され、受講生に伝わるプレゼン(話と資料)ができていて、「物流思考」の視点での『問題解決』が普通に できるようになっている。		
評価「C」(69~60点):	欠席が目立つ、または、発言が毎回でない。毎回の宿題を事前提出ができていない。 発表内容が調査され、受講生に伝わるプレゼン(話と資料)ができておらず、「物流思考」の視点での『問題解決』ができ ていると判定できない。		
評価「F」(59点以下):	出席が極端に少ない、または、発言が不十分。毎回の宿題を事前提出がほぼできていない。 受講生に伝わる発表プレゼン(話と資料)ができておらず、「物流思考」の視点での『問題解決』ができていない。		
留意点 / Additional	τ Ι.		

なし

Information

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	BtoBマーケティング		
サブタイトル / Sub Title	BtoBビジネスにおいて顧客起点/価値発想の売りの仕組みをいかに構築するか		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	BtoB Marketing		
教員 / Instructor	徳永 朗	E-mail	tokunaga-a@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	顧客創造	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	まずBtoBビジネスの特性を理解し、それを踏まえたBtoB固有のマーケティングの考え方とその実践の勘所について学び取る。さらに、デジタル技術の活用、事業のサービス化、社会との関係性の重視といった、昨今のビジネス環境の変化に即応したマーケティングのあり方を学ぶ。事例と理論を交えたこれらの学びを通して、受講者が自らの勤務先の特性や職務・関心に即して考えを巡らせ、課題設定と解決施策の立案に取り組む能力を習得することを目指す。		
到達目標 / Course Goals	DP2: 「思考と判断」を達成するために、BtoBマーケティングの実務に関わるプロセスの理解と情報収集・分析の能力に加えて、その前提となるBtoBビジネスに関わるDP1: 「知識と理解」を武装する。それらにより、受講者が自ら問いを立てて、本質的な解決策を導くための実践的な判断力に関わる知を習得することが究極的な目標である。そのためにまず、顧客起点と価値発想というマーケティングの基本姿勢を銘記することが求められる。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、プレゼン テーション	学外学習 / Off-Campus Learning	無

第九講・第十講

毎回、各回の講義内容を自分ごととして捉えてもらうべく、自らの職務や関心に即した学びの咀嚼、気づきの整理、問いや課題の設定、さらには必要に応じて課題解決策の模索までを行うミニレポートを、事後学習として課す。(120分程度)

授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	オリエンテーション / BtoBビジネスの特性と、マーケティング課題抽出の方法論	
事前,事後学習ポイント	事後学習として、マーケティング課題抽出の方法論に関わる今回の講義内容を自分ごととして捉えて考察するミニレポート を作成(120分程度)	
詳細	受講者のこれまでの学び、業務、関心の確認、および講義の全体設計の詳説 講義: ①BtoBビジネスの基本特性とその変容 ②マーケティングの課題と打ち手を考えるフレームワーク	
第三講・第四講		
概要	顧客理解とマーケティング・ターゲット設定のアプローチ	
事前,事後学習ポイント	事後学習として、顧客理解とマーケティング・ターゲット設定のアプローチに関わる今回の講義内容を、自分ごととして捉 えて考察するミニレポートを作成	
詳細	振り返り・確認: ミニレポートのグループディスカッションによる共有、全体へのプレゼンテーション、教員からのフィードバックを通した、前回講義内容の定着 講義: ①マーケティングの起点となる顧客理解のアプローチ ②BtoBにおける市場セグメンテーションとターゲティングの方法論	
第五講・第六講		
概要	マーケティングの効果を高める「関係性」と「ブランド」	
事前,事後学習ポイント	事後学習として、「関係性」と「ブランド」に関わる今回の講義内容を、自分ごととして捉えて考察するミニレポートを作 成	
詳細	振り返り・確認: ミニレポートのグループディスカッションによる共有、全体へのプレゼンテーション、教員からのフィードバックを通した、前回講義内容の定着 講義: ①顧客との関係性強化の考え方とデライト体験創出のアプローチ ②BtoBにおけるブランドマネジメントの要諦	
第七講・第八講		
概要	デジタルの時代の営業とマーケティング・コミュニケーション	
事前,事後学習ポイント	事後学習として、営業とマーケティング・コミュニケーションに関わる今回の講義内容を、自分ごととして捉えて考察する ミニレポートを作成	
詳細	振り返り・確認: ミニレポートのグループディスカッションによる共有、全体へのプレゼンテーション、教員からのフィードバックを通した、前回講義内容の定着 講義: ①デジタルツールが促すマーケティングと営業の新しいありよう ②マーケティング・コミュニケーションの勘所とタッチポイントの考え方	

概要	サービスの時代のマーケティング		
事前,事後学習ポイント	事後学習として、サービス化に関わる今回の講義内容を、自分ごととして捉えて考察するミニレポートを作成		
詳細	振り返り・確認: ミニレポートのグループディスカッションによる共有、全体へのプレゼンテーション、教員からのフィードバックを通した、前回講義内容の定着 講義: ①製造業におけるサービスビジネスの進化 ②デジタルの時代のサービスビジネスの取り組み		
第十一講・第十二講			
概要	エコシステムを通した価値創出		
事前,事後学習ポイント	事後学習として、新しい価値創出のアプローチに関わる今回の講義内容を、自分ごととして捉えて考察するミニレポートを 作成		
詳細	振り返り・確認: ミニレポートのグループディスカッションによる共有、全体へのプレゼンテーション、教員からのフィードバックを通した、前回講義内容の定着 講義: ①デジタル事業変革が促す新たな価値創出 ②成分ブランディングの考え方と実践		
第十三講・第十四講			
概要	BtoBビジネスと社会		
事前,事後学習ポイント	これまでの講義内容を職務や関心に即して咀嚼し、得た気づきを整理するとともに、マーケティング目標・課題を設定して 解決策の模索を行う、最終レポートを作成		
詳細	振り返り・確認: ミニレポートのグループディスカッションによる共有、全体へのプレゼンテーション、教員からのフィードバックを通した、前回講義内容の定着 講義: ①社会との関係性や社会的価値の創出を意識したビジネスの実情、 ②社会を意識したマーケティングのありよう		
第十五講・第十六講			
概要	まとめ、最終レポートに向けた討議		
事前,事後学習ポイント	事後学習として、最終レポートの作成		
詳細	講義: 全体のまとめ プレゼンテーション: 受講者各人の学びの共有を兼ねた、最終レポートの中間報告		

教科書 / Textbook	適宜配布する	
指定図書 / Course Readings	除田拓郎(2011)『BtoBマーケティング』東洋経済新報社 除田拓郎、首藤明敏(2013)『実践 BtoBマーケティング』東洋経済新報社	
参考文献・参考URL / Reference List	高嶋克義(1998)『生産財の取引戦略』千倉書房 今村英明(2005)『法人営業「カ」を鍛える』東洋経済新報社 余田拓郎、首藤明敏(2006)『B t o B ブランディング』日本経済新聞出版社 南知惠子、西岡健一(2014)『サービス・イノベーション』有斐閣 余田拓郎(2016)『BtoB事業のための成分ブランディング』中央経済社 西岡健一、南知惠子(2017)『「製造業のサービス化」戦略』中央経済社 C.コワルコウスキー、W.ウラガ、戸谷圭子、持丸正明(2020)『B2Bのサービス化戦略』東洋経済新報社	

評価方法 / Method of Evaluation		
配分 (合計100%)	出席(20%)、グループディスカッションでの討議と授業でのプレゼンテーション・発言(40%)、最終レポート(40%)	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	出席やクラス討議への参画、授業内容の理解に加えて、学んだフレームワークやアプローチを活かした自身の課題設定や解 決策策定について、十分な議論ができる。	
評価「A」(89~80点):	出席やクラス討議への参画、授業内容の理解に加えて、学んだフレームワークやアプローチを活かした自身の課題設定や解 決策策定について、一定水準の議論ができる。	
評価「B」(79~70点):	出席やクラス討議への参画、授業内容の理解は一定水準に達するが、自身の課題意識に即した考察が不十分。	
評価「C」(69~60点):	出席やクラス討議への参画は一定水準に達するが、授業内容の理解が不十分。	
評価「F」(59点以下):	出席やクラス討議への参画が一定水準に足らず、授業内容の理解も不十分。	

	マーケティングに関わる基本的な知識を有する(もしくは併行して履修する)ことを求める。	
	学びを実際のBtoBの業務で活かすタスクもしくは意欲をもつことを期待する。	
留意点 / Additional	昨今、関連事業者の発信によって「BtoBマーケティング」との簡略的な呼称が一般化している、データマーケティングの手	
Information	法やデジタル化に対応する仕組みの構築を中核的に扱う講義ではない。伝統的なマーケティング理論のBtoBにおける解釈・	
	活用を基盤に、デジタルやサービスの時代にも即応するマーケティング戦略、マネジリアルマーケティングの視点を研ぎ澄	
	ます術を身に着けることを旨とするものである。	

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	観光インバウンドマネジメント		
サブタイトル / Sub Title	観光マーケティング		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Tourism Inbound Management		
教員 / Instructor	中山 こずゑ	E-mail	kozurunrun4290@icloud.com
科目群 / Course Classification	顧客創造	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	人口減少社会或いは成熟社会において、交流人口を増やすことが、今後の国の基幹産業となっていく。この背景を他先進国をベンチマークとしながら、日本において何をやることがマーケティングマネジメント上、優先事項なのかを授業を通し理解し、各受講生の出身母体でやるべきことを明確化する実践的な内容とする。またインバウンド[数]をKPIにおいている現在の国の施策の妥当性に対する議論を通じ将来的インバウンドのあり方を考える力を養成する。更にコロナバンデミックでの体験から、New Ageにおけるツーリズムのあり方を根本的に学び、Contingency Planの立て方を実践的に身につけることを主眼とする		
到達目標 / Course Goals	今後観光MICE(meeting, incentive, convention, exhibitionを総称する国交省が定めた略語)分野におけるDistrict Managementを担える人材の育成と当該分野におけるイノベーションを可能にする人材の育成。特にディプロマポリシー DP4:「表現と技能」を第一義の到達目標とし、国内のリゾート会員権産業と海外との比較、また首都圏リゾートのあり方、魅力の作り方等の事例を通じイノベーションを創り出す力を養成する。また二次的には新たな産業のためDP1:「知識と理解」を習得が前提となる。		
授業形態 / Form of Class	講義 グループワーク グループディスカッション ディベート、プレゼンテーション 双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	無

詳細

事前学習:各テーマに関する自分の問題意識をまとめてくること(1時間程度)

事後学習:中間期に一度まとめたレポート提出(PPT or word)最終講義後全体のレポート 提出するための準備 (1時間程度)

授業の概要 / Course Descr	iption		
第一講・第二講			
概要	データで見る世界のinbound/outbound/MICE~観光は科学か?		
事前,事後学習ポイント	ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピックパラリンピック、2025年日本国際博覧会(略称 大阪・関西万博)などで期待されている公表された情報は掴んでおくこと。		
詳細	公表された観光関連の数字を見ながら、期待されたものと現実との比較を行い、現状の観光に関する課題把握の仕方、目標 設定の仕方についての確らしさを把握する。「産業としての観光」「地域と観光」「文化と観光」の3つの側面からのアプローチしていく。観光が液状学問であることの認識を持ちながら、如何にプランBを持つべきかを議論する。		
第三講・第四講			
概要	IR 各国ビジネス事情と日本の現況		
事前,事後学習ポイント	日本の候補地の地域特性及び各国の現状について直近情報を集めておくこと		
詳細	世界のIRビジネスモデルなど、基本情報を見ながらコロナパンデミック後の日本におけるIRのプロス・コンスを見極めながら、ブレークスルーできるアイデアを出すプロセスを学ぶ。		
第五講・第六講			
概要	リゾート会員施設ビジネスモデルのあり方		
事前,事後学習ポイント	事前にビジネスケースを配布し、それを読み込み、成功と失敗を分けた原因の仮説を立てておく(必須)		
詳細	リゾート会員権市場、ゴルフ会員権市場の海外と国内の比較をしながら、グループに分かれて、いくつかの問いに対する回答を準備して発表する。		
第七講・第八講			
概要	マーケティング理論に基づいたオポチュニティの探索		
事前,事後学習ポイント	Kindleの拙書「地方創生を成功させる5つの法則」を読んでおくこと		

マーケティング理論から考えた時、いくつかの都市或いは国をビジネスケースとして捉え今後のオポチュニティを探る。

今回は横浜市を一つのケースとして捉えて考える。IR候補地に手を挙げることをやめた横浜に残されたものは何なのか?イ

	ノベーションの会掛けちるのか	をグループワークで考えていく。
	ノ・・・フョンの示地はあるのか	で フループリープ くろん しいへ。
第九講・第十講		
概要	スポーツツーリズム、クルーズ	"ツーリズム、アートツーリズム、フィルムツーリズム、医療ツーリズム
事前,事後学習ポイント	ラグビー世界大会、オリパラ等で作られたツーリズムを調べておくこと。アレックスカーの著書「観光亡国論」を参考とて読んでおいて欲しい。	
詳細	それぞれにおけるツーリズムとは何か、本質を見極め、現状を理解した上で、現在受講者ゆかりの土地でツーリズムを企するとしたら、どんなことができるかをプランニングする実践を行う。	
第十一講・第十二講		
概要	地方活性化のためのケーススタ	ディ~首都圏近郊リゾート地のケース
事前,事後学習ポイント	ビジネスケース2ケースを事前配布するのでそれを読了し、それぞれの課題から今後どのように発展していくべきなのか 説を立てておく	
詳細	首都圏近郊の2大リゾート地である、箱根と軽井沢のケースを読み解きながら、今後のInbound誘致に必要な施策をグループに分かれて議論し、発表まで行う。	
第十三講・第十四講		
概要	観光を担う組織のあり方	
事前,事後学習ポイント	組織論から考えた時のあるべき姿を、ビジネスケースをベースにして議論する	
詳細	現状のDMC、DMO、観光協会、観光コンベンションビューローなどの組織の課題を明確にしながら、新たな組織としてな要素を明確にしていく。実際にDMCを運営している経営者にお越しいただき、立ち上げの経緯、期待とコロナパンデラクでの大変さ、更に今後をどう考えているのか実践的な話を聞き、質疑応答を通じて日本の観光を支える組織の課題とフークスルーできる点があるのかを議論する。	
第十五講・第十六講		
概要	Presentation	
事前,事後学習ポイント	授業の中間期において、各受講生が本授業に関連するテーマを決め、そのテーマに基づいて 2 ヶ月を通じプレゼンテーシンを作成する。	
詳細	5 minutes MAXでプレゼンテー ためのレッスンでもあるし、悲 (時間配分は受講人数にもよる	

教科書 / Textbook	[地方創生を成功させるための5つの法則]KDP 中山こずゑ 観光白書 レジャー白書
指定図書 / Course Readings	「観光亡国論」アレックス・カー著 「新観光立国論ものづくり国家を超えて」寺島実郎著
参考文献・参考URL / Reference List	JNTO各種統計、UIO統計、観光白書 「地方創生大全」木下斎著

評価方法 / Method of Evaluat	ion
配分(合計100%) 出席:ディスカッション:グループワーク:レポート:プレゼンテーション (10:25:20:20:25)	
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A・」(100~90 点):	観光領域において提示された課題に対し、データを使って将来のオポチュニティを探り、マーケティングセオリー及び経営 知識を駆使し、課題解決への挑戦を行い、構想力・共感力のある提案できること。
評価「A」(89~80点):	観光領域において提示された課題に対し、データを使い将来のオポチュニティを探り、マーケティングセオリーを理解し、 課題解決への挑戦を行う提案ができること。
評価「B」(79~70点):	観光領域において提示された課題に対し、データで現実を読み、マーケティングセオリーを理解し、課題解決への挑戦を行う提案ができること。
評価「C」(69~60点):	観光領域において、提示された課題に対し、マーケティングセオリーを理解し、なんらかの提案ができること。
評価「F」(59点以下):	観光領域において、ベーシックな知識のみにとどまっており、課題解決にいたらない。

留意点 / Additional	ディスカッションを積極的にできるためにはどうするべきか、準備しておくこと。配点を多く取っております。	
Information	アイスのアンコンと根拠的にくどのためにはとファットでの、牛畑のくはくとと。配点とライスンではアステ	

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	商品ブランドマネジメント		
サブタイトル / Sub Title	実際的ブランドマネジメント入門(概論)		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Product Inbound Management		
教員 / Instructor	佐野 扶美枝 E-mail sanofumie0514@gmail.com		sanofumie0514@gmail.com
科目群 / Course Classification	顧客創造	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	多くの企業で、「うちはマーケティングができていないから」とよく耳にするが、マーケティングができたら、その企業にとってどのようなメリットがあるのかは理解されていないことも多い。そもそも「マーケティング」の定義自体も学者によっても実務のマーケッターによっても様々な定義がされており、漠然としていると感じている人も多いと思われる。この講義では、企業の「マーケティングの現場」で25年以上の経験から「マーケティングとは」「ブランドとは」「強いブランドを作るにはどうすればいいか」を様々に例証し、「マーケティングとは何か?」「ブランドマネジメントとは何か?」を理解することを目的とする。		
到達目標 / Course Goals	ディプロポリシーでのDP2:「思考と判断」を身に着けブランド軸での事業戦略の構築ができるようになる。 企業活動にとって、どうして『ブランド』が必要か納得し、ブランドマネジメントに必要な実践的スキルを理解、習熟し、 自身の業務課題について、ブランド価値向上の観点から戦略構築できるようになる		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、ディベート、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具	自分は、なぜ、この講座を取りたいと思ったのか、整理しておく。マーケティング、ブラン
的な学習内容	ドマネジメントと自分の業務の関わりがどのようなものになるか、整理しておく。

授業の概要 / Course Descr	iption		
第一講・第二講			
概要	企業活動にとって、なぜ「ブランド」「マーケティング」が必要なのか		
事前,事後学習ポイント	自身の所属する企業、団体は、マーケティングしているか、自社の「ブランド」を活用しているか、どのような活用をしているか考えておく。また、できている、できていない、どのような判断でそう判断したかも整理しておく(事前60分)		
詳細	企業活動において、「ブランド」の必要性と「ブランド」と「マーケティング」の関係を,実例をもとに明示し、理解を深める		
第三講・第四講			
概要	ブランドの管理者「ブランドマネージャー」がやるべきこと。ブランドマネージャーの果たすべき役割とブランディングについて。なぜブランドマネジメントが難しいか 「ブランド」が育たない要因を「ブランドマネジャー」の観点から明らかにし、改善すべき方向を提示する		
事前,事後学習ポイント	市場にある商品、サービスのブランド設計をブランドマネージャーになったつもりで検証する(事後1時間)		
詳細	強いブランド構築のために、ブランドマネージャーが果たすべき役割はなにか、ブランドがぶれないために必要なことは何か、プランドポジションを把握するために何が必要かなど事例を交えて講義する。		
第五講・第六講			
概要	ブランド育成のためのマーケティングに欠かせない、市場調査について解説し、より精度が高いデータを得るための必要なことを認識する。また、実際に簡単なシステムを活用し、調査設計を実施する。		
事前,事後学習ポイント	テーマを決めて、WEB調査を設計し、実施。その結果から商品やサービスを提案する(グループワーク2時間以上)		
詳細	ブランドの起点である商品を企画開発するためには、市場、消費者を理解しなければならないが、そのための消費者調査の 種類と手法、具体的な調査設計のポイントなどを理解する。		
第七講・第八講			
概要	ブランドマネジメントと商品開発の実際。実例をもとに商品開発の流れとよりよい商品を提案するために何が必要か明確に する		
事前,事後学習ポイント	5. 6 講後実施した調査の結果を基に、7、8講で学んだ商品開発のポイントを踏まえながら、新しい商品やサービスを提案する(グループワーク、事後、3時間)		
詳細	実際の商品開発の過程、発売の背景、ターゲットの選定、商品コンセプト、ネーミング、パッケージデザインの決定などを 事例として解説。強いブランドを作るために何が必要かを理解する。		
第九講・第十講			
概要	ブランドマネジメントとコミュニケーションの実際。宣伝広告の制作のための必要要素を実例をもとに明示する。また、現		

	状の広告宣伝市場の状況を理解する		
事前,事後学習ポイント	7, 8講の後、グループワークで提案した商品やサービスのコミュニケーションプランを検討する(コミュニケーションコンセプトターゲット、メディアプランなど)(グループワーク、事後2時間程度)		
詳細	強いブランドを育成するためにはコミュニケーション戦略は極めて重要である。 いくつかの成功事例、失敗事例を基に、ブランドを育成するためのコミュニケーション戦略の立案について理解する。		
第十一講・第十二講			
概要	ブランドを創るデジタルマーケティング。コミュニケーションの中心、マーケティングの中心となっているデジタルでのコミュニケーション、商品開発、最新状況の理解。 (外部講師予定)		
事前,事後学習ポイント	講演からの学びをレポートする(事後1時間)		
詳細	ブランドコミュニケーションの最大の媒体となったデジタル媒体を活用したブランドマーケティングをテーマに、ゲスト講師が「最新のデジタルマーケティングの実際」を講演する。		
第十三講・第十四講			
概要	前半:ブランドマネジメントと販売戦略後半:ブランド設計書について詳細な解説(最終レポートへ向けて)		
事前,事後学習ポイント	自身の業務のブランド設計、もしくは市場のサービス(商品)から、ブランド設計書を作成し、第8講の3日前までに提出する (最終課題) (3時間)		
詳細	前半:ほとんどの企業で販売部門とブランドマネジメント部門は別々の組織であるが、強いブランドを構築するためには、ブランドマネジメントの考え方にもとづく販売戦略立案遂行が必須である。ブランドの考え方を浸透させた売場を実現するために何が必要か事例を解説する。 後半:ブランドマネジメントの核となる「ブランド設計書」について改めて解説し、最終課題である「ブランド設計書」の作成にかかる。		
第十五講・第十六講			
概要	自身が作成したブランド設計書のプレゼンテーションとディスカッション		
事前,事後学習ポイント			
詳細	事前に提出されたブランド設計書の中からピックアップしてプレゼンテーションしてもらい、よかったところや改善点をディスカッションすることでブランド設計書、ブランドマネジメントへの理解を深める。		

教科書 / Textbook	適宜資料を配布する	
指定図書 / Course Readings	なし	
参考文献・参考URL / Reference List	新しいマーケティングの理論と実際	

評価方法 / Method of Evalua	tion		
配分(合計100%)	出席(24%)1回の出席につき3%の比重となる。 レポート提出3回予定(グループレポート含む)1回目:20% 2回目:20% 最終レポート:36%		
評価基準 / Evaluation Criteri	a		
評価「A・」(100~90 点):	1. 途中の調査実施について、バイアスのない調査の設計と分析ができている(精度の高いリサーチの設計と論理的な分析ができる) 2. 商品開発のポイントを理解し、消費者ニーズをとらえた商品、サービスを提案できた(消費者ニーズの把握と高い創造性を発揮できる) 3. 企業活動におけるブランドの果たす役割、ブランドマネジャーの役割を理解し、自身の業務について、明確なブランド設計書を作成できた(ブランド育成のポイントを理解し、今後の業務の方針を立てることができる)		
	以上の3点について、2点以上秀逸なレポートがあった。		
評価「A」(89~80点):	1. 途中の調査実施について、バイアスのない調査の設計と分析ができている(精度の高いリサーチの設計と論理的な分析ができる) 2. 商品開発のポイントを理解し、消費者ニーズをとらえた商品、サービスを提案できた(消費者ニーズの把握と高い創造性を発揮できる) 3. 企業活動におけるブランドの果たす役割、ブランドマネジャーの役割を理解し、自身の業務について、明確なブランド設計書を作成できた(ブランド育成のポイントを理解し、今後の業務の方針を立てることができる) 以上の3点について、1点以上、秀逸なレポートがあった		
評価「B」(79~70点):	1. 途中の調査実施について、バイアスのない調査の設計と分析ができている(精度の高いリサーチの設計と論理的な分析ができる) 2. 商品開発のポイントを理解し、消費者ニーズをとらえた商品、サービスを提案できた(消費者ニーズの把握と高い創造性を発揮できる) 3. 企業活動におけるブランドの果たす役割、ブランドマネジャーの役割を理解し、自身の業務について、明確なブランド設計書を作成できた(ブランド育成のポイントを理解し、今後の業務の方針を立てることができる)		

	以上の3点について、講義を理解したレポートがあった	
評価「C」(69~60点):	1. 途中の調査実施について、バイアスのない調査の設計と分析ができている(精度の高いリサーチの設計と論理的な分析ができる) 2. 商品開発のポイントを理解し、消費者ニーズをとらえた商品、サービスを提案できた(消費者ニーズの把握と高い創造性を発揮できる) 3. 企業活動におけるブランドの果たす役割、ブランドマネジャーの役割を理解し、自身の業務について、明確なブランド設計書を作成できた(ブランド育成のポイントを理解し、今後の業務の方針を立てることができる) 以上の3点について、レポートが提出された	
評価「F」(59点以下):	1. 途中の調査実施について、バイアスのない調査の設計と分析ができている(精度の高いリサーチの設計と論理的な分析ができる) 2. 商品開発のポイントを理解し、消費者ニーズをとらえた商品、サービスを提案できた(消費者ニーズの把握と高い創造性を発揮できる) 3. 企業活動におけるブランドの果たす役割、ブランドマネジャーの役割を理解し、自身の業務について、明確なブランド設計書を作成できた(ブランド育成のポイントを理解し、今後の業務の方針を立てることができる) 以上の3点についてのレポート評価と出席点で59点以下であった	

留意点 / Additional Information	なし
IIIIoiiiiatioii	

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	ヒューマンリソース概論I-A		
サブタイトル / Sub Title	知識創造型企業の人事戦略		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Human resources strategy of knowledge-creating company I—A		
教員 / Instructor	徳岡 晃一郎 E-mail tokuoka@tama.ac.jp		tokuoka@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	リーダーシップと人事	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	変化とスピードの時代を迎えて、企業にはイノベーションやグローバル化、ダイバーシティを軸にした成長戦略を実現するダイナミックな経営が求められている。その一方で、社内のモチベーションや求心力は危機に瀕している。この壁を乗り越えるには、社員の成長と企業の成長を両輪とした成果主義中心の人事戦略を再構築しなくてはならない。そのような新たな人事のあり方を知識経営の文脈の中で検討し、知識創造型企業への転換にどのように人事が貢献できるのか、経営戦略を実行に移すための鍵となる人事戦略の基本および知識経営時代の新しい人事戦略について理論と事例を基に考える。		
到達目標 / Course Goals	知識創造型企業への転換に向けて徹底した議論と自社の課題の分析を通じて、ディプロマポリシーでのDP1:「知識と理解」、DP2:「思考と判断」を身に着け、知を創造するための人事戦略を実践する志(DP5:「志」)およびDP4:「表現と技能」を獲得することを目標とする。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、グループ ワーク、ディベート、プレゼンテーション、 双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	無

事前,事後学習ポイント

詳細

事前学習:指定図書予習及び宿題資料の読み込みなどで毎回2時間程度

事後学習:講義内容の振り返りで1時間程度

的な学習内容	事後学習:講義内容の振り返りで1時間程度		
授業の概要 / Course Desci	ription		
第一講・第二講			
概要	人事戦略の基礎1:人事の仕事領域、企業内での位置づけ・役割、歴史的変遷、組織概要など		
事前,事後学習ポイント	自社の問題点を整理しておく。	自社の問題点を整理しておく。人事管理の目的、主な領域と課題、これまでの主な人事戦略のフレームワークを整理する	
詳細	ともに、グループディスカッシ	伝統的な人事管理や、雇用管理、人間関係管理、労使関係管理を学ぶ。また、人事部の役割、人事のあり方、課題を学ぶとともに、グループディスカッションで、人事の役割を再認識する。宿題:自社の人事組織について調べ、パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する。	
第三講・第四講			
概要	1	人事戦略の基礎2:人事を取り巻く昨今の課題(モチベーション、ジョブ型・メンバーシップ型、リモートワークなど)、人事システムのモデル、モチベーションセオリー	
事前,事後学習ポイント	経営戦略論と人事戦略の関係、知識創造と人事戦略の関係を事前に考えてくる		
詳細	IBR modelによる戦略スタイルと人事戦略、戦略スタイルと人材マネジメント手法の学習。7Sモデルによる人事機能の学習。また、グループワークにより動機づけについて学習し、発表する。 人事を考える各種フレームワークをさらに深掘りし、知識創造のプロセス(SECI)を学ぶ。知識創造の観点から各種フレームワークを比較する。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション①。		
第五講・第六講			
概要	評価制度:人事評価制度の潮流	流、日本型(終身雇用・年功序列・職能資格制度)の功罪	
事前,事後学習ポイント	評価制度:これまでの評価制度の概要(年功制)と功罪。なぜ知が創造されなくなったのかを自社に照らして考察してくる		
詳細	日本の代表的な人事制度である職能資格制度の功罪及び問題点について学ぶとともに、知識創造の観点から日本の人事制度を対照し、違いを明らかにする。 Job型雇用、メンバーシップ型雇用との関連を考える 2回にわたる講義を踏まえ、知識創造の観点から見た日本の人事制度について、グループディスカッションをしてもらう。第1講で出された宿題のプレゼンテーション②		
第七講・第八講			
概要	評価制度 2 : 成果主義人事制度の功罪		

知識創造の観点から見た日本の成果主義について、グループディスカッションをしてもらう。

成果主義の功罪及び問題点について学ぶとともに、知識創造の観点から日本の人事制度を対照し、違いを明らかにする。

その功罪及び問題点、疑問点について解説する。そのことを踏まえ、自分たちの現状に照らして、成果主義の問題点をグル

自社の評価制度の現状の課題を考えてみる

Job型雇用、メンバーシップ型雇用との関連を考える

	ープディスカッションし、まとめ、発表する。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション③。	
 第九講・第十講		
概要	知識創造企業のための切り口:人事機能を知識創造の観点で考える	
事前,事後学習ポイント	人事制度の中で知識創造が行われている部分がどこかを考えてくる	
詳細	職能資格制度と成果主義を総合的に比較し知識創造との関係で功罪をまとめる。 イノベーションとの関連について考える。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション④。	
第十一講・第十二講		
概要	知識創造企業のための切り口: コンピテンシーの発展	
事前,事後学習ポイント	自社の評価基準、コンピテンシーを把握してくる	
詳細	コンピテンシーの概念を理解し、その功罪及び問題点について解説する。 また、コンピテンシーの新しい役割をもとに、新しい事例を研究し、新たな役割について発表、討議する。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション⑤。	
第十三講・第十四講		
概要	知識創造企業のための切り口:自身のコンピテンシーの開発	
事前,事後学習ポイント	自分らしさを表す仕事の仕方、大事にしている価値を考えてくる	
詳細	コンピテンシーの新しい役割をもとに、新評価基準の構成を学び、「自分の大事にするコンピテンシー」を作成し、発表、 討議する。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション⑥。	
第十五講・第十六講		
概要	知識創造型人事部のまとめ	
事前,事後学習ポイント	知識創造型人事部とはどうあるべきか、自らの考えを総合してくる	
詳細	第1講から7講までの視点を踏まえて、知識創造企業を構築していく上での人事部の役割とその推進の諸条件について、グループディスカッションする。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション⑦。	
教科書 / Textbook	適宜、講義資料を配布する。	
指定図書 / Course Readings	「MBB:思いのマネジメント」一條和生、徳岡晃一郎、野中郁次郎著、東洋経済新報社(中国語の翻訳あり「信念」) 「人事異動」徳岡晃一郎著、新潮社	
参考文献・参考URL / Reference List	「AI x ビッグデータ人事を変える」福原正大、徳岡晃一郎著、朝日新聞出版社 「40代からのライフシフト実践ハンドブック」徳岡晃一郎著、東洋経済新報社	
評価方法 / Method of Evaluat	ion	
配分 (合計100%)	出席(30%)、授業内での議論参加(35%)、プレゼンテーション内容(15%)、最終レポート(20%)	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A·」(100~90 点):	人事戦略に関して、自らの企画が行える。	
評価「A」(89~80点):	人事戦略論を深く理解し、自社の制度への改善案が描ける	
評価「B」(79~70点):	人事戦略論の概要が理解でき、自社の制度の課題を指摘できる。	
評価「C」(69~60点):	人事戦略の概要が理解できている。	
評価「F」(59点以下):	人事戦略の理解が不十分で、出席も不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。	
留意点 / Additional	秋学期に開講するヒューマンリソース概論IIを受講するには、ヒューマンリソース概論I—A、I—Bのどちらかの単位修得が必	

Information

須となる。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	ヒューマンリソース概論I-B		
サブタイトル / Sub Title	人事戦略の基本と実践探究		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Human resources strategy of knowledge-crea	ating company I-B	
教員 / Instructor	佐々木 弘明	E-mail	sasaki-hi@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	リーダーシップと人事	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	ヒューマンリソース概論 I-Bでは、VUCA時代 る採用・育成・評価・配置に加えてタレントマ た成長戦略を実現するダイナミックな人事戦略 環境変化の中、不安感が増し危機に直面してい 義から成長主義の人事戦略に転換しなくてはな	ネジメントを駆使した組織戦略 が求められている。その一方で る。この壁を乗り越えるには、	、イノベーションやダイバーシティを軸とし 、社内のモチベーションや求心力は、急激な 社員の成長と企業の成長を両輪とした成果主
到達目標 / Course Goals	知識創造型企業への転換に向けて徹底したダイDP1:「知識と理解」、DP2:「思考と判断」およびDP5:「志」を獲得することを目標とす	を身に着け、知を創造するため	
授業形態 / Form of Class	双方向、グループディスカッション、グルー プワーク、プレゼンテーション	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

事前学習:指定図書予習及び宿題資料の読み込み(毎回1時間程度)

事後学習:講義内容の振り返り(毎回1時間程度) 学び前の自社の分析と、学び後の自社実践活用の提出。

授業の概要 / Course Desc	ription		
第一講・第二講			
年一神・年—神 ─────			
概要	人事戦略の基礎①人材マネジメントシステムとは何かを考察する。経験学習モデル等の理論を学ぶ。マッキンゼーの7Sモデルによる人事機能の要点を学ぶ。		
事前,事後学習ポイント	自社の人事戦略の問題点や解決課題を整理。現状の経営戦略と人事戦略の関係、主な人事制度と効果、あるべき姿(自社の/ 事の在り方)を整理する。		
詳細	伝統的な人事制度や人事システム、(採用・育成・評価・配置の関係とタレントマネジメント)を学ぶ。また、コロナ後のニューノーマル時代の人事部の役割、人事のあり方を探究する。現状の課題を抽出するとともに、双方向ダイアローグで、今後の人事戦略や今後の人事の在り方を再認識する。		
第三講・第四講			
概要	人事戦略の基礎②経営戦略に資	する人事戦略とは何かを考察する。組織の成功循環モデル等の理論を学ぶ。	
事前,事後学習ポイント	経営情報学から見たマネジメン	トシステム、経営戦略と人事戦略の関係、知識創造型人事の役割を考える。	
詳細	経営戦略スタイルと人事戦略スタイル、人材マネジメント手法の学習。また双方向ダイアローグにより下記自社課題を発表する。 課題:第1~第2講で学んだマッキンゼーの7Sモデルによる自社の人事組織について調べ、問題点・疑問点をパワーポイントでまとめてくる。 これにより他社との違いを知り、自社課題をより探究する機会とし、最終講までに全員が発表する。		
第五講・第六講			
概要	人事戦略の基礎③採用について	考える。	
事前,事後学習ポイント	採用戦略:最近の採用のトレンド く考察する。	を知る。各社の採用方法を探求する。人材パイプラインについて考える。自社に照らして深	
詳細	自社の採用制度を調べまとめてきたものを発表しあい、人事を考える各種フレームワークをさらに深掘りし、理想の採用戦略を検討する。ex.先端企業事例紹介。 第1~第2講で出された課題のプレゼンテーション①。		
第七講・第八講			
概要	人事戦略の基礎④育成について	考える。	
事前,事後学習ポイント		を知る。各社の育成方法を探求する。知の創造を作る人材パイプラインについて考える。自 と第7~8講を通して、理想の採用・育成戦略を検討する。	
詳細	自社の育成制度を調べまとめて 略を検討する。ex先端企業事例		

第1~第2講で出された課題のプレゼンテーション②。

第九講・第十講			
概要	人事戦略の基礎⑤評価について考える。		
事前,事後学習ポイント	評価戦略:最近の評価のトレンドを知る。各社の評価方法を探求する。職能主義、成果主義等の事例や自社に照らし考察する。第7~8講と第9~10講を通して、理想の育成と評価戦略を検討する		
詳細	自社の評価制度を調べまとめてきたものを発表しあい、人事を考える各種フレームワークをさらに深掘りし、理想の評価戦略を検討する。ex先端企業事例紹介。 第1~第2講で出された課題のプレゼンテーション③。		
第十一講・第十二講			
概要	人事戦略の基礎⑥配置について考える。		
事前,事後学習ポイント	配置戦略:最近の配置のトレンドを知る。各社の配置方法を探求する。ジョブチャレンジ、フリーエージェント制等の事例や 自社に照らし考察する。第9~10講と第11~12講を通して、理想の評価・配置戦略を検討する		
詳細	自社の育成制度を調べまとめてきたものを発表しあい、人事を考える各種フレームワークをさらに深掘りし、理想の評価・配置戦略を検討する。ex先端企業事例紹介。 第1~第2講で出された課題のプレゼンテーション④。		
第十三講・第十四講			
概要	人事戦略の基礎⑦タレントマネジメントについて考える。		
事前,事後学習ポイント	ゲストスピーカーセッション:知識創造を実践している企業の人事部長クラスを招聘しディスカッション。(これまでのゲスト:アステラス製薬、資生堂)		
詳細	知識創造企業から、人事シスシステムの構成を学び、「人事部として大事にしたいポイント」を作成し、発表、討議する。 第1~2講で出された課題のプレゼンテーション⑤。		
第十五講・第十六講			
概要	人事戦略の基礎®知識創造型人事戦略のまとめ。 経営戦略に資する人事戦略とは何か。 人事の4つの機能である採用・育成・評価・配置に加えてタレントマネジメントの整理。 社員の成長と企業の成長を両輪とした成果主義から成長主義の人事戦略に転換するためには をダイアローグする。		
事前,事後学習ポイント	知識創造型人事部とはどうあるべきか、これまでの学びを通じて自らの考えを統合する。		
詳細	第1講から15講までの視点を踏まえて、知識創造企業を構築していく上での人事部の役割とその推進の諸条件について、双方 向ダイアローグする。 第1~第2講で出された課題のプレゼンテーション⑥。		
教科書 / Textbook	適宜、講義資料を配布する。		
指定図書 / Course Readings	「なぜ学ぶ習慣のある人は強いのか」佐々木弘明、土屋裕介、徳岡晃一郎著、日本経済新聞出版。 「タレントマネジメント入門―個を活かす人事戦略と仕組みづくり」 柿沼英樹、 土屋 裕介著、ProFuture。 「戦略人事のビジョン」八木洋介、金井壽宏著、光文社新書。		
参考文献・参考URL / Reference List	「部下を動かす人事戦略」金井壽宏、高橋俊介著、PHP新書 「40代からのライフシフト実践ハンドブック」徳岡晃一郎著、東洋経済新報社		
評価方法 / Method of Evaluat	ion		
配分(合計100%)	出席(30%)、授業内でのダイアローグ参加(35%)、プレゼンテーション内容(15%)、最終レポート(20%)		
評価基準 / Evaluation Criteria			
評価「A·」(100~90 点):	人事戦略に関して、自ら企画・行動・実践が行える。		
評価「A」(89~80点):	人事戦略論を深く理解し、自社の制度への改善提案が描ける。		
評価「B」(79~70点):	人事戦略論の概要が理解でき、自社の制度の課題を指摘・抽出できる。		
評価「C」(69~60点):	人事戦略の概要が理解できている。		
評価「F」(59点以下):	人事戦略の理解が不十分で、出席も不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。		
	※秋学期に開講するヒューマンリソース概論IIを受講するには、ヒューマンリソース概論I—A、I—Bのどちらかの単位修得が		
留意点 / Additional Information	必須となる。 ※実践家のゲスト講演あり(これまで①アステラス製薬人事部/松永輝直氏②資生党人材開発室/深澤昌久氏)		

※実践家のゲスト講演あり(これまで①アステラス製薬人事部/松永輝真氏②資生堂人材開発室/深澤昌久氏)

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	ヒューマンリソース概論Ⅱ		
サブタイトル / Sub Title	知識創造型企業の人事戦略		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Human resources strategy of knowledge-crea	ating company II	
教員 / Instructor	徳岡 晃一郎	E-mail	tokuoka@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	リーダーシップと人事	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	変化とスピードの時代を迎えて、企業にはイノベーションやグローバル化、ダイバーシティを軸にした成長戦略を実現するダイナミックな経営が求められている。その一方で、社内のモチベーションや求心力は危機に瀕している。この壁を乗り越えるには、社員の成長と企業の成長を両輪とした成果主義中心の人事戦略を再構築しなくてはならない。ヒューマンリソース概論に続き、そのような新たな人事のあり方を知識経営の文脈の中で検討し、新しい人事の役割を、MBB(Management by Belief)を中心に議論する。		
到達目標 / Course Goals	知識創造型企業への転換に不可欠な最新の人事戦略であるMBBを理解し、企業変革へ向けてディプロマポリシーのDP3:「関心と意欲」をしっかり持ち、DP5:「志」にまで高め、それを実行するDP4:「表現と技能」を身に着け、イノベーターとしての知の再武装を目標とする。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、ディベート、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体 事前学 あな学習内容 事後学	習:指定図書予習及び宿題資料の読み込みなどで2時間程度 習:講義内容の整理で1時間程度
---	--

授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	ポスト成果主義のMBB	
事前,事後学習ポイント	新しい資本主義と知識経営について概観しておく	
詳細	春学期開講のヒューマンリソース概論Iの振り返りを行い、春学期の学習内容を確認する。それを踏まえ、MBO思考の問題をあげながら、新しい人事の型であるMBBを学ぶ。 宿題:自社の人事評価制度の課題をパワーポイントでまとめてくること。 第8講までに全員が発表する。	
第三講・第四講		
概要	ポスト成果主義のMBBとシャドーワーク	
事前,事後学習ポイント	新しい資本主義と知識経営について事前配布資料を読み込む	
詳細	第1講に続き、MBBについて学ぶ。MBBを促進するシャドーワークを学習し、自身のシャドーワーク経験について語り合ったのち、社内で促進する方法をグループディスカッションする。第1講で出された宿題のプレゼンテーション①。	
第五講・第六講		
概要	MBB(Management by Belief)概論1:「思い」のマネジメント-個人-	
事前,事後学習ポイント	新しい資本主義と知識経営について事前配布資料を読み込む	
詳細	MBBが個人にもたらす価値-仕事の喜び、自己表現-について解説し、ビジョンを持つことや未来を切り開く思考の重要性を理解する。 その後、講義を踏まえた内容をグループディスカッションにて共有し、まとめ、発表する。第1講で出された宿題のプレゼンテーション②。	
第七講・第八講		
概要	MBB(Management by Belief)概論2:「思い」のマネジメント-経営-	
事前,事後学習ポイント	新しい資本主義と知識経営について事前配布資料を読み込む	
詳細	MBBが経営にもたらす価値-高い志、知の創造と共有-について解説し、「思い」をベースに動くMBB経営の枠組みを理解する。 その後、講義を踏まえた内容を自社に落とし込み、グループディスカッションし、発表する。第1講で出された宿題のプレゼンテーション③。	
第九講・第十講		
概要	MBBを実践するためのガイド1:セルフコーチング演習	

事前,事後学習ポイント	新しい資本主義と知識経営について事前配布資料を読み込む	
詳細	「思いのピラミッド」を作る基礎となる、「思い」を持つための重要性について、著名なリーダーを題材に開設する。 その後、セルフコーチング演習を行い、グループワーク(グループコーチング)を行う。第1講で出された宿題のプレゼンテーション④。	
第十一講・第十二講		
概要	MBBを実践するためのガイド2:「思い」のピラミッド演習	
事前,事後学習ポイント	新しい資本主義と知識経営について事前配布資料を読み込む	
詳細	「思い」の7段階レベルを学んだ後、思いのピラミッド(ビジョン、背景、ストーリー、壁・しがらみ、突破するポリシー・具体策)の構造を解説する。 その後、自身の「思いのピラミッド」を各自作成し、グループディスカッションにて確認する。第1講で出された宿題のプレゼンテーション⑤。	
第十三講・第十四講		
概要	MBB実践企業の人事部の実践事例検討:ゲストスピーカーセッション	
事前,事後学習ポイント	ゲスト企業の会社概要を把握しておく	
詳細	MBBを実践している企業の人事部長を招いての講義。 講義後は、ゲストスピーカーと院生によるセッション(双方向)を行い、現場を理解する。第1講で出された宿題のプレゼ テーション⑥。	
第十五講・第十六講		
概要	知識創造型人事部のまとめ	
事前,事後学習ポイント	知識創造型人事部とはどうあるべきか、自らの考えをまとめておく	
詳細	第1講から7講までの視点を踏まえて、知識創造企業を構築していく上での人事部の役割とその推進の諸条件について、グループディスカッションする。 Belief基準で思いのピラミッドの確認をする仕方を学習する。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション⑦。	

教科書 / Textbook	適宜、講義資料を配布する。
指定図書 / Course Readings	「MBB:思いのマネジメント実践ハンドブック」徳岡晃一郎、舞田竜宣著、東洋経済新報社 「イノベーターシップ」徳岡晃一郎著、東洋経済新報社 「シャドーワーク」一條和生、徳岡晃一郎著、東洋経済新報社 ※ヒューマンリソースI-Aを取ったものは「MBB:思いのマネジメント」一條和生、徳岡晃一郎、野中郁次郎著 東洋経済新報社(中国語翻訳あり「信念」)
参考文献・参考URL / Reference List	「40代からのライフシフト実践ハンドブック」徳岡晃一郎著、東洋経済新報社

評価方法 / Method of Evaluation		
配分 (合計100%)	出席(30%)、授業内での議論参加(35%)、プレゼンテーション内容(15%)、最終レポート(20%)	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	MBBを十分理解し、MBBに基づく新たな人事制度の企画ができる。	
評価「A」(89~80点):	MBBを理解し、現状の人事制度を改善する案を作成できる。	
評価「B」(79~70点):	自分の思いを明確化するツールや伝えるコミュニケーションを活用できる。	
評価「C」(69~60点):	MBBの基礎を理解して、ツール類の使い方を理解している。	
評価「F」(59点以下):	MBBを理解できておらず、出席も不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。	

留意点 / Additional Information	ヒューマンリソース概論IIを受講するには、ヒューマンリソース概論I-AまたはI-Bの履修が必須となる。
---------------------------------	---

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	インナーコミュニケーション		
サブタイトル / Sub Title	組織変革を進めるチェンジマネジメントコミュニケーション		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Internal communication strategy		
教員 / Instructor	徳岡 晃一郎	E-mail	tokuoka@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	リーダーシップと人事	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	変化とスピードの時代を迎えて、企業はイノベるが、社員の意識がついてこないために失敗すい、行動に駆り立てるか。その成否を握る社内	る例は枚挙に暇がない。社員を	的確に動機づけ、変革へ向けて意識改革を行
到達目標 / Course Goals	社内コミュニケーションのあり方を理解し、デ「関心と意欲」を高め、DP2:「思考と判断」、て、イノベーターとしてコミュニケーションをる。	DP4:「表現と技能」を身に着り	ける。各種演習を通じて、DP5:「志」を醸成し
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、グループ ワーク、ディベート、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体	事前学習:教科書、指定図書予習及び宿題資料の読み込みなどで毎回2時間程度
的な学習内容	事後学習:講義内容の整理で1時間程度

授業の概要 / Course Desc	ription		
第一講・第二講			
概要	社内コミュニケーションの基礎(1) 社内コミュニケーションの目的、主な領域と課題		
事前,事後学習ポイント	コミュニケーションについての自社の課題を整理しておく		
詳細	社内コミュニケーションのあり方、目的を学ぶとともに、その必要性について解説する。 また、グループディスカッションで、社内コミュニケーションの役割を再認識する。 宿題:自社の社内コミュニケーションについて、第1講の講義内容を踏まえ、 パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する。		
第三講・第四講			
概要	社内コミュニケーションの基礎(2) 社内コミュニケーションのフレームワーク		
事前,事後学習ポイント	第一講で学習したフレームに沿ってコミュニケーションについての自社の課題を整理しておく		
詳細	第1講に続き、社内コミュニケーションの様々な手法を学ぶとともに、その具体例について解説する。また、社内におけるコミュニケーションの重要性を学び、リーダーの役割についてグループディスカッションする。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション①。		
第五講・第六講			
概要	社内コミュニケーションの基礎(3) コーポレートコミュニケーション戦略と社内コミュニケーション		
事前,事後学習ポイント	第二講で学習したフレームに沿ってコミュニケーションについての自社の課題を整理しておく		
詳細	第1講、第2講に続き、社内コミュニケーションの実践事例を学ぶとともに、よくある問題点について解説する。また、社外コミュニケーション戦略を学び、現実の問題についてソリューションを考え、グループディスカッションする。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション②。		
第七講・第八講			
概要	コミュニケーションスキル(1) モチベーションを高める場づくりのコミュニケーションスキル演習		
事前,事後学習ポイント	自社のマネジメント層のコミュニケーションの課題を概観してくる		
詳細	コミュニケーション力の3つの柱、「発信力」、「受信力」、「質問力」について、演習を中心に、個人でのワーク及びグループワークを多めに設けて学ぶ。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション③。		
第九講・第十講			
概要	コミュニケーションスキル(2) 変革を推進するチェンジマネジメントコミュニケーション戦略		
事前.事後学習ポイント	自社のマネジメント層のコミュニケーションの原因を調査してくる		

詳細	思考の型(インプット \rightarrow セルフコーチング \rightarrow マイポリシー)について、演習を中心に、個人でのワーク及びグループワークを多めに設けて学ぶ。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション④。		
第十一講・第十二講			
概要	リーダーシップコミュニケーション(1) コミュニティ開拓者		
事前,事後学習ポイント	教科書の指定箇所を読み込んでくる		
詳細	リーダーの役割とリーダーシップ・コミュニケーションについて学ぶ。コミュニティ構築者としてのリーダーの役割について学ぶ。個人ワーク後、グループディスカッションにて「自分の理解」を深める。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション⑤。		
第十三講・第十四講			
概要	リーダーシップコミュニケーション(2) 針路設定者		
事前,事後学習ポイント	教科書の指定箇所を読み込んでくる		
詳細	ナビゲーター(針路設定者)の役割と重要性について解説する。履修者数によっては、教員と院生によるセッション(双方 向)を行い、講義内容の理解を深める。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション⑥。		
第十五講・第十六講			
概要	リーダーシップコミュニケーション(3) 変革の仕掛け人		
事前,事後学習ポイント	教科書の指定箇所を読み込んでくる		
詳細	組織の活性化を促す変革の仕掛け人(批評者、扇動者、学習推進者、イノベーション・コーチ)について学ぶ。 それぞれの役割について、グループディスカッションをし、自社内に落とし込んで考えてみる。		
	「リーダーシップ・コミュニケーション ロバート・メイ、アラン・エイカーソン、徳岡晃一郎訳、ダイヤモンド社(初回講		
教科書 / Textbook	義で注文を受けます) 適宜、講義資料を配布する。		
指定図書 / Course Readings	「ミドルの対話型勉強法」徳岡晃一郎、ダイヤモンド社 「本気の集団を作るチームコーチングの技術」徳岡晃一郎著、ダイヤモンド社		
参考文献・参考URL / Reference List	「世界で生きる力」マーク・ガーソン、英治出版 「世界の知で創る」野中郁次郎、徳岡晃一郎著、東洋経済新報社		
評価方法 / Method of Evaluat	ion		
配分(合計100%)	出席(30%)、授業内での議論参加(35%)、プレゼンテーション内容(15%)、最終レポート(20%)		

評価方法 / Method of Evaluati	ion
配分 (合計100%)	出席(30%)、授業内での議論参加(35%)、プレゼンテーション内容(15%)、最終レポート(20%)
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A・」(100~90 点):	社内コミュニケーション戦略、リーダーシップコミュニケーションのあり方を理解し、優れた企画立案およびその実践がで きる。
評価「A」(89~80点):	社内コミュニケーション、リーダーシップコミュニケーションを理解し、社内での改善を企画できる。
評価「B」(79~70点):	社内コミュニケーション、リーダーシップコミュニケーションを理解し、社内の問題を分析できる。
評価「C」(69~60点):	社内コミュニケーション、リーダーシップコミュニケーションの基礎が理解できている。
評価「F」(59点以下):	理解が不十分であり、出席も不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。

留意点 / Additional Information

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	カルチャーベースマネジメント		
サブタイトル / Sub Title	知識創造の企業文化戦略		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Management by Corporate Culture		
教員 / Instructor	徳岡 晃一郎	E-mail	tokuoka@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	リーダーシップと人事	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	マネー資本主義、株主価値至上主義などが問れれまでの論理分析主体の左脳経営の時代は終れ造が重要になってきている。そのカギは社員か文化だ。一人ひとりが、共通善に向けたよりよない。イノベーションの時代の企業文化の価値ックス、セールスフォース、マイクロソフト、ゲストスピーカーとともに学ぶ。)りを告げ、真に豊かなイノベー 、 、 、 、 い成長を志向する価値観を共有 でマネジメント手法について考	ションを求めて人のつながりや組織的知識創クトルを合わせ自律的行動を促す濃密な企業する企業文化がないところによい戦略は描けえる。実際の事例研究を行うため、スターバ
到達目標 / Course Goals	企業文化が戦略の成功や企業の成長にもたらすにした上で、DP3:「関心と意欲」を高め、DP.能」を学び、DP5:「志」を醸成して、イノベー社内で実践できることを目標とする。	2:「思考と判断」を身に着ける。	他社事例の研究を通じて、DP4:「表現と技
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、ディベート、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体 的な学習内容 事後学習:講義内容の整理で1時間程度

授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	企業文化とは何か	
事前,事後学習ポイント	企業文化についての一般情報を概観してくる	
詳細	企業文化及び組織文化について学ぶとともに、経営戦略スタイルと人事戦略の視点から考察する。また、グループディスカッションで、日本企業と米国企業の文化の違いを再認識する。 宿題:指定した企業の企業文化と組織文化について調べ、パワーポイントでまとめてくること。第8請までに全員が発表する。	
第三講・第四講		
概要	企業文化のマネジメント1:企業文化のマネジメントとマネジメントスタイル診断	
事前,事後学習ポイント	企業文化について特定企業を選び研究してくる	
詳細	第1講に続き、企業文化及び組織文化について学ぶとともに、経営戦略スタイルと人事戦略の視点から考察する。 授業後半はマネジメントスタイル診断を行い、個人の特性と組織のカルチャーの関係について、グループディスカッション する。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション①。	
第五講・第六講		
概要	スターバックスの企業文化戦略1(仮)スターバックスからのゲストとの共同セッション	
事前,事後学習ポイント	指定図書の熟読、スターバックス社のサービスの体験	
詳細	スターバックスの方を招いての講義。(1回目) 講義後は、ゲストスピーカーと院生によるセッション(双方向)を行い、現場を理解する。第1講で出された宿題のファーション②。	
第七講・第八講		
概要	スターバックスの企業文化戦略2(仮)スターバックスからのゲストとの共同セッション第2回	
事前,事後学習ポイント	スターバックス社のサービスの体験	
詳細	スターバックスの方を招いての講義。(2回目) 講義後は、ゲストスピーカーと院生によるセッション(双方向)を行い、現場を理解する。第1講で出された宿題のプレゼニテーション③。	

テーション③。

第九講・第十講			
概要	セールスフォースの企業文化戦略(仮)セールスフォースからのゲストとの共同セッション		
事前,事後学習ポイント	指定図書の熟読		
詳細	セールスフォースの方を招いての講義。 講義後は、ゲストスピーカーと院生によるセッション(双方向)を行い、現場を理解する。第1講で出された宿題のプレゼン テーション④。		
第十一講・第十二講			
概要	日清食品の企業文化戦略(仮)日清食品からのゲストとの共同セッション		
事前,事後学習ポイント	日清食品のホームページから統合報告書を読んでおく		
詳細	日清食品の方を招いての講義。 講義後は、ゲストスピーカーと院生によるセッション(双方向)を行い、現場を理解する。第1講で出された宿題のプレゼン テーション⑤。		
第十三講・第十四講			
概要	企業文化のマネジメント2:社内のカルチャーのマネジメント		
事前,事後学習ポイント	事例研究各社からの学びを整理してくる		
詳細	企業文化のマネジメントにおける社内のそれぞれのポジションの役割を学び、社内の風土と風土改革、チェンジマネジメントについて考察する。 また、人事戦略の位置づけについてグループディスカッションする。 第1講で出された宿題のプレゼンテーション⑥。		
第十五講・第十六講			
概要	企業文化とグローバル化:日本の企業文化はどう変わるべきか		
事前,事後学習ポイント	自社の文化の変革について考えてくる		
詳細	ソーシャルビジネスの流れについて学び、「思い」を語り、文化を創るリーダーとチーフカルチャーオフィサーの役割を考える。 イノベーターシップ・コンピテンシーを各自行い、結果についてグループディスカッションする。第1講で出された宿題のプレゼンテーション⑦。		
教科書 / Textbook	適宜、講義資料を配布する。		
指定図書 / Course Readings	「スターバックス成功物語」ハワード・シュルツ著、大川修二他訳、日経BP社 「スターバックス再生物語」ハワード・シュルツ著、月沢李歌子、徳間書店 「ヒット・リフレッシュ」サティア・ナデラ、日経BP社 「トレイルブレイザー」マーク・ベニオフ、東洋経済新報社		
参考文献・参考URL / Reference List	「ボールド:突き抜ける力」ピーター・ディアマンディスほか著、土方奈美訳、日経BP社 「本田宗一郎」野中郁次郎著、PHP 「世界で闘う仲間のつくり方」ジェニー・チャン著、中川友訳、ダイヤモンド社		

評価方法 / Method of Evaluation					
配分(合計100%)	出席(30%)、授業内での議論参加(40%)、最終レポート(30%)				
評価基準 / Evaluation Criteri	評価基準 / Evaluation Criteria				
評価「A・」(100~90 点):	企業文化が戦略の成功や企業の成長にもたらす効果について理解し、自社の企業文化の効果的な改善施策をまとめられる。				
評価「A」(89~80点):	企業文化が戦略の成功や企業の成長にもたらす効果について理解し、自社の課題について深く分析でき、改善の方向性を検 討できる。				
評価「B」(79~70点):	企業文化が戦略の成功や企業の成長にもたらす効果について理解し、他社のベストプラクティスを自分の言葉で説明できる。				
評価「C」(69~60点):	企業文化が戦略の成功や企業の成長にもたらす効果について基本的な理解ができている。				
評価「F」(59点以下):	企業文化とそのマネジメントに関して理解が不十分であり、出席も不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。				

留意点 / Additional Information	ゲスト(仮)は2021年の実績であり、秋学期開始前に変更になる可能性があります。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	実践組織変革		
サブタイトル / Sub Title	組織変革のリーダーシップと技術(知考具)		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Organizational Change		
教員 / Instructor	浜田 正幸	E-mail	hamada-m@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	リーダーシップと人事	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	① 組織論・組織マネジメント・組織開発に関する基本的な知識と理論・モデルを学修する。② 組織変革の事例研究によって、組織を分析する軸と多様性を知る。		
到達目標 / Course Goals	DP2「思考と判断」,DP4「表現と技能」 以上のディプロマポリシーを満たすべく,実践知考具を用いて組織を客観的に測定・把握できるようになる。さらに ーターシップを発揮して、組織変革・組織開発できることが到達目標である。		測定・把握できるようになる。さらにイノベ
授業形態 / Form of Class	講義、プレゼンテーション、グループワー ク、グループディスカッション	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

資料・参考書籍の精読・整理(毎回2時間)。プレゼンテーション資料作成(10時間)

授業の概要 / Course Desci	ription		
第一講・第二講			
概要	オリエンテーション。組織変革事例研究1。 本講義の進め方の説明。ケースメソッドという学習方法の説明。講義準備課題の説明。ケーススタディ発表のやり方について事例を使った説明。		
事前,事後学習ポイント	組織論、リーダーシップ論に関する代表的な文献を入手し、精読する。		
詳細	講義の進め方。事例研究の方法について説明。組織変革事例研究1		
第三講・第四講			
概要	事例研究とそれに関するディスカッション バーナードの組織構成の3要素について学修し、組織を把握する視座の一つとして活用する。また、組織を把握するための全体像フレームワークを学修する。		
事前,事後学習ポイント	事例研究に関する資料作成とプレゼンの準備。		
詳細	組織論文献研究1。組織変革事例研究2,3。		
第五講・第六講			
概要	事例研究とそれに関するディスカッション サイモンの組織における意思決定論を学修する。組織行動の一連のプロセスを概観し、組織を時間軸と人間集団のコミュニケーション軸で把握する。		
事前,事後学習ポイント	事例研究に関する資料作成とプレゼンの準備。		
詳細	組織論文献研究2。組織変革事例研究4,5。		
第七講・第八講			
概要	事例研究とそれに関するディスカッション チャンドラーの組織設計論を学修する。チャンドラーの「組織は戦略に従う」という言葉は有名であり、現在でもその設計 論は色あせず日常的に援用されている。戦略起点の組織設計について知見を深める。		
事前,事後学習ポイント	事例研究に関する資料作成とプレゼンの準備。		
詳細	組織論文献研究3。組織変革事例研究6,7。		
第九講・第十講			
概要	事例研究とそれに関するディスカッション ペンローズの企業成長の理論を学修する。企業成長の考え方の主軸である「リソース・ベースト・ビュー」を取り上げて組 織開発を考察する。		
事前,事後学習ポイント	事例研究に関する資料作成とプレゼンの準備。		
詳細	組織論文献研究4。組織変革事例研究8,9。		

第十一講・第十二講		
概要	事例研究とそれに関するディスカッション ポーターの戦略論とポジショニング,リソースについて学修する。戦略論,バリューチェーンと組織設計,組織機能論について考察する。	
事前,事後学習ポイント	事例研究に関する資料作成とプレゼンの準備。	
詳細	組織論文献研究5。組織変革事例研究10,11。	
第十三講・第十四講		
概要	事例研究とそれに関するディスカッション 人材開発と組織開発について学修する。昨今の喫緊の課題であるDXと組織開発について,事例研究から学ぶ。	
事前,事後学習ポイント	事例研究に関する資料作成とプレゼンの準備。	
詳細	組織論文献研究6。組織変革事例研究12,13。	
第十五講・第十六講		
概要	事例研究とそれに関するディスカッション 受講者それぞれの組織を見る視座について体系化し、イノベーションに関する自らのアクションを考える。自らの実践知を 体系化・体現することをアウトプットする。	
事前,事後学習ポイント	事例研究に関する資料作成とプレゼンの準備。	
詳細	組織変革事例研究12 全体の学修	

教科書 / Textbook	適宜、URLを通知する。
指定図書 / Course Readings	なし
参考文献・参考URL / Reference List	組織論文献については、第1,2講の時に説明する ロバート・キーガン他 (2013). なぜ人と組織は変われないのか 英治出版 ロバート・キーガン他 (2017). なぜ弱さを見せあえる組織が強いのか 英治出版

評価方法 / Method of Evaluation			
配分(合計100%)	組織変革の事例研究発表・課題提出(50%) 平常点・議論への参加(50%)		
評価基準 / Evaluation Criteria	評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	組織を見る視座を修得している。具体的に組織を評価・測定するツールが使いこなせている。また組織変革のための引き出しを持ち、さまざまな組織について組織戦略を提案でき、実践できている。		
評価「A」(89~80点):	組織を見る視座を修得している。具体的に組織を評価・測定するツールが使いこなせている。特定の組織について組織戦略 を提案することができているが、柔軟性・多様性が不足している。		
評価「B」(79~70点):	組織を見る視座を修得している。現状分析はできるが、変革のための組織戦略が導き出されていない。		
評価「C」(69~60点):	組織を見る視座が固まっていない。組織の現状分析が主観的な解釈となっていて、人にロジカル・精緻に説明できていない。		
評価「F」(59点以下):	組織を見る視座が獲得されていない。それにより組織の現状分析ができない。人に組織分析を説明しても理解されない。		

留意点 / Additional	事例研究について濃密なディスカッションを行うので、クラスディスカッションに積極的に参加することができ、知的なバトルに対する耐性を有していること。
Information	連絡先:hamada-m@tama.ac.jp

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	ストレスマネジメントと精神回復力		
サブタイトル / Sub Title	心身医学・行動科学的観点からみたストレスマネジメントと意識改革		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Stress Management and Resilience		
教員 / Instructor	水木 さとみ	E-mail	smizuki@mhi-inc.jp
科目群 / Course Classification	リーダーシップと人事	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	 心理・社会的ストレスは身体に影響を及ぼし、様々な症状を誘発することは医学的にも明らかになっている。仕事をしてく上で、予期せぬ出来事やハプニングに遭遇しながらも高い目的に向かって進まなくてはならない。逆境の中、自己のも能力を最大限に発揮する手段にストレスマネジメントがある。本講座は、心理学・行動科学、さらに心身医学を交え、スレスマネジメントと精神回復力を養うノウハウを実践的に習得すると共に、組織力向上を目指し、部下のメンタルヘルスも触れる。労働契約法第5条安全配慮義務に位置づける予見可能性では、部下の変化や不調をいかに速やかに感知できるが問われ、リスクマネジメントの流れを変える。それは、部下を守り、自身を守り、そして会社を守ることを意味する。場のストレスマネジメントを軸とし、より良い組織構築に向け、実践的に問題解決力を養うことを目指す。 		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーにおけるDP1:「知識と理解」、DP2:「思考と判断」を達成するために、ストレスが招く身体化のメカスムを理解し、心理学・行動科学・心身医学に基づき、上記目的に資する職場のストレスマネジメントに関して、ケースを交え、洞察力を養い、状況に応じた適切な判断力と解決手法を習得する。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション グループワーク、プレゼンテーション、双方 向	学外学習 / Off-Campus Learning	無

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体 的な学習内容 事前学習:復習および課題に時間をとる(2時間程度) 事後学習:講義内容を実践し、分析する(2時間程度)

	'	
授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	心理・社会的ストレスが招く身体化のメカニズム ~思考と感情が身体に与える影響~	
事前,事後学習ポイント	身体化のメカニズムを理解した上で、ストレスマネジメントの意義を理解する	
詳細	適度なストレスは良い刺激となり自己成長を促すが、過度なストレスは身体に影響を与え、疾患を招くこる。ストレスマネジメントの意義を理解し、メンタルヘルスへの正しい認識と意識を高める。ストレスがオニズムを知り、自らの体験や職場の社員の体験を振り返り、グループディスカッションを通して気づきを行	召く身体化のメカ
第三講・第四講		
概要	心理学・行動科学的観点からみる他者理解 ~対人関係ストレスをミニマムにするには~	
事前,事後学習ポイント	科学的観点から他者理解を深める手法を身につけ、職場における対人関係の問題に向き合う	
対話なくして仕事は成立しない。しかし残念ながら、職場における対人関係に悩む社員はなる健康調査によると、ストレス要因の上位には、毎回"職場の人間関係問題"が挙がる。本語ニマムにし、良好な対人関係を構築するために、心理学・行動科学に基づき他者理解を深るスカッション、ロールプレイングを通して新たなコミュニケーション術を習得する。宿題:可能な限り、職場で生じた対人関係問題に触れ、心理パターンを分析、行動理由を打口一手を考える。発表者を募り、第3講でケースを発表、事例検討を行う。		関係ストレスをミ 交えグループディ
第五講・第六講		
概要	逆境に立ち向かうストレスマネジメント 〜自己効力感 レジリエンスを交えて〜	
事前,事後学習ポイント	自己効力感・レジリエンスの意味を理解し、行動拡大・自己成長に向けた取り組みを行う	
詳細	第2講の課題:発表者による事例検討会 古くから"病は気から"ということわざがある。今や医学的、科学的にもその根拠は実証されている。逆境の中、困難な状況にあっても克服する人、過酷な状況にも左右されず良い結果をもたらす人がいる。そうした心理状態と精神回復力に焦点当てる。米国心理学会では、こうした力は、誰もが学習する可能性があり発展させることができるとした。理論、手法の他、レジリエンス力を強化するために、自身が大学病院にてストレス性疾患の患者に向けて実施した独自のリラクセーシン法を合わせて紹介する。自律神経系のバランスを整え、平常心を養う手段として、ストレスマネジメントの一環として入されたい。	
第七講・第八講		
概要	組織強化と育成 ~ラポールとモチベーション、フロー心理を交えて~	
事前,事後学習ポイント	部下の行動特性を考慮したモチベーションへの取り組みを実践、ケーススタディに繋げる	

詳細	部下の育成にあたって信頼関係なくしては語れない。相手の印象を決定づける情報とは、言葉よりもむしろ、言葉以外からなるノンバーバル・コミュニケーションが大きな割合を占めることが知られている。本講座では、心理学を交えた面談法と行動科学を交え行動特性を考慮したモチベーションを紹介する。ケースを挙げ、グループワークを通して発表。		
第九講・第十講			
概要	マインドアップと行動変容 ~行動変容ステージからみる意識改革~		
事前,事後学習ポイント	職場におけるモチベーションの低い社員へのアプローチを試み、次回、議論へと繋げる		
詳細	本講義では、部下の自己成長に向けた適切なアプローチを考える。部下は行動するべき意味を理解していないため実行しないのか、あるいは頭の中では理解しているものの、実行するに至らないのか。部下の行動理由、心理、抱える問題を理解し、行動変容ステージからアプローチ法を検討する。ケースを交えたグループディスカッション、問題解決へと導く(発表)。		
第十一講・第十二講			
概要	現代社会におけるストレス性疾患 ~早期発見と適切な取り組み~		
事前,事後学習ポイント	部下の些細な変化や不調を迅速に感知するための洞察力と面談法を身につける		
詳細	ストレス社会を背景に、企業では社員のストレスチェックやメンタルヘルス研修の実地など、様々な取り組みがなされている。安全配慮義務に示す予見可能性は、メンタルヘルスの流れを変える早期発見の重要な位置づけとなる。部下の些細な変化や不調を迅速に感知する観察法および面談法を紹介すると同時に、状態に合わせた適切な対応を学ぶ。ケースを交えグループディスカッションを通して検討し、発表する。		
第十三講・第十四講			
概要	衝撃的な出来事に遭遇した社員のメンタルサポートを考える		
事前,事後学習ポイント	情緒的支援をするにあたり、状況に応じた適切な判断と対応を身につける		
詳細	失業者を対象に、情緒的支援の有無と疾患率や死亡率に関して、研究者らが調査したところ、明らかに相関が認められたことが報告された。このことは、周囲の精神的なサポートは非常に有効であることを意味づけている。本講座では、震災などの衝撃的な出来事や死別など、喪失体験に見舞われた社員へのサポートについて学ぶ		
第十五講・第十六講			
概要	本講座のフィードバックと新たな取り組み ~本講座を通して何を学んだか? 今後の活かし方を考える~		
事前,事後学習ポイント	講義で学んだことを、今後、どのように活かしていくのかをシェアする		
詳細	全講座を通して学んだこと、気づきを得たことなどをシェアし、各自が今後の活かし方を 発表する 宿題:最終レポート		
教科書 / Textbook	適宜、講義資料を配布する。		
指定図書 / Course Readings	適宜紹介する。		
参考文献・参考URL / Reference List	「不安・うつは必ず治る」山田和夫著 勉誠出版、「MBB:思いのマネジメント」一條和生 徳岡晃一郎 野中郁次郎著東洋経済新報社日経BP社ヒューマンキャピタルOnline 水木さとみ「ストレスマネジメントのすすめ」「やさしい心理学から学ぶストレスマネジメント実践法」		
評価方法/Method of Evaluat	ion		
配分(合計100%)	出席(25%)、プレゼンテーション(25%)、ディスカッション(25%)、レポート(25%)		
≕価「△・」(100~90			

II MAJ J.Z. / World of Evaluation					
配分 (合計100%)	出席(25%)、プレゼンテーション(25%)、ディスカッション(25%)、レポート(25%)				
評価基準 / Evaluation Criteria	評価基準 / Evaluation Criteria				
評価「A・」(100~90 点):	ストレスマネジメントの意義を十分に理解し、状態に応じた問題解決力が養われている				
評価「A」(89~80点):	とり巻く環境のなかで、解決に向けた具体的かつ実践的な対策を提案できる				
評価「B」(79~70点):	ケースにおける分析と適切な判断ができる				
評価「C」(69~60点):	ディスカッションでは積極的に意見を発信できる				
評価「F」(59点以下):	発表、ディスカッションには消極的で、ストレスマネジメントの意義を理解できていない				

留意点 / Additional Information	なし

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期	
科目名 / Course Title	キャリアマネジメントとモチベーション			
サブタイトル / Sub Title	人生100年時代を生きるキャリアとモチベーション戦略			
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Career Management and Motivation			
教員 / Instructor	片岡 裕司 E-mail kataoka@fkpractice.jp			
科目群 / Course Classification	リーダーシップと人事	単位数 / Credits	2単位	

講義目的 / Aim of Course	本講義の目的は、院生の今後のキャリアマネジメントに重要な指針を提供するとともに、企業内のキャリアパスの在り方、またそれをベースとしたモチベーション戦略に根本的な変革が迫られていることを理解することにある。日本型の雇用システムについては、年金財政の破綻から近い将来定年は70歳まで引き上げられるとも言われており、一方、日本の定年制はグローバル経営の観点からは、極めて非合理的な年齢による差別的制度という指摘もある。JOB型の人事制度導入の議論が広がる現在の環境を洞察すれば、個人としてのキャリアマネジメントと、企業としてのモチベーション戦略の在り方は、その前提となる価値観から根本的に転換する必要があるが、多くのビジネスパーソンや企業は延長線上での思考から脱却することができていない。本講義では、新たな時代に向かってのキャリアマネジメントとモチベーション戦略がどうあるべきか。そこに向けて個人レベルと企業レベルで何を変革してかなければならないか、について考察を深める。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーでのDP1:「知識と理解」、自らのキャリアをどう切り開くかというDP5:「志」の達成に向け、キャリアとモチベーションという観点から人と組織の本質について考察する。イノベーターとして自分のキャリアを主体的にデザインする能力を身に付けると共に、自分が関与する組織において適切な動機付けシステムを設計する能力を身に付ける。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、グループ ワーク、 プレゼンテーション、双方向、ワークショッ プ	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体	事前学習:予習に十分な時間をとること(2時間程度)
的な学習内容	事後学習:講義、演習内容を整理し深める(1時間程度)

授業の概要 / Course Desc	ription		
第一講・第二講			
概要	モチベーション理論 基礎編~人はなぜやる気になるのか~		
事前,事後学習ポイント	モチベーション理論の原点、変遷を理解する 自分の動機と強みを探求する		
詳細	モチベーション理論の変遷を紐解く。特に、テイラーの合理的経済人モデルとメイヨーの社会人モデルについて考え、グループディスカッションを行う。 キャリアデザインのリソースとなる、価値観、動機、強みの3つの要素を理解し、自分の動機についてグループワークを通じて理解を深める		
第三講・第四講			
概要	キャリア理論 基礎編		
事前,事後学習ポイント	キャリア理論の変遷からこれからのあるべき姿について考える		
詳細	高橋俊介「21世紀のキャリア論」(東洋経済)の課題設定に基づき、キャリアマネジメントの課題についてグループワークにより意見をまとめる。キャリアケースについてグループディスカッションを行い、キャリアデザインの重要性を理解する		
第五講・第六講			
概要	モチベーション理論		
事前,事後学習ポイント	モチベーション理論の展開を知り、組織人事マネジメントの課題を理解する		
詳細	ダニエル・ピンク「モチベーション3.0」(講談社)、金井壽宏「働くみんなのモチベーション論」(NTT出版)に基づき、企業レベル、個人レベルの課題を抽出し、モチベーション戦略の今後についてグループワークにより意見をまとめ、発表する。「一皮むけた経験」という概念を理解し、自分の価値観を探求する。		
第七講・第八講			
概要	幸福から考えるキャリアとモチベーション		
事前,事後学習ポイント	近年注目が高まる「幸福学」の観点からキャリアとモチベーションを捉える		
詳細	ゲスト講師を予定。個人の幸福、ウェルビーイングという観点からキャリアとモチベーションについて掘り下げて考えていく。幸福の因子から自分の現状を分析しグループディスカッションを行い、様々な視点について議論を行う。		
第九講・第十講			

概要	日本企業におけるキャリアマネジメントとモチベーション戦略の課題		
事前,事後学習ポイント	ゲスト講師予定。日本企業におけるキャリアマネジメントとモチベーション戦略の先進事例を学ぶ。		
詳細	日本企業の先進事例から社員のキャリアマネジメント、モチベーション戦略について考える。企業の成長段階での課題設 定、解決のプロセスとともに、実践者が現在、中長期の課題をどう捉え、どう向き合っているかについて知る		
第十一講・第十二講			
概要	日本企業におけるキャリアマネジメントとモチベーション戦略の課題		
事前,事後学習ポイント	今後の日本企業が抱えるキャリアマネジメントの課題を理解する		
詳細	伝統的な日本企業のキャリアマネジメントとキャリアパスの現状と、少子高齢化が生み出す環境課題を抽出し、根本的な課題が何かを検討する。またグループディスカッション通じ、多様な意見をまとめ発表する。キャリアアンカーテストを受診し、自分のアンカーを知る。		
第十三講・第十四講			
概要	目的思考のキャリアマネジメント		
事前,事後学習ポイント	個のキャリアマネジメントのまとめ		
詳細	変化の激しい時代のキャリアデザイン、マネジメントについてグループワークを通じ理解を深める。ここまでの講義をまとめグループディスカッションを通じ思考を深める。課題:上記グループディスカッションを踏まえ、自分の考えを第8講までにまとめレポートを作成、提出する		
第十五講・第十六講			
概要	キャリアマネジメントとモチベーション戦略のまとめ		
事前,事後学習ポイント	個と組織は今後どうあるべきか		
詳細	第1講から7講までの視点を踏まえて、個人のキャリアマネジメントと企業のモチベーション戦略について、グループワークを行い発表する。		
教科書 / Textbook	適宜、講義資料を配布する。		
	片岡裕司他(2021)「目標が持てない時代のキャリアデザイン」(日本経済新聞出版)		

教科書 / Textbook	適宜、講義資料を配布する。
指定図書 / Course Readings	片岡裕司他(2021)「目標が持てない時代のキャリアデザイン」(日本経済新聞出版) Daniel H・Pink(2010)「モチベーション3.0」(講談社) 高橋俊介(2012)「21世紀のキャリア論」(東洋経済)
参考文献・参考URL / Reference List	Lynda Gratton Andrew Scott (2016) 「ライフシフト」(東洋経済)片岡裕司 (2016) 「何とかしたいベテラン社員がイキイキ動き出すマネジメント」(日本経済新聞出版)金井壽宏 (2006) 「働くみんなのモチベーション理論」(NTT出版)前野隆司 (2013) 「幸せのメカニズム」(講談社現代新書)

評価方法 / Method of Evaluation			
配分(合計100%)	出席(30%)、授業内での議論参加(30%)、最終レポート内容(40%)		
評価基準 / Evaluation Criteria			
評価「A・」(100~90 点):	講義に出席し、積極的に議論に参加している。 モチベーションとキャリアについて、基礎的な理論と現状の課題に至る背景を正しく理解している。 イノベーターとして自分のキャリアを主体的にデザインし、具体的な行動をしている。 自分が関与する組織、チーム、集団において適切な動機付けを行い、成果を生み出している。		
評価「A」(89~80点):	講義に出席し、積極的に議論に参加している。 モチベーションとキャリアについて、基礎的な理論と現状の課題に至る背景を正しく理解している。 イノベーターとして自分のキャリアを主体的にデザインしている。 自分が関与する組織、チーム、集団において適切な動機付けを行っている。		
評価「B」(79~70点):	講義に出席し、議論にも参加している モチベーションとキャリアについて、基礎的な理論と現状の課題に至る背景を正しく理解している。 イノベーターとして、自分のキャリアのデザインや周囲への適切な動機付けについて何らかの着手をしている。		
評価「C」(69~60点):	講義に出席しているものの、議論には消極的な参加に留まっている。 モチベーションとキャリアについて、基礎的な理論と現状の課題に至る背景の理解が一定レベルに留まっている。 イノベーターとして、自分のキャリアのデザインや周囲への適切な動機付けができていない。		
評価「F」(59点以下):	講義への出席が十分ではなく、議論にも消極的な参加にとどまっている。 モチベーションとキャリアについて、基礎的な理論や現状の課題が理解できていない。		

留意点 / Additional

Information

なし

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期	
科目名 / Course Title	実践ポジティブ心理学			
サブタイトル / Sub Title	個人・組織のウェルビーイング(幸せ感)を高める方法			
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Practice Positive Psychology			
教員 / Instructor	三田 真美 E-mail qhronicles@gmail.com			
科目群 / Course Classification	リーダーシップと人事	単位数 / Credits	2単位	

講義目的 / Aim of Course	新しい心理学の分野であるポジティブ心理学について、その学際的な背景から様々な応用範囲までを概論します。健康な人の精神状態に焦点をあてるポジティブ心理学は、人間にとって本当の幸せとは何かを追求するものです。本講座を踏まえ、自身の成長促進ならびに組織の課題解決の手がかりとして、日頃から活用いただくことを目的としています。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーでのDP3:「関心と意欲」を向上するために、①理論を踏まえ、ポジティブ心理学の各種エクササイズ (ポジティブ心理学介入)を習得しながら、何らかの自己変容を体感します。自己変容の体感を踏まえ、②各自が所属する 組織、場の課題解決において、ポジティブ心理学のさらなる応用可能性を模索し、応用介入計画を立て、さらなる実践につ なげることが本講義の到達目標となります。さらなる実践によりDP4:「表現と技能」を向上し、ポジティブ心理学の知見を ソーシャルイノペーションへと応用する機会を醸成します。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、双方向、 ワークショップ、プレゼンテーション	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

事前,事後学習ポイント

事前学習:指定する文献の熟読、前回の復習(1時間程度)

事後学習:講義のまとめ、宿題ミニレポート(実践)の作成、最終レポート作成、プレゼン 準備(各 $1\sim2$ 時間程度)

授業の概要 / Course Descr	iption	
第一講・第二講		
概要	ポジティブ心理学とは何か--「幸せの5条件」	
事前,事後学習ポイント	ポジティブ心理学の目的と位置付けを知る	
詳細	ポジティブ心理学の成り立ち、学問的位置づけから、その主たる考え方、用語について概説する。ポジティブ心理学の実践 において重要な役割を果たすエクササイズをいくつか紹介し、簡単なエクササイズの実践を課題として課す。	
第三講・第四講		
概要	時間と幸福感ーー快・不快・ポジティブな感情・経験から人生の満足度を考える	
事前,事後学習ポイント	興味のある文献を読み、ポジティブ心理学の基礎的な考え方を把握し、エクササイズを実践してみる	
詳細	1ヶ月の振り返りから始める。ピークエンド理論やフレドリクソン「拡張—形成理論」などボジティブな感情にまつわる主要理論や人生の満足度にまつわる重要尺度について学び、ポジティブ感情とウェルビーイングの関係について理解を深めるほか、時間の感覚と幸福感の関係について考察する。宿題:簡単なエクササイズの実践を課す。	
第五講・第六講		
概要	強みと幸福感――自分と組織の「ストレングス」を意識する	
事前,事後学習ポイント	興味のある文献を読み、より内省的にポジティブ心理学を捉えつつ、エクササイズを実践してみる	
詳細	1ヶ月の振り返りから始める。幸福感を高める上で重視される「強み(キャラクターストレングス)」について理解を深める。強みを測定する幾つかの手法について学び、自身の強みも測定する。強みを認識し、組織において個々人の強みの活かし方についても考える。宿題:簡単なエクササイズの実践を課す。	
第七講・第八講		
概要	レジリエンスとマインドセットーーストレスと成長、達成の深い関係	
事前,事後学習ポイント	興味のある文献を読み、ポジティブ心理学の応用可能性について考える	
詳細	1ヶ月の振り返りから始める。ストレスマネジメントにおいても注目されるレジリエンス(再起する力)は、ポジティブ心理学においても多方面で研究され、様々な介入方法が開発されている。レジリエンスについて、互いの体験も共有しながら、ポジティブ介入によるレジリエンストレーニング、リーダーシップと「成長マインドセット」について考える。宿題:簡単なエクササイズの実践を課す。	
第九講・第十講		
概要	フローと意志力、意味ーーポジティブは創造の始まり	

興味のある文献を読み、ポジティブ心理学の応用可能性について考える

詳細	1ヶ月の振り返りから始める。没頭が深い高揚感につながることを説いた「フロー理論」を手掛かりに、創造性とポジティビティの関係について各自の体験も共有しながら考える。フロー状態につなげるために求められる「意志」「意味」についても考える。宿題:簡単なエクササイズの実践を課す。	
第十一講・第十二講		
概要	幸福な職場とポジティブな人間関係--熱い組織、冷たい組織	
事前,事後学習ポイント	興味のある文献を読み、ポジティブ心理学の人間関係や組織運営への応用可能性について考える	
詳細	1ヶ月の振り返りから始める。誰しも独りでは幸せにはなれない。ポジティブ心理学においても「対人関係(アザー・ピープルマター)」を重視。よりよい人間関係について「積極的 - 建設的反応」などを例に考え、利他的な行為の効用に関する科学的なエビデンスについても触れる。講義で得てきたポジティブ心理学の知見を踏まえ、幸せな職場について議論する。ポジティブな組織変革の事例紹介も交える予定。宿題:簡単なエクササイズの実践を課す。	
第十三講・第十四講		
概要	幸せのために何を残すべきか?――ポジティブ心理学からポジティブ・コンピューティングへ	
事前,事後学習ポイント	最終レポートの作成に向けて各自の論考、意見をまとめやすくするべく各自の知見を深める。	
詳細	ポジティブ心理学をゲームやセンサリングにも応用する「ポジティブ・コンピューティング」の可能性について触れ、これからのAI全盛時代にあって個人や組織に幸せをもたらすものについて議論しながらイメージを共有し、各自にとってのウェルビーイングを考え、最終レポートにつながる議論をすすめる。	
第十五講・第十六講		
概要	ポジティブ心理学の実践ーーマインドフルネスワークショップ	
事前,事後学習ポイント	最終レポートの作成と発表準備。	
詳細	最終講義では各自のレポート内容を発表してもらう。それぞれのポジティブ心理学実践について共有、相互に講評する。そ のうえで瞑想の専門家によるマインドフルネスワークショップを実施し、さらなる実践につなげる方法を学ぶ。	

教科書 / Textbook	適宜指示し、資料を配布します。
指定図書 / Course Readings	「ポジティブ心理学が1冊でわかる本」イローナ・ボニウェル著(国書刊行会) 「ポジティブ心理学の挑戦 "幸福"から"持続的幸福"へ」マーティン・セリグマン著(ディスカヴァー・トゥエンティワン) 「マインドセット "やればできる!"の研究」キャロル・ドゥエック著(草思社)
参考文献・参考URL / Reference List	「データの見える手」矢野和男著(草思社) 「しあわせ仮説」ジョナサン・ハイト著(新曜社) 「困難な組織を動かす人はどこが違うのか」キム・キャメロン著(日経BP)

評価方法 / Method of Evaluation		
配分(合計100%)	出席(30%) 授業内での議論参加(40%) レポート内容(30%)	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A·」(100~90 点):	出席率が良好。問題意識をもち積極的な議論参加がなされている。ポジティブ心理学介入を応用した秀逸な課題解決案および新規事業アイデアなどが発表内容・レポートに含まれている。	
評価「A」(89~80点):	出席率が良好。授業内での議論参加が十分で、発表内容・レポートから講義内容の深い理解がうかがえる。	
評価「B」(79~70点):	授業内での議論参加は問題なく、発表内容・レポート内容が一定水準を満たしている。	
評価「C」(69~60点):	出席率が不良。授業内での議論参加と発表内容・レポート内容が意欲的ではない。	
評価「F」(59点以下):	出席率が著しく不良。授業内での議論参加と発表内容・レポート内容が不十分ないしはレポート未提出。	

|--|

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	オーセンティックリーダーシップ		
サブタイトル / Sub Title	在り方の探究によるリーダーシップジャーニー		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Authentic Leadership		
教員 / Instructor	荻野 淳也	E-mail	ogino-j@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	リーダーシップと人事	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	「オーセンティックリーダーシップ」は、先行きの見通せない時代におけるリーダーとしての在り方を講義とワークショップ形式で探求する実践型の科目である。現在、または、将来、自らがリーダーとして率いる組織の事業推進、事業開発、組織開発、人材開発を行っていく上において必要な受講生自身の価値観やパーパスの探求や内発的動機の掘り下げ、リーダーとしてのコアとなる中心軸を見出していく。また、そのために必要な自己認識力やセルフマネジメント力、メタ認知力、マインドフルネス等の対自スキル(イントラパーソナルスキル)の開発、また、コミュニケーション力、対話スキル、共感、コンパッション等の対人スキル(インターパーソナルスキル)の開発といったエモーショナルインテリジェンス(感情知性:EQ)のスキル向上も図っていく。組織における心理的安全性を醸成し、信頼と共感を基盤とし、成果を上げていくチームをつくる上での求心力と影響力を発揮する自身オリジナルのリーダーシップを探求する場とする。なお、本講義において扱うケースの対象は、「自分自身」であり、「自分自身」に対して、好奇心を持って、深く向き合い、探求し、理解し、認知することが求められる。また、自己変容を目指す上で、時には過去の考え方や行動様式を手放し、新たな考え方や行動様式を選択する必要がある。よって、自分自身や他者の個人的な経験、気づき、喜び、楽しみ、恐れ、不安、苦しみ、脆さ等に、真摯に、正直に向き合い、理解し、共有することに前向きでない場合、本講義の受講をお勧めしない。	
到達目標 / Course Goals	ディプロマ ポリシーにある DP3:「関心と意欲」、DP5:「志」の習得を実現をするために、そのOSとなる自己認識力やセルフマネジメント力、メタ認知力、マインドフルネス等の対自スキル(イントラパーソナルスキル)の開発、また、コミュニケーション力、対話スキル、共感、コンパッション等の対人スキル(インターパーソナルスキル)の開発といったエモーショナルインテリジェンス(感情知性:EQ)のスキルの獲得、向上を図り、組織における心理的安全性を醸成し、信頼と共感を基盤とし、成果を上げていくチームをつくる上での求心力と影響力を発揮する自身オリジナルのリーダーシップの獲得を目指す。	
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、グループ ワー ク、プレゼンテーション、双方向、ワー クショップ	

第七講・第八講

事前学習:予習に十分な時間をとること(2時間程度)

事後学習:授業の学びの振り返りのレポート提出(15分)、実習の復習(1時間程度)

授業の概要 / Course Descri	ption	
第一講・第二講		
概要	オリエンテーション:リーダー	が身につけるべきエモーショナルインテリジェンス(感情知性:EQ)
事前,事後学習ポイント	参考図書を複数読んでおく	
詳細	自己紹介の実施とオリエンテーションとして、講義の全体像の説明。 これからのリーダーになぜエモーショナルインテリジェンス(感情知性:EQ)が必要かの説明とその能力開発のための実習を行う。 また、エモーショナルインテリジェンス(感情知性:EQ)を高めるための脳科学に基づいたマインドフルネスの理論等を伝える。	
第三講・第四講		
概要	自己認識力の向上とリーダーと	しての内発的動機の源泉の発見
事前,事後学習ポイント	前回授業で学んだプラクティス	を日々実践する
詳細	リーダーが最も開発すべき能力と言われる自己認識力の概念、重要性について、解説する。 また、自己認識力向上のための実習を行い、セルフリーダーシップの基盤となる内発的動機の源泉を発見していく。	
第五講・第六講		
概要	セルフマネジメントとセルフコ	ンパッションの向上
事前,事後学習ポイント	前回授業で学んだ内容を日々の	業務、生活で日々実践する
詳細		る感情のマネジメントを含むセルフマネジメントの概念を説明し、実習を行う。また、リー るセルフコンパッションについて学ぶ。

概要	価値観とライフストーリーの掘り下げ	
事前,事後学習ポイント	前回授業で学んだ内容を日々の業務、生活で日々実践する	
詳細	自身の在り方や行動の基盤となっている価値観を掘り下げ、明確な認知を促す。 また、その価値観が醸成されてきた自分の人生のストーリーを振り返り、自分の価値観形成の背景や想定されるメンタルブロックについて、確認をする。	
第九講・第十講		
概要	対話とディープリスニングのスキル開発	
事前,事後学習ポイント	前回授業で学んだ内容を日々の業務、生活で日々実践する	
詳細	リーダーが実施するコミュニケーションの基盤となる対話やディープリスニングのスキルについて、その理論や実習を行い、スキル開発を行う。 実際に対話やリスニングの実習を繰り返し、自身のメタ認知力を高めるとおもに、評価判断を保留して対話をすることの重要性を理解する。 また、リーダーとして、組織における心理的安全性を醸成する必要性と自ら安心安全な場づくりを行うためのスキルも養う。	
第十一講・第十二講		
概要	共感とコンパッション の理論と実践	
事前,事後学習ポイント	前回授業で学んだ内容を日々の業務、生活で日々実践する	
詳細	組織のおける必要性が注目されている共感とコンパッションの理論やその習得、向上のための実習を行う。 また、実際のケースを用いて、困難なコミュニケーションの場面において、リーダーとしてどのような在り方で状況を向き 合っていくか、学ぶ。	
第十三講・第十四講		
概要	リーダーシップジャーニーの探求	
事前,事後学習ポイント	前回授業で学んだ内容を日々の業務、生活で日々実践する	
詳細	リーダーとしての中心軸となる価値観やパーパスを明確にし、今後のビジョンを描いていく。 自分の思考、行動、感情のパターンについての自己認識も深め、今後のリーダーとしての中心軸と手放すべき自分のパター ンを振り返り、リーダーとしての旅路(ジャーニー)を探求する。	
第十五講・第十六講		
概要	リーダーシップの宣言と対話	
事前,事後学習ポイント	リーダーシップスタイルと自身の価値観、パーパース、ビジョンをまとめる	
詳細	自分がこれからとるべきリーダーシップスタイルと自身の価値観、パーパース、ビジョンをライフストーリーをベースにナラティブの手法も取り入れ、プレゼンテーションする。 合わせて、受講生同士のジャーニーを振り返り、対話する。	

教科書 / Textbook	適宜、講義資料を配布する。
指定図書 / Course Readings	無し
参考文献・参考URL / Reference List	オーセンティック・リーダーシップ (ハーバード・ビジネス・レビュー編集部:ダイヤモンド社) マインドフルネス (ハーバード・ビジネス・レビュー編集部:ダイヤモンド社) 共感力 (ハーバード・ビジネス・レビュー編集部:ダイヤモンド社) セルフアウェアネス (ハーバード・ビジネス・レビュー編集部:ダイヤモンド社) マインドフル・リスニング (ハーバード・ビジネス・レビュー編集部:ダイヤモンド社) マインドフルネスが最高の人材とチームをつくる (荻野淳也:かんき出版) サーチ・インサイド・ユアセルフ (チャディ・メン・タン:英治出版) Compassion(コンパッション) (ジョアン・ハリファクス:英治出版) True North リーダーたちの羅針盤 (ビル・ジョージ:生産性出版) 本当の勇気は「弱さ」を認めること (ブレネー・ブラウン:サンマーク出版)

評価方法 / Method of Evaluation		
配分(合計100%)	出席:グループワーク:レポート:プレゼンテーション=30:20:30:20	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A·」(100~90 点):	自己認識力とセルフマネジメント力を基盤に、自身の内発的動機に基づき、共感を発揮し、心理的安全性に基づいたリーダ ーシップが発揮できる	
評価「A」(89~80点):	自己認識力とセルフマネジメント力を基盤に、自身の内発的動機に基づき、共感を発揮し、自身オリジナルのリーダーシップが発揮できる	
評価「B」(79~70点):	自己認識力とセルフマネジメント力を基盤に、自身の内発的動機に基づいたリーダーシップを発揮しようとしている	

評価「C」(69~60点):	自己認識力とセルフマネジメント力を身に付け、リーダーシップを発揮しようとしている
評価「F」(59点以下):	積極的な非認知スキルに基づく自らのリーダーシップを発揮しようとしていない

留意点 / Additional	クラスへ出席した上で、積極的に、クラスにおけるグループワークや対話やワークの実践、また、自己を振り返るためにも
Information	レポートを提出すること

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	ファイナンス基礎 (経営財務)		
サブタイトル / Sub Title	ファイナンス(企業金融)の基礎を学ぶ		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Finance I		
教員 / Instructor	宇佐美 洋	E-mail	usami@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	ファイナンス&ガバナンス	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	企業金融に関する問題発見とその解決のアプロ 成など、ファイナンスの基礎知識に習熟し課題		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーでのDP1:「知識と理解」および「知の再武装」を達成するために、企業金融や財務分析の背景にある基礎知識や重要な概念を丁寧に説明する。また、金融、財務、会計、事業評価、リスクマネジメントの「仕組み」も把握し、資金調達や投資判断の応用力も身につける。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、プレゼン テーション、ディベート	学外学習 / Off-Campus Learning	無

的な学習内容

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体 教科書の該当する章を読み、併せて使われているファイナンスの基礎概念も確認して予習し (約90分)、教科書章末問題により復習(約30分)をする。

授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	パーソナルファイナンスとコーポレートファイナンス 会社と財務諸表分析入門	
事前,事後学習ポイント	教科書まえがきおよび第1章と2章に目を通して予習、演習問題による復習	
詳細	① 企業の4形態、企業の所有と支配 ② 株式市場 ③ 財務諸表入門(貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書)	
第三講・第四講		
概要	無裁定価格と財務意思決定意思決定の評価法、貨幣の時間的価値	
事前,事後学習ポイント	教科書第3章および4章に目を通して予習、演習問題による復習	
詳細	① 裁定と一物一価の法則 リスクの価格、取引費用と裁定 ② お金の時間的価値、キャッシュフロー流列 ③ 現在価値、将来価値	
第五講・第六講		
概要	利子率、投資の意思決定法 利子率の表示と調整、決定要素、現在価値法ほか	
事前,事後学習ポイント	教科書第5章および6章に目を通して予習、演習問題による復習	
詳細	① 利子率の決定要素、リスクおよび税金② 資本の機会費用③ N P V と独立したプロジェクト④ 内部収益率法 回収期間法	
第七講・第八講		
概要	資本予算の基礎、債券評価 利益の予測、フリーキャッシュフロー、債券価格および利回り、イールドカーブ	
事前,事後学習ポイント	教科書第7章および8章に目を通して予習、演習問題による復習	
詳細	① 収益と費用の推定、増分利益予測、 ② サンクコスト、 ③ 債券価格の動的変化 イールドカーブと裁定取引	
第九講・第十講		
概要	株式評価 資本市場のリスクの価格付け、情報と株価	

事前,事後学習ポイント	教科書第9章および10章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	① 配当割引モデルの適用、 ② 総還元モデル、フリーキャッシュフローモデル ③ リスクとリターン ④ システマティックリスク
第十一講・第十二講	
概要	最適ポートフォリオの選択と資本資産評価モデル、資本コストの推定 ポートフォリオの期待収益率、無リスク預金と借入、資本資産評価モデル
事前,事後学習ポイント	教科書第11章および12章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	① ポートフォリオの期待収益率、無リスク預金と借入、 ② 資本資産評価モデル、 ③ リスクプレミアムの決定、ベータの推定
第十三講・第十四講	
概要	投資行動と資本市場の効率性市場の効率性
事前,事後学習ポイント	教科書第13章および14章に目を通して予習、演習問題による復習
詳細	① 情報と合理的期待、② 個人投資家の行動とシステマティックな取引バイアス③ 市場ポートフォリオの効率性④ マルティファクターモデル
第十五講・第十六講	
概要	負債と税 支払利息と税金控除
事前,事後学習ポイント	教科書第15章に目を通し予習、演習問題による復習
詳細	① 支払利息節税枠の評価 ② 税の下での最適資本構成

教科書 / Textbook	「コーポレートファイナンス:入門編」バーク・ディマーゾ著、ピアソン、2011年 "Corporate Finance,2nd.Ed"Berk/DeMarzo, Pearson Education,2011
指定図書 / Course Readings	「コーポレート・ファイナンス」荒井・高橋・芹田著、中央経済社、2016年、
参考文献・参考URL / Reference List	「パーソナルファイナンス」アルトフェスト著伊藤他訳、日本経済新聞社、 「FPテキスト パーソナルファイナンス」日本FP協会

評価方法 / Method of Evaluation		
配分(合計100%)	出席(30%)プレゼンテーション(40%)、ディスカッション(30%)	
評価基準 / Evaluation Criteria	評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A・」(100~90 点):	企業金融の知識を利用し問題抽出、課題設定、定式化、分析、提案が行える。	
評価「A」(89~80点):	企業金融の知識を利用し問題抽出、課題設定、定式化、分析が行える。	
評価「B」(79~70点):	企業金融の知識を利用し問題抽出、課題設定、定式化が行える。	
評価「C」(69~60点):	企業金融の知識を利用し問題抽出、課題設定が行える。	
評価「F」(59点以下):	企業金融の知識を利用し問題抽出か課題設定のいずれかしかできない。	

留意点 / Additional	本講義はCFP®認定教育プログラムとなっている。
Information	秋学期の「ファイナンス基礎Ⅱ」と連続して受講するのが望ましい。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	ファイナンス基礎 II(リスクマネジメント)		
サブタイトル / Sub Title	企業金融の新しい考え方を学ぶ		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Finance II		
教員 / Instructor	宇佐美 洋	E-mail	usami@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	ファイナンス&ガバナンス	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	企業金融とリスクマネジメントに関する問題発 企業再編、コーポレートガバナンスの例を考え ける。		*
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーでのDP2:「思考と判断」まの新しい方法を学ぶ。コーポレートガバナンスどを利用したリスク管理手段を身につける。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、プレゼン テーション、ディベート	学外学習 / Off-Campus Learning	無

教科書の該当する章を読み、併せて使われているファイナンスの基礎概念も確認して予習し(約90分)、教科書章末問題により復習(約30分)をする。

cription	
財務危機、インセンティブ、情報、シグナリング	
教科書の第16章と17章に目を通して予習、演習問題による復習	
① 財務危機と経営者のインセンティブ、② 情報の非対称性とエイジェンシー問題、③ 配当政策、④ 配当のシグナリング効果	
資本予算と企業評価 加重平均資本コスト法(WACC法)、APV法	
教科書第18章および19章に目を通して予習、演習問題による復習	
 ① 加重平均資本コスト法(WACC法)の使い方 ② APV法の使い方 ③ ファイナンスモデルの作成法 	
オプション 金融オプション、プット・コール・パリティ、オプション価格評価	
教科書第20章および21章に目を通して予習、演習問題による復習	
 金融オプションの基礎 プット・コール・パリティの理解 オプション価格評価の基礎 二項モデル、ブラック・ショールズ・モデル 	
リアルオプション、リース契約 決定樹による分析	
教科書第22章および25章に目を通して予習、演習問題による復習	
① リアルオプションとは、決定樹による分析、② 延期オプション、成長オプション、撤退オプション③ リース契約のエッセンス	
	財務危機、インセンティブ、情報、シグナリング

運転資本管理、短期ファイナンスプラニング

企業間信用、銀行融資

概要

事前,事後学習ポイント	教科書第26章および27章に目を通して予習、演習問題による復習	
詳細	① 運転資本管理、 ② 企業間信用、売掛金・買掛金管理、棚卸資産・現金管理 ③ 銀行融資による短期資金調達、 ④ コマーシャルペーパー	
第十一講・第十二講		
概要	M & A 、コーポレートガバナンス M & A の歴史、買収プロセス、買収防衛策	
事前,事後学習ポイント	教科書第28章および29章に目を通して予習、演習問題による復習	
詳細	① M & A の歴史② 買収に対する市場反応③ 買収プロセス、買収防衛策④ コーポレート・ガバーナンス	
第十三講・第十四講		
概要	リスクマネジメント 保険、商品価格変動リスク、為替リスク、金利リスク情報	
事前,事後学習ポイント	教科書第30章に目を通して予習、演習問題による復習	
詳細	① 保険の仕組みと保険料の算出② 商品価格変動リスク管理と先物③ 為替リスク管理と先渡しとオプション④ 金利リスク管理とイールドカーブ	
第十五講・第十六講		
概要	国際コーポレートファイナンス 国際的に統合された資本市場	
事前,事後学習ポイント	教科書第31章に目を通し予習、演習問題による復習	
詳細	① 外貨建てキャッシュフローの評価② 価値評価と国際税制③ 為替リスクを伴う資本予算	
教科書 / Textbook	「コーポレートファイナンス:応用編」バーク・ディマーゾ著、ピアソン、2011年、 "Corporate Finance,2nd.Ed"Berk/DeMarzo, Pearson Education,2011	
指定図書 / Course Readings	「コーポレート・ファイナンス」荒井・高橋・芹田著、中央経済社、2016	
参考文献・参考URL / Reference List	「パーソナルファイナンス」アルトフェスト著伊藤他訳、日本経済新聞社、 「FPテキスト リスクマネジメント」日本FP協会	
評価方法 / Method of Evaluat	ion	
配分(合計100%)	出席(30%)プレゼンテーション(40%)、ディスカッション(30%)	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	事業評価およびリスクマネジメント手法を利用し、問題設定、課題設定、定式化、分析、提案が行える。	
評価「A」(89~80点):	事業評価およびリスクマネジメント手法を利用し、問題設定、課題設定、定式化、分析が行える。	
評価「B」(79~70点):	事業評価およびリスクマネジメント手法を利用し、問題設定、課題設定、定式化が行える。	

留意点 / Additional Information	本講義はCFP®認定教育プログラムとなっている。 春学期の「ファイナンス基礎I」と連続して受講するのが望ましい。春学期受講してない場合は、上記指定図書にて同時並行 的に基礎概念を学ぶこと。

事業評価あるいはリスクマネジメント手法を利用し、問題設定か課題設定のいずれかしかできない。

事業評価およびリスクマネジメント手法を利用し、問題設定、課題設定が行える。

評価「C」(69~60点):

評価「F」(59点以下):

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	法の経済分析入門		
サブタイトル / Sub Title	MBAに必要な基礎科目と法律の効率的な学習法	<u></u>	
英文科目名 / Course Title (Eng.)	An introduction to the economic analysisof la	w	
教員 / Instructor	宇佐美 洋	E-mail	usami@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	ファイナンス&ガバナンス	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	経営の意思決定・ゲーム理論、会計・ファイナ な科目を短期間で効率的に身に付けるためには 点の分析方法(法の経済分析)をまず身に付け	、一見、無関係にみえるが、実	は新しい経済学の考え方を使った一貫した視
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーのDP1:「知識と理解」、D営者・ビジネスマンにとっては必須であり、Mなどの基礎知識を学ぶ。またそれを応用した、る。	BAの学習にとってもなくては	ならない経済学、会計、ファイナンス、統計
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、プレゼン テーション、ディベート、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	無

的な学習内容

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体 テキストの読解に必要な経済学、法律、ファイナンス、会計の基礎概念を含めた予習(約90 分)と、テキストのケーススタディにより復習(約30分)する。

45 O. 5 EL 5 E			
授業の概要 / Course Descr	iption		
第一講・第二講			
概要	「法の経済分析」入門 法律や組織や制度など広い意味でのビジネスルールを理解するために、「経済学的」視点が、なぜ重要なのか?		
事前,事後学習ポイント	教科書第1章に目を通して予習、下記指定図書「法と経済学入門」でポイントの復習		
詳細	①経済学の「取引費用」を使った契約、不法行為、所有権、株式会社など具体事例を使った説明。 ②「決定分析」を使った経営の意思決定の方法の学習。		
第三講・第四講			
概要	新しい経済学 ゲーム理論、取引費用の経済学、情報の経済学、契約の経済学、行動経済学		
事前,事後学習ポイント	教科書第2章に目を通して予習、講義後はポイントの整理・復習		
詳細	① 「囚人のジレンマ」などゲーム理論の基礎、 ② 「逆選択」「モラルハザード」など情報の経済学の基礎 ③ 2016年ノーベル経済学賞と契約の経済学		
第五講・第六講			
概要	契約の実際、簿記・会計・財務分析の基礎 必要最低限の簿記・会計の知識		
事前,事後学習ポイント	教科書第3章および4章に目を通して予習、講義後はポイントの整理・復習		
詳細	 契約作成の基本原則など具体的契約の実際 簿記・会計の基礎知識の習得 財務分析の基礎 		
第七講・第八講			
概要	ファイナンスの基礎、ミクロ経済学のエッセンス 企業経営、投資分析、ファイナンス・ミクロ経済学の基本		
事前,事後学習ポイント	教科書第5章および6章に目を通して予習、また講義後はポイントの整理・復習		
詳細	① 投資評価や企業評価などファイナンスの基礎、 ② 市場分析、価格分析などミクロ経済学のエッセンス		
第九講・第十講			
 概要	ミクロ経済とルール分析(外部性、公共財、厚生経済学)、財産法の経済分析		
事前,事後学習ポイント	教科書P. 323-365に目を通して予習、講義後はポイントの整理・復習		

詳細	① ミクロ経済学の概念である外部性、公共財、厚生経済学などとルール分析の関係 ② 財産法(知的財産法を含む)の経済分析	
第十一講・第十二講		
概要	不法行為法の経済分析、契約の経済分析 経済活動と不法行為法の経済分析、完備契約と不完備契約	
事前,事後学習ポイント	教科書P. 366-403に目を通して予習、講義後はポイントの整理・復習	
詳細	① ビジネスおよび経済活動と不法行為法の関係の経済分析、 ② 不完備契約理論を使った契約の本質	
第十三講・第十四講		
概要	民事訴訟法の経済分析、公的機関による法の実現、刑法の経済分析、統計分析その他の法律分野の経済分析、一変数の統計 分析	
事前,事後学習ポイント	教科書 P. 403-474に目を通して予習、講義後はポイントの整理・復習	
詳細	① 訴訟の提起から判決まで(民事訴訟法の経済分析) ② 公的機関による法の実現(罰金刑、自由系、隔離)と刑法 ③ 法の経済分析のための統計分析の基礎	
第十五講・第十六講		
概要	多変数統計法経済分析のための統計	
事前,事後学習ポイント	教科書P. 475-517に目を通し予習、講義後はポイントの整理・復習	
詳細	二変数統計、重回帰分析など統計分析応用編	

教科書 / Textbook	「数理法務概論」H.ジャクソン/S.シャベル他著、有斐閣、2014年 "ANALYTICAL METHODS FOR LAWYERS, 2ND. ED. "Jackson/Kaplow, West Academic Publication、2003
指定図書 / Course Readings	「ミクロ経済学1と2」ピンダイク&ルビンフェルド、中経出版、2014年 「財務諸表分析(第8版)」桜井久勝著、中央経済社、2020年 「法と経済学の基礎と展開ー民事法を中心に」細江守紀編、勁草書房、2020年
参考文献・参考URL / Reference List	「FPテキスト 不動産運用設計」日本FP協会

評価方法 / Method of Evaluation	
配分(合計100%)	出席(30%)プレゼンテーション(40%)、ディスカッション(30%)
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A·」(100~90 点):	法の経済分析を利用し、問題抽出、課題設定、分析、評価、提案が行える。
評価「A」(89~80点):	法の経済分析を利用し、問題抽出、課題設定、分析、評価が行える。
評価「B」(79~70点):	法の経済分析を利用し、問題抽出、課題設定、分析が行える。
評価「C」(69~60点):	法の経済分析を利用し、問題抽出、課題設定が行える。
評価「F」(59点以下):	法の経済分析を利用し、問題抽出か課題設定のいずれかしかできない。

留意点 / Additional	本講義はCFP®認定教育プログラムとなっている。
Information	とくに履修の前提となる法律や経済学の基礎知識は求めない。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	組織と戦略の経済学		
サブタイトル / Sub Title	組織設計と戦略策定のための理論		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Economics of organization and strategy		
教員 / Instructor	宇佐美 洋	E-mail	usami@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	ファイナンス&ガバナンス	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	経営の組織、戦略、ガバナンスといった中心的課題についての経済学の新しいアプローチを学ぶ。経済学の視点から「企業」や「組織」や「戦略」や「ガバナンス」といった重要課題はどう捉えられるかを学び、経済理論と経営実務の両方の視点から経営の実際のとらえ方に習熟する。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーのDP2:「思考と判断」および「知の再武装」の強力な武器として、経済学の視点を使った戦略や組織や ガバナンスに対する新しい見方を習得し、経営実践に生かす技術に習熟する。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、プレゼン テーション、ディベート	学外学習 / Off-Campus Learning	無し

的な学習内容

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体 テキストの読解に必要な経済学基礎概念の学習を含めた予習(約90分)とテキスト章末の問 題を復習(約30分)することが必要である。

73 0. 3 11 3 11		
授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	経営戦略のための経済学、企業の水平境界 企業理論を経済学と結びつける	
事前,事後学習ポイント	教科書まえがきおよび第1章と2章に目を通して予習、演習問題による復習	
詳細	① 近代企業の発展を歴史的に振り返る。 ② 企業の水平境界とは何か ③ 規模の経済性と範囲の経済性	
第三講・第四講		
概要	業の垂直境界、市場での取引費用 企業の基礎、経済学的な「取引費用」概念の準用性	
事前,事後学習ポイント	教科書第3章および4章に目を通して予習、演習問題による復習	
詳細	① 外部市場を使うコストと企業の垂直境界② 技術革新と企業の境界の進化③ 経済学的な「取引費用」④ 契約と市場取引	
第五講・第六講		
概要	垂直境界の編成、多角化 技術効率、エイジェンシー効率、資産の所有権、多角化	
事前,事後学習ポイント	教科書第5章および6章に目を通して予習、演習問題による復習	
詳細	① 技術効率とエイジェンシー効率 ② 垂直統合と資産の所有権 ③ 多角化の程度と合理性	
第七講・第八講		
概要	市場と競争戦略 競争相手と競争、戦略的コミットメント	
事前,事後学習ポイント	教科書第7章および8章に目を通して予習、演習問題による復習	
詳細	① 競争相手の特定と市場の定義② 市場構造の測定③ 戦略的コミットメント④ 柔軟性とオプションの価値	
第九講・第十講		
概要	競争優位の戦略ポジショニング 持続的競争優位	

事前,事後学習ポイント	教科書第12章および13章に目を通して予習、演習問題による復習	
詳細	 競争優位 価値創出 持続的競争優位 不完全な模倣可能性と業界の均衡 	
第十一講・第十二講		
概要	競争優位の源泉 インセンティブとエージェンシー	
事前,事後学習ポイント	教科書第14章および15章に目を通して予習、演習問題による復習	
詳細	① 創造的破壊② 進化経済学と動的ケイパビリティ③ エイジェンシー関係④ 社内労働市場	
第十三講・第十四講		
概要	戦略と組織構造パワーと企業文化	
事前,事後学習ポイント	教科書第16章および17章に目を通して予習、演習問題による復習	
詳細	① 組織構造の概要 ② コンティンジェンシー理論 ③ 組織は戦略に従う ④ パワーと企業文化	
第十五講・第十六講		
概要	戦略とジェネラルマネジャー	
** ** **********	教科書第18章に目を通し予習、演習問題による復習	
事前,事後学習ポイント		

教科書 / Textbook	「戦略の経済学」ベサンコ・ラノブ・シャンリー著、ダイヤモンド社、2002年 "Economics of Strategy, 2nd. Ed."Besanko/Dranove/Shsanley, John Wiley & Sons,2000
指定図書 / Course Readings	「組織の経済学」ミルグロム/ロバーツ、NTT出版、1997 「経営の経済学;第3版」丸山著、有斐閣、2017
参考文献・参考URL / Reference List	「会社法(第3版」田中亘著、東京大学出版会、2016年、 「パーソナルファイナンス」アルトフェスト著伊藤他訳、日本経済新聞社 「FPテキスト 相続・事業承継設計」日本FP協会

評価方法 / Method of Evaluation	
配分(合計100%)	出席(30%)プレゼンテーション(40%)、ディスカッション(30%)
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A・」(100~90 点):	経営学と経済学の両方の視点から問題抽出、課題設定、分析、評価、提案が行える。
評価「A」(89~80点):	経営学と経済学の両方の視点から問題抽出、課題設定、分析、評価が行える。
評価「B」(79~70点):	経営学と経済学の両方の視点から問題抽出、課題設定、分析が行える。
評価「C」(69~60点):	経営学と経済学の両方の視点から問題抽出、課題設定が行える。
評価「F」(59点以下):	経営学カ経済学の片方の視点かしか問題抽出あるいは課題設定しか行えない。

留意点 / Additional	本講義はCFP®認定教育プログラムとなっている。
Information	履修の前提となる経済学、ファイナンス、会計の基礎知識は求めない。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	企業会計·簿記入門(CFP)		
サブタイトル / Sub Title	社会人のための会計基礎知識		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Basic and practical knowledge ofaccounting for business person		
教員 / Instructor	井村 順子	E-mail	imura-j@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	ファイナンス&ガバナンス	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	企業の財務内容を理解し財務諸表を活用することはビジネス活動を行う上で不可欠な要素である。本講義では、企業会計の 基礎と実務上の論点を同時に学ぶ、さらに、これらを活用するための基礎知識を身に着けるとともに最近のディスクロージャー制度の潮流を学ぶ。		
到達目標 / Course Goals	財務諸表の基本的な理解に始まり、重要論点を各回に学ぶとともに、最終的にはディスクロージャー制度を理解し、そこで得た財務情報を活用する能力を身につける。 会計に関する基礎知識を身につけることは、財務情報の作成者である経営者として経営の判断に資する大局的な視点及び鋭い洞察力を醸成すること、あるいは、財務情報の利用者として経営を評価する視点や財務諸表を読む際の着眼点を醸成することとなる。ディプロマポリシーでのDP1:「知識と理解」及びDP2:「思考と判断」を達成し、知の再武装を図る。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

第九講・第十講

・個別論点~引当金

事前学習:事前課題について塾考すること、関連する図書等を熟読すること (60分) 事後学習:各回のポイントをレジュメで確認及び整理すること (60分) により、関連する講 義に応用すること

	33,1-70/13 / 3 C C		
授業の概要 / Course Desc	crintian		
	STIPHOT		
第一講・第二講			
概要	財務諸表とは何か		
事前,事後学習ポイント	教科書を通読し、基本的な財務諸表の役割を理解する	教科書を通読し、基本的な財務諸表の役割を理解する	
詳細	1. 貸借対照表と損益計算書の基本的な仕組みや役割を理解する2. 簿記の基本的な仕組みを理解し、勘定科目間の連動を理解するグループディスカッション: 現時点での各自の業務における財務諸表の有用な活用方法		
第三講・第四講			
概要	個別論点~収益認識		
事前,事後学習ポイント	教科書を通読し、なぜ収益認識が重要なのかを考える		
詳細	1. 収益認識にかかる新基準について理解する 2. 収益認識の新基準の論点を理解する グループディスカッション:公表されている上場会社の財務諸表を例に、当該会社における収益の認識、疑問を持った点に ついて発表し、収益認識の重要性について考える		
第五講・第六講			
概要	個別論点~棚卸資産、原価計算の基礎		
事前,事後学習ポイント	教科書を通読し、棚卸資産にかかる論点を考える		
詳細	1. 棚卸資産の取得価額の構成と流れを理解する 2. 棚卸資産の払出数量の把握方法及び払出単価の決定方法を理解する 3. 変動費、固定費、損益分岐点分析を理解する		
第七講・第八講			
概要	個別論点~固定資産にかかる会計と固定資産の減損		
事前,事後学習ポイント	教科書を通読し、固定資産にかかる論点を考える		
詳細	1. 固定資産の種類を理解する 2. 有形固定資産については減価償却方法を理解する 3. 減損会計の概要を理解する グループディスカッション:固定資産の種類及び減損会計の意義について考えたこと する	とを発表し、固定資産会計の論点を把握	
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		

概要	・キャッシュ・フロー計算書	
事前,事後学習ポイント	・教科書を通読し、引当金の概要にかかる論点を考える ・キャッシュ・フロー計算書の役割を考える	
詳細	1. 引当金の要件を理解する 2. キャッシュ・フロー計算書の作成方法の基礎を理解するとともに、貸借対照表及び損益計算書との関連を理解する グループディスカッション:引当金の意義について考えたことを発表し、引当金の論点について考える。キャッシュ・フロー計算書の活用方法について共有する	
第十一講・第十二講		
概要	個別論点~税効果会計、タックスプランニング	
事前,事後学習ポイント	教科書を通読し、税効果会計の概要にかかる論点を考える	
詳細	1. 法人税の納付や申告の流れを理解する(タックスプラニングと会計について理解)2. 税効果会計の必要性及び主要な論点を理解する3. 繰延税金資産の回収可能性について理解するグループディスカッション:会計上と税務上の処理の相違点について考えたことを発表し、税効果会計の意義を把握する	
第十三講・第十四講		
概要	連結財務諸表	
事前,事後学習ポイント	教科書を通読し、連結財務諸表の役割を考える	
詳細	1. 連結財務諸表の役割を理解する 2. 連結財務諸表の特有の勘定科目やセグメント情報等の活用方法を理解する グループディスカッション:連結財務諸表と個別財務諸表の相違点、連結財務諸表の活用法と意義について考えたことを発表し、共有する	
第十五講・第十六講		
概要	ディスクロージャー制度	
事前,事後学習ポイント	最近のディスクロージャー制度の動向を把握するとともに、財務会計の意義について考える	
詳細	1. ディスクロージャー制度の体系を理解する 2. 最近のディスクロージャー制度の動向やトピックを理解する グループディスカッション:ディスクロージャー制度の有効な活用方法について考えたことを発表し、共有する	

教科書 / Textbook	財務会計講義 桜井久勝(中央経済社)
指定図書 / Course Readings	タックスプランニング(日本 F P 協会)
参考文献・参考URL / Reference List	・EDINET (金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム) http://disclosure.edinet-fsa.go.jp/ ・図解財務3表のつながりでわかる会計の基本 國貞克則(ダイヤモンド社) ・「専門家」以外の人のための決算書&ファイナンスの教科書 西山茂(東洋経済社) ・実学 稲盛和夫(日本経済新聞出版社) ・会計の世界史 田中靖浩(日本経済新聞出版社) ・注文の多い料理店で学ぶ収益認識会計 金子裕子・植野和宏(中央経済社)

評価方法 / Method of Evaluation		
配分(合計100%)	出席(30%)、授業内での議論参加(40%)、レポートの内容(30%)	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	重要な会計上の論点を的確にとらえ、関連する実務上の課題を自らの視点で考察し、優れた点が見られる。	
評価「A」(89~80点):	重要な会計上の論点を的確にとらえ、関連する実務上の課題を自らの視点で考察することができる。	
評価「B」(79~70点):	重要な会計上の論点について理解し、関連する実務上の課題を考察することができる	
評価「C」(69~60点):	いくつかの重要な会計上の論点について理解することができる。	
評価「F」(59点以下):	重要な会計上の論点について理解が不足しており、一定の水準に達していない。	

Information	・本講義はCFP®認定教育プログラムとなっている。 ・レポートについてはメールでフィードバックを行う。 ・企業会計の基礎を学ぶ講義である。
-------------	---

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	財務分析		
サブタイトル / Sub Title	財務諸表分析を通じた企業価値の評価		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Financial Analysis		
教員 / Instructor	井村 順子	E-mail	imura-j@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	ファイナンス&ガバナンス	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	企業が公表している財務情報や非財務情報を活用して、企業の収益性、生産性、安全性、成長性等の観点から、多角的に企 業価値を評価する手法を学ぶ		
到達目標 / Course Goals	ディスクロージャー制度の理解を基礎として、金融商品取引法のもとで公表されている財務情報及び非財務情報を活用して企業を評価する能力を身につける。 持続的な成長と中長期的な企業価値の向上は企業の使命であり、経営戦略を達成するための経営指標及び企業価値の評価は手法を正しく理解することは、財務情報を作成する経営者、経理および財務に従事している者並びにこれらの情報を利用る投資家だけでなく、すべてのビジネスパーソンにとって有用であり、ディプロマポリシーでのDP1:「知識と理解」及びDP2:「思考と判断」を達成し、知の再武装を図る。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループワーク	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

事前学習:講義に関連する教科書の章を通読すること(60分)

事後学習:各回のポイントを確認及び整理すること(30分)、講義に関連する教科書の章を再読すること(30分)、講義に関連する財務指標を用いて特定の企業の分析を試みること(30分)

授業の概要 / Course Desci	ription		
第一講・第二講			
概要	財務諸表の見方		
事前,事後学習ポイント	事前:教科書を通読し、財務諸 事後:教科書やレジュメの通読		
詳細	・ディスクロージャー制度を理 ・財務諸表の役割と仕組みを理	解する 解する(貸借対照表、損益計算書)	
第三講・第四講			
概要	・財務諸表の見方(続き) ・財務諸表分析の視点と方法		
事前,事後学習ポイント		事前:教科書を通読し、講義の概要を理解する 事後:教科書やレジュメの通読	
詳細	・財務諸表の役割と仕組みを理解する(キャッシュ・フロー計算書、会計方針の注記) ・分析の視点及び分析の方法 グループワーク:公表されている上場会社の有価証券報告書等を参照し、利用されている経営指標を考察する		
第五講・第六講			
概要	収益性の分析		
事前,事後学習ポイント	事前:教科書を通読し、講義の 事後:教科書やレジュメの通読		
詳細		・ROA、ROE、ROICを中心に、その意味を理解する ・ROA、ROE、ROICを比較する	
第七講・第八講			
概要	収益性の分析(続き)		
事前,事後学習ポイント	事前:教科書を通読し、講義の 事後:教科書やレジュメの通読		
詳細	・資本コストの意味を理解する ミニテスト:収益性の分析に関	するミニテスト	
第九講・第十講			

生産性及び安全性の分析

概要

事前,事後学習ポイント	事前:教科書を通読し、講義の概要を理解する 事後:教科書やレジュメの通読		
詳細		性の関係、付加価値の計算方法等) 、貸借対照表に基づく古典的指標等)を理解する	
第十一講・第十二講			
概要	不確実性によるリスクの分析及	び成長性の分析	
事前,事後学習ポイント	事前:教科書を通読し、講義の 事後:教科書やレジュメの通読		
詳細	・費用構造が利益変動に及ぼす影響(損益分岐点分析)について理解する ・財務レバレッジに起因するリスクについて理解する ・成長性の指標及び1株当たり利益の成長について理解する		
第十三講・第十四講			
概要	これまでの講義の振り返り及び	・ グループワーク	
事前,事後学習ポイント	事前: 教科書及びこれまでのレジュメを通読する 事後: 教科書やレジュメを通読する		
詳細	・これまで講義のポイントを振り返る ・公表されている企業の財務情報等を活用し、グループごとに企業の経営戦略と重要業績指標であるKPIから読みとれる企業 価値創造ストーリーをディスカッションする		
第十五講・第十六講			
概要	グループワークの発表		
事前,事後学習ポイント	グループごとに発表内容をまと	める	
詳細	・グループワークの内容を発表する・他のグループの発表について、別のグループがフィードバックを行う		

教科書 / Textbook	財務諸表分析 桜井久勝(中央経済社)	
指定図書 / Course Readings	該当なし	
参考文献・参考URL / Reference List	・「専門家」以外の人のための決算書&ファイナンスの教科書 西山茂 東洋経済新報社 ・企業価値を創造する会計指標入門 大津広一 ダイヤモンド社 ・EDINET(金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム) http://disclosure.edinet-fsa.go.jp/	

評価方法 / Method of Evaluation		
配分(合計100%)	授業内での議論参加(50%)、グループ発表(40%)、ミニテスト(10%)	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	財務分析を的確にとらえ、自らの視点で多角的に卓越した考察を行うことができる	
評価「A」(89~80点):	財務分析を的確にとらえ、自らの視点で一定の水準の活用ができる	
評価「B」(79~70点):	財務分析全般について理解し、部分な活用はできる	
評価「C」(69~60点):	財務分析全般について一定の理解はしているが、活用にはまだ継続的な学習が必要である	
評価「F」(59点以下):	財務分析について理解が不足しており、一定の水準に達していない	

留意点 / Additional	当該講義の理解を深めるため、	「企業会計・簿記入門」を事前に受講しておくことを推奨する(一定の会計に関する知識の	
Information	ある場合はこの限りではない)		

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	行動経済学		
サブタイトル / Sub Title			
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Behavioral Economics		
教員 / Instructor	真壁 昭夫	E-mail	makabe.akio@gmail.com
科目群 / Course Classification	ファイナンス&ガバナンス	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	本講義は、世界的に注目を集めている行動経済学の主要な理論を学ぶことを目的とする。本理論を学習し、ディスカッションなどを行うことを通して、現実に起きている経済(個人の消費や企業経営など)金融市場の変化や、個人の資産形成の在り方などを受講生自ら考察し、見解を提示することを目指す。また、得られた知見を実務、日常生活などに役立てることも重視する。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーでのDP1:「知識と理解」、および、DP2: 「思考と判断」を達成するために 行動経済学の主要な理論 (具体的にはプロスペクト理論など)を理解する。また、ノーベル経済学賞を受賞したナッジの理論なども紹介する。習得 した理論をもとに、実際に経済・金融市場などで発生している現象を分析し、経済・金融市場環境などの洞察力を高め、実 務上の意思決定などに応用すること等を目指す。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、 グループワーク、プレゼンテーション、双方 向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

事前,事後学習ポイント

事前学習:予習に十分な時間をとること(2時間程度)

事後学習:毎授業後に受講者間で当日、および次回のプレゼンテーションの内容を確認、準備を行うこと(2 時間程度)

授業の概要 / Course Desci	ription			
第一講・第二講				
概要	イントロダクションと行動経済	 等学の基本概念		
事前,事後学習ポイント	行動経済学の基本的な概念、目	目的の確認		
詳細	日々の経済活動や金融市場の変 論などを紹介する。また、伝統	イントロダクションとして受講生の問題意識などを確認する。 日々の経済活動や金融市場の変化には、人間の"心理"が大きく影響している。行動経済学の基本的な考え方、中核となる理論などを紹介する。また、伝統的な経済学の理論との相違点なども確認する。その上で行動経済学の理論が日常の業務などにどう役立つと考えられるか、グループディスカッションを行う。		
第三講・第四講				
概要	行動経済学発展の歴史			
事前,事後学習ポイント	行動経済学の理論がどのように	行動経済学の理論がどのように発展してきたかを確認		
詳細	いつ、誰が、どのように行動経済学の理論構築に取り組み、理論が発展してきた、また、そうした研究がどのように評価され、ビジネスで実践されているかといった点を、発表を通して確認する。また、グループディスカッションなどを通して、理論発展の歴史と現在の状況への理解を深める。また、ナッジの理論も紹介する。			
第五講・第六講	'			
概要	行動経済学の最新理論とその応用①プロスペクト理論			
事前,事後学習ポイント	プロスペクト理論を確認			
詳細		行動経済学の中核的理論であるプロスペクト理論を学ぶ。プロスペクト理論を用いて金融市場や日常生活における実際の意思決定のあり方を具体的に考察し、グループディスカッションなどを通して理解を深める。		
第七講・第八講				
概要	行動経済学の最新理論とその応	- 5用②メンタル・アカウンティング		
事前,事後学習ポイント	メンタル・アカウンティングに	メンタル・アカウンティングに関する理論を確認		
詳細	プロスペクト理論の内容を復習しつつ、メンタル・アカウンティング=心理会計の理論を確認する。なぜ損失が出ているプロジェクトを続けてしまうかといったビジネス上の課題などに心理がどう影響しているかなどをグループディスカッションなどを通して考える。			
第九講・第十講	·			

行動経済学の最新理論とその応用③ヒューリスティック

ヒューリスティックに関する理論を確認

詳細	行動経済学におけるヒューリスティックに関する理論を確認する。また、日常生活やビジネスの中でヒューリスティックに 影響されているケースなどを受講者間で確認し、行動経済学が個人の行動様式を見直すことに役立つことなどグループディ スカッションなどを通して考える。		
第十一講・第十二講			
概要	行動経済学(ファイナンス)と金融市場の動き		
事前,事後学習ポイント	バブルの歴史などを確認		
詳細	行動経済学の長所は、バブルの発生過程を客観的に説明可能なことである。バブルの歴史を受講者間で確認し、行動経済学 の理論を用いてどのように金融市場を分析するかを、グループディスカッションなどを通して議論する。		
第十三講・第十四講			
概要	行動経済学と資金(資産)の運用		
事前,事後学習ポイント	株式投資など資金の運用に関する理論を確認		
詳細	"人生100年時代"を迎え、人生を安心して送るために、一人一人が自らの資金を積極的に運用する重要性は高まっている。行動経済学を用いた資産運用の考え方、それを応用した政策などを紹介する。また、グループディスカッションなどを通して行動経済学の理論がより良い投資の意思決定のためにどう役立つかなどを議論する。		
第十五講・第十六講			
概要	まとめ		
事前,事後学習ポイント	講義の総括を行い、疑問点、今後の行動経済学の展開を議論する		
詳細	講義で取り上げた行動経済学の主要な理論を再度確認し、今後の企業経営などにおいてどのような活用が考えられるか受講者間で議論する。また、現在注目を集めている行動経済学の研究などを紹介する。		
	т .		
教科書 / Textbook	イントロダクションで、受講者と相談して参考図書や論文などを選択する。		
指定図書 / Course Readings	なし		
参考文献・参考URL / Reference List	授業の進展に伴い、適切な参考図書等を選択する。拙著「行動経済学入門」(ダイヤモンド社)は有効な選択肢と考える。		
評価方法 / Method of Evaluat	ion		
配分(合計100%)	出席:ディスカッション:プレゼンテーション: クラス・パーティシペーション= 10:30:30:30		
評価基準 / Evaluation Criteria	1		
評価「A·」(100~90 点):	行動経済学の理論を理解ープレゼンテーションなどの課題設定 - 理論を用いた経済・金融市場の分析 - 課題に対する見解の 提示 - 実務への応用の検討が行える		
評価「A」(89~80点):	行動経済学の理論を理解ープレゼンテーションなどの課題設定ー理論を用いた経済・金融市場の分析ー課題に対する見解の 提示が行える		

評価「A」(89~80点):	行動経済学の理論を理解ープレゼンテーションなどの課題設定 - 理論を用いた経済・金融市場の分析 - 課題に対する見解の提示が行える	
評価「B」(79~70点):	行動経済学の理論を理解ープレゼンテーションなどの課題設定-理論を用いた経済・金融市場の分析が行える	
評価「C」(69~60点):	行動経済学の理論を理解ープレゼンテーションなどの課題設定が行える	
評価「F」(59点以下):	行動経済学の理論の理解が不十分(単位不可)	
留意点 / Additional Information	《読む·書く+聴く·話す》コミュニケーションスキルがビジネスのキーであるので議論には積極的に参画すること。初回の 講義で受講者の要望等を確認し、フレキシブルに対応する。ゲストスピーカーによる講義を予定。	

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	M&A戦略と実践企業ファイナンス		
サブタイトル / Sub Title	企業価値創造とM&A戦略のためのファイナンス		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Corporate Finance for Value Creationand M&A Strategy		
教員 / Instructor	中岡 英隆	E-mail	nakaoka@tmu.ac.jp
科目群 / Course Classification	ファイナンス&ガバナンス	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	企業のグローバル化が進み、日本企業においても国内外でのM&A戦略が経営上の最重要課題となっている。こうした企業の戦略的な投資や企業価値創造に関わる意思決定には、オプション理論を取り入れた最新の企業価値評価の手法が不可欠である。本講義では、伝統的なコーポレート・ファイナンスの基礎を概観した上で、会社法や契約、ビジネスモデルに織り込まれたオプションの仕組みを解き明かして、オプション理論を活用した投資戦略や株主価値、負債価値、資産価値、信用リスクの評価の手法を学ぶ。さらに、その実践的な応用を目指して、Excelを用いた演習として、事例に基づくオプション戦略の評価を行い、さらに、ケース・ワークにより企業の財務分析を行った上で、企業価値、負債コスト、デフォルト確率などを測定する演習を行う。また、最前線の企業活動のケースを読み解きながら、ファイナンスや経営資源、コーポレート・ガバナンスの視点から、マネジメントによる企業価値創造力やM&Aに対する市場の評価を理論的・実証的に分析し、M&Aの戦略・経済性について洞察を深める。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーのDP2:「思考と判断」と「知の再武装」、「情報収集能力と分析能力」を達成するために、伝統的なコーポレート・ファイナンスとコーポレート・ガバナンスやResource-Based Viewの経営戦略論などの視点を融合して、オプション理論を活用した投資戦略や株主価値、負債価値、企業価値、信用リスクの評価の手法を学ぶことにより、不確実性下における企業価値の評価やM&A戦略、マネジメントの価値創造力についての洞察力・実践力を高め、論理的思考力、総合的問題解決力を高める。さらに、ケース・ワークによる演習を通じて情報活用能力を高めるため、実際の企業買収や買収防衛策など最前線の企業活動にフォーカスして、自身でWebデータの収集や有価証券報告書の分析を行い、それらのデータとオプション評価モデルを使って投資戦略や企業価値、信用リスクの評価ができるようになることを目指す。また、マネジメントによる企業価値創造力やM&Aに対する市場の評価を理論的に分析し、実際のケースを通じてM&Aの戦略・経済性についての洞察を深めて、総合的問題解決力を高める。		
授業形態 / Form of Class	講義、プレゼンテーション、ディベート、双 方向、PBL型学習	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

的な学習内容

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体 レジュメ・資料・文献の熟読、プレゼン資料の作成、財務分析・データ解析の下調べ・復 習、レポート作成。(事前学習:2時間程度,事後学習:2時間程度)

的な子質内容	自、レハードドル。(争削子自・2时間住反,争後子自・2时間住反) 		
授業の概要 / Course Desci	ription		
第一講・第二講			
概要	M&Aの経済性と事業価値、 資本構成と配当政策		
事前,事後学習ポイント	レジュメの熟読、関連知識の予習・復習		
詳細	①M&Aの事例に基づく経済性評価、②事業価値の定義、③節税効果と最適資本構成、配当政策		
第三講・第四講			
概要	企業金融とガバナンス論、 オプションと企業価値		
事前,事後学習ポイント	レジュメの熟読、関連知識の予習・復習		
詳細	①ファイナンスの視点から解くコーポレート・ガバナンス、②会社法に潜むオプションの仕組みと企業価値の分析(発見学習、問題解決学習)		
第五講・第六講			
概要	M&Aと買収防衛策の事例研究、 M&A戦略と経営資源		
事前,事後学習ポイント	レジュメの熟読、関連知識の予習・復習		
詳細	①M&A戦略と買収防衛策の事例研究のプレゼンとディベート、②経営資源の視点で解く成功するためのM&A戦略		
第七講・第八講			
概要	離散時間モデルとリスク中立化法、離散時間モデルのExcel演習		
事前,事後学習ポイント	レジュメの熟読、関連知識の予習・復習、配布されたExcelプログラムの習熟		
詳細	①離散時間モデルによるオプション理論の本質的方法論、②Excelを用いたオプション戦略事例の評価の演習(問題解決学習)		
第九講・第十講			

概要	Mertonモデルと負債・資産の市場価値・信用リスク評価、 演習「TBSの買収防衛策と株主価値・負債価値・信用リスク」		
事前,事後学習ポイント	レジュメの熟読、関連知識の予習・復習、配布されたExcelプログラムの習熟		
詳細	①Mertonモデルによる企業価値・負債価値・信用リスク評価、②TBSの買収防衛策の事例研究を通じたMertonモデルの実証分析		
第十一講・第十二講			
概要	演習「買収対象企業の財務分析」、 演習「市場データに基づく負債・資産価値・信用リスクの測定」		
事前,事後学習ポイント	レジュメの熟読、関連知識の予習・復習、財務分析の下調べと市場データの収集。		
詳細	①事例研究を通じた企業の財務分析演習、②Excelを用いたMertonモデルの演習(問題解決学習)		
第十三講・第十四講			
概要	演習「日本の優秀企業の株主価値・負債価値・qレシオ」、 事例研究「マネジメントの経営価値創造力とイベントスタディ」		
事前,事後学習ポイント	レジュメの熟読、関連知識の予習・復習、財務分析・データ解析の問題点整理。		
詳細	①日本の優秀企業の財務分析、②Mertonモデルを用いたExcelによる日本の優秀企業の企業価値・マネジメント力の分析(問題解決学習,経験学習)		
第十五講・第十六講			
概要	ファイナンス理論の現状と課題		
事前,事後学習ポイント	レジュメの熟読、関連知識の予習・復習、財務分析・データ解析のまとめ。		
詳細	①講義のまとめ、②Excelを使った財務分析・データ解析・モデル演習のまとめ(問題解決学習、経験学習)		

教科書 / Textbook	毎回配布のレジュメによる。
指定図書 / Course Readings	 [1] 中岡英隆 [2009], 「企業における資源開発事業の統合リスク評価」『ジャフィー・ジャーナル:ベイズ統計学とファイナンス』日本金融・証券計量・工学学会、179-205、朝倉書店. [2] 中岡英隆 [2011], 「マネジメントの価値創造力とM&Aの評価」『ジャフィー・ジャーナル:バリュエーション』日本金融・証券計量・工学学会、114-133、朝倉書店. [3] リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ、藤井真理子他訳 [2002], 『コーポレート・ファイナンス上・下』日経BP社. [4] 木島正明,中岡英隆,芝田隆志 [2008], 『リアルオプションと投資戦略』朝倉書店. [5] シェル・クルーイ、ダン・ガライ、ロバート・マーク、三浦良造他訳[2004], 『リスクマネジメント』共立出版.
参考文献・参考URL / Reference List	講義の中で適宜紹介する。

評価方法 / Method of Evaluation	
配分 (合計100%)	出席率および授業への参画姿勢(30%)、プレゼンおよびレポート(70%)
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A・」(100~90 点):	不確実性下の実践企業ファイナンスへの洞察力・論理的思考力・問題解決力に優れている。
評価「A」(89~80点):	不確実性下のファイナンスへの洞察力・論理的思考力が良く、問題解決力がある。
評価「B」(79~70点):	不確実性下のファイナンスへの洞察力・論理的思考力がある。
評価「C」(69~60点):	不確実性下のファイナンスへの取組に意欲があり、論理的思考力が平均程度。
評価「F」(59点以下):	出席不良で、洞察力・論理的思考力・問題解決力に課題が多い。

留意点 / Additional	概ね文系レベルの数学とEXCELの知見、会計の初歩的な知見(または実務経験)を前提とする。レポートに関しては、講義
Information	内またはメールでフィードバックを行う。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	中小企業の価値創造と事業承継		
サブタイトル / Sub Title	事業承継について習熟し、日本を支える中小企業の価値を創造する		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Value creation and business successionof small and medium enterprises		
教員 / Instructor	藤本 江里子	E-mail	fujimoto-e@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	ファイナンス&ガバナンス	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	事業承継はわが国日本において喫緊の課題にもなっている。さらに、「事業に成功して 50 点、承継に成功して 100 点」という言葉がある。継続企業を前提としたとき、円滑な事業承継はどのフェーズの経営者にとっても重要な意思決定かつリスクマネジメントの 1 つといえる。本講義では、ビジネスの変革期にさしかかる中小企業の価値創造と事業承継について、初心者にもわかりやすい講義を心がけながら、"生きた"事例を多数取り上げ、課題解決者として活躍するために必要な実践知を学んでいく。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーのDP2:「思考と判断」とDP4:「表現と技能」を達成するために、本講義では、中小企業の事業承継の問題や課題の分析と本質的な解決に必要となる法律上の知識を学び、法ルールの分析と組織の戦略の構築にとって不可欠な事業承継計画の立案と実践的判断力、イノベーティブな課題解決力を身につける。また、ケーススタディにより、ファミリービジネス(同族経営)の特徴や課題、イノベーションについて検討し、事業承継問題に取り組む場合の最先端の課題解決手法を身につける。受講者は、総合的な経営力向上と円滑な事業承継を目指す中小企業の後継者候補等を想定しているが、組織再編やM&Aにも言及するため、これから起業を目指す方・起業している方のイグジットの判断の参考にもなる。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、グループ ワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

グループディスカッション用資料作成等の事前準備(2時間程度)。各自講義内容の復習(1.5時間程度)。

	<u>'</u>		
授業の概要 / Course Desc	ription		
第一講・第二講			
概要	オリエンテーション		
事前,事後学習ポイント	事後学習:講義内容の復習		
詳細	受講生・教員の自己紹介とオリエンテーションを行ったあと、中小企業を取り巻く現状と課題、事業承継の問題について概観する。また、中小企業が生き残るための企業価値の向上と、事業承継計画の早期かつ適切な設計・実行の必要性について学ぶ。		
第三講・第四講			
概要	事業承継の法律と税務①		
事前,事後学習ポイント	事後学習:講義内容の復習		
詳細	世界のファミリービジネス研究について紹介し、日本における同族企業の親族内承継を進める場合の相続などの基本的捉え 方と具体的な手順について講ずる。 事業承継計画を作成するうえで、最低限必要な、民法(相続法)、会社法などの基礎的法律について学ぶ。		
第五講・第六講			
概要	親族内承継の事例研究		
事前,事後学習ポイント	事後学習:講義内容の復習		
詳細	ケーススタディにより、親族内承継の手法や事例について研究する。		
第七講・第八講			
概要	事業承継の税務②		
事前,事後学習ポイント	事後学習:講義内容の復習		
詳細	事業承継計画を作成するうえで、最低限必要な、税法(相続税法、所得税法等)の基礎知識について学ぶ。		
第九講・第十講			
概要	後継者育成の事例研究		
事前,事後学習ポイント	事後学習:講義内容の復習		
詳細	ケーススタディにより、後継者育成の手法や実際の事例について学習する。		

第十一講・第十二講			
概要	M&Aなど第三者への承継手続と組織再編・信託などの手続き他		
事前,事後学習ポイント	事前学習:具体的なイノベーション計画や事業承継計画書の作成準備 事後学習:講義内容の復習		
詳細	中小企業を第三者へ承継するM&Aなどの応用的な具体的事例と手順について講ずる。事業承継と組織再編成、信託や従業員持株会の活用、生命保険の利用、金融施策の紹介など、事業承継の応用的論点についても踏み込んで講ずる。		
第十三講・第十四講			
概要	M&Aの事例研究		
事前,事後学習ポイント	事前学習:具体的なイノベーション計画や事業承継計画書の作成準備 事後学習:講義内容の復習		
詳細	ケーススタディにより、日本のM&A市場について、事業承継の出口としてのM&Aがどのように行われているのか、M&Aの最新事例について学習する。		
第十五講・第十六講			
概要	事業承継計画書の作成・発表と本講義のまとめ		
事前,事後学習ポイント	事前学習:具体的な事業承継計画書の作成準備		
詳細	中小企業の価値創造と事業承継の難しさを整理し、具体的な事業承継計画書を作成して深く学ぶ。最後に本講義のまとめと して全体を振り返る。		
教科書 / Textbook	適宜資料配布する。		

教科書 / Textbook	適宜資料配布する。
指定図書 / Course Readings	なし。
参考文献・参考URL / Reference List	【参考文献】 『FPテキスト6 相続・事業承継設計』日本FP協会、2019. 日経トップリーダー編著『星野佳路と考えるファミリービジネスの教科書』2019. 税理士法人タクトコンサルティング編『3訂版 法務・税務のすべてがわかる! 事業承継 実務全書』日本法令、2020. 後藤俊夫監修『長寿企業のリスクマネジメント』第一法規、2018. 他 【参考URL】 中小企業庁「事業承継ガイドライン」(2018年12月) http://www.chusho.meti.go.jp/zaimu/shoukei/2016/161205shoukei.htm

ion
出席(30%)、授業内でのグループディスカッション・議論(40%)、事例企業についての事業承継計画書の作成(30%)
中小企業の事業承継の問題や課題の分析と本質的な解決に必要となる法律上の知識および法ルールの分析と組織の戦略の構築にとって不可欠な事業承継計画の立案と実践的判断力、イノベーティブな課題解決力を身につけ、実践で応用できる。さらに、ファミリービジネス(同族経営)の特徴や課題、イノベーションについて理解し、事業承継問題に取り組む場合の最先端の課題解決手法を身につけ、実践で応用できる。
中小企業の事業承継の問題や課題の分析と本質的な解決に必要となる法律上の知識および法ルールの分析と組織の戦略の構築にとって不可欠な事業承継計画の立案と実践的判断力、イノベーティブな課題解決力を身につけている。さらに、ファミリービジネス(同族経営)の特徴や課題、イノベーションについて理解し、事業承継問題に取り組む場合の最先端の課題解決手法を理解している。
中小企業の事業承継の問題や課題の分析と本質的な解決に必要となる法律上の知識および法ルールの分析と組織の戦略の構築にとって不可欠な事業承継計画の立案と実践的判断力、イノベーティブな課題解決力の基礎的な部分について身につけている。
中小企業の事業承継の問題や課題の分析と本質的な解決に必要となる法律上の知識および法ルールの分析と組織の戦略の構築にとって不可欠な事業承継計画の立案と実践的判断力、イノベーティブな課題解決力の基礎的な部分について理解しているが、実践に活かすまでは至っていない。
中小企業の事業承継の問題や課題の分析と本質的な解決に必要となる法律上の知識および法ルールの分析と組織の戦略の構築にとって不可欠な事業承継計画の立案と実践的判断力、イノベーティブな課題解決力が身についていない。また、ファミリービジネス(同族経営)の特徴や課題、イノベーションについて理解し、事業承継問題に取り組む場合の最先端の課題解決手法も理解が不十分である。

留意点 / Additional	本講義はCFP®認定教育プログラムとなっている。 受講当初は、事業承継についての知識がなくても問題ない。受講者の人数、所属、希望、事前知識等をふまえて講義内容を 柔軟にアレンジする。
------------------	---

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	コーポレートガバナンスの理論と実務		
サブタイトル / Sub Title	イノベーティブなビジネス法務戦略とその実践手法		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Innovative Business Legal Strategy		
教員 / Instructor	菅原 貴与志	E-mail	sugawara-t@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	ファイナンス&ガバナンス	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	企業が事業活動を通じて社会からの信頼を得て発展していくためには、コンプライアンス経営の実践が不可欠です。また、デジタル化の進展やESG(環境・社会・企業統治)、SDGsなど、ビジネスの環境変化が激しくなるなかで、企業がビジネス上のさまざまなリスクに対処することは、喫緊の課題となっています。実効性のあるリスク管理体制を作り上げるには、管理職や経営幹部による内実の伴ったイノベーティブなビジネス法務戦略の実践が求められます。本授業では、事業マネジメントで押さえておくべき内部統制システムとコンプライアンスの基本について解説するとともに、実務的なリスクマネジメントと必要な法律知識のポイントを学修することを目的とします。より具体的には、イノベーティブなリーガル・ストラテジー(Innovative Legal Strategy)を主要テーマとし、コーポレートガバナンス、リスクマネジメント、内部統制システム、コンプライアンスに関し、企業経営の視点から実務的・具体的に習得し、「全体知への接近」の一助にしていただきます。 The main aim of the course is to enable students to develop the advanced understanding of the Innovative Legal Strategy.		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーDP2: 「思考と判断(実践知考具をもとにした知的課題解決力)」を達成するために、本授業の学修を通じて、法的リスクマネジメントに関する知識とトラブルを適切に解決できる能力を身につけ、実効性のあるコンプライアンス経営とリスク管理体制を構築するための理論と実務を理解し、その実践知を習得していただきます。また、DX化の進展やESG・SDGs等のビジネス環境の変化を体感することにより、二次的に、DP1: 「知識と理解(最新ビジネス環境への理解)」の達成も目指します。 The course goals are to achieve the students' DP2: "thinking and judgment".		
授業形態 / Form of Class	双方向、講義、グループディスカッション、 グループワーク、ワークショップ、プレゼン テーション Lecture, Group discussion, Group work etc.	学外学習 / Off-Campus Learning	無/ None

配付教材、課題図書、指定論文の予習。 指定時にレポートの提出。 予習90分程度、復習90分程度。

授業の概要 / Course Desc	ription		
第一講・第二講			
概要	リスクマネジメントと内部統制、コンプライアンス経営の理論と実務		
事前,事後学習ポイント	内部統制システム、リスクマネジメント、コンプライアンスの各内容とそれらの関係を調べ、理解しておくこと。		
詳細	リスクの法的意味を検討し、リスクマネジメントとコンプライアンスの関係や内部統制システムの内容を理解する。また、コンプライアンス経営の意義を考察し、CSR・ESG・SDGsとコンプライアンスの関係についても、随時グループディスカッションやグループワークを行う。		
第三講・第四講			
概要	会社法の理論と実務、株式会社の基本構造とガバナンス		
事前,事後学習ポイント	会社の法的意義および株式会社の基本構造を調べ、理解しておくこと。		
詳細	個人演習等を通じて、株式会社の基本構造を検討し、株式会社のガバナンスについて、株主総会、取締役・取締役会、監査 役の権限を中心に理解を深める。また、会社の資金調達や計算など、株式会社のファイナンスの基本事項について参加型講 義を行う。		
第五講・第六講			
概要	M&Aとコーポレートガバナンス ~ガバナンス戦略の実践演習		
事前,事後学習ポイント	M&Aのスキームを調べ、各手法のメリット・デメリットを理解しておくこと。		
詳細	M&Aには、資本参加、資産取得の買収、合併、資本提携・業務提携等のスキームがあり、どの手法を選択するかによって得られる利益も変わる。そのスキームの最適性について、再編後のガバナンスをどのように描くかという視点から、個人演習・グループワーク・グループディスカッションを交えて考察する。		
第七講・第八講	'		
概要	情報と取引に関する法的リスク	マネジメント	

事前,事後学習ポイント	個人情報の保護、営業秘密の管理および独禁法規制を調べ、それらの現実的なリスクを理解しておくこと。		
詳細	情報管理の要諦は何かを知り、個人演習とグループディスカッションを通じて、個人情報の保護と営業秘密の管理の実践を考察する。また、独禁法の目的と禁止される行為類型を理解し、多くの企業が価格カルテルに細心の注意を払う理由をグループワークで検討する。		
第九講・第十講			
概要	労務と消費者保護に関する法的リスクマネジメント		
事前,事後学習ポイント	労働法と消費者保護法制の概要を調べ、職場の労務問題や顧客対応の実務に関する現実的なリスクを理解しておくこと。		
詳細	個人演習とグループワークを通じ、労働法の遵守が、ハラスメント等の労務リスクの回避ばかりでなく、有能な人材確保のためにも重要である事実を理解する。また、消費者保護法制の趣旨と内容を知り、消費者対応の基本的な姿勢について、グループディスカッションを交えて確認する。		
第十一講・第十二講			
概要	法的リスクマネジメントの実践演習		
事前,事後学習ポイント	国内ビジネスと国際ビジネスの異同を調べ、現代的なリスクマネジメントの課題を理解しておくこと。		
詳細	個人演習・グループワーク・グループディスカッションを通じ、国際ビジネスにおけるリスク管理の重要性を知り、事業活動の全体に及ぼす影響や経済性の見地からの選択決定の在り方を実践的に学修する。また、贈賄防止(FCPA)違反、集団訴訟(class action)、パンデミック法務など、現代的なリスクマネジメントの課題についても、参加型講義によって理解を深める。		
第十三講・第十四講			
概要	紛争解決と危機管理の実践演習		
事前,事後学習ポイント	法的なトラブルを解決する実践手法を調べておく。		
詳細	法的トラブルを解決手法について実務的な視点から理解する。講義で取り上げる債権管理・回収と企業不祥事の事例を題材として、これらを受講生各自の経験や所属組織の現実課題に当てはめながら、各自の考察を促す形式の個人演習・グループワーク・グループディスカッションを随時行う。		
第十五講・第十六講			
概要	総括と補足		
事前,事後学習ポイント	イノベーティブ・リーガル・ストラテジーに関し、これまでの講義の全体を振り返る。		
詳細	講義の全体を振り返り、コーポレートガバナンス、リスクマネジメント、内部統制システム、コンプライアンスの各取組みを自社内でいかに実践するかについて考察する。各自の組織の事例や個人の経験による自主的意見の発言とクラス内での知見交換を奨励し、グループディスカッションを行う。		

教科書 / Textbook	テキスト代わりのレジュメ・資料類は、適宜配付する。 There are no prescribed textbooks.
指定図書 / Course Readings	『企業法務入門20講』 菅原貴与志著 勁草書房 2021年 ISBN 978-4-326-40386-8 『会社法入門20講』 菅原貴与志著 勁草書房 2021年 ISBN: 978-4-326-40395-0 「六法」(有斐閣・三省堂・岩波書店等、発行所不問。最新版。コンパクトなもので可)
参考文献・参考URL / Reference List	適宜紹介する。

評価方法 / Method of Evaluation			
配分(合計100%)	出席(20%)、グループワーク、クラスディカッション (40%)、修了課題レポート(40%)。		
評価基準 / Evaluation Criteria			
評価「A・」(100~90 点):	法的リスクマネジメントに関する知識とトラブルを適切に解決できる能力を身につけ、所属組織やチーム内で応用できる。 実効性のあるコンプライアンス経営とリスク管理体制を構築するための理論と実務を理解し、自らその実践知を効果的に実 行できる。		
評価「A」(89~80点):	法的リスクマネジメントに関する知識とトラブルを適切に解決できる能力を身につけている。実効性のあるコンプライアンス経営とリスク管理体制を構築するための理論と実務を理解し、その実践知を習得している。		
評価「B」(79~70点):	コンプライアンス経営とリスク管理体制を構築するための理論と実務を一程度理解している。法的リスクマネジメントに関する知識とトラブルを解決できる能力を実務で利用できる。		
評価「C」(69~60点):	法的リスクマネジメントに関する知識とトラブルを解決できる能力を基本レベルで体得している。コンプライアンス経営と リスク管理体制を構築するための理論を一程度理解しているが、実務での応用が不十分である。		
評価「F」(59点以下):	コンプライアンス経営とリスク管理体制を構築するための理論と実務についての理解が基本的なレベルに留まっている。		

留意点 / Additional
Information

授業の進行に際しては、一方通行的な講義形式ではなく、ソクラティス・メソッドによる双方向授業を実施します。 江戸時代から明治初年にかけての教育機関では、教える者と学ぶ者との師弟の分を定めず、教員と学生も半分は教えて、半 分は学び続ける存在という「半学半教」の気風が尊重されていました。本講義でも「半学半教」の精神で、私も皆さんと一緒に勉強させていただきたいと思っております。

ぜひ一緒に楽しく勉強しましょう。よろしくお願いいたします。

I look forward to teaching students who are interested in the corporate governance and business legal practice. Let justice be done, though the heaven should fall.

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	データ活用入門		
サブタイトル / Sub Title	ビジネスのためのデータ分析入門		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Introduction to Data utilization		
教員 / Instructor	今泉 忠	E-mail	imaizumi@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	データドリブン経営	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	ビジネスインテリジェンスに代表されるように、ビジネスにおいてデータをもとに解決案を提案することが求められる。その場合、統計学の活用力や知識が必須である。この講義では、統計的思考をもとに実際のビジネス現場でデータをもとに統計学を利活用して課題解決ができるデータ分析実践力を修得できることを目指す。 ディプロマポリシーでのDP2:「思考と判断」と「知の再武装」を達成するために、「デジタル技術」をもとに上記目的に資する「課題解決のためのモデル構築」と「データ分析」で統計学を利活用して実践的なデータ分析と提案ができるようになる。そのために、調査設計、データ収集、データモニタリング、データ分析、分析結果の発表を行える力を修得する。		
到達目標 / Course Goals			
授業形態 / Form of Class	グループワーク, グループディスカッション, プレゼンテーション	学外学習 / Off-Campus Learning	無

的な学習内容

事前,事後学習ポイント

詳細

仮説の表現とその評価

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体 事前学習:予習に十分な時間をとること(2 時間程度) 事後学習:毎授業後にチーム毎に協議し、 レポートを提出すること (2 時間程度)

的な子首的谷		アルートを1年間を3000(2時間1年度)
授業の概要 / Course Description		
第一講・第二講		
概要	データの要約と分布	
事前,事後学習ポイント	EXCEL の操作を復習しておく	こと。
詳細	分析のフレームを活用できる力 分析ソフトのインストールも行	っを修得するために,PDSA と統計で扱う変数の型について 学ぶ。分布に関しても学修する。 テう。
第三講・第四講	'	
概要	仮説構築,データ収集と分析ス	門。
事前,事後学習ポイント	データについて調べておく。分	析ソフトのインストールを行っておくこと。
詳細	討議力や仮説構築力を修得する 箱ひげ図などの視覚化について	ために,実データについて,チームで仮説を構築し,基礎 分析で検討する。データ収集法や「も講義する。
第五講・第六講		
概要	量的変数間の関係を探る:相関	関係からの構造発見。
事前,事後学習ポイント	相関係数について整理しておく	0
詳細	相関関係と因果関係の違い、お	よび相関関係から因果関係を検討する。
第七講・第八講		
概要	質的要因の効果評価:区間推定を	・ を活用する。
事前,事後学習ポイント	推測について理解しておく。	
詳細	仮説検証力を修得するために,	仮説の検証や区間推定について学修する。中心極限定理についての知識も学修する。
第九講・第十講	'	
概要	線形モデルの活用:主効果と残差	· 差分析。
事前,事後学習ポイント	説明変数と目的変数について整	8 理しておく。
詳細	要因効果を評価できる力を修得 ついても学修する。	するために,重回帰モデルや分散分析などの活用について 学修する。残差の分析の重要性に
第十一講・第十二講		
概要	交互作用	
± 24 ± 46 24 77 77 18 4 1	/C=2 0 + TP 1 7 0 = T/T	

複数の要因がある場合のモデルを比較検討する力を修得するために、モデルの適合度やついて学修する。

第十三講・第十四講		
概要	発表資料作成	
事前,事後学習ポイント	無し	
詳細	データプレゼンテーション力を	修得するために実際のデータについて PDSA をもとに分析レポートを作成する。
第十五講・第十六講		
概要	発表	
事前,事後学習ポイント	無し	
詳細	チーム別の分析結果発表を行う	。レポートへのフィードバックを行う。

教科書 / Textbook	講義資料は適宜用意する。
指定図書 / Course Readings	無し
参考文献・参考URL / Reference List	無し

評価方法 / Method of Evaluation	
配分 (合計100%)	平常点:ディスカッション:グループワーク:レポート:プレゼンテーション= 20:20:20:20:20
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A・」(100~90 点):	課題設定—データ収集—分析—仮説の検証—提案が行える
評価「A」(89~80点):	課題設定—データ収集—分析—仮説の検証が行える
評価「B」(79~70点):	課題設定—データ収集—分析を行える
評価「C」(69~60点):	課題設定—データ収集を行える
評価「F」(59点以下):	課題設定か調査設計かデータ収集のいずれかしかできない

留意点 / Additional	Google Classroom またはtnextを用いても資料の配布などを行う。チームでの学習となるので,積極的にディスカッション
Information	などに参加すること。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	【DSB】集中ゼミ(統計検定)		
サブタイトル / Sub Title	統計的データの分析入門		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Introduction to Statistics		
教員 / Instructor	今泉 忠	E-mail	imaizumi@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	データドリブン経営	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	ビジネスでのデータサイエンスにおいては、適切な統計的処理を必須である。そのための基礎となるデータの分析に関して の統計活用力を修得する。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーでのDP1:「知識と理解」 (1) 基本的な用語や概念の定義に関して理解で (2) 用語の基礎的な解釈や2つ以上の用語や概. (3) 具体的な文脈に基づいて統計の活用ができ	きる統計リテラシー力を修得す? 念の関連性を理解できる統計的打	3
授業形態 / Form of Class	講義,グループワーク	学外学習 / Off-Campus Learning	無し

準備学習(予習・復習等)	に必要な時間に準じる程度の具体
的な学習内容	

事前にテキストを読んでおくこと

17.00 1 11.1.17.		
授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	データの変数とグラフでの表現	
事前,事後学習ポイント	データについて理解する(1.5時間)	
詳細	データ行列を扱える力を修得するために、データで扱う変数について理解する。データの図的表現力を修得するために、データの散らばりのグラフ表現(ヒストグラム、箱ひげ図、折れ線グラフ、幹葉図)について学ぶ。	
第三講・第四講		
概要	データの要約	
事前,事後学習ポイント	分布の代表値による把握(2.0時間)	
詳細	データで要因を比較できる力を修得するために、特徴量の違いを理解するデータの特徴量(中央値、平均値、最頻値)について学ぶ。	
第五講・第六講		
概要	散らばり	
事前,事後学習ポイント	写前,事後学習ポイント 特徴量との関係を理解する(2.0時間)	
詳細	リスクを評価できる力を修得するために、データの散らばりの指標(四分位数、四分位範囲(四分位偏差))について学ぶ。	
第七講・第八講		
概要	相関関係	
事前,事後学習ポイント	相関係数(2.0時間)	
詳細	変数間の関係を量的に理解できる力を修得するために,データの標準化と2変数の相関(相関,散布図(相関図),相関係数)について学ぶ。	
第九講・第十講		
概要	確率基礎	
事前,事後学習ポイント	ベン図(3.0時間)	
詳細	事象の生起について、確率分布を通じて理解する力を修得するために、確率(独立な試行)について学ぶ。複数の事象の同時生起について理解するために確率(条件付き確率)やベイズの定理について学ぶ。	
第十一講・第十二講		
概要	分布	
事前,事後学習ポイント	期待値(3.0時間)	

詳細	代表的ないくつかの分布(二項分布,正規分布,ポアソン分布)について学ぶ。標本分布についても学ぶ。
第十三講・第十四講	
概要	平均の推定
事前,事後学習ポイント	区間推定,中心極限定理(3.0時間)
詳細	標本平均の分布について学ぶ。特に、信頼区間の構成について学ぶ。
第十五講・第十六講	
概要	まとめ
事前,事後学習ポイント	過誤(3.0時間)
詳細	仮説検定について学ぶ。

教科書 / Textbook	日本統計学会編「統計学基礎」
指定図書 / Course Readings	無し
参考文献・参考URL / Reference List	無し

評価方法 / Method of Evaluation		
配分 (合計100%)	平常点:確認テスト=60:40	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	統計検定2級か3級に合格か、統計リテラシー力・統計的推論力・統計的思考力・仮説構築力を修得	
評価「A」(89~80点):	統計検定2級か3級に合格に近い点数を得たか、統計リテラシー力・統計的推論力・統計的思考力・仮説構築力のいづれか3つの力を修得	
評価「B」(79~70点):	統計検定2級か統計検定3級で一定の評価を得たか、統計リテラシー力・統計的推論力・統計的思考力のいづれか2つの力を 修得	
評価「C」(69~60点):	統計検定3級で一定の評価を得たか,統計リテラシー力・統計的推論力・統計的思考力のいづれか1つの力を修得	
評価「F」(59点以下):	いずれも修得できない	

留意点 / Additional Information	PCにより演習も行う
---------------------------------	------------

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	マーケティングリサーチ		
サブタイトル / Sub Title	計量モデルの活用		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Marketing Research		
教員 / Instructor	今泉 忠	E-mail	imaizumi@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	データドリブン経営	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	マーケティングにおいて市場創造活動のための情報を提供することがマーケティングリサーチでするが、ディジタル化に伴い、きちんとデータを収集することが減ってきている。この講義では、マーケティングリサーチでの目的と手段の点かマーケティングリサーチに関して講義する。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーでのDP2:「思考と判断」と 的に沿った手法を理解して活用にできるように らのデータである場合にも適切な手法を適用て である。	なる。特に,仮説設定型アプロ	ーチの修得と収集したデータが複数の集団か
授業形態 / Form of Class	グループワーク, グループディスカッション, プレゼンテーション	学外学習 / Off-Campus Learning	無

分析を含めた事前課題レポート作成

授業の概要 / Course Desc	ription		
第一講・第二講			
概要	マーケティングリサーチでのデータ		
事前,事後学習ポイント	EXCEL の操作を復習しておくこと 特に,グラフ化とピボットテーブル作成(1.5時間)		
詳細	マーケティングリサーチの目的と扱うデータの種類および基礎的な手法について講義する。 分析するのみ利用する統計分析ソフトウェアなどもインスールする。		
第三講・第四講			
概要	サンプリングと調査方法		
事前,事後学習ポイント	分析ソフトをインストールしておくこと。事前に配布した資料を整理してサンプリングや収集方法の特徴を理解しておく(2.0 時間)		
詳細	マーケティングリサーチでの基本的な調査方法について講義する。特にデータ品質についても学ぶ。		
第五講・第六講			
概要	仮説設定と調査データの整理		
事前,事後学習ポイント	外れ値や層化などについて整理しておく(2.0時間)		
詳細	リサーチのための仮説設定と,あるテーマについて収集してデータについて分析できるように整理する。		
第七講・第八講			
概要	マーケティング分析の手法 基礎 データの層別		
事前,事後学習ポイント	ソフトを持ちいて分析できるように習熟しておくこと(2.0時間)		
詳細	マーケティングリサーチの目的に応じた基礎的な手法について講義する。ピボット集計やグループ別ヒストグラムの活用について講義する。		
第九講・第十講			
概要	マーケティング分析の手法 要因効果の整理		
事前,事後学習ポイント	相関係数や質的変数の連関係数について整理する(2.0時間)		
詳細	質的要因の効果を分析する手法について講義する。主効果モデルを扱うモデルについて講義する。		
第十一講・第十二講			
概要	マーケティング分析の手法 II 因子分析		
事前,事後学習ポイント	潜在変数および因子の直交について整理しておく。		

詳細	潜在変数を仮定する因子分析について講義する。および、その分析手法の活用について学ぶ。	
第十三講・第十四講		
概要	マーケティングデータの分析 クラスター分析と判別分析の活用	
事前,事後学習ポイント	分析目的や分析データを整理しておく(3.0時間)	
詳細	データが複数のグループからなると想定される場合の分析手法の活用について学ぶ。	
第十五講・第十六講		
概要	分析発表	
事前,事後学習ポイント	発表資料作成(3.0時間)	
詳細	目的に応じて分析して結果を発表する。	

教科書 / Textbook	資料を配布する。
指定図書 / Course Readings	無し
参考文献・参考URL / Reference List	確率思考の戦略論,「欲しい」の本質~人を動かす隠れた心理「インサイト」の見つけ方

評価方法 / Method of Evaluation	
配分(合計100%)	平常点:ディスカッション:演習:発表=30:20:30:20
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A・」(100~90 点):	目的を明確にして、適切な分析とシミュレーションをもとにそこからの提案を行うことができる
評価「A」(89~80点):	目的を明確にして、適切な分析をもとにそこからの提案を行うことができる
評価「B」(79~70点):	目的を明確にして、適切な分析を行うことができる
評価「C」(69~60点):	目的を明確にして、適切な基礎分析を行うことができる
評価「F」(59点以下):	目的が明確でもなく,または,適切な基礎分析ができない

留意点 / Additional Information	データ活用入門や統計的データ分析を履修することが望ましい
---------------------------------	------------------------------

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	統計的データ分析		
サブタイトル / Sub Title	なし		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Statistical data analysis		
教員 / Instructor	久保田 貴文	E-mail	kubota@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	データドリブン経営	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	ビジネスデータ分析するための最低限のスキルを身につける。統計ソフトウエアの中でも特にRのradiantというパッケージを用いて入門的な内容と、それをデータ分析に活かす為の準備、そして実際の場面で必要な考え方を学ぶ。		
到達目標 / Course Goals	Exploratoryを用いて、データのハンドリング、グラフの作成、レポートやプレゼンテーションの作成のスキルを修得する。特に、ビジネスにおけるデータを分析するためのスキルを習得する。なお、特に達成しようとするディプロマポリシーは、DP2:「思考と判断」であり、また、次に達成しようとするディプロマポリシーはDP3:「関心と意欲」である。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、プレゼン テーション	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

次回のキーワードを2講目以降分については示すので関連する項目について調べること(90 分)

各講において不明な部分を確認する(90分)とともに、実施したソフトウエアの操作についても復習する(90分)

授業の概要 / Course Desc	vintion		
第一講・第二講			
概要	オリエンテーション、インストール		
事前,事後学習ポイント	事後学修として授業の中で実行したExploratoryの操作を実際に実施し、演習として実際のデータに応用すること。		
詳細	Exploratoryによるデータのインポート,1変数データの記述統計,さらにベクトルや行列の演算、並べ替え、データの読み込み・書き出し、さらに繰り返し処理等を学ぶ		
第三講・第四講			
概要	比率の検定、比率の差の検定		
事前,事後学習ポイント	事後学修として、比率の差の検定を行うこと。		
詳細	比率の検定、比率の差の検定		
第五講・第六講			
概要	平均の検定、平均の差の検定		
事前,事後学習ポイント	事後学修として、平均の差の検定を行うこと。		
詳細	平均の検定,平均の差の検定		
第七講・第八講			
概要	単回帰分析		
事前,事後学習ポイント	事後学修として授業の中で実行したExploratoryの操作を実際に実施し,演習として実際のデータに応用すること。		
詳細	市場反応を分析する: Exploratoryによる回帰分析により関連性を分析する。 回帰分析のモデルについて、決定係数について、残差について、特に説明変数が1つの場合の単回帰分析を学修する。		
第九講・第十講			
概要	重回帰分析		
事前,事後学習ポイント	事後学修として授業の中で実行したExploratoryの操作を実際に実施し,演習として実際のデータに応用すること。		
詳細	市場反応を分析する: Exploratoryによる回帰分析により関連性を分析する。 説明変数が質的変数の場合や、複数の変数の場合などについてすなわち、重回帰分析について学修する。説明変数間の共線 性や変数選択についても学修する。		
第十一講・第十二講			
概要	ロジスティック回帰分析		

事前,事後学習ポイント	事後学修として授業の中で実行したExploratoryの操作を実際に実施し、演習として実際のデータに応用すること。		
詳細	判断する: Exploratoryによりロジスティック回帰分析を行いスパムメールの判別や施策の実施の有無について判断するような分析を行う。		
第十三講・第十四講			
概要	独立性の検定、最終課題予告		
事前,事後学習ポイント	事後学修として授業の中で実行したExploratoryの操作を実際に実施し,演習として実際のデータに応用すること。		
詳細	クロス集計,質的データの適合度検定,カテゴリー間の関連性の検定を学修する。 また、次回の予告として、第1講〜第7講までの内容をふまえて、課題を課す。		
第十五講・第十六講			
概要	総合演習・最終課題の発表会		
事前,事後学習ポイント	事後学修として授業の中で実行したExploratoryの操作を実際に実施し、演習として実際のデータに応用すること。		
詳細	前回に課した最終課題について、個人でプレゼンテーションを行う。		

教科書 / Textbook	毎回資料を配布する。
指定図書 / Course Readings	毎回資料を配布する。
参考文献・参考URL / Reference List	授業の中では、ExploratoryのCommunity版を使います。登録はこちら: https://ja.exploratory.io/plan?plan=Community その他、毎回資料を配布する。

評価方法 / Method of Evaluation		
配分(合計100%)	平常点(20%), ディスカッション(20%), グループワーク(20%), レポート(20%), プレゼンテーション(20%)	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	統計的データ分析を実施するための課題設定(仮説の設定),データ収集,データ分析,仮説の検証,課題解決(改善)のための提案が行える。	
評価「A」(89~80点):	統計的データ分析を実施するための課題設定(仮説の設定),データ収集,データ分析,仮説の検証が行える。	
評価「B」(79~70点):	統計的データ分析を実施するための課題設定(仮説の設定)、データ収集、データ分析が行える。	
評価「C」(69~60点):	統計的データ分析を実施するための課題設定(仮説の設定)が行え、データ収集もしくはデータ分析が行える。	
評価「F」(59点以下):	統計的データ分析を実施するための課題設定(仮説の設定)しか行えない。	

留意点 / Additional Information	Exploratoryをインストールするために、1.インストールする権限を持ったノートPCを持参すること。2.WindowsのノートPC利用者においては、日本語などの2バイト文字を含まないユーザー(例えば、「久保田」ではなく「kubota」)を作成しておくこと。以上を踏まえて、初回にインストールの補助を行うので、必ず初回からPCを持参すること。
---------------------------------	---

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	DX変革:データサイエンスによる企業変革		
サブタイトル / Sub Title	『DX/デジタル戦略への展開』		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Enterprise Transformation driven by Data Science		
教員 / Instructor	前田 英志	E-mail	hideshi@jp.ibm.com
科目群 / Course Classification	データドリブン経営	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	データサイエンスは手段であり、目的は企業を業の変革には、①ビジネス課題をデータサイエ盤、ガバナンスを整備すること ③データサイ ④データサイエンスに関わる高度データ人材をビジネス価値を実現できます。当学では、これた企業変革が行えるようになることを目指しま講義を通じて学ぶことで、これらの提言をより	ンスを用いて解くこと ②デーエンスを推進するための組織を育成すること の4つが必要となら4つを自身に関連する企業を用す。また、基礎能力として、Ai	タサイエンスの力を活用するためのデータ基立ち上げること(CDO: Chief Data Office) よります。これら4つが、融合して初めて大きな 引いて具体的に学び、データサイエンスを用い
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーでのDP1:「知識と理解」とDP2:「思考と判断」を達成するために,上記目的に資する「データサイエンスによるビジネス課題の解決検討」、「データ基盤・ガバナンス検討」、「データ推進組織の設計」、「データに関わる高度人材の育成方法の検討」を通じて、データサイエンスを用いた企業変革を体系的にご自身で提言できるようになることを目標とします。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、プレゼン テーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体	事前学習:なし
的な学習内容	事後学習:毎授業後に宿題を個人で準備し、次の授業に持ってくること(1時間程度)

授業の概要 / Course Desc	ription		
第一講・第二講			
概要	オリエンテーション		
事前,事後学習ポイント	事前:なし 事後:自社もしくは他企業が、データドリブン経営の成熟度マップでいうとどのセグメントにいるのかを調査する(調査結果 を次講で議論する)		
詳細	①オリエンテーションと教員、受講生の自己紹介 ②「データドリブン経営とは?」(講義とディスカッション)③データ思考力(論理、発想、基礎統計、グラフ)に関わる現状の能力把握のための演習(結果は、各受講生の成績に反映するものではなく、この先の講義でどこを重点的に実施すべきかを判断するために活用する)		
第三講・第四講			
概要	データサイエンスを用いた変革プロジェクトの理解		
事前,事後学習ポイント	事前:なし 事後:データサイエンスを用いた変革プロジェクトで自社もしくは他企業に適用できるものを体系的に洗い出す (調査結果を次講で議論する)		
詳細	①「データドリブン経営の成熟度」の調査結果の発表とディスカッション ②データサイエンスを用いた変革プロジェクトの 講義とディスカッション ③データ思考力(論理、発想、基礎統計、グラフ)の講義		
第五講・第六講			
概要	データサイエンスを支えるシステムアーキテクチャーの理解		
事前,事後学習ポイント	事前:なし 事後:データサイエンスを支えるシステムアーキテクチャーのが、自社もしくは他企業において、具体的にどうなっているか を調査する(調査結果を次講で議論する)		
詳細	①「データサイエンスを用いた変革プロジェクト」の調査結果発表とディスカッション ②データサイエンスを支えるシステムアーキテクチャーの講義とディスカッション ③データ思考力(論理、発想、基礎統計、グラフ)の講義		
第七講・第八講			
概要	データサイエンスを支える組織の理解		
事前,事後学習ポイント	事前:なし 事後:データサイエンスを支える組織が、自社もしくは他企業において、具体的にどの部門が担っているかを調査する(調査 結果を次講で議論する)、		
詳細	①「データサイエンスを用いたシステム」に関する調査結果発表とディスカッション ②データサイエンスを支える組織の講		

	義とディスカッション ③データ思考力(論理、発想、基礎統計、グラフ)の講義		
第九講・第十講			
概要	データサイエンスを活用するために必要な人材の理解		
事前,事後学習ポイント	事前:事後:データサイエンスを活用するために必要な人材が、自社もしくは他企業において、具体的にどこにいるかを調査する(調査結果を次講で議論する)		
詳細	①「データサイエンスを支える組織」の調査結果の発表とディスカッション ②データサイエンスを活用するために必要な人材の講義とディスカッション ③最終プレゼンテーションのやり方の説明とフォーマットの配布		
第十一講・第十二講			
概要	中間プレゼンテーション及び最新DX事例の紹介		
事前,事後学習ポイント	事前:データサイエンスを用いた企業変革をプレゼンテーションとしてまとめてくる 事後:		
詳細	①「データサイエンスを支える人材」の調査結果の発表と議論 ②データサイエンスを用いた企業変革の中間プレゼンと議論 (プレゼンに対してはフィードバックがあります。)③世の中で進んでいるDX事例の紹介		
第十三講・第十四講			
概要	最終プレゼンテーション		
事前,事後学習ポイント	事前:中間発表のコメントを元に、データサイエンスを用いた企業変革をプレゼンテーションとしてまとめてくる 事後:		
詳細	①データサイエンスを用いた企業変革の最終プレゼンと議論(プレゼンに対してはフィードバックがあります。)		
第十五講・第十六講			
概要	ふりかえりと明日への一歩		
事前,事後学習ポイント	事後:今後ご自身が実施するとコミットした内容を実務の中で意識する		
詳細	①受講生のふりかえり ②今後に向けたディスカッション		

教科書 / Textbook	適宜配布する
指定図書 / Course Readings	なし
参考文献・参考URL / Reference List	なし

評価方法 / Method of Evaluation		
配分(合計100%)	出席(30%)、授業内での議論参加(40%)、プレゼン内容(30%)	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	データサイエンスを用いた企業変革に必要な要素と応用方法を理解しており、他の受講生に対して分かりやすく説明すること ができる。実務においてビジネス価値につながる提言が体系的にできている。	
評価「A」(89~80点):	データサイエンスを用いた企業変革に必要な要素と応用方法を理解している。実務においてビジネス価値につながる提言ができている。	
評価「B」(79~70点):	データサイエンスを用いた企業変革に必要な要素を理解しており、実務で活用できている	
評価「C」(69~60点):	データサイエンスを用いた企業変革に必要な要素を基本レベルで理解しているが、実務での応用が不十分。	
評価「F」(59点以下):	データサイエンスを用いた企業変革に必要な要素の理解が基本的なレベルに留まっている。	

留意点 / Additional Information	なし	
---------------------------------	----	--

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期	
科目名 / Course Title	DX変革:Al/Watsonに学ぶ知のデジタル化の実践知			
サブタイトル / Sub Title	DX/デジタル戦略からAI・コグニティブへのユースケースへの落とし込み・具体化			
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Practical Approach for Digital Transformation by deploymentof Al/Watson			
教員 / Instructor	鈴木 至 E-mail suzuki-i@tama.ac.jp			
科目群 / Course Classification	データドリブン経営	単位数 / Credits	2単位	

講義目的 / Aim of Course	デジタル変革時代の企業経営の戦略・シナリオの中で、テクノロジーによるデータ活用を推進することが競争力の源泉になる。知のデジタル活用の一つである人工知能を題材に、その理解と活用ユースケース検討、データ評価・整備について、プロジェクト現場で利用されている検討手法・テンプレートに基づいて実践することで学習する。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーでのDP3:「関心と意欲」を達成するために、人工知能とともに上記目的に資する「業務検討(ユースケース)」と「データ評価」を通じて、主体的なアプローチを習得し、変革・課題解決に向けた提案が出来るようになる。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、プレゼン テーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

第九講・第十講

事前,事後学習ポイント

中間レポートのプレゼン 事前準備:中間レポート作成

概要

詳細

中間(第5講)・最終プレゼンテーション(第7講)資料作成。

(中間:4時間程度、最終:6時間程度) 事後学習:資料・図書・文献の熟読とユースケース検討、データアセスメントのまとめ。 (第2講、第3講、第6講 事後各2時間程度)

ion	
オリエンテーション(人工知能の理解と活用事例)、人工知能活用のアイデア	
事後学習:人工知能を活用した	
①受講生・教員の自己紹介とオリエンテーション、②人工知能の事例紹介と企業のケーパビリティ(講義)、③人口知能の活用アイディア出し、④次回への課題提示(AI活用のアイディア候補の抽出)	
ユースケース候補の抽出	
事前学習(課題):アイディア候補の作成	
①活用アイディアからユースケースを導出、②ユースケースの評価、優先順位付、③シナリオ作り、④対象データ候補の検討、⑤次回の課題提示(ユースケース詳細化)	
ユースケース策定(活用シナリ	オの詳細化、業務調査)
事前準備:ユースケースの準備(一覧と候補)	
①人工知能活用のシナリオ詳細化(講義)、②シナリオ詳細化の実践、③必要となるデータ検討、④次回の課題提示(データの調査と課題)	
データアセスメント(評価と整備)の実践	
-	
①データアセスメント手法(講義)、②次回の課題提示(中間レポート作成の指針)	
	オリエンテーション(人工知能事後学習:人工知能を活用した①受講生・教員の自己紹介とオアイディア出し、④次回への課 ユースケース候補の抽出事前学習(課題):アイディア候 ①活用アイディアからユースケ討、⑤次回の課題提示(ユースケ対、⑤次回の課題提示(ユースケースの準備・ユースケースの準備・ユースケースの準備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

 第十一講・第十二講
 学習モデルの設計と人工知能の性能評価

 概要
 最終レポート・プレゼンテーションガイド

①人工知能活用のユースケースのプレゼンと相互評価、③次回の課題提示(学習モデル設計)

事前,事後学習ポイント	-	
詳細	①学習モデル設計(講義)、②人工知能の性能評価(講義)、③最終レポートの作成指針	
第十三講・第十四講		
概要	最終レポートのプレゼン	
事前,事後学習ポイント	事前学習:最終レポート、プレゼン準備	
詳細	①最終レポートとしてプレゼン実施、②活用モデル実践における課題・提言の検討	
第十五講・第十六講		
概要	本講義のまとめ	
事前,事後学習ポイント	事前学習:最終レポートの追加・修正	
詳細	①本講義のまとめ、②人工知能、データ活用における課題・提言の意見交換	

教科書 / Textbook	適宜資料配布
指定図書 / Course Readings	なし
参考文献・参考URL / Reference List	なし

評価方法 / Method of Evaluation		
配分 (合計100%)	出席(20%)、個人ワーク(30%)、プレゼン内容(50%)	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	人工知能によるデータ活用を実践する能力が高く、プレゼン内容が課題解決に寄与してるとともに、提言とその解決策を具体的に提示できている	
評価「A」(89~80点):	人工知能によるデータ活用の実践手法を理解しており、プレゼン内容が課題解決に寄与している	
評価「B」(79~70点):	人工知能を活用した解決策を定義できる	
評価「C」(69~60点):	人工知能を活用した解決策に課題がある	
評価「F」(59点以下):	出席不良で、人工知能を活用した解決策を導き出せない	

留意点 / Additional Information	特になし	
---------------------------------	------	--

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	クリティカルシンキング		
サブタイトル / Sub Title	ビジネスにおける「価値創造」「課題解決」に求められる論理思考、頭の使い方		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Critical thinking		
教員 / Instructor	柏木 吉基 E-mail kashiwagi@data-story.net		
科目群 / Course Classification	データドリブン経営	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	実務における課題解決および企画・提案を行う際の「マインド」「思考プロセス」「手法(ツール)」などを身に着けます。単に"論理学"を学ぶのではなく、組織の中で、多くの人の納得・共感を得て、人や組織を動かすことができる人材となることを目指します。		
到達目標 / Course Goals	思い付きや勘と経験で方策や意見を言う思考の癖を取り払い、DP2:「思考と判断」などを達成するために、ロジカルな根拠に基づいて結論を述べたり、本質的な問題解決ができるスキルを身に付けること。更に、自分の知識・情報や経験だけに拠らず、クリティカル(批判的)に視野を広げた上で、正しいプロセスに沿った結論を導けること。これらのスキルを活用し、チームの合意形成をリードする人材となること。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション グループ ワーク、ディベート、 プレゼンテーション、 双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

準備学習	(予習	・復習等)	に必要な時間に準じる程度の具体
的か学習	マス		

事前学習:演習問題が課された場合、その取り組み(2時間程度)

11/3 T El 11/1			
授業の概要 / Course Descrip	tion		
第一講・第二講			
概要	論理構築のための論理思考 1 課題・論点の設定(定義)		
事前,事後学習ポイント	なし		
詳細	自分が言うべき内容、解くべき課題の具体性は、その後のプロセスや精度、結論の質に大きなインパクトを与えます。これ らを防ぐための注意点や考え方、ポイントを学びます。		
第三講・第四講			
概要	論理構築のための論理思考 2 演繹・帰納法、論理構造(ピラミッドストラクチャー) 1		
事前,事後学習ポイント	【宿題】共通の課題(テーマ)に沿って、自らの主張を作ります		
詳細	演繹法や帰納法などの論理学を"ツール"として使いながら、自分の論理性のチェックを行い、主張を適切 ルを身に付けます。	に作り上げるスキ	
第五講・第六講			
概要	論理構築のための論理思考 3 演繹・帰納法、論理構造(ピラミッドストラクチャー) 2		
事前,事後学習ポイント	なし		
詳細	宿題のアウトプットをクラス内で共有、改善点、問題点を協議します。		
第七講・第八講			
概要	課題解決のための論理思考 1 課題全体の構造化と絞り込み(WHAT型ロジックツリー)		
事前,事後学習ポイント	なし		
詳細	課題定義~課題ポイントの特定までのプロセスについて学びます。具体的には課題を具体化した後、適切解し、具体性を高めるスキルを身に付けます。	な切り口で課題分	
第九講・第十講			
概要	課題解決のための論理思考 2 課題要因の仮説構築(WHY型ロジックツリー)		
事前,事後学習ポイント	なし		
詳細	課題要因の特定~方策案の絞り込みまでのプロセスについて学びます。具体的には、漏れのない要因候補をどう出すか、挙		

がった対策案にどう優先度をつけるかなどのテクニックや思考法を身に付けます。(参加者の意向、講義の進捗などによ

	り、ケーススタディを導入する可能性もあり)	
第十一講・第十二講		
概要	組織・チームで論点を整理する技術 1 チームファシリテーション技術の習得	
事前,事後学習ポイント	なし	
詳細	チームでの合意を得るために必要なファシリテーションの技術を身に付けます。	
第十三講・第十四講		
概要	組織・チームで論点を整理する技術 2 チームファシリテーションの実践	
事前,事後学習ポイント	試験課題の発表	
詳細	第1回~5回までで個人で身に付けたスキルをチームリーディングに応用し、チームで合理的な結論を出すためのテクニック を身に付けます	
第十五講・第十六講		
概要	まとめと試験	
事前,事後学習ポイント	なし	
詳細	プログラム全体を通したレビューと個人ワークの発表と評価。原則としてプレゼン発表時にフィードバックを予定	

教科書 / Textbook	適宜配布します。	
指定図書 / Course Readings	なし	
参考文献・参考URL / Reference List	『人は勘定より感情で決める』柏木吉基著(技術評論社) https://www.amazon.co.jp/柏木吉基/e/B0042SL1HM 『武器としてのデータ活用術』柏木吉基著(翔泳社) https://www.amazon.co.jp/dp/4798160466 『上司からYESを引き出す-「即決される」資料作成術』(KADOKAWA) https://www.amazon.co.jp/dp/4046020172	

評価方法 / Method of Evaluation		
配分(合計100%)	出席率(10%)/講義議論参画度(30%)/最終レポート(60%) 3点の総合評価	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	・講義内容を十分に理解し、授業内での議論に積極的に参加、プレゼンテーション内容が優れている ・自らの経験や知識だけに拠らず、適切に(論理的に)その他の選択肢まで多角的、多面的に視野を広げて結論を導き出せ ている。その広げた選択肢が網羅的且つ論理的である ・単なるテクニックとしての考え方を修得するのではなく、既存概念を一度アンラーン(取り払い)し、ゼロベースで理論 を構築することができる(問題や目的の定義も適切に行える) ・上記全てを、重点を理解・意識した上で、相手に完結に伝えることができる ・上記全てを、多様なテーマや課題に対して適用できる	
評価「A」(89~80点):	・A+評価に対し、一部視野の広げ方が足りていない場合 ・A+評価に対し、クラス参加、貢献の度合いが一部足りていない場合 ・A+評価に対し、考えるプロセスや問題・目的定義の力において、一部論理性が低い場合 ・A+評価に対し、テーマや課題によりパフォーマンスにバラつきが見られる場合	
評価「B」(79~70点):	・講義の内容は一通り理解している ・自分の言いたいことを論理的に構造化し、表現することができる(一方で、自分の知見から視野を広げることに関しては 十分でないことがある) ・適切なプロセスに沿って、自分の考えを構築することができる	
評価「C」(69~60点):	最低限の講義内容を理解している	
評価「F」(59点以下):	・講義内容の理解が十分ではない ・講義への参加(出席や発言・貢献など)が十分ではない	

留意点 / Additional	オンラインによる授業となる可能性あり。またその場合、一部シラバスの内容に(オンラインに対応すべく)変更がある場
Information	合があります。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	データドリブンの戦略構築		
サブタイトル / Sub Title	データ技術が書き換える現代の経営戦略の思考	法と実践	
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Data-driven strategy building		
教員 / Instructor	栗山 実	E-mail	kuriyama-m@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	データドリブン経営	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	データサイエンスなどテクノロジーがビジネスダーとして今や欠かせない思考技術として、テを深め、実践できるようになることを目指しまAIやDXが流行語になる現在、個々のデータ技術技術とを的確に結び付けられる人材は未だ不足ってそういった「データ×戦略」を使いこなす本講では、データサイエンスに立脚して経営上の着眼点などを、ビジネスケースを踏まえた諺データ解析、データ表現技術、機械学習などを戦略構築や判断をどのように行えるかを議論の主に、企業経営の具体的な状況を設定したワーづきを発言し議論を重ねる時間を取ります。そ戦略策定の根底にある発想を自分なりに消化しの思考法・視座を得ることを目指します。	データ起点の発想や思考方法で経ます。 「おを熱心に勉強する人は増えているとしており、グローバル競争力やでしたが、変優が喫緊の課題をの戦略策定や意思決定、事業創設論を交えながら深めていますが、か中心に置いて進めます。 「クショップ型の演習を行い、グラれにより、小手先のデータいじ	営戦略の設計や意思決定を行う方法論の理解 いますが、企業の戦略策定・意思決定とデータ 次世代の事業創造力を求める企業の多くにと となっています。 造や変革を行うための実践的な思考法、発想 。統計学や分析手法、情報取得手法、ビッグ それらはあくまで道具であり、経営視点での ループに分かれて取り組むなどして自らの気 り技術ではなく、データに基づく意思決定・
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーでのDP2:「思考と判断」の現代的手法として、データサイエンスを活用するなどデータ起点での戦略思考・判断についての概要理解を得ることを目標とします。また、講義・ディスカッションを通して、データによる市場理解の手法やデータ表現手法など、DP1:「知識と理解」、DP4:「表現と技能」に寄与する実践的手法も扱います。データサイエンス時代における大企業組織の限界と変革の必要性、スタートアップ的なイノベーション手法など、DP3:「関心と意欲」、DP5:「志」に関連する話題も、受講者の関心に応じて議論が発展することを期待します。 ・データサイエンス・AIなどの技術の進展・普及によって一変するビジネス環境のなかで、新時代のビジネスリーダーとして求められる新しい技術知識・ビジネス知識や考え方などの道具立てについて、自分なりに理解した構成を持つこと・グローバル×デジタルの競争環境のもと、旧来の手法・考え方の継続は通用しないという「危機感」と、新旧交代の中で、未来を形作る仕事を手掛けられるタイミングに居合わせているという「ワクワク感」の両方を持ち、新たな挑戦への意欲・志を自ら認識すること		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、 グループワーク、プレゼンテーション、双方 向	学外学習 / Off-Campus Learning	無

予習:次回講義に関連する事柄の事前学習。

(各回数時間程度目安)

復習:当回講義の要点の復習まとめ、自主的実践。

(各回数時間程度目安)

授業の概要 / Course Description		
第一講・第二講		
概要	導入:経営戦略策定とビジネス	スデータの概観
事前,事後学習ポイント	戦略/戦術、意思決定、定量情	青報、ビッグデータ
詳細	そもそも「戦略」とは何か、「データ」とは何か、経営の意思決定のために「戦略×データ」を語る上で必要な要素は何か、講義、ディスカッション等を通じて、これから学びを深める動機づけと俯瞰的整理を得て本講義全体の概観の導入とする	
第三講・第四講		
概要	技術<1>: データの表現	
事前,事後学習ポイント	グラフ、メッセージ、フレームワーク、論理思考・構造思考	
詳細	戦略思考・決断のためのデータ表現を設計する(例:情報の構造、グラフ表現、戦略のための可視化)。要点の講義のの	

	ち、グループワークを通じて実践上の要所を体感し、全体でのディスカッションを深める	
第五講・第六講		
概要	思考<1>:手段と結果	
事前,事後学習ポイント	経営の目的、打ち手、因果関係、定量化、相関、検定、尺度	
詳細	経営目的達成のための行動を選択する定量的判断を理解する(例:4P施策の選択、因果関係の特定、効果測定、予測と最適化)。要点の講義・グループワーク・ディスカッション。	
第七講・第八講		
既要	技術<2>: データの取得	
事前,事後学習ポイント	データベース、市場調査、インタビュー設計、アンケート質問票	
詳細	戦略策定のためのデータ取得を設計する(例:購買履歴データベース、会員制度、ウェブサーベイ、FGI)。要点の講義・グループワーク・ディスカッション。	
第九講・第十講		
概要	思考<2>:経営の地図	
事前,事後学習ポイント	経営の方針判断、顧客の分布、クラスタリング、市場シェア、ペルソナ	
詳細	戦略的な経営指針を空間的に描き出す発想を理解する(例:市場の可視化、顧客の特徴把握、クラスタリング)。要点の講義・グループワーク・ディスカッション。	
第十一講・第十二講		
既要	発展<1>: データドリブンのビジネス革新とイノベーション	
事前,事後学習ポイント	機械学習/AI、最適化、プラットフォーマー、ディスラプティブイノベーション	
詳細	データ起点の着想を活用し、既存ビジネス革新や新規ビジネス創造を考える。要点の講義・グループワーク・ディスカッション。	
第十三講・第十四講		
既要	発展<2>:データ時代のキャリア論、質疑応答	
事前,事後学習ポイント	データサイエンティスト、DX、スタートアップ、スペシャリスト/ジェネラリスト	
詳細	データサイエンス・テクノロジーイノベーションの時代の組織論・キャリア論を考える。要点の講義・ディスカッション。 後半は第1講から全体を通しての質問と回答に充てる。	
第十五講・第十六講		
既要	まとめ	
事前,事後学習ポイント	発表の準備	
詳細	各自より、この講義を通じての学びを自分の立場に紐づけて考えられること、今後の実践、継続的な学び等を発表。発表内容への質疑などディスカッションを深める。	
教科書 / Textbook	講義の際にテキスト・ワークシート配布	
指定図書 / Course Readings	なし	
参考文献・参考URL /	講義中に適宜提示	

評価方法 / Method of Evaluation		
配分(合計100%) 出席(30%)、授業内での議論参加(50%)、レポート・発表(20%)		
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	データ起点での戦略思考の実践的手法について十分に理解を深め、自身の分野での実務での具体的活用を行える。データの 的確な収集・解析・表現によるビジネスの戦略的な意思決定の方法論を習得し、十分に活用して実践できる。データを前提 としたイノベーションと企業戦略に与える影響を理解し、実務に取り入れることができる。	
評価「A」(89~80点):	データ起点での戦略思考の実践的手法について理解し、実務での活用を考えられる。データの収集・解析・表現によるビジネスの戦略的な意思決定の方法論を理解し実践している。データを前提としたイノベーションと企業戦略に与える影響を理解できている。	
評価「B」(79~70点):	データ起点での戦略思考の実践的手法について理解している。データに基づくビジネスの戦略的な意思決定の方法論を理解 し活用している。	
評価「C」(69~60点):	データ起点での戦略思考の実践的手法、データに基づくビジネスの戦略的な意思決定の方法論を基本レベルで理解している。	

Reference List

評価 F	アーダ起点での戦略思考の美成的手法、アーダに基づくヒンネスの戦略的な息忠決定の方法論について理解が下分に観察されない。
	-

留意点 / Additional Information	なし

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	【DSB】サービスサイエンス		
サブタイトル / Sub Title	インタビュー調査、分析からの実践知考察		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Service science		
教員 / Instructor	中野 未知子	E-mail	nakano-m@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	データドリブン経営	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	付加価値としてのサービスが、あらゆる産業に入り込んでいる今日「サービスをどのように変革していくか」は、セクターや業種を問わず組織における重大な経営課題のひとつである。サービス自体がコモディティ化してしまうという課題を乗り越え、消費者・生活者にとって価値ある存在であり続けるためには、サービス現場で働く人々と消費者・生活者との間に起こる相互作用をしっかり見つめ続けることが大切だ。そこで重要になってくるのが、質的データのハンドリングスキルである。現場の傾聴や観察によって獲得した質的データから「何が起きているのか」を一定のモデルとして可視化し、量的データから得られる知見とも組み合わせながら考察することは、現状を改善したり良いところを伸ばしたりするための仕組みをつくっていく足掛かりとなってくれる。本講義は、サービスサイエンスの実践への第一歩である。インタビューデータから実践知を導出する過程を体験的に学ぶことを目的とする。よって個人課題に取り組んでいただくことが前提となる。分析手法として、質的データ分析手法のひとつである修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)を用いる。修士論文執筆で質的データ分析を予定する人にとっても本講義が一助になれば幸いである。授業では理論より実践に重きを置くが、理解してもらいたい理論については参考図書や文献を紹介する。尚、一部ケーススタディ講義として、協力企業であるトランスコスモス・アナリティクス株式会社からゲスト講師の登壇を予定している。		
到達目標 / Course Goals	1) ディプロマポリシーDP2: 「思考と判断」を達成するために、講義で扱う質的データ分析手法を用いて「サービス」の現状分析を行い、一定のモデルを導出・説明できること 2) ディプロマポリシーDP5: 「志」を達成するために、1) で獲得した実践知を自分の研究・実務においてどのように活用しうるか、具体例を用いて説明できること		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、グループ ワーク、プレゼンテーション、フィールドワ ーク、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	有

学期前半:学習内容整理、指定図書精読(平均毎回2時間程度)

学期後半:上記に加えて個人課題実践(=フィールドワーク)、最終日プレゼンテーション 準備(平均毎回4時間程度)

授業の概要 / Course Description

第一講・第二講

詳細

概要	【イントロダクション】対人サービスをデータで語る	
事前,事後学習ポイント	サービス、サービスサイエンス、質的データ 宿題: 学びの振返り	
詳細	形態:講義 内容:本講義全体のガイダンスと質疑応答/サービスやサービスサイエンス等、基本用語の説明/受講のために準備が必要 な点の共有 到達目標:本科目で扱う内容と学習の狙いの正しい理解、及び、基本用語の理解	
第三講・第四講		
概要	【ゲスト講義】企業におけるサービスサイエンス実践	
事前,事後学習ポイント	アナリティクス、マーケティング 宿題:学びの振返り/指定図書担当箇所の精読と要約	

第五講・第六講		
概要	【指定図書精読】対人サービスを質的データで語ろう ① -実践への備え-	
事前,事後学習ポイント	フィールドワーク、質的分析手法、M-GTA、リサーチクエスチョン 宿題:学びの振返り/個人課題:調査対象者とRQの検討	
詳細	形態:プレゼンテーション、質疑応答 内容:指定図書輪読による質的研究手法、M-GTAの理解、履修生・教員全員参加による相互フィードバック 到達目標:指定図書精読、プレゼン、質疑応答、相互フィードバックによるM-GTA手法の机上での理解(机上での理解が以 降の個人課題での実践のベースとして重要)	

形態:ゲスト講義(予定)、質疑応答

到達目標:ゲスト講義の積極的聴講による内容理解

内容:企業内実践の成果や過程の紹介と質疑応答による学びの確認

概要	【講義とグループディスカッション】対人サービスを質的データで語ろう ② -実践への備え-	
事前,事後学習ポイント	M-GTA、リサーチ・クエスチョン、ダイアローグ 宿題:学びの振返り/個人課題:設問項目の考案	
詳細	形態:グループディスカッション、講義 内容:ダイアローグを深めるための対話型鑑賞実践、M-GTAを用いた個人課題実践の進め方、リサーチ・クエスチョンの検討、設問設計 到達目標:個人課題実践の全体像のイメージ、リサーチ・クエスチョンとは何かの理解	
第九講・第十講		
概要	【インタビュー観察】対人サービスを質的データで語ろう ③ - 実践-	
事前,事後学習ポイント	M-GTA、半構造化インタビュー、ダイアローグ 宿題:学びの振返り/個人課題:実査、分析ワークシート作成	
詳細	形態:グループディスカッション、講義 内容:インタビューデモンストレーションの傾聴、RQの精査 到達目標:半構造化インタビューのイメージ、RQの精査のポイントの理解	
第十一講・第十二講		
概要	【個人課題進捗共有】対人サービスを質的データで語ろう ④ - 実践-	
事前,事後学習ポイント	M-GTA、仮説探索、仮説検証、概念化、ダイアローグ 宿題:学びの振返り/個人課題:分析ワークシート作成、モデル作成	
詳細	形態:グループワーク、グループディスカッション 内容:ダイアローグを深めるための対話型鑑賞実践、インタビューロールプレイング、設問項目の精査、履修生・教員全員 参加による相互フィードバック 到達目標:インタビュー設問設計の要諦の理解、インタビューデータ概念化の要諦の理解	
第十三講・第十四講		
概要	【個人課題中間発表】対人サービスを質的データで語ろう ⑤ - 実践-	
事前,事後学習ポイント	M-GTA、概念化 宿題:学びの振返り/個人課題:分析ワークシート作成、モデル作成	
詳細	形態:中間発表、グループディスカッション 内容:成果物イメージ検討、作成、履修生・教員全員参加による相互フィードバック 到達目標:インタビュー結果の概念化及びモデル化の要諦の理解	
第十五講・第十六講		
概要	【個人課題最終発表】学びの総まとめ	
事前,事後学習ポイント	半年間の学びと、自分の研究・実務との紐づけ、ダイアローグ	
詳細	形態:プレゼンテーション、質疑応答 内容:インタビューから導出したモデルの個別プレゼンテーションと履修生・教員全員参加によるフィードバック、ダイアローグを深めるための対話型鑑賞実践、授業全体からの学びの振返り 到達目標:授業全体からの学びを今後、どう実践に活かすかをイメージし自分の言葉で語ること	
教科書 / Textbook	西條剛央 (2007) 『ライブ講義・質的研究とは何か (SCQRMベーシック編)』新曜社 その他、適宜、資料を配布する。	
指定図書 / Course Readings	西條剛央 (2007) 『ライブ講義・質的研究とは何か (SCQRMベーシック編)』新曜社 (教科書と同じ)	
参考文献・参考URL / Reference List	木下康仁 (2003) 『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践―質的研究への誘い』弘文堂 木下康仁 (2020) 『定本 M-GTA -実践の理論化をめざす質的研究方法論』医学書院 西條剛央 (2008) 『ライブ講義・質的研究とは何か (SCQRMアドバンス編)』新曜社 伊丹敬之 (2001) 『創造的論文の書き方』有斐閣 近藤隆雄 (2012) 『サービス・イノベーションの理論と方法』生産性出版 佐藤郁哉 (2002) 『組織と経営について知るための実践フィールドワーク入門』有斐閣	

評価方法 / Method of Evaluation	
配分(合計100%)	授業出席と参加姿勢 (30%) 、毎回講義振返りレポート・個人課題実施状況(40%)、最終講成果物と発表内容(30%)
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A・」(100~90 点):	授業に出席且つ積極参加し、出席回について振返りレポート・個人課題を提出し、到達目標の1)、2) 両方の面において優れたプレゼンテーションを行った。授業で学ぶ質的研究手法の調査準備から分析、解釈までの各要諦を理解し、実務や修士論文への応用において、新奇性のあるリサーチ・クエスチョンを立てて(=課題設定)、調査の設計、分析にトライできるスキルを習得している。
評価「A」(89~80点):	授業に出席且つ積極参加し、出席回について振返りレポート・個人課題を提出し、到達目標の1)、2)どちらかの面におい

	て優れたプレゼンテーションを行った。授業で学ぶ質的研究手法の調査準備から分析、解釈までの各要諦を理解し、実務や 修士論文への応用が可能なスキルを習得している。
評価「B」(79~70点):	授業に出席且つ積極参加し、個人課題を提出し、到達目標の1)、2)についてプレゼンテーションを行った。授業で学ぶ質 的研究手法の要諦を理解し、実践にも生かすことができる。
評価「C」(69~60点):	授業に出席且つ参加し、個人課題を提出し、プレゼンテーションを行った。授業で学ぶ質的研究手法について一通りの理解 と実践ができている。
評価「F」(59点以下):	授業への出席が不十分、個人課題が未提出であり、授業で学ぶ質的研究手法の要諦の学習あるいは実践が不十分である。

留意点 / Additional Information	授業後半の個人課題(実際にインタビューを行い成果物を作成してみる)の実践から学ぶ授業となる。 履修生の皆さまには、授業中の講義の学びを生かしつつ個人課題(主には以下3点)に取り組んでいただき、授業中に適宜、 進捗確認や宿題の提示をもとにした、教員・履修生全員参加のフィードバックを行いながら授業を進行する。 1)第5、第6講の指定図書精読(=授業後半の個人課題実践のベースとなる知識習得) 2)第7~14講期間中の個人課題取り組み(=学外時間外でのインタビュー実査とその結果のまとめ) 3)最終講での個人課題プレゼンテーション 進め方は教員から指示する。
---------------------------------	---

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	マーケティング実践		
サブタイトル / Sub Title	マーケティングデータサイエンスの本質		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Practice of Data Science in Marketing		
教員 / Instructor	佐藤 洋行	E-mail	sato-h@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	データドリブン経営	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	近年、マーケティングにおいてデータ活用は欠くべからざるものとなっている。一方で、取得できるデータの種類も量も膨大になっていく中、意思決定に貢献しないレポートが生産され続けているような現場も見られる。本講義では、マーケティングにおけるデータ活用プロジェクトに数多く携わってきた講師の実践知を体系的に学んでもらうことで、マーケティングにおけるデータサイエンスを用いた創造的思考力を高めるために必要な知識を幅広く身につけてもらう。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーのDP2:「思考と判断」を、データドリブン経営の視点で達成するために、マーケティング分野でデータサイエンスを活用するために必要な高い実践知を身につけてもらうこと		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	無

準備学習(予習・復習等)	に必要な時間に準じる程度の具体
的な学習内容	

毎回の授業で、次の授業で取り扱う例題を提示し、次の授業までにその解決策を考えてもらう(2時間程度)。

授業の概要 / Course Desci	iption	
第一講・第二講		
概要	イントロダクション: 意思決定はどのようにして行われるのか	
事前,事後学習ポイント	経済学的な意思決定とデータサイエンス	
詳細	マーケターがデータと向き合ったときに陥りがちな間違いについて、なぜそれが起こるのかを考えることで、意思決定とはどのようなもので、データサイエンスとどのようなつながりがあるのかを論じる。それによって、データ活用に関する実践知を身つけてもらう。	
第三講・第四講		
概要	データサイエンスの可能性と限界① 情報とデータ、実験計画	
事前,事後学習ポイント	データの不完全性、実験計画の重要性	
詳細	マーケティングに関するデータが種類も量も膨大になる中で忘れられがちな、データの不完全性と、実験計画の重要性について改めて認識してもらうとともに、マーケターはそれらとどのように向き合うべきかについて論じる。それによって、エビデンスベースドインサイト力を高めるための実践知を身につけてもらう。	
第五講・第六講		
概要	データサイエンスの可能性と限界② データ分析と意思決定	
事前,事後学習ポイント	データ分析と意思決定の間の溝	
詳細	データ分析の結果を読み解く際に注意すべきことについて論じるとともに、それが意思決定に及ぼす影響について考える。 それによって、エビデンスベースドインサイト力を高めるための実践知を身につけてもらう。	
第七講・第八講		
概要	データサイエンスの可能性と限界③ データ分析の効用	
事前,事後学習ポイント	効用価値説、選好、完備性	
詳細	効用価値説から眺めたときのデータ分析がどのようなものかを議論する。その上で、データ分析の真の価値について考察 し、分析結果の他者への説明力を高めるための実践知を身につけてもらう。	
第九講・第十講		
概要	マーケティングデータの広がり	
事前,事後学習ポイント	DMP、CDP、オムニチャネル、センサー、RFID	
詳細	マーケティングに活用可能なデータは質も量も増加の一途をたどっている。そのトレンドについて整理し、データ品質管理やデータ整理・編集についての実践知を身につけてもらう。	
第十一講・第十二講		
概要	顧客獲得とデータサイエンス	

事前,事後学習ポイント	顧客獲得コスト、ブランド、シェア	
詳細	自社データをマーケティングに活用する際に忘れられがちな、ブランド力や市場シェアと獲得顧客数との関係性について改めて認識してもらうとともに、そのような視座から見たときの顧客獲得コストに与えられる意味について議論する。それによって、データに基づく創造的思考力を高めるための実践知を身につけてもらう。	
第十三講・第十四講		
概要	CRMとデータサイエンス	
事前,事後学習ポイント	顧客努力、モーメント、コミュニケーションの一貫性	
詳細	マーケターは顧客とのコミュニケーションでフリークエンシーを気にすべきか否か、というテーマについて、顧客努力やモーメントというキーワードから議論する。それによって、エビデンスベースドインサイト力を高めるための実践知を身につけてもらう。	
第十五講・第十六講		
概要	マーケティングとAI	
事前,事後学習ポイント	深層強化学習、状態、行動選択、報酬	
詳細	AIの基本技術として隆盛を極める深層強化学習について、概要を理解し、そのマーケティングへの応用可能性を探る。翻って、マーケターが何をすべきかを考え、プレゼンテーションをし、フィードバックをもらう。また、そのフィードバックに基づいて改善を行ったものを最終レポートにまとめてもらう。	

教科書 / Textbook	適宜、講義内で紹介する	
指定図書 / Course Readings	会社を変える分析の力(河本 薫(2013))、統計学が最強の学問である【実践編】(西内啓(2014))、AI時代の意思決定 とデータサイエンス(佐藤洋行(2019))	
参考文献・参考URL / Reference List	不確実性下の意思決定理論(イツァーク・ギルボア(2014))	

評価方法 / Method of Evaluation		
配分(合計100%) 出席率(30%)/講義議論参画度(20%)/最終レポート(50%) 3点の総合評価		
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A·」(100~90 点):	マーケティングにおけるデータサイエンスの役割について理解し、その利用をプロジェクト化できるだけの整理された知識 をレポートとしてまとめることができる	
評価「A」(89~80点):	マーケティングにおけるデータサイエンスの役割について理解し、その利用に関してアイディアをプレゼンテーションできるほどに知識が整理されている	
評価「B」(79~70点):	マーケティングにおけるデータサイエンスの役割について理解し、その利用に関してアイディアをもっている	
評価「C」(69~60点):	マーケティングにおけるデータサイエンスの役割について理解している	
評価「F」(59点以下):	マーケティングにおけるデータサイエンスの役割について理解していない	

留意点 / Additional Information	なし	

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	世界潮流と企業戦略		
サブタイトル / Sub Title	-アジア・ユーラシアダイナミズムと経営戦略・組織イノベーション-		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Global Trends and Corporate Strategy		
教員 / Instructor	金 美徳 E-mail kim-m@tama.ac.jp		
科目群 / Course Classification	アジアビジネス戦略	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	寺島実郎学長は、「経済人は平和に敏感でなければならない」、「経営とは時代認識だ」、「人生は世界を知る力、ビジネスは地政学的知(ゲオポリティカル)が大切である」と述べている。今後、ポストコロナの時代、新しい地政学の時代(国際秩序の崩壊危機と国際紛争の増加・拡大)、VUCAの時代(変動性・不確実性・複雑性・曖昧性)は、「世界で何が起こっているか」をより広く把握かつ深く洞察する必要があるため、まさしく「平和・時代・世界・地政学」という視座・視野・視点が重要となる。本講義は、「平和・時代・世界・地政学」の視点から、アジア・ユーラシアダイナミズムやグローバルヒストリーなどの考察を通じて、リベラルアーツ(国際教養)を身に付ける。また、日本企業のアジア戦略、アジアビジネス、インバウンドビジネス、組織イノベーション、グローバル人材育成の在り方を考察する。		
到達目標 / Course Goals	21世紀のアジアは、巨大な市場規模や豊富な天然資源など高い経済的潜在性を背景に、世界経済を牽引する。アジア開発銀行(ADB)によるとアジアGDPは、世界GDPに占める割合が2030年代には50%を超えると予測されている。まさしく「アジア経済=世界経済」、「リバース・イノベーション(先進国でなく、アジア新興国の製品やビジネスモデルがグローバルビジネスを牽引)」の時代である。日本は、すでに対アジア貿易が総貿易の50%、対アジア・ユーラシア貿易は74%にも達する。したがって日本企業は、①いかにアジア・ユーラシアダイナミズムを中心とした世界経済の構造変化と国際秩序の再編など時代の変化に対応するか、②いかにアジア・新興国市場で販路を開拓するか、③いかにアジアのヒト・モノ・カネ・情報やインバウンド需要を取り込むかが、切迫した経営課題となっている。本講義では、世界潮流やアジア・ユーラシアダイナミズムを俯瞰してグランドデザインを構想し、グローバル戦略を描く地政学的知(ゲオポリティカルな視点)を養う。また、日本企業の課題や履修者の職場の課題について、組織イノベーション、グローバル人材育成、インバウンド戦略、アジア・新興国ビジネスモデルなどの観点からその解決策を考える。この教育目標を実現することにより、DP1:「知識と理解」とDP5:「志」を身に付ける。		
授業形態 / Form of Class	講義、双方向、プレゼンテーション、ディス カッション	学外学習 / Off-Campus Learning	無

詳細

事前学習:各テーマに関する文献や教科書・指定図書などを通読する(2時間程度)。 事後学習:次回授業時に報告するアジア情報の準備。最終レポートのテーマ設定や作成に着 手する(2時間程度)

17.6 7 11.11		手する(2 時間程度)。	
授業の概要 / Course Descr	iption		
第一講・第二講			
概要	世界潮流とアジア・ユーラシア	マダイナミズム	
事前,事後学習ポイント	『これからの日中韓経済学』を	· 通読する。	
詳細		ガイダンス。各講義の最初にアジアに関するビジネス・時事・問題意識を簡単に報告して頂くため事前調査を行うこと。報 告内容をもってディスカッションも行う。	
第三講・第四講			
概要	アジアパラドックスとグロー/	アジアパラドックスとグローバルビジネス	
事前,事後学習ポイント	『これからの日中韓経済学』を	『これからの日中韓経済学』を通読する。	
詳細		アジア・ユーラシアダイナミズムとは何か、その実態を解説する。 また、アジア・ユーラシアダイナミズム時代といかに向き合うかをディスカッションする。	
第五講・第六講			
概要	日本企業の現状と課題	日本企業の現状と課題	
事前,事後学習ポイント	『これからの日中韓経済学』を	『これからの日中韓経済学』を通読する。	
アジア企業を鏡にして、日本企業の等身大の姿を映し出す。そして日本企業の強みと弱みを再検討する。 日本企業の今後の経営課題や経営戦略についてディスカッションする。			
第七講・第八講			
概要	地政学的知を活かしたグローノ	・	
事前,事後学習ポイント	『これからの日中韓経済学』を通読する。		

ビジネスパーソンや経営者が、平和に敏感でなければならい理由について解説する。

	また、ビジネス教養やグローバル組織・人材育成について考える。 日本の立ち位置や平和についてディスカッションする。		
第九講・第十講			
概要	地政学的知を活かしたグローバル戦略②		
事前,事後学習ポイント	『これからの日中韓経済学』を通読する。		
詳細	豊富なエネルギー資源やユーラシア大陸を繋ぐ国際物流拠点など北東アジア経済圏の地政学的優位性について解説する。 日本企業の地政学的戦略についてディスカッションする。		
第十一講・第十二講			
概要	アジア・新興国ビジネスモデル		
事前,事後学習ポイント	『これからの日中韓経済学』を通読する。		
詳細	日本・中国・韓国・台湾企業の強みや知恵を生かしたビジネスモデルを考える。 今後のアジアビジネスやインバウンド戦略についてディスカッションする。		
第十三講・第十四講			
概要	アジア戦略のプレゼンテーション①		
事前,事後学習ポイント	戦略レポートのプレゼンテーションの準備をする。		
詳細	戦略レポートのテーマは、自社もしくは関心企業のアジア・新興国戦略や独自のグローバルビジネスモデルとする。または、履修者の職場の問題・課題について組織イノベーション、グローバル組織・人材育成、インバウンド戦略などの観点からその解決策を提案すること。具体的に問題や課題を発見し、解決策(改善・改革・革新・事業構想)を提案すること。		
第十五講・第十六講			
概要	アジア戦略のプレゼンテーション②		
事前,事後学習ポイント	戦略レポートのプレゼンテーションの準備をする。		
詳細	戦略レポートのテーマは、自社もしくは関心企業のアジア・新興国戦略や独自のグローバルビジネスモデルとする。または、履修者の職場の問題・課題について組織イノベーション、グローバル組織・人材育成、インバウンド戦略などの観点からその解決策を提案すること。具体的に問題や課題を発見し、解決策(改善・改革・革新・事業構想)を提案すること。		

教科書 / Textbook	『キャンパスアジア共通教科書 これからの日中韓経済学』(編著:多摩大/金美徳・岡山大/田口雅弘、えにし書房、2018 年)
指定図書 / Course Readings	①『なぜ韓国企業は世界で勝てるのか-新興国ビジネス最前線-』(金美徳、PHP新書、2012年) ②『日本企業没落の真実-日本再浮上27核心-』(金美徳、中経出版、2013年) ③『図解 韓国四大財閥早わかり』(金美徳、中経出版、2012年)
参考文献・参考URL / Reference List	①『世界を知る力』(寺島実郎、PHP新書、2010年) ②『世界を知る力 日本創生編』(寺島実郎、PHP新書、2011年) ③『何のために働くのか 自分を創る生き方』(寺島実郎、文藝春秋、2013年) ④『中東・エネルギー・地政学』(寺島実郎、東洋経済新報社、2016年) ⑤『ユニオンジャックの矢-大英帝国のネットワーク戦略-』(寺島実郎、NHK出版、2017) ⑥『日本再生の基軸―平成の晩鐘と令和の本質的課題―』(寺島実郎、岩波書店、2020年) ⑦『人間と宗教あるいは日本人の心の基軸』(寺島実郎、岩波書店、2021年)

評価方法 / Method of Evaluation		
配分(合計100%)	議論の理解と貢献度70%、最終発表30% 議論の理解は、講義(2コマ)毎に提出する講義レポート(合計6回)で評価。 議論の貢献度は、講義毎のアジア関連情報の提供と質疑・議論内容で評価。 最終発表は、「アジア戦略」をテーマとした戦略レポートを発表し、5つの項目に沿って相互評価(教員の評価含む)を行う。 戦略レポートは、最終発表後に担当教員にメールで提出すること。	
評価基準 / Evaluation Criteria	valuation Criteria	
評価「A・」(100~90 点):	議論の理解・貢献度と最終発表(相互評価)の合算点が、90点以上の場合。	
評価「A」(89~80点):	議論の理解・貢献度と最終発表(相互評価)の合算点が、80~89点の場合。	
評価「B」(79~70点):	議論の理解・貢献度と最終発表(相互評価)の合算点が、70~79点の場合。	
評価「C」(69~60点):	議論の理解・貢献度と最終発表(相互評価)の合算点が、60~69点の場合。	
評価「F」(59点以下):	議論の理解・貢献度と最終発表(相互評価)の合算点が、59点以下の場合。	

留意点 / Additional Information	受講ルールについて別途、伝える。 評価方法:	

議論の理解と貢献度70%、最終発表30%

議論の理解は、講義(2コマ)毎に提出する講義レポート(合計6回)で評価。

議論の貢献度は、講義毎のアジア関連情報の提供と質疑・議論内容で評価。

最終発表は、「アジア戦略」をテーマとした戦略レポートを発表し、5つの項目に沿って相互評価(教員の評価含む)を行う。 戦略レポートは、最終発表後に担当教員にメールで提出すること。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	日本企業の中国ビジネス		
サブタイトル / Sub Title	インバウンド・越境ECからコロナ後の時代へ、中国市場に勝つための戦略・戦術を知ろう		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Case Study of Japanese business in China 徐 向東 E-mail xu@cm-rc.com		
教員 / Instructor			
科目群 / Course Classification	アジアビジネス戦略	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	インバウンドの拡大によって日本人が身近で中国人の消費力を感じた。5GやEVなど次の時代に向ける中国企業のプレゼンスの高まりも日本で注目されている。一足先に進んでいる中国のオンライン化・無人化は、コロナ対応の中でさらに進化している。この授業では、こうした現場の最新情報をもとにこれからの日本企業の中国ビジネスの戦略と実践を一緒に学び、考え、受講者の自分ならではのビジネスプランを描こうとしたい。		
到達目標 / Course Goals	DP1:「知識と理解」およびDP2:「思考と判断」を達成するために、中国ビジネスの基礎を身に付けながら、具体的な最新事例を通して、新興市場に対する知の再武装、そして新興市場に取り組む問題解決力を養い、情報収集から、情報分析、分析結果の発表を行う力を習得する。		
授業形態 / Form of Class	グループディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体 的な学習内容 事後学習:事前に関係資料を検索・整理(2時間程度) 事後学習:毎授業にレポートを提出すること(2時間程度)

印み手目的台			
授業の概要 / Course Descr	iption		
第一講・第二講			
概要	日中ビジネスの全貌を知る		
事前,事後学習ポイント	1980年代中国の市場経済化の後の日本企業の中国市場への関わりの推移 中国のWTO加盟後のグローバル化時代におけるに日中ビジネス関係の変化 中国が日本の最大貿易相手国になる経緯、米中貿易摩擦やコロナ後の新しい変化など、 以上を事前にある程度、調べて理解し、 授業後にそのポイントをすっかり整理し把握する。		
詳細	過去30年間における日中ビジネスの変遷を理解する 日中ビジネスの全体像を把握する 日本企業にとっての中国ビジネスを理解する		
第三講・第四講			
概要	日中ビジネスの新たな地平線		
事前,事後学習ポイント	インバウンド、越境ECがもたらす新しいビジネスチャンスを事前にある程度調べて理解し、 コロナ後の日本企業の中国向けの事業展開を予想する。		
詳細	ここ数年に起きたインバウンドや越境ECなどの新しいビジネス領域を学び、コロナ後の日中ビジネスの新しい展開に備える		
第五講・第六講			
概要	中国市場の「基本」を知る		
事前,事後学習ポイント	中国の沿海部と内陸部、80後世代、90後世代、Z世代など各世代の特徴、消費の多様化・高度化、日本の商品やサービスの受容度などを事前にある程度調べ理解し、授業後にはその特徴をしっかり把握すること		
詳細	人口、地理、世代別/地域別/所得水準別/情報感度別など異なる層の日本の商品やサービスへの関わりと受容度を理解 し、消費者ニーズをつかむための定量、定性分析や観察のノウハウを学ぶ		
第七講・第八講	·		
概要	中国に売るためのチャネル戦略	- 8を学ぶ	
事前,事後学習ポイント	世界最大ネット通販の展開 Tモールのビジネスモデル 越境ECの仕組み ダブルイレブン アリペイ、WechatPayなどスライブコマースの現状、ショー 以上を事前にある程度、調べて 授業後にそのポイントをすった	- トムービAPPやライブによる今後の販売チャネルの変化 C理解し、	

詳細	伝統チャネルからECチャネルへの進行や、ビッグデーター、キャッシュレスの進化の速い中国の事例から、新しい「モノ・カネ」流通の仕組みを学ぶ。スマホ決済や越境ECなど中国の新しい流通チャネルや決済事情を理解する。		
第九講・第十講			
概要	中国に売るためのコミュニケーション戦略を学ぶ		
事前,事後学習ポイント	微博(Weibo)、微信(WeChat)、RED、中国版ティックトック、ライブコマースなど中国の新しいSNS事情およびネット 販売事情を事前に調べ、授業後にその要点を整理ししっかり把握する。		
詳細	ネット時代における口コミなどの情報拡散の施策を学ぶ 特に日本とは社会事情が大きく違う中国向けの情報拡散のコツを理解する 中国の消費者に正しくコミュニケーションする手法を学ぶ		
第十一講・第十二講			
概要	ビジネスモデルの構築		
事前,事後学習ポイント	花王、資生堂、ユニクロ、無印良品等々、日本企業の対中ビジネス事例、ビジネスモデルを事前に調べ、 授業後にいくつかのビジネスモデルの成功失敗要因を整理し把握する。		
詳細	中国市場に取り組むビジネスモデルの構築を学ぶ 正しい判断を下すためのビジネス感覚の培い方を学ぶ		
第十三講・第十四講			
概要	独自の中国ビジネスプラン作成		
事前,事後学習ポイント	これまで学んだことを生かして、 所属する会社の業務内容あるいは今後立ち上げたいビジネスの事業内容を踏まえて 独自の中国市場に売り込むためのビジネスプランを作成する。		
詳細	行動に移す実践力を学ぶ 授業で学んだ知識や情報を生かすための独自ビジネスプランを発表する。		
第十五講・第十六講			
概要	総括		
事前,事後学習ポイント	これまで発表したビジネスモデルの総括と改善		
詳細	受講生のプレゼンテーションやレポートから見えてきたこれからの改善や学習ポイントのフィードバックなど		
教科書 / Textbook	『「爆買い」中国人に売る方法』(日本経済新聞出版社2015)		
指定図書 / Course Readings	なし		
参考文献・参考URL / Reference List	『中国人にネットで売る〜2つの"ネット"の正しい使い方、つくり方』(東洋経済新報社2011)、『中国人に売る時代!巨大市場開拓の成功の法則』(日本経済新聞出版社2009)		
評価方法 / Method of Evaluat	tion		
配分(合計100%)	出席率 /講義議論参画度 /最終レポート 3点の総合評価。そのうち、出席(30%)、授業内での議論・グループワーク参加(30%)、プレゼン内容(40%)の構成で評価を行う。		
評価基準 / Evaluation Criteria			
評価「A・」(100~90 点):	毎回積極的に議論に参加し、小レポート(ゼミ発表)は少なくとも1回やっていて、プレゼン内容も優秀であること。		
評価「A」(89~80点):	毎回積極的に議論に参加し、小レポート(ゼミ発表)は少なくとも1回やっていて、プレゼン内容はしっかり準備していること。		
評価「B」(79~70点):	毎回積極的に議論に参加し、小レポート(ゼミ発表)は少なくとも1回やっていること。プレゼンには具体的な内容があること。		
評価「C」(69~60点):	毎回積極的に議論に参加し、小レポート(ゼミ発表)は少なくとも1回やっていること。		
評価「F」(59点以下):	議論に参加せず、小レポートもレポートといえるほどの内容としてできていない。		
留意点 / Additional Information	講義内でフィードバックやメールでフィードバックを行う		

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	日中企業比較論		
サブタイトル / Sub Title	中国マクロ経済とビジネスモデルのあり方に関する分析		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Chinese development model and theory		
教員 / Instructor	柯 隆	E-mail	ke@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	アジアビジネス戦略	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	グローバルビジネス環境のダイナミックな変化のなかで、日中企業の経営戦略を比較することを目的に、企業経営史、産業組織論、経済史の観点からの考察に加え、個別企業の経営戦略に関するケーススタディを行う。主な問題意識として、戦後日本の産業政策の役割と限界性、日本企業のグローバル戦略のあり方、中国経済の台頭と中国企業経営の内実、日中におけるベンチャーキャピタルの役割と内実、などを一つずつひも解いていく		
到達目標 / Course Goals	DP1:「知識と理解」 本講義は日中両国の経済環境の違いを踏まえ、両国企業の経営実態を解明し、それに関する比較研究を行うことにする。具体的に、経営史の観点から日本企業の生成と高度成長期の日本企業の経営実態とバブル崩壊以降の日本企業のグローバル戦略を考察する。同時に、中国企業の発展について、従来の国有企業の成り行きと経営実態を考察したうえ、目下、注目されている中国テック企業の経営とグローバル戦略について考察する。本講義は日中両国企業経営戦略の知識を把握するだけでなく、それに関する理解を深めるための経営戦略に関する問題意識を持つことも求められる		
授業形態 / Form of Class	グループワーク、ディスカッション	学外学習 / Off-Campus Learning	あり

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体 的な学習内容 事前学習:課題予習、reading listに基づく準備 事後学習:レポートの提出など(合計2時間程度)

授業の概要 / Course Description				
第一講・第二講				
概要	戦後日本企業の歩みと改革・開放以降の中国企業の生成			
事前,事後学習ポイント	関連の参考書を予習			
詳細	日本の企業文化と中国企業文化に関する比較			
第三講・第四講				
概要	日本企業のケイレツと中国の家族企業			
事前,事後学習ポイント	Reading listを事前に通知し、それに基づいて予習すること			
詳細	部品調達、資金調達、情報の伝達、経営者交代に関する比較			
第五講・第六講				
概要	日中の産業政策に関する比較-日本企業と政府との関係、中国企業と政府との関係			
事前,事後学習ポイント	Reading listを事前に通知し、それに基づいて予習すること			
詳細	日中企業のイノベーションに関する比較			
第七講・第八講				
概要	日中の自動車産業に関する比較			
事前,事後学習ポイント	Reading listを事前に通知し、それに基づいて予習すること			
詳細	裾野産業、サプライチェーンのあり方、技術労働者の育成、モデルチェンジの経営決断、省エネ技術のイノベーションなど			
第九講・第十講				
概要	企業見学:日本企業の中国進出戦略と課題			
事前,事後学習ポイント	関連資料を事前に配布し予習する			
詳細	日本企業のグローバル戦略のあり方に関する考察:国際競争力の強化と課題など			
第十一講・第十二講				
概要	日中企業の資金調達に関する考察			
事前,事後学習ポイント	関連書籍を事前に予習する			

詳細	日本企業:都市銀行から短期資金を調達、長信銀や社債・株式発行によって長期資金を調達。デジタル時代の資金調達のあり方。 中国企業:国有企業は国有銀行から資金調達、株式上場と投資信託による調達、民営企業は非正規金融市場からの調達 資金調達の方法の違いによって日中企業の経営を比較		
第十三講・第十四講			
概要	日中企業の人事制度に関する比較		
事前,事後学習ポイント	関連の課題を事前に予習する		
詳細	日本企業:経営の安定性を重視し、企業内教育に力を入れる傾向が強い 中国企業:社外の人材を取り入れるダイナミックな経営に徹底 日中企業の人事制度の違いによる経営への影響を比較		
第十五講・第十六講			
概要	日中企業の知財権保護戦略に関する考察		
事前,事後学習ポイント	・デジタル時代における知財権の重要性 ・知財権戦略のあり方 ・包括的なグローバル戦略 ・経済安全保障の観点からみた企業の知財権戦略		
詳細	日中企業の知財権戦略の比較 日本企業: 問われる技術戦略 中国企業: 知財権保護の意識欠如		

教科書 / Textbook	適宜配布
指定図書 / Course Readings	別途、講義中配布
参考文献・参考URL / Reference List	別途、講義中配布

評価方法 / Method of Evaluation			
配分 (合計100%)	授業中のディスカッション(30%)、レポートの採点(30%)、小論文とプレゼンテーション(40%)		
評価基準 / Evaluation Criteria			
評価「A・」(100~90 点):	①積極的にディスカッションに参加し、②事前のサーベイを行い、③論点と論拠と結論がはっきりしたレポートと④独創性 のある小論文		
評価「A」(89~80点):	①ディスカッションに積極的に参加し、②事前のサーベイに基づいたレポートの提出と③独創性のある小論文		
評価「B」(79~70点):	①ディスカッションに参加し、②事前の論文サーベイを行い、③レポートを提出し、④バランスの良い小論文を提出する		
評価「C」(69~60点):	①ディスカッションに参加し、②レポートを提出、③小論文を提出する		
評価「F」(59点以下):	ディスカッションに参加するが、レポートや小論文の提出を怠る場合		

留意点 / Additional Information	自ら課題を見つけ、	それを解決する方法を身につけること
---------------------------------	-----------	-------------------

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期	
科目名 / Course Title	日本の製薬企業の未来			
サブタイトル / Sub Title	世界から見た日本の製薬企業の位置づけと生き残り戦略 (コロナ後のヘルスケアを考える)			
英文科目名 / Course Title (Eng.)	The future of Japanese pharmaceutical companies			
教員 / Instructor	佐々木 弘明	E-mail	sasaki-hi@tama.ac.jp	
科目群 / Course Classification	ヘルスケア	単位数 / Credits	2単位	

講義目的 / Aim of Course	日本はこれまで世界第三位の新薬創生国。アジアでは日本が唯一であり、世界の中で高い評価を得てきました。研究開発費の増加等、新薬創生の難易度は年々上昇しています。IPS細胞や再生医療の出現から、製薬企業の未来を探求する。			
到達目標 / Course Goals	医薬品業界は、新薬開発までの莫大な資金がかかる中、毎年の薬価切り下げが行われるなど、厳しい外部環境は続いており、まさに業界変動の兆しが窺える。またコロナ環境下にあって医薬品業界の使命も変動している。また政府が掲げる「新成長戦略」の7つの戦略分野に位置付けられており、日本経済にも多くの影響を与える分野であり、MBA生にも関心が高い分野と考える。製薬企業経営の難しさや特殊性を理解しながら、様々な製薬企業の取り組みを深堀りしながら、自社での活用ポイントを明らかにし、自らの課題解決を実践することを到達目標とする。ディプロマポリシーにあるDP1:「知識と理解」を確実にした上で、DP2:「思考と判断」を身に着ける。DP5:「志」へ昇華、課題解決力を向上させ、社内外で活躍できることを目標とする。			
授業形態 / Form of Class	双方向、講義、グループディスカッション、 グループワーク、ディベート、プレゼンテー ション	学外学習 / Off-Campus Learning	なし	

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体 事前学習:指定図書予習及び宿題資料の読み込み(毎回2時間程度) 的な学習内容 事後学習:講義内容の振り返り(毎回1時間程度)

的な学習内容	事後子省:講義内谷の振り返り(毎回1時间程度)			
授業の概要 / Course Descr	iption			
第一講・第二講				
概要		製薬業界の特徴である、研究・開発・技術・生産・営業のバリューチェーン、直接販売はできない日本の流通制度等のその 特徴、環境変化から各社が何を取り組んでいるかを学ぶ。		
事前,事後学習ポイント	世界及び国内の製薬企業の売上	上高、営業利益等分析し、ダイアローグできるよう整理する。		
		医療用医薬品のハイリスクハイリターン構造や国内製薬企業の環境変化に対する製薬会社の経営戦略と人事戦略。イノベーション起こすための組織開発をどう構築しているのか探求する。		
詳細	をパワーポイントでまとめてく	※ビジョン・ミッション・アプローチ(自社のあるべき姿、現状の強み弱み、そのギャップ、実践行動)を深く考察し、自組織をパワーポイントでまとめてくる。 第15講までに全員が発表する。これにより、多くの他社事例に触れ、自社・自組織に展開する力を養う。		
第三講・第四講				
概要	2	製薬業界で起きている薬価切り下げ、グローバル化、新規参入企業動向や、予防・未病・治療・停滞・終末医療や再生医療 等の環境変化を整理し、今後の製薬業界の在り方を考察する。		
事前,事後学習ポイント	今、製薬業界で何が起こっているのかを調べ、クラスでダイアローグできるように整理する。			
詳細	国内最大手の武田薬品工業のM&Aをどう評価するのか、クラスでダイアローグ プレゼンテーション① ※ビジョン・ミッション・アプローチ(自社のあるべき姿、現状の強み弱み、そのギャップ、実践行動)を深く考察し、自組織をパワーポイントでまとめてくる。 第15講までに全員が発表する。これにより、多くの他社事例に触れ、自社・自組織に展開する力を養う。			
第五講・第六講				
概要	企業研究A.アステラス製薬の動	企業研究A.アステラス製薬の動向を深く探求する①なぜ合併が必要と判断したのか、また今後の方向性を確認する。		
事前,事後学習ポイント	合併当時のアステラス製薬の紹	合併当時のアステラス製薬の経営戦略と人事戦略、ステークホルダーの関係を考える		
詳細	山之内製薬と藤沢薬品工業による国内最初の大型合併の舞台裏を探求し、どう評価するのか、クラスでダイアローグする。			

第15講までに全員が発表する。これにより、多くの他社事例に触れ、自社・自組織に展開する力を養う。

※ビジョン・ミッション・アプローチ(自社のあるべき姿、現状の強み弱み、そのギャップ、実践行動)を深く考察し、自組織

プレゼンテーション②

をパワーポイントでまとめてくる。

第七講・第八講			
概要	企業研究A.アステラス製薬の動向を深く探求する②メーカーとして生き残るのか、販社として生き残るのか、また再生医療の可能性について深く考察する。		
事前,事後学習ポイント	現在のアステラス製薬の経営戦略と人事戦略、ステークホルダーの関係を考える		
詳細	大手三社の武田薬品工業、アステラス製薬、第一三共を比較探求し、どう評価するのか、クラスでダイアローグする。 プレゼンテーション③ ※ビジョン・ミッション・アプローチ(自社のあるべき姿、現状の強み弱み、そのギャップ、実践行動)を深く考察し、自組織をパワーポイントでまとめてくる。 第15講までに全員が発表する。これにより、多くの他社事例に触れ、自社・自組織に展開する力を養う。		
第九講・第十講			
概要	企業研究B.合併当時の田辺三菱製薬の動向を深く探求する①なぜ化学品業界に飲み込まれる決断をしたのか、製薬業界以外の参入状況を深く考察する。		
事前,事後学習ポイント	合併当時の田辺三菱製薬の経営戦略と人事戦略、ステークホルダーの関係を考える		
詳細	三菱ウェルファーマと田辺製薬による内資同士の合併の舞台裏、またその後の三菱化学グループの一社になった経緯を探求し、どう評価するのか、クラスでダイアローグする。 プレゼンテーション④ ※ビジョン・ミッション・アプローチ(自社のあるべき姿、現状の強み弱み、そのギャップ、実践行動)を深く考察し、自組織をパワーポイントでまとめてくる。 第15講までに全員が発表する。これにより、多くの他社事例に触れ、自社・自組織に展開する力を養う。		
第十一講・第十二講			
概要	企業研究B.現在の田辺三菱製薬の動向を深く探求する②上場廃止の道を選んだ経緯と今後の方向性について深く考察する。		
事前,事後学習ポイント	現在の田辺三菱製薬の経営戦略と人事戦略、ステークホルダーの関係を考える		
詳細	中堅企業の田辺三菱製薬、中外製薬、塩野義製薬を比較探求し、どう評価するのか、クラスでダイアローグする。 プレゼンテーション⑤ ※ビジョン・ミッション・アプローチ(自社のあるべき姿、現状の強み弱み、そのギャップ、実践行動)を深く考察し、自組織をパワーポイントでまとめてくる。 第15講までに全員が発表する。これにより、多くの他社事例に触れ、自社・自組織に展開する力を養う。		
第十三講・第十四講			
概要	まとめ①ゲスト講演 日本の製薬企業の未来を考える・・・医師または企業研究先等の経営企画や創薬関係者を招聘予定。 (これまでは、内閣府鬼頭氏、武田薬品ワクチン部長今川氏、アストラゼネカ武田氏)		
事前,事後学習ポイント	現在及び今後のの日本の製薬企業の課題と方向性について深く考察する。		
詳細	日本の製薬企業の課題を探求し、各社の動向やどう優先順位をつけるか、クラスでダイアローグする。 プレゼンテーション⑥ ※ビジョン・ミッション・アプローチ(自社のあるべき姿、現状の強み弱み、そのギャップ、実践行動)を深く考察し、自組織をパワーポイントでまとめてくる。 第15講までに全員が発表する。これにより、多くの他社事例に触れ、自社・自組織に展開する力を養う。		
第十五講・第十六講			
概要	まとめ②日本の製薬企業の未来についてダイアローグ		
事前,事後学習ポイント	日本の製薬企業の未来について検討する。(学び通じて、自組織課題の解決策含め)		
詳細	日本の製薬企業の未来を探求し、どう解決していくのか、クラスでダイアローグする。 プレゼンテーション① ※ビジョン・ミッション・アプローチ(自社のあるべき姿、現状の強み弱み、そのギャップ、実践行動)を深く考察し、自組をパワーポイントでまとめてくる。 第15講までに全員が発表する。これにより、多くの他社事例に触れ、自社・自組織に展開する力を養う。		
教科書 / Textbook	適宜、講義資料を配布する。		
指定図書 / Course Readings	よくわかる医薬品業界 長尾剛司著 日本実業出版社		

教科書 / Textbook	適宜、講義資料を配布する。	
指定図書 / Course Readings	よくわかる医薬品業界 長尾剛司著 日本実業出版社 医薬品業界の動向とカラクリがわかる本 荒川博之著 秀和システム	
参考文献・参考URL / Reference List	ユーレット企業比較 http://cdn.ullet.com/	

評価方法 / Method of Evaluation

配分(合計100%)	出席(30%)、授業内での議論参加(35%)、プレゼンテーション内容(15%)、最終レポート(20%)				
評価基準 / Evaluation Criteria	評価基準 / Evaluation Criteria				
評価「A・」(100~90 点):	日本の製薬企業の未来を自らの言葉で語り、社内外で活用できる。				
評価「A」(89~80点):	日本の製薬企業の未来を深く理解し、自社への改善案が描ける。				
評価「B」(79~70点):	日本の製薬企業の未来の概要が理解でき、自社の課題点を指摘できる。				
評価「C」(69~60点):	日本の製薬企業の未来の概要が理解できている。				
評価「F」(59点以下): 日本の製薬企業の未来の理解が不十分、出席不良で、授業内の議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。					
留意点 / Additional Information	ゲスト講演として、医師または国内製薬会社の方を招聘予定です。 (これまではコロナ禍であり話題のワクチン対策として、内閣府鬼頭氏、武田薬品ワクチン部長今川氏、アストラゼネカ武田 氏が登壇)				

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期	
科目名 / Course Title	医療・介護経営Ⅰ			
サブタイトル / Sub Title	毎年2兆円弱成長する分野とは			
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Healthcare and Long term Care Management Theory I			
教員 / Instructor	真野 俊樹 E-mail mano@tama.ac.jp			
科目群 / Course Classification	ヘルスケア	単位数 / Credits	2単位	

講義目的 / Aim of Course	医療はコアの国民医療費の部分のみで40兆円超、周辺を入れればその2倍にもなろうかという巨大な産業分野になっている。 介護ももはや10兆円産業である。 本講座では、医療/介護のコア部分、医療/介護周辺産業について経営学の視点で論じる。 その時々の環境変化・政策変化に 応じてトピックスは柔軟に対応する。並行される医療介護オムニパス講座の補完の意味もあり、そちらで議論しきれなかっ た点を深めることも可能である。 秋学期に開講される医療介護オムニバス講座の補完の意味もあり、そちらで議論しきれない点を深めることも目的としてい る。		
到達目標 / Course Goals	最近の医療/介護の状況を展望し今後を考える。ディプロマポリシーでDP1:「知識と理解」を達成するために、各自1回のプレゼンテーションにおいて、この業界についての問題意識をまとめることができるようになること。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

自身の担当部分について発表準備するだけでなく、メンバーの発表についても理解し、アドバイスできるようにする、最低1講座1時間準備すること。

授業の概要 / Course Descript	ion		
第一講・第二講			
概要	自己紹介、医療介護制度概要		
事前,事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方	を理解する	
詳細	自分の持つ問題点を明らかにす	3	
第三講・第四講			
概要	海外の医療		
事前,事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方	を理解する	
詳細	国際比較を行う。		
第五講・第六講			
概要	外部講師の講義と議論		
事前,事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する		
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話(双方向)により理解を深める		
第七講・第八講			
概要	受講生の選択トピックスによる	寅習	
事前,事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する		
詳細	アクティビティ(プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート)を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8 講までに全員が発表する		
第九講・第十講			
概要	外部講師の講義と議論		
事前,事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する		
詳細	最新のトピックスについて外部講師が講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話(双方向)により理解を 深める		
第十一講・第十二講			

概要	受講生の選択トピックスによる演習		
事前,事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する		
詳細	アクティビティ(プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート)を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8 請までに全員が発表する		
第十三講・第十四講			
概要	受講生の選択トピックスによる演習		
事前,事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する		
詳細	アクティビティ(プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート)を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8 講までに全員が発表する		
第十五講・第十六講			
概要	受講生の選択トピックスによる演習		
事前,事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する		
詳細	アクティビティ(プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート)を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8 講までに全員が発表する		

教科書 / Textbook	資料を適宜配布する
指定図書 / Course Readings	真野俊樹著「こんな医者ならかかりたい」(朝日新書)、「入門医療経済学」(中公新書)、「入門医療政策」(中公新書)、 「新たな医療危機を超えて」(日本評論社)、「命の値段はいくらなのか?」(角川新書)、「医療危機」(中公新書)
参考文献・参考URL / Reference List	なし

評価方法 / Method of Evaluation			
配分 (合計100%)	授業参加(30%)、個人の発表(70%)		
評価基準 / Evaluation Criteria			
評価「A・」(100~90 点):	課題設定―データ収集―分析―仮説の検証―提案が行える		
評価「A」(89~80点):	課題設定―データ収集―分析―仮説の検証が行える		
評価「B」(79~70点):	課題設定―データ収集―分析を行える		
評価「C」(69~60点):	課題設定―データ収集を行える		
評価「F」(59点以下):	以下): 課題設定か調査設計かデータ収集のいずれかしかできない		

留意点 / Additional	 《読む·書く+聴く·話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること
Information	

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期	
科目名 / Course Title	医療・介護経営Ⅱ			
サブタイトル / Sub Title	毎年2兆円弱成長する分野とは			
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Healthcare and Long term Care Management Theory II			
教員 / Instructor	真野 俊樹 E-mail mano@tama.ac.jp			
科目群 / Course Classification	ヘルスケア	単位数 / Credits	2単位	

講義目的 / Aim of Course	年々の医療介護費用の増加は2兆円を超す。これをコストとみればマイナスであるが、市場の広がりとみれば大きなチャンスともいえる。一方、倫理的な部分や規制が多い業種であるがゆえに、その中で生きていくにはかなりの修練が必要になる。当該講座では、医療や介護事業者あるいはその分野に外部から関心を持つ者を対象にし、複雑な業界を解きほぐして現業や新たなチャンスを探る機会とする。議論を多く行い、また外部講師も以前とは異なるために、前期後期の連続履修が理解を深めることになると考える。		
到達目標 / Course Goals	医療介護業界を解きほぐして現業や新たなチャするために、各自1回のプレゼンテーションによと。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

的な学習内容

詳細

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体 自身の担当部分について発表準備するだけでなく、メンバーの発表についても理解し、アド バイスできるようにすること。最低1講座1時間準備すること。

17.6 1 11.17		
授業の概要 / Course Descr	ption	
第一講・第二講		
概要	自己紹介、医療介護制度概要	
事前,事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する	
詳細	自分の持つ問題点を明らかにする	
第三講・第四講		
概要	海外の医療	
事前,事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する	
詳細	国際比較を行う。	
第五講・第六講		
概要	外部講師の講義と議論	
事前,事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する	
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話(双方向)により理解を深める	
第七講・第八講		
概要	受講生の選択トピックスによる演習	
事前,事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する	
詳細	アクティビティ(プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート)を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する	
第九講・第十講		
概要	外部講師の講義と議論	
事前,事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する	
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話(双方向)により理解を深める	
第十一講・第十二講		
概要 受講生の選択トピックスによる演習		
事前,事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する	
-		

アクティビティ(プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート)を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイン

·	
受講生の選択トピックスによる演習	
問題の設定から考え方、解き方を理解する	
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	ディスカッション、ディベート)を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイン 員が発表する
受講生の選択トピックスによる演習	
事後学習ポイント 問題の設定から考え方、解き方を理解する	
アクティビティ(プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート)を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する	
	アクティビティ(プレゼンテーション、トでまとめてくること。第8講までに全 受講生の選択トピックスによる演習 問題の設定から考え方、解き方を理解す アクティビティ(プレゼンテーション、

教科書 / Textbook	資料を適宜配布する
指定図書 / Course Readings	真野俊樹著「新たな医療危機を超えて」(日本評論社)、「医療危機」(中公新書)、「入門医療政策」(中公新書)、 「医療マーケティング 第三版」(日本評論社)、「日本の医療 比べてみたら10勝5敗3分けで日本の勝ち」(講談社新書)
参考文献・参考URL / Reference List	なし

評価方法 / Method of Evaluation		
配分 (合計100%)	授業参加(30%)、個人の発表(70%)	
評価基準 / Evaluation Criteria	────────────────────────────────────	
評価「A・」(100~90 点):	課題設定—データ収集—分析—仮説の検証—提案が行える	
評価「A」(89~80点):	課題設定—データ収集—分析—仮説の検証が行える	
評価「B」(79~70点):	課題設定—データ収集—分析を行える	
評価「C」(69~60点):	課題設定—データ収集を行える	
評価「F」(59点以下):	課題設定か調査設計かデータ収集のいずれかしかできない	

Information	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること	
留意点 / Additional	/************************************	

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	医療・介護マネジメントの実践知		
サブタイトル / Sub Title	事例から積み上げよう		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	How to make a real business for healthcare and longterm care		
教員 / Instructor	真野 俊樹	E-mail	mano@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	ヘルスケア	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	医療介護分野は、もはや制度の変更だけではな えているのではないか。このオムニパス講義て ンテーションをしていただき、それに対しての	は、多摩大学大学院のOB/OG&	るるいは現場で実践知を持っている方にプレゼ
到達目標 / Course Goals ディプロマポリシーでのDP2:「思考と判断」を達成するために、医療介護分野での様々な取り組み 題解決や特定課題論文の作成に役立てることを目標とする。		予での様々な取り組みを知ることで、自らの問	
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

最新の情報について毎回資料が配られるので、1講義最低1時間十分な復習が望まれる。

授業の概要 / Course Description		
第一講・第二講		
概要	医療制度について外部講師の講義と議論	
事前,事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する	
詳細	最新のトピックスについて理解し議論する 最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話(双方向)、ディベートにより理解 を深める	
第三講・第四講		
概要	医療制度について外部講師の講義と議論	
事前,事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する	
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話(双方向)、ディベートにより理解 を深める	
第五講・第六講		
概要	海外の医療について外部講師の講義と議論	
事前,事後学習ポイント 問題の設定から考え方、解き方を理解する		
最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話(双方向)、ディベートにより を深める		
第七講・第八講		
概要	ケアについて外部講師の講義と議論	
事前,事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する	
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話 (双方向)、ディベートにより理解 を深める	
第九講・第十講		
概要	ヘルテックについて外部講師の講義と議論	
事前,事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する	
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話(双方向)、ディベートにより理 を深める	
第十一講・第十二講		
概要 ペルテックについて外部講師の講義と議論		
事前,事後学習ポイント	高前,事後学習ポイント 問題の設定から考え方、解き方を理解する	

詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話(双方向)、ディベートにより理解 を深める	
第十三講・第十四講		
概要	医療提供体制について外部講師の講義と議論	
事前,事後学習ポイント	問題の設定から考え方、解き方を理解する	
最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話(双方向)、ディへ を深める		
第十五講・第十六講		
概要 医療提供体制について外部講師の講義と議論		
事前,事後学習ポイント 外部講師の講義と議論		
詳細	最新のトピックスについて講義を行い、ディスカッション及び教員や外部講師との対話(双方向)、ディベートにより理解 を深める	

教科書 / Textbook	資料を適宜配布する
指定図書 / Course Readings	「新たな医療危機を超えて」(日本評論社)、「入門医療経済学」(中公新書)、「入門医療政策」(中公新書)、「医療が日本の主力商品になる」(ディスカバー携書)、「命の値段はいくらなのか?」(角川新書)「日本の医療 比べてみたら10勝5敗3分けで日本の勝ち」(講談社新書)
参考文献・参考URL / Reference List	なし

評価方法 / Method of Evaluati	ion	
配分 (合計100%)	授業参加(30%)、レポート(70%)	
評価基準 / Evaluation Criteria	評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A・」(100~90 点):	課題設定—データ収集—分析—仮説の検証—提案が行える	
評価「A」(89~80点):	課題設定—データ収集—分析—仮説の検証が行える	
評価「B」(79~70点):	課題設定—データ収集—分析を行える	
評価「C」(69~60点):	課題設定—データ収集を行える	
評価「F」(59点以下):	課題設定か調査設計かデータ収集のいずれかしかできない	

留意点 / Additional	《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルが経営実践のキーであるので、議論には積極的に参画すること。外部
Information	講師の招聘により予定変更の可能性がある

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	高齢社会のまちづくり		
サブタイトル / Sub Title	21世紀の産業連関と地域の内発的発展モデルの)創造	
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Community Planning of the aged society		
教員 / Instructor	川井 真	E-mail	kawai1026jp@nifty.com
科目群 / Course Classification	ヘルスケア	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	さらなるグローバル化の進展が予想される21世紀であるが、日本は国際社会において「高齢社会先進国」としての責務も負っている。人口減少を伴う高齢社会では人々の行動範囲・経済活動は、すくなからず縮小するであろうし、加齢とともに身体は虚弱になり、リタイアすれば収入も減る。したがって、これからはGDP成長率に代わる新たな豊かさの指標が必要となってくるだろう。本講義においては、このような新時代における産業連関の仕組みと地域経済の内発的発展モデルを提示することのできる人材の養成、すなわち21世紀の「まちづくり」を担うソーシャルアントレプレナーやイントラプレナーの育成を目指す。		
到達目標 / Course Goals	日本の21世紀は生活の内実を豊かにする「まちづくり」の世紀であると仮定し、DP1:「知識と理解」を深め、DP2: 「思考と判断」を養い、DP3: 「関心と意欲」を高めながら「知の再武装」を達成する。これによりDP4: 「表現と技能」すなわち文化を再創造していく能力を身につけ、「イノベーターシップ」に基づき、経済のフレーム・オブ・リファレンスを再考しながら上記目的に資する「問題解決のためのモデル」をつくり、実践していく。		る。これによりDP4:「表現と技能」すなわ 経済のフレーム・オブ・リファレンスを再考
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、グループ ワーク、ディベート、プレゼンテーション、 双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

事前学習:事前に資料に目を通し、講義の主題となる部分を押さえておく(90分程度) 事後学習:得た知識を実践知へと昇華させるため、思考を整理し言語化しておく(90分程度)

授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	導入・要点整理(社会的想像と創発へのアプローチ)	
事前,事後学習ポイント	わたしたちはどこから来て、どこへ向かうのか。時代認識を共有する。	
詳細	世界の動き、日本の現状を、文明論や歴史人口学的な観点から分析し、固定観念を取り払いながら、来るべき経済、来るへき未来の姿をイメージする。 宿題:講義内容を整理し、自身の見解をまとめる。参考文献一覧から関連する書籍を選択し、内容を整理し、報告する。	
第三講・第四講		
概要	まちづくりの思想(サスティナビリティという視点)	
事前,事後学習ポイント	政治・経済・社会という多角的観点から「まちづくり」の意義と意味を検証する。	
詳細	さらなるグローバル化の進展が予想される21世紀にあって、なにゆえ「まちづくり」に着目するのか、その意義と意味について、ディスカッションを通して理解を深めていく。 第1講で得た情報と知識を報告し、くわえて第2講の「まちづくり」との関連性についての私見を述べる。選択した参考文献によって得られた知識を報告する。	
第五講・第六講		
概要	近代経済思想と福祉レジーム(社会保障と雇用保障を再考する)	
事前,事後学習ポイント	福祉レジームの一角に地域包括ケアという概念が登場した時代背景を知る。	
詳細	福祉国家の成立から今日までの推移を確認し、それを踏まえて、死生学や老年学あるいは社会学や文化人類学などから発信される知見をもとに、超少子高齢人口減少時代に求められる保健・医療・介護・福祉の構造を考えていく。中央集権システムと地域政策を対比し、グループディスカッションによって議論を深め、地域のあるべき政策について、それぞれ見解を述べる。	
第七講・第八講		
概要	ローカリズムと内発的発展論(来るべき経済と働き方の革新)	
事前,事後学習ポイント	21世紀の地域主義とグローバル化した世界における内発的発展論について考察する。	
詳細	地球資源の有限性に着目したローマクラブによる「成長の限界」や、「地域主義」ならびに「内発的発展論」といった生命系の思想的潮流が過去に存在したことを確認し、今日的なSDGsへと受け継がれていく持続可能性というテーマに着目しなら、これからの「まち・ひと・しごと」について考えていく。 グループディスカッションで理解を深め、これからの「まち・ひと・しごと」に関する意見を発表する。	

第九講・第十講		
概要	論理的思考とプラグマティズム(近代科学と人間の学~高齢社会のアクションリサーチ)	
事前,事後学習ポイント	課題解決に必要な思考力と行動力を養う。	
詳細	固定観念から意識を解き放ち柔軟な発想へと思考を導くために、プラグマティズムを手掛かりに「ゆらぎ」の科学について 考察し、新たなビジネス構想や社会イノベーションをデザインするために役立つ、論理的思考やアブダクションについて理 解を深める。 具体的な事例をもとにグループディスカッションを行い、発表する。	
第十一講・第十二講		
概要	社会システム理論・貨幣論(コミュニケーションと共通善)	
事前,事後学習ポイント	構造主義の理解と社会的行動主義心理学ならびに認知科学を手掛かりに社会を検証する。	
詳細	G.Hミードの自我論やニクラス・ルーマンの社会システム理論(オートポイエーシス的システム理論)を手掛かりに社会の構造を分析し、社会学的想像力と柔軟な思考を養いながら、新たな事業を創造し、展開するための具体的な戦略を検討する。 グループディスカッションで理解を深め、発表し、さらに具体的な事業展開の方法について討議する。	
第十三講・第十四講		
概要	地域デザイン(食・エネルギー・ケアを基盤にネットワーク化する地域内産業連関の仕組み)	
事前,事後学習ポイント	事例検討(贈与論の再考)	
詳細	人間活動の基盤を支える「食」、「エネルギー」、「ケア」を事業の中心に据えて、新たな地域内産業連関を構成しようとしている地域を、SDGs未来都市やSociety5.0のまちづくりの実践例として紹介する。このような事例を参考にしながら、ディスカッションを通して、地域における社会的意義や本質的価値および持続可能性について考える。 第5講、第6講の知見を織り込みながら自身の見解を整理し、発表する。	
第十五講・第十六講		
概要	まとめ(インテグレーテッド・ソーシャルビジネス・ネットワークの構造とデザイン)	
事前,事後学習ポイント	パブリックとプライベートをシームレスに連結する、来るべきソーシャル・ビジネス、コミュニティ・ビジネスの可能性に ついて考える。	
詳細	ソーシャル・ビジネスやコミュニティ・ビジネスと呼ばれるものは、多くの場合、市場の論理に従って、単独で、事業を発展させていくことは難しい。そこで共有価値を創造し、新たな関係性を構築し、社会的課題を解決しながら、地域とともに発展する新たなソーシャル・ビジネス、コミュニティ・ビジネスの可能性について、都市OS(データ連携基盤)の活用なども視野に入れながら、いくつかの仮説をもとに検証する。グループワークにより意見を集約し、とりまとめ、発表する。	
教科書 / Textbook	必要な資料を毎回(テーマごとに)作成し配布する。	
指定図書 / Course Readings	なし(参考文献の中から自ら選択し、熟読する)	
参考文献・参考URL / Reference List	参考文献一覧を別途作成し配布する。	
評価方法 $/$ Method of Evaluat	ion	
配分(合計100%)	出席率30%/講義議論参画度30%/最終レポート40%	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	バランスのとれた理解、授業内での議論参加、レポートの内容が優れている。仮説形成型の論理的思考を展開し、社会課題 を解決するための具体策を提案できる。	
評価「A」(89~80点):	バランスのとれた理解、授業内での議論参加、レポートの内容が良い。しなやかな感性と豊かな想像力を活かして、つねに 斬新なアイデアを提案できる。	
評価「B」(79~70点):	理解力、授業内での議論参加、レポートの内容が期待したレベルに到達している。	

留意点 / Additional	本授業は思考の柔軟性を求めています。したがって、経営学・経済学・政治学のような社会科学に属する学問のみならず、
Information	人文科学や自然科学、あるいは死生学や認知科学など新しい学問領域から発信される情報にも耳を傾け、常識にとらわれず、思考を飛躍させることを心がけてください。最終講義でフィードバックを行います。

授業内での発言、レポートの内容が期待したレベルに到達している。

評価項目すべてにおいて不十分である。

評価「C」(69~60点):

評価「F」(59点以下):

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	地域包括ケアのビジネスモデル		
サブタイトル / Sub Title	SDGsのGOAL11 住み続けられるまちづくりを	医療介護ビジネスで支える	
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Business method of theCommunity based Int	egrated Care System	
教員 / Instructor	石井 富美	E-mail	ishii-f@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	ヘルスケア	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	地域包括ケアシステムにおける医療介護の専門職の役割を知り、持続可能なビジネスモデルを構築する。		
到達目標 / Course Goals	地域包括ケアシステムの本質を知り、医療介護の専門職の役割を知ることで、新しい価値観を持つことができる。ディプロマポリシーでのDP1:「知識と理解」を達成するために、社会保障制度改革の展望を知る。ヘルスケア分野のデータを新たなビジネスモデルに活かし、人口減少社会の中でのまちづくり、コミュニティづくりをプランニングすることでディプロマポリシーの関心と意欲(社会を変革しようとする力)を身につける。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	無

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体 事前学習:講義資料、参考資料の確認(1時間程度) 的な学習内容

事後学習:授業後のレポート(1時間程度)

n) & T E r 1 T			
	·		
授業の概要 / Course Desc	ription		
第一講・第二講			
概要	社会保障制度改革と地域包括ケアシステム		
事前,事後学習ポイント	厚生労働省のHP、地域包括ケアシステムについて事前に目を通しておく。		
詳細	社会保障制度改革の流れと地域包括ケアシステムの概要について説明します。多様性を受け入れる社会のあり方についてグ ループディスカションを行います。		
第三講・第四講			
概要	地域包括ケアシステムにおける「医療」の役割		
事前,事後学習ポイント	事前に配布する講義資料に目を通しておく。ディスカッションテーマについても事前に公表するので、自身の関心事の調査 や意見をまとめておくとディスカションに参加しやすくなります。		
詳細	地域包括ケアシステムのフィールドである地域での「暮らし」、少子高齢化社会の「暮らし」をささえる医療の役割を共に 考えます。また、地域の中での多世代、様々なハンディキャップを越えて交流する仕組みを作り、医療・介護の専門職が関 わりながら地域の暮らしの中で生き、暮らしの中で看取る仕組みを先進事例から学びます。		
第五講・第六講			
概要	社会保障制度の将来像		
事前,事後学習ポイント	事前に配布する講義資料、保険医療2035、2040年を展望した医療提供体制等の参考資料に事前に目を通しておく。 ディスカッションテーマについても事前に公表するので、自身の関心事の調査や意見をまとめておくとディスカションに参加しやすくなります。		
詳細	人口減少社会における社会保障制度の在り方を示した保健医療2035、さらに2040年の展望を読み解き、今から20年かけてヘルスケアに携わる専門職は何をしていく必要があるのか、行政、企業、民間団体に求められている役割を共に考えます。		
第七講・第八講			
概要	個人の尊厳とQOL・QOD 人生会議のあり方		
事前,事後学習ポイント	事前に配布する講義資料、人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインに事前に目を通しておく。 ディスカッションテーマについても事前に公表するので、自身の関心事の調査や意見をまとめておくとディスカションに参加しやすくなります。		
詳細	人生の最終段階における医療の普及・啓発の在り方に関する検討会の資料から、ACPのあり方、死生観の多様性への対応を考えていきます。人生会議を擬似体験するカードゲームを行います。		
第九講・第十講			
概要	ヘルスケア分野のIT化、情報利活用の可能性		
事前,事後学習ポイント	事前に配布する講義資料に事前に目を通しておく。 ディスカッションテーマについても事前に公表するので、自身の関心事の調査や意見をまとめておくとディスカションに参		

加しやすくなります。

詳細		分野の技術革新が進む中、科学的介護という考え方も進んできている。医療介護健康などの 能性を考え、新たなビジネスを考えていきます。
第十一講・第十二講		
概要	地域包括ケア時代の「連携」	、 新規事業の資金調達
事前,事後学習ポイント	これまでの講義、ディスカッシ	ョンを参考に、新規ビジネスモデルを作成し、発表の準備をしてください。
詳細	リビングラボも視野に入れた幅	医療機関・企業・研究機関・行政などの新しい連携の形、専門分野での連携だけではなく、 広い連携について、事例を紹介しながら、自分たちのリソースを活用した新しい取り組みを を立ち上げる際の資金調達方法、事業計画の立て方について事例を紹介しながら説明しま
第十三講・第十四講		
概要	受講生による発表	
事前,事後学習ポイント	他の受講生の発表についても自	分の意見をまとめ、今後の参考としてください。
詳細	これまでの講義、ディスカッシ	ョンから考えたビジネスモデルの発表をしていただきます。
第十五講・第十六講		
概要	受講生による発表の講評と先行	事例紹介
事前,事後学習ポイント	講義に参加できず、発表ができ	なかった場合は、自らのビジネスモデルをレポートとして提出していただきます。
詳細	すでに実装されている地域包括 ます	ケアモデル、新規ビジネスなどを紹介し、現状と課題、可能性などについて情報提供を行い

教科書 / Textbook	適宜配布する
指定図書 / Course Readings	医療・介護制度改革へ向けた病院経営戦略 石井富美著 出版社:日本医療企画 ISBN978-4-86439-607-3
参考文献・参考URL / Reference List	内閣府、経文済産業省、厚生労働省などのホームページから下記のキーワードの資料を参考献とします。講義の中でも最新情報を適宜紹介していきます。 ・地域包括ケアシステム ・次世代ヘルスケア産業協議会 ・認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)・保健医療2035 ・未来投資戦略 ・次世代医療基盤法 ・2040年を展望した医療提供体制 ・人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン

評価方法 / Method of Evaluation		
配分 (合計100%)	ビジネスモデル発表 (30%)、ディスカッションへの参加(20%)、各回のレポート(30%)授業への参加(20%)として重み付けし、満点が100点になるように合計得点を算出する。	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	上記合計得点で90点以上で、持続可能なビジネスモデルを構築できる	
評価「A」(89~80点):	上記合計得点で80点以上で、持続可能なビジネスモデルを構築できる	
評価「B」(79~70点):	上記合計得点で70点以上で、地域包括ケアシステムでの医療介護の役割を理解できる	
評価「C」(69~60点):	上記合計得点で60点以上で、地域包括ケアシステムを理解できる	
評価「F」(59点以下):	上記合計得点で59点以下	

留意点 / Additional	各回のグループディスカッションでは積極的に参加、発言してください。講義の中でビジネスモデル発表ができなかった場	
Information	合、レポートの提出により採点を行いますが、配分は20%となります。	

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	ヘルスケアビジネスイノベーション		
サブタイトル / Sub Title	ヘルスケア分野での新規事業創出スキルとマインドセット		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Health care business innovation		
教員 / Instructor	山本 伸	E-mail	yamamoto-s@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	ヘルスケア	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	ヘルスケア分野で新事業を構想、特に異業種から参入したいビジネスパーソンが、この業界の特殊性や壁に迷うことなく新 事業を構想できる方法論を、実戦しながら具体的な新事業案を創出する。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーでのDP1:「知識と理解」とDP4:「表現と技能」を達成するために、既存事業の構造化による分析、アナロジー思考による新事業のデザイン、目的工学の手法による新事業のビジョンとミッション制定、デザイン思考を適用したビジネスデザイン及び、グループダイナミクスを最大限に引き出すファシリテーション技法を習得する。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、グループ ワーク、プレゼンテーション、フィールドワ ーク、双方向、PBL型学習、ワークショップ	学外学習 / Off-Campus Learning	有

21	集備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体	事前学習:予習に十分な時間をとること(1時間程度)
自	りな学習内容	事後学習:毎授業後にチーム毎に協議し、レポートを提出すること(1時間程度)

授業の概要 / Course Desci	iption	
第一講・第二講		
概要	参入前に知っておきたい、パンデミック以降のヘルスケア外部環境と主要6分野のビジネスモデル	
事前,事後学習ポイント	ビジネスモデルキャンバス(BMC)、バリュープロポジション・キャンバス(VPC)の使い方に慣れておくこと。	
詳細	ヘルスケア業界の中長期動向とパンデミック以後の外部環境の変化を議論し、主要6分野(未病・予防・診断・治療・服薬・ 介護)の代表的な事業構造を俯瞰する。	
第三講・第四講		
概要	予防:リソースを活用したヘルスケアビジネスモデル・シフト	
事前,事後学習ポイント	事業におけるリソース・ケイパビリティを基にしたビジネスモデル・シフト法を学ぶ。	
詳細	企業の強みの源泉を再定義し、新たな事業構造をデザインする(ケース:タニタ食堂・ヤンマー社員食堂、他)。	
第五講・第六講		
概要	未病:薬事承認と保険適用~遺伝子検査ビジネスモデルの収益シミュレーション	
事前,事後学習ポイント	収益パターンを基にしたビジネスデザイン・シミュレーション法を学ぶ。	
詳細	ヘルスケア分野参入において検討すべき「薬事・保険」の意思決定と、収益モデル構築の可能性を議論する(ケース:国内 及び海外の遺伝子検査提供企業)。	
第七講・第八講		
概要	診断:事業機会の発見とステークホルダー・マッピング	
事前,事後学習ポイント	バリュープロポジション・キャンバス(VPC)の使い方を習得し、顧客インタビューの実践的手法を学ぶ。	
詳細	顧客や関連ステークホルダーを観察し解決すべき課題を事業機会として捉え、サービス・製品の構想を描く(ケース:シスメックス、ケアプロ、他)。	
第九講・第十講		
概要	治療:ヘルスケアDXとデジタル治療薬〜製薬産業の破壊的イノベーション	
事前,事後学習ポイント	顧客の本質的な課題をバリュープロポジション・キャンバスで構造化し、解決策をデザインする。プラットフォーム型ビジネスモデルの構造化と、進化させる方法を学ぶ。	
詳細	デジタルトランスフォーメーション(DX)による従来の事業構造の転換、新たな先端治療法の開発と、新事業創出の方法論を議論する(ケース:エムスリー、キュアアップ、Susmed、他)。	
第十一講・第十二講		
概要	服薬:調剤薬局のDXとビジネスモデル・シフト	
事前,事後学習ポイント	──│ 着想を新事業にするためのツールを使い方を学ぶ。ビジネスを立ち上げ軌道に乗せる過程で起こるPitfallと対処策を知る。	

詳細	薬剤師の役割、薬局のこれまでの事業構造、具体的なスタートアップによるDX事例を学び、新たな事業モデルを構想する(ケース:カケハシ電子薬歴、harmo電子お薬手帳、他)。		
第十三講・第十四講			
概要	在宅看護・ケア:志と持続性の両立~ヘルスケア人財と組織開発		
事前,事後学習ポイント	ヘルスケア分野でイノベーションを実現する人事戦略と組織構造について実例から学ぶ。		
詳細	ヘルスケア業界には、倫理観や共助の精神が高い人財が集まる一方、ビジネス視点が弱く組織の持続性が脆いことが少なくない。相応の対価を得ながら、価値を生み出し続ける組織と人財に着目した事業モデルを議論する(ケース:ビュートゾルフ、他)。		
第十五講・第十六講			
概要	GAFAMとヘルスケアビジネス~プラットフォーマーの構想と戦略		
事前,事後学習ポイント	ヘルスケアビジネスにおいて、最大の事業機会が期待されるビッグデータに着目し、プラットフォームの構想法を議論する。		
詳細	ヘルスケア分野におけるGAFAM各社の戦略を構造化し俯瞰しながら、自社で着目すべき領域のデータと、その活用戦略を具体化する(ケース:ピルパック、LINEヘルスケア、Apple Watch、他)。		
教科書 / Textbook	インビンシブル・カンパニー 「無敵の会社」を作った39パターンのビジネスモデル(翔泳社)。講義資料・ワークシートは、適宜用意する。		
指定図書 / Course Readings	ビジネスモデル・ジェネレーション ビジネスモデル設計書(翔泳社)、バリュー・プロポジション・デザイン 顧客が欲しがる製品やサービスを創る(翔泳社)、イノベーションの迷路〜ゴールに導く4つのルートと10のステップ(サウザンブックス)		
	ビジネスアイデア・テスト 事業化を確実に成功させる44の検証ツール(翔泳社)、START INNOVATION! with this visual toolkit.〔スタート・イノベーション!〕 ービジネスイノベーションをはじめるための 実践ビジュアルガイド&思考ツールキッ		

評価方法 / Method of Evaluation		
配分 (合計100%) 出席:グループワーク:プレゼンテーション:レポート=30:20:20:30		
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	ヘルスケア分野において、構造化したVPCや新規デザインしたBMCを基に、自社やVCに提案できるレベルの新規事業案が創出できる。	
評価「A」(89~80点):	ヘルスケア分野において顧客の具体的課題をヒアリングしバリュープロポジション・キャンバス(VPC)で構造化し、新規事業案をBMCでデザインできる。	
評価「B」(79~70点):	ヘルスケア分野における新しいアイデアを、BMCの型に基づき複数デザインできる。	
評価「C」(69~60点):	ヘルスケア分野の既存事業をビジネスモデルキャンバス(BMC)で構造化し、成功要因を分析できる	
評価「F」(59点以下):	ビジネスモデルキャンバス(BMC)を用いた事業の構造化ができない。	

ト(BNN新社)、モデルナはなぜ3日でワクチンをつくれたのか(集英社インターナショナル)、ヘルスデザインシンキング〜デジタルヘルス/ヘルステックに向けて:医療・ヘルスケアのためのデザイン思考実践ガイド(BNN新社)、変貌するヘルスケア業界〜あらゆる企業がヘルスケア事業者に(ピー・アンド・イー・ディレクションズ)、100のチャートで見る人

生100年時代、「幸せな老後」を自分でデザインするためのデータブック(ディスカヴァー・トゥエンティワン)

参考文献・参考URL /

Reference List

留意点 / Additional	miro.comや各種クラウドサービスを用いても資料の配布などを行う。チームでの学習となるので、基本的にはオンタイムで
Information	出席し、積極的にグループワークに参加し、プレゼンテーションやディスカッションに参加すること。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	ソーシャルビジネスの事業・資金計画		
サブタイトル / Sub Title	社会的事業(ソーシャルビジネス)を行ってい 等)の事業計画策定及び資金調達方法の研究	る営利法人及び非営利法人(NI	PO、NGO、財団、社団、学校法人、医療法人
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Business Planning and Finance for Social Business		
教員 / Instructor	堀内 勉	E-mail	t-horiuchi@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	ソーシャルインパクトビジネス	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	社会的価値を実現するための社会事業(ソーシ 人、医療法人等)が行うものであると考えられ 近年ではCSV(Creating Shared Value)経営、 業が行われるようになってきている。 同時に、資金提供者である金融機関やVC(ベン いたものが、近年、社会事業への審査能力を高 本講では、社会事業の事業計画の策定の仕方や ンス手法について習得する。そのため、実際に いて語ってもらう。同時に、実際に自身で組み 組合の融資担当者からコメントをもらう機会を	ており、営利法人である株式会パーパス経営などの広がりと共 ゲチャーキャピタル)の側でも、め、その資金提供範囲と規模を、寄付金や公的補助やクラウド社会事業を行っている経営者を立てた社会的事業の事業計画に	社が行うことは少なかった。しかしながら、 に、営利法人と非営利法人の別なく、社会事 かつては営利事業だけを対象に資金提供して 急速に拡大してきている。 ファンディングなども含めた新しいファイナ ゲストスピーカーとして招き、その経験につ
到達目標 / Course Goals	社会事業の事業計画策定と資金調達について理解し、ディプロマポリシーでのDP1:「知識と理解」を達成するために、自らが社会事業を立ち上げた時に、実際の事業計画策定と資金調達ができるようになることに加え、「問題解決のためのモデル」作りができる「実践知」のレベルにまで到達することを目標とする。その前提として、ソーシャルビジネスの分野において、DP1:「知識と理解」を達成するために、CSV経営やパーパス経営の意味、国連SDGsやESGの最新動向などを理解した上で、社会を取り巻く環境変化とこれからの進むべき方向性について、自ら理解し考える力を習得する。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	有

概要

事前,事後学習ポイント

①事前学習:前回講義内容の整理と指定図書の熟読(2時間程度)

②事後学習:期間中に各自で考える社会的事業について、事業計画と資金調達計画を立てたレポートを提出(5時間程度)

授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	①社会事業の事業計画策定と資金調達手法の概要の講義 ②社会事業の背景にあるESGやSDGsなどの新しい社会の潮流について講義	
事前,事後学習ポイント	①社会事業サイドとしては、社会事業として認知されている組織(ライフイズテック等)、②資金調達サイドでは、政策金融公庫、信用金庫・信用組合、クラウドファンディング、社会的インパクト投資、助成財団(日本財団、社会変革推進財団等)、ベンチャーフィランソロピーなど、③その社会的背景として、新しい資本主義、ESG、SDGs、CSV経営、パーパス経営などについて、できるだけ幅広に事前・事後の学習しておくこと。	
詳細	①受講生の自己紹介と本講義受講に当たっての問題意識の説明、教員の自己紹介とオリエンテーション ②本講座講師による社会事業についての講義(資料は当日配布) ③二回目以降の講義の進め方、受講生のプレゼンテーション、提出レポートの作成方法などについてのすり合わせ 宿題:指定図書や関連するインターネットページをよく読んでくること。	
第三講・第四講		
概要	①地域金融と公的支援制度(政策金融)が社会事業において果たす役割 ②社会事業家と政策金融公庫などの社会事業担当者をゲストとして招き、事業計画・資金計画の策定のポイントを講義して もらう	
事前,事後学習ポイント	①社会事業がどのように事業計画を立て、資金調達を行っているかの実際の理解 ②社会事業へのVCや地域金融機関の投資・融資スタンスと公的支援の枠組みの理解	
詳細	①受講生の自己紹介と本講義受講に当たっての問題意識の説明 ②ゲストスピーカー: 社会事業を行っている組織の担当者、日本政策金融公庫/多摩信用金庫/京都信用金庫/第一勧業信用組合のいずれかの担当者 宿題:前回の講義内容をよく復習してくること。	

①社会事業がどのように事業計画を立て、資金調達を行っているかの実際の理解

②社会事業へのVCや地域金融機関の投資・融資スタンスと公的支援の枠組みの理解

②/社会変革推進財団などの担当者をゲストとして招き、事業計画・資金計画の策定のポイントを講義してもらう

①公的支援制度(財団助成)が社会事業において果たす役割

詳細	①受講生の自己紹介と本講義受講に当たっての問題意識の説明 ②ゲストスピーカー: 社会事業を行っている組織の担当者、社会事業に対する公的支援を行っている日本財団/社会変革推進財団のいずれかの担当者 第1講から第6講までは、受講生の理解を高めるための講義形式をメインとする。 宿題:前回の講義内容をよく復習してくること。	
第七講・第八講		
概要	①社会事業家の担当者をゲストとして招き、事業計画・資金計画の策定のポイントを講義してもらう ②受講生が考える社会事業の事業計画と資金調達計画の説明と、それに対する講評(政策金融公庫/多摩信金/社会変革推進 財団等)	
事前,事後学習ポイント	①社会事業がどのように事業計画を立て、資金調達を行っているかの実際の理解	
詳細	①受講生の自己紹介と本講義受講に当たっての問題意識の説明 ②ゲストスピーカー: 社会事業を行っている組織の担当者 第1講から第6講までは、受講生の理解を高めるための講義形式をメインとする。 宿題:前回の講義内容をよく復習してくること。	
第九講・第十講		
概要	①社会事業家の担当者をゲストとして招き、事業計画・資金計画の策定のポイントを講義してもらう ②受講生が考える社会事業の事業計画と資金調達計画の説明と、それに対する講評(政策金融公庫/多摩信金/社会変革推進 財団等)	
事前,事後学習ポイント	①社会事業がどのように事業計画を立て、資金調達を行っているかの実際の理解	
詳細	①受講生の自己紹介と本講義受講に当たっての問題意識の説明 ②ゲストスピーカー: 社会事業を行っている組織の担当者 第1講から第6講までは、受講生の理解を高めるための講義形式をメインとする。 宿題:前回の講義内容をよく復習してくること。	
第十一講・第十二講		
概要	①社会事業家の担当者をゲストとして招き、事業計画・資金計画の策定のポイントを講義してもらう ②受講生が考える社会事業の事業計画と資金調達計画の説明と、それに対する講評(政策金融公庫/多摩信金/社会変革推進 財団等)	
事前,事後学習ポイント	①社会事業がどのように事業計画を立て、資金調達を行っているかの実際の理解	
詳細	①受講生の自己紹介と本講義受講に当たっての問題意識の説明 ②ゲストスピーカー: 社会事業を行っている組織の担当者 第1講から第6講までは、受講生の理解を高めるための講義形式をメインとする。 宿題:前回の講義内容をよく復習してくること。	
第十三講・第十四講		
概要	①社会事業家の担当者をゲストとして招き、事業計画・資金計画の策定のポイントを講義してもらう ②受講生が考える社会事業の事業計画と資金調達計画の説明と、それに対する講評(政策金融公庫/多摩信金/社会変革推進 財団等)	
事前,事後学習ポイント	①社会事業がどのように事業計画を立て、資金調達を行っているかの実際の理解	
詳細	①社会事業家の担当者をゲストとして招き、事業計画・資金計画の策定のポイントを講義してもらう ②受講生が考える社会事業の事業計画と資金調達計画の説明と、それに対する講評(政策金融公庫/多摩信金/社会変革推進 財団等)	
第十五講・第十六講		
概要	ラップアップ→各受講生の事業計画・資金計画発表を踏まえた、講義全体を通したディスカッション	
事前,事後学習ポイント	各受講生の事業計画・資金計画発表を踏まえた、講義全体を通したディスカッション	
詳細	各受講生の事業計画・資金計画発表を踏まえた、講義全体を通したディスカッション→各人の事業計画・資金計画について、お互いに意見交換を行う場とする	
教科書 / Textbook	講義の都度配布	
指定図書 / Course Readings	『日本におけるインパクト投資の現状と課題 2020年度調査』(G8社会的インパクト投資タスクフォース国内諮問委員会) 『これからの「社会の変え方」を、探しにいこう。――スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー誌 ベストセレクション10』(SSIR Japan)	
参考文献・参考URL /	『ソーシャルファイナンスの教科書』(生産性出版 河口真理子) 『非党利団体の資金調達ハンドブック』(時事通信社 徳永洋子)	

評価方法 / Method of Evaluation	
配分(合計100%) 出席(30%)、授業内での議論参加(40%)、プレゼンテーション内容(30%)	

『スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー 日本版』の記事(自分の関心がある分野について)

『非営利団体の資金調達ハンドブック』(時事通信社 徳永洋子)

Reference List

評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	社会事業の事業計画策定と資金調達について理解し、「問題解決のためのモデル」作りができる「実践知」のレベルにまで 到達することを目標とする講義内容を理解し、自らが社会事業を立ち上げた時に、実際の事業計画策定と資金調達ができる ようなレベルにまで達していると判定できるほど、授業内での議論やプレゼンテーション内容が極めて優れている。	
評価「A」(89~80点):	社会事業の事業計画策定と資金調達について理解し、「問題解決のためのモデル」作りができる「実践知」のレベルにまで到達することを目標とする講義内容を理解し、自らが社会事業を立ち上げた時に、実際の事業計画策定と資金調達ができるようなレベルにまで達していると判定できるほど、授業内での議論やプレゼンテーション内容が優れている。	
評価「B」(79~70点):	社会事業の事業計画策定と資金調達について理解し、「問題解決のためのモデル」作りができる「実践知」のレベルにまで到達することを目標とする講義内容を理解し、自らが社会事業を立ち上げた時に、実際の事業計画策定と資金調達ができるレベルに近づいていると判定できる。	
評価「C」(69~60点):	社会事業の事業計画策定と資金調達について理解し、「問題解決のためのモデル」作りができる「実践知」のレベルにまで 到達することを目標とする講義内容をある程度理解し、自らが社会事業を立ち上げた時に、実際の事業計画策定と資金調達 ができるレベルに近づけるよう努力していると判定できる。	
評価「F」(59点以下):	社会事業の事業計画策定と資金調達について理解し、「問題解決のためのモデル」作りができる「実践知」のレベルにまで 到達することを目標とする講義内容を理解し、自らが社会事業を立ち上げた時に、実際の事業計画策定と資金調達ができる レベルに近づいているとは判定できない。	
留意点 / Additional Information	・新しい事業分野であり、教科書的な回答は存在しないので、ディスカッションに積極的に参加して自らの力で考えること。 と。 ・本講受講者は、多摩大学社会的投資研究所が開催するインパクトサロンへの参加を推奨する。また、本講修了生には、研究所の客員研究員として研究活動を継続する機会も設けている。	

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	まちづくり最新事情		
サブタイトル / Sub Title	地域のまちづくりのヒント		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	The latest situation of town development		
教員 / Instructor	長島 剛 E-mail nagashima-t@tama.ac.jp		nagashima-t@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	ソーシャルインパクトビジネス	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	主に東京多摩エリア、神奈川エリアをフィールドに、行政や企業、NPOなどが実践しているまちづくりの事例を通じて、「つなぐ力」を軸に多彩なステークホルダーによるこれからのまちづくりを考察する。		
到達目標 / Course Goals	地域で何らかの形でまちづくりに関わる際のイメージを理解することを目標とする。また、受講生自身がまちづくりに関わる場合の実践的なネットワークの構築にもつなげる。 ディプロマポリシーでのDP3:「関心と意欲」を達成するために、たくさんの事例に触れ、議論することで、関心と意欲を高め、地域社会を豊かにしていく力を習得する。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、双方向、 プレゼンテーション	学外学習 / Off-Campus Learning	講義終了後、現地フィールドワーク(任意参加)

準備学習 (予習	· 復習等)	に必要な時間に準じる程度の具体	事前学習:予習に十分な時間をと
的か学習内容			事後学習:毎授業後につながりシー

事前,事後学習ポイント

詳細

事前学習:予習に十分な時間をとること (2時間程度) 事後学習:毎授業後につながりシート (レポート) を提出すること (2時間程度)

的な字習内容 	事後子省:毋授耒後につながりシート(レホート)を提出すること(2時间程度) 	
授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	オリエンテーション 企業・NPO・市民によるまちづくり・つなぐ力① 多摩信用金庫の事例	
事前,事後学習ポイント	東京多摩地域及び神奈川県の概要、そこで行われているまちづくり最新事情の共有	
詳細	1.オリエンテーション 2.グループディスカッション、双方向 宿題:つながりシート(レポート)の提出(ゲストとの共有、フィードバックあり)	
第三講・第四講		
概要	行政によるまちづくり・つなぐ力① -八王子市の産業イノベーション創出-	
事前,事後学習ポイント	行政のまちづくりの概要と最新事情の共有(産業振興・市民活動・福祉・総合政策)	
詳細	1. ゲストスピーカーによる講義 八王子市 2. グループディスカッション、双方向 宿題: つながりシート(レポート)の提出(ゲストとの共有、フィードバックあり)	
第五講・第六講		
概要	行政によるまちづくり・つなぐ力② ーこれからの公共施設のマネジメントー (東村山市)	
事前,事後学習ポイント	行政のまちづくりの概要と最新事情の共有(公共施設のマネジメント)	
詳細	 ゲストスピーカーによる講義 東村山市 グループディスカッション、双方向 宿題: つながりシート (レポート) の提出 (ゲストとの共有、フィードバックあり) 	
第七講・第八講		
概要	企業・NPO・市民によるまちづくり・つなぐ力② -農業を通じたまちづくりを考える-	
事前,事後学習ポイント	JAによるまちづくりの概要と最新事情の共有 (JA東京中央会)	
詳細	 がストスピーカーによる講義 JA東京中央会 グループディスカッション、双方向 宿題:つながりシート (レポート) の提出 (ゲストとの共有、フィードバックあり) 	
第九講・第十講		
概要	企業・NPO・市民によるまちづくり・つなぐ力③ 一鉄道会社の沿線価値創造のまちづくりー	

鉄道会社によるまちづくりの概要と最新事情の共有(京王電鉄)

1. ゲストスピーカーによる講義 京王電鉄株式会社

	2. グループディスカッション、双方向 宿題: つながりシート (レポート) の提出 (ゲストとの共有、フィードバックあり)	
	[HAZ - 2-6/3 / 7 - 1 (2-3) 1 / 2 / 3 / 1 / 2 / 3 / 4 / 4 / 4 / 4 / 4 / 4 / 4 / 4 / 4	
概要	企業・NPO・市民によるまちづくり・つなぐ力④ - 私企業が行うまちづくりを考える-	
事前,事後学習ポイント	企業によるまちづくりの概要と最新事情の共有(調整中)	
詳細	1. ゲストスピーカーによる講義 (調整中) 2. グループディスカッション、双方向 宿題: つながりシート (レポート) の提出 (ゲストとの共有、フィードバックあり)	
第十三講・第十四講		
概要	企業・NPO・市民によるまちづくり・つなぐ力⑤ - 暮らす地域で幸せに育ち働くをデザインする-	
事前,事後学習ポイント	企業によるまちづくりの概要と最新事情の共有(株式会社シーズプレイス)	
詳細	1. ゲストスピーカーによる講義 株式会社シーズプレイス (立川市) 2. グループディスカッション、双方向 宿題: つながりシート (レポート) の提出 (ゲストとの共有、フィードバックあり)	
第十五講・第十六講		
概要	総括・プレゼンテーション	
事前,事後学習ポイント	受講生によるプレゼンテーションとディスカッション	
詳細	1. 受講生によるまちづくりに関する事業アイデアをプレゼンテーション 2. 講評、ディスカッション	
教科書 / Textbook	適宜配布する	
指定図書 / Course Readings	「新・多摩学のすすめ 〈郊外〉の再興」(共著)『けやき出版』 2021年11月 「まちづくりの仕事ガイドブック まちの未来をつくる63の働き方」(共著)『学芸出版社』、2016年8月	
参考文献・参考URL / Reference List	なし	
評価方法 / Method of Evaluat	ion	
配分(合計100%)	レポート (40%)、プレゼンテーション (30%) 、その他平常点 (30%)	

評価方法 / Method of Evaluation		
配分(合計100%)	レポート (40%)、プレゼンテーション (30%) 、その他平常点 (30%)	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A·」(100~90 点):	事例をよく学び、まちづくりの最新事情を理解し、地域の未来を考察することができる。	
評価「A」(89~80点):	事例をよく学び、まちづくりの最新事情について、深く理解している。	
評価「B」(79~70点):	事例をよく学び、まちづくりの最新事情について、一定の理解をしている。	
評価「C」(69~60点):	一部不十分な部分はあるものの、まちづくりの最新事情を理解している。	
評価「F」(59点以下):	まちづくりの最新事情について理解していない。	
留意点 / Additional Information	新しいビジネス分野であり、教科書的な回答は存在しないので、ディスカッションに積極的に参加して自らの力で考えること。	

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	トライセクターリーダー論		
サブタイトル / Sub Title	ポスト・マネー資本主義時代のリーダーシップ・マネジメント		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Tri-sector leaders		
教員 / Instructor	金野 索一	E-mail	skonno212@gmail.com
科目群 / Course Classification	ソーシャルインパクトビジネス	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	トライセクターリーダーとは、政治行政・企業ビジネス・NPOの3つのセクターのすべてに通用するリーダー、あるいは、3つのセクターの枠を越えてより良き社会を実現していくリーダーである。この講義は、より多くのトライセクター・リーダーが輩出されることを目的とする。		
到達目標 / Course Goals	受講生自身の抱える課題に関して、ディプロマ欲」、DP4:「表現と技能」を実践するために、1)日本社会で稀有なトライセクター・リータ社会のイノベーション実現への最適な差別化要・人類は、公共・企業・NPOの3つのセクター業台頭、IT/AI革命に伴う国家の影響力低下・木力低下社会において、もはやトライセクターリの熟議する。 2)トライセクター・リーダーとしての実践の・トライセクター・リーダーへの具体的プラン・国内外の先駆的トライセクターリーダー&フ	上記目的に資する下記2つを到 「一シップの発揮こそが、自身の 四のあることを実行レベルで認 の水平ボーダレス化に直面して 目対化である。このポスト・マネ 一ダーこそが、企業、政治、NI の開始 を各自作成し、実践につなげる	別達目標とする。 目前の仕事、キャリア、会社、そして 識する。 いる。言い換えれば、少子高齢化と多国籍企 、一資本主義 = 国民国家と利益至上企業の影響 PO他あらゆる組織で必然であることについて
授業形態 / Form of Class	講義、ディスカッション、グループワーク、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体	講義内容の整理と指定文献の熟読1時間程度
的な学習内容	時我的分の定在と目に入断の派説は同国住及

授業の概要 / Course Descrip	otion		
第一講・第二講			
概要	トライセクターリーダーの必然1:3つのセクターの水平ボーダレス化		
事前,事後学習ポイント	・ポスト・マネー資本主義とは ・3つのセクターボーダレス化の根本原因は少子高齢化		
詳細	・全ての消費社会が進んだ国において、少子高齢化を逃れられないことから到来しているポスト・マネー資本主義社会への 理解と、公共・企業・NPOの3つのセクターの水平ボーダレス化を学ぶとともに、ディスカッションで熟議を進める。		
第三講・第四講			
概要	トライセクター・リーダーの必然2:IT革命とAI革命		
事前,事後学習ポイント	・IT・AIは社会や組織の透明化・双方向化推進ツールである		
詳細	・次の点について、講義とディスカッションを進める。 1)IT/AI革命によって、中央集権的大組織(国家、伝統的大企業)は弱体化し、DAO (Decentralized Autonomous Organization、分散型自律組織)が必然となる 2)IT・AIこそ、トライセクター・リーダーに相応しいイノベーション・ツールである		
第五講・第六講			
概要	トライセクターリーダーの必然3:国民国家と多国籍企業		
事前,事後学習ポイント	・国民国家の影響力低下によるグローバル組織とローカル組織の2極化		
詳細	・次の点について、講義とディスカッションを進める。 1)無限責任・国家と有限責任・企業とのギャップ。2)国民国家の規模をしのぐ多国籍・無国籍大企業が数多く台頭した 社会における社会機能のギャップ。3)ギャップこそ新規事業、ベンチャーの起業、社会起業の好機である		
第七講・第八講			
概要	ジャパニーズ・トライセクターリーダーの必然4:戦略的日本人		
事前,事後学習ポイント	・唯一無二の日本人4つの中立ポジションは、最強の戦略を可能にする		
詳細	・次の点について、講義とディスカッションを進める。 1)日本人の4つの中立ポジション「宗教、人種、軍事、経済」と最適戦略とは 2)日本人は唯一無二のポジションを活かせば、世界のトライセクターリーダーに相応しい		

第九講・第十講			
概要	トライセクターリーダー・先端プロジェクト ケーススタディ		
事前,事後学習ポイント	トライセクターリーダー・先端プロジェクトの実践ケースを学び、自分の現在地点と目指すべき到達地点を我究する		
詳細	トライセクターリーダー・先端プロジェクトの実践ケースを、講義、ディスカッション、グループワークを通じて学ぶ。		
第十一講・第十二講			
概要	実在のトライセクターリーダー・プロジェクトをロールモデルとする		
事前,事後学習ポイント	実在のトライセクターリーダー・プロジェクトを自身のリサーチ・プレゼンテーションを通じて学び、自分の現在地点と目 指すべき到達地点を我究する		
詳細	・下記について、講義、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークを進める。 1)実在するトライセクターリーダー・プロジェクトをリサーチ、ベンチマークし、プレゼンテーションを行う 2)第5講までの理解を元に、自身の解決すべき問題、目指すべきテーマの明確化への仮説・検証の取り組み方を習得する ・未来がどうなるかではなく、自分たちが未来を創る。Cross-Disciplinaryこそトライセクターリーダー ・ディスカッションによりあぶりだされた、自身の解決すべき問題への取り組み ・自身の抱える問題とその真因、解決策の策定、他メンバーへの共有とフィードバック		
第十三講・第十四講			
概要	ゲスト講師・先輩トライセクター・リーダーの実践を講義・討論で学ぶ		
事前,事後学習ポイント	社会・ビジネスの新たな地平を拓く、先輩トライセクター・リーダー"仕事の流儀"		
詳細	先輩トライセクター・リーダーの「原体験」「力の源泉」「実践の現場」「未来への戦略」等を講義とディスカッションで 学ぶ		
第十五講・第十六講			
概要	トライセクター・リーダー実践計画 最終プレゼンテーション		
事前,事後学習ポイント	実践計画の教員・他メンバーへの共有とフィードバック、自身の振り返り		
詳細	各自作成した実践計画最終プレゼンテーションとディカッション・グループワーク トライセクター・リーダーシップ・ジャーニー出発への決意表明		

教科書 / Textbook	適宜、講義内において紹介する
指定図書 / Course Readings	『未来の選択~僕らの将来は、政策でどう変わる?』(金野索一 著 /ディスカヴァー21社)
参考文献・参考URL / Reference List	・日経ビジネス・カンパネラWEB連載『トライセクター・リーダーの時代』(金野索一著/日経BP社) http://business.nikkeibp.co.jp/atclcmp/15/071700001/ ・日経クロステックWEB連載『出でよ!ピーステック・イノベーター』(金野索一著/日経BP社) https://xtech.nikkei.com/search/?KEYWORD=%E9%87%91%E9%87%8E%20%E7%B4%A2%E4%B8%80&author=1 ・フォーブス・ジャパン WEB連載 『テックで資本主義をアップデートする』(金野索一著/Forbes社) https://forbesjapan.com/author/detail/1810

評価方法 / Method of Evaluati	on		
配分(合計100%)	評価方法 出席: ディスカッション: リサーチプレゼンテーション: 実践計画=25: 20: 25: 30		
評価基準 / Evaluation Criteria			
評価「A・」(100~90 点):	1) キャリア・デベロップメント、社会イノベーション実現のためのトライセクター・リーダーへの理解。H:実行レベルで理解している。M:通常レベルの理解である。L:理解不足である。 2) 講義内でのリサーチプレゼンテーション、議論参加。 H:プレゼン・議論で貢献大。主体的に参加している。M:プレゼン・議論で貢献している。通常レベルで参加している。 L:プレゼン・議論で貢献不足である。受動的な参加にとどまっている。 3) 各自の実践計画。 H:実践計画が優れている。 M:実践計画が通常レベルである L:実践計画が不十分である・上記の1) 2) 3) が、全てHレベルである。		
評価「A」(89~80点):	1) キャリア・デベロップメント、社会イノベーション実現のためのトライセクター・リーダーへの理解。H:実行レベルで理解している。M:通常レベルの理解である。L:理解不足である。 2) 講義内でのリサーチプレゼンテーション、議論参加。 H:プレゼン・議論で貢献大。主体的に参加している。M:プレセン・議論で貢献している。通常レベルで参加している。L:プレゼン・議論で貢献不足である。受動的な参加にとどまっている。 3) 各自の実践計画。 H:実践計画が優れている。 M:実践計画が通常レベルである L:実践計画が不十分である・上記の1) 2) 3) のうち、2つがHレベルである。		
評価「B」(79~70点):	1) キャリア・デベロップメント、社会イノベーション実現のためのトライセクター・リーダーへの理解。H:実行レベルで理解している。M:通常レベルの理解である。L:理解不足である。 2) 講義内でのリサーチプレゼンテーション、議論参加。 H:プレゼン・議論で貢献大。主体的に参加している。M:プレセン・議論で貢献している。通常レベルで参加している。L:プレゼン・議論で貢献不足である。受動的な参加にとどまってい		

	る。 3)各自の実践計画。 H:実践計画が優れている。 M:実践計画が通常レベルである L:実践計画が不十分である ・上記の1)2)3)のうち、1つがHレベル、2つがMレベルである。
評価「C」(69~60点):	1) キャリア・デベロップメント、社会イノベーション実現のためのトライセクター・リーダーへの理解。H:実行レベルで理解している。M:通常レベルの理解である。L:理解不足である。 2) 講義内でのリサーチプレゼンテーション、議論参加。 H:プレゼン・議論で貢献大。主体的に参加している。M:プレゼン・議論で貢献している。通常レベルで参加している。L:プレゼン・議論で貢献不足である。受動的な参加にとどまっている。 3) 各自の実践計画。 H:実践計画が優れている。 M:実践計画が通常レベルである L:実践計画が不十分である・上記の1) 2) 3) のうち、2つ以上がMレベルである。
評価「F」(59点以下):	1) キャリア・デベロップメント、社会イノベーション実現のためのトライセクター・リーダーへの理解。H:実行レベルで理解している。M:通常レベルの理解である。L:理解不足である。 2) 講義内でのリサーチプレゼンテーション、議論参加。 H:プレゼン・議論で貢献大。主体的に参加している。M:プレゼン・議論で貢献している。通常レベルで参加している。L:プレゼン・議論で貢献不足である。受動的な参加にとどまっている。 3) 各自の実践計画。 H:実践計画が優れている。 M:実践計画が通常レベルである L:実践計画が不十分である・上記の1) 2) 3) のうち、2つ以上がLレベルである。・出席不良である。

留意点 / Additional
Information

・《読む·書く+聴く·話す》コミュニケーションスキルがリーダー/イノベーターのキーであるので議論には積極的に参画すること

・実際の先駆的トライセクターリーダー&プロジェクトのいずれを、自分自身のロールモデルにするかを探究する

・なお、このテーマは、既知のものがすぐに陳腐化してしまう高速変化が常ですので、最先端の学びのために、このシラバスの内容を一部変更して、実際の講義を行うことがありますので、了承いただければ幸いです。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	実践を通して学ぶソーシャルビジネス		
サブタイトル / Sub Title	地方創生の先進地域、雲南市の現場でソーシャルリーダーたちと考える社会と私の未来		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Learning Social Business through Practice		
教員 / Instructor	宮城 治男	E-mail	miyagi-h@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	ソーシャルインパクトビジネス	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	地方創生の先進地域である島根県の中でも、地域自治組織やコミュニティーナースの事業やローカルベンチャー事業での力手企業の巻き込み、地域財団やガバメントクラウンドファンディングの仕掛けなど、際立った新しい取り組みに挑んできた雲南市。その現場を訪問し、多様な領域、スタイルで活躍しているソーシャルリーダーに学び、そのビジョンや想い、取り組みの具体的なケースを講義頂くとともに、学生とも協働でその事業戦略のブラッシュアップを行う。またそのプロセスを通して学生自身が自らのテーマに向き合い、今後のキャリアや事業計画を描いていく契機としたい。2023年2月に2泊3日の集中講義の予定。		など、際立った新しい取り組みに挑んできた リーダーに学び、そのビジョンや想い、取り ラッシュアップを行う。またそのプロセスを
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーでのDP2:「思考と判断」及びDP5:「志」を達成するために、各ソーシャルリーダーや現場の経験、ナレッジを学びつつ、自らの考察を深めると同時に、自らも主体的に思考し、課題解決への提案をしていける力を身に着ける。さらには自らの志に基づいたキャリア、事業プランを描き、ソーシャルリーダーとしての在り方を描き、具体的な自身のネクストステップにも繋げる。		
授業形態 / Form of Class	講義、ケーススタディ、グループワーク、グ ループディスカッション、ディベート、プレ ゼンテーション	学外学習 / Off-Campus Learning	有

参考図書、ウェブサイトの予習等。予習30分程度、復習30分程度。

授業の概要 / Course Descr	iption		
第一講・第二講			
概要	雲南市における地方創生の取り組みの概況を学ぶ		
事前,事後学習ポイント	参考資料等を参照しつつ、雲南市及び日本の地方創生の現状へリサーチ、理解		
詳細	雲南市役所のキーパーソン、地域のNPO等のリーダー等からこれまでの雲南市における地方創生の取組み、ソーシャルリーダーの活躍の歴史、概況を伺う。		
第三講・第四講			
概要	雲南市における地方創生の取り組みの概況を学ぶ		
事前,事後学習ポイント	参考資料等を参照しつつ、雲南市及び日本の地方創生の現状へリサーチ、理解		
詳細	雲南市役所のキーパーソン、地域のNPO等のリーダー等からこれまでの雲南市における地方創生の取組み、ソーシャルリーダーの活躍の歴史、概況を伺う。		
第五講・第六講			
概要	事業ケーススタディ&戦略会議 「ソーシャルビジネスの最前線」		
事前,事後学習ポイント	参考資料等を参照しつつ、雲南市発のソーシャルビジネスの事前リサーチ		
詳細	コミュニティナースほか、10年に渡り多くのソーシャルビジネスの担い手を輩出してきた幸雲南塾の卒業生のリーダーたちをお招きし、事業の現状、課題を伺いつつ、ともに戦略をブラッシュアップしていく。		
第七講・第八講			
概要	事業ケーススタディ&戦略会議 「ソーシャルビジネスの最前線」		
事前,事後学習ポイント	参考資料等を参照しつつ、雲南市発のソーシャルビジネスの事前リサーチ		
詳細	コミュニティナースほか、10年に渡り多くのソーシャルビジネスの担い手を輩出してきた幸雲南塾の卒業生のリーダーたちをお招きし、事業の現状、課題を伺いつつ、ともに戦略をブラッシュアップしていく。		
第九講・第十講			
概要	事業ケーススタディ&戦略会議 「ソーシャルビジネスの最前線」		
事前,事後学習ポイント	参考資料等を参照しつつ、雲南市発のソーシャルビジネスの事前リサーチ		
詳細	コミュニティナースほか、10年に渡り多くのソーシャルビジネスの担い手を輩出してきた幸雲南塾の卒業生のリーダーたちをお招きし、事業の現状、課題を伺いつつ、ともに戦略をブラッシュアップしていく。		

第十一講・第十二講		
概要	事業ケーススタディ&戦略会議 「新しい社会システムの創出に挑む」	
事前,事後学習ポイント	地域自主組織、コミュニティ財団、NPOによる地域教育支援等の事例についてのリサーチ	
詳細	雲南市が旗振りし、全国で展開されている地域自主組織、そして雲南コミュニティ財団のキーパーソンを迎え、その現状を伺うとともに、今後の戦略を議論する。 さらには、雲南市内の中高のキャリア教育を支援するNPO法人カタリバや、若者たちや社会起業家の挑戦を地域を挙げて支援する「スペシャルチャレンジ」事業のキーパーソンを招き、現状の取組を伺うとともに、課題解決をともに議論する。	
第十三講・第十四講		
概要	自らのキャリアデザイン、事業プランの策定ワークショップ	
事前,事後学習ポイント	自分自身のキャリア観、展望の棚卸、事業計画等、具体的な設計を一旦現状の自分なりに描き切っておくこと	
詳細	今回ヒアリングしたリーダーのみなさんやその学びを、自らの今後のキャリア、挑戦を意識しながら振り返り、共有のための資料を作成する。そしてお互い共有するとともにインプットをし合う。	
第十五講・第十六講		
概要	自らのキャリアデザイン、事業プランの策定ワークショップ	
事前,事後学習ポイント	自分自身のキャリア観、展望の棚卸、事業計画等、具体的な設計を一旦現状の自分なりに描き切っておくこと	
詳細	自らが作成したプレゼンテーション資料を発表し、共有するとともに相互インプットをし合い、ブラッシュアップを行う。	

教科書 / Textbook	適宜、講義内で紹介する。
指定図書 / Course Readings	「コミュニティナース」矢田明子著(木楽舎)
参考文献・参考URL / Reference List	幸雲南塾https://www.co-unnanjyuku.com/ 雲南市「ソーシャルチャレンジバレー構想」https://drive.media/posts/22450

評価方法 / Method of Evaluation	
配分 (合計100%)	出席30%/講義議論参画度40%/最終レポート30% 3点の総合評価
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A·」(100~90 点):	講義・ワークショップへの参画の熱意が非常に高く、ディプロマポリシーでのDP2:「思考と判断」及びDP5:「志」を非常に高いレベルで身に着け、講義での学びを自らに落とし込み、非常に主体的に、クリエイティブに課題解決への提案をし、発信をしていく力を有している。
評価「A」(89~80点):	講義・ワークショップへの参画の熱意が高く、ディプロマポリシーでのDP2:「思考と判断」及びDP5:「志」を高いレベルで身に着け、講義での学びを自らに落とし込み、主体的に、クリエイティブに課題解決への提案をし、発信をしていく力を有している。
評価「B」(79~70点):	講義・ワークショップへの参画の熱意があり、ディプロマポリシーでのDP2:「思考と判断」及びDP5:「志」を高いレベルで身に着け、講義での学びを自らに落とし込み、主体的に、課題解決への提案をし、発信をしていく力を有している。
評価「C」(69~60点):	講義・ワークショップへの参画の熱意があり、ディプロマポリシーでのDP2:「思考と判断」及びDP5:「志」を平均的なレベルで身に着け、講義での学びを自らに落とし込み、主体的に、考え発信をしていく力を有している。
評価「F」(59点以下):	講義・ワークショップへの参画意識に問題がみられ、ディプロマポリシーでのDP2:「思考と判断」及びDP5:「志」を身に着けるための課題がある。

	実際に雲南市の現地に伺い、集中講義の形式となる関係で、雲南市までの交通費に加え宿泊費等の実費(2泊3日で3万円程
留意点 / Additional	度)プラス食費が必要になります。
Information	日程は、2023年2月17日(金)~19日(日)を予定。
	履修者(参加者)が5名未満の場合は、非開講となります。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	ベンチャーCFO養成講座		
サブタイトル / Sub Title	経営者としてのベンチャーCFOを目指すための入門講義		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Venture CFO Training Course		
教員 / Instructor	新村 和大	E-mail	shinmura-k@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	ソーシャルインパクトビジネス	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	近年、ベンチャー企業に注目が集まっており、理・経営管理の責任者であるCFOが不足してお業の成長を加速させるCFO人材の養成のため、定、資本政策などを体系的に学びます。創業期対象とします(上場に係る準備・審査対応や、会による寄附講座であり、同協会との共同開催講可能です。多様なバックグラウンドを持つ受の都合により、講義の順番が入れ替わる可能性	らり、ベンチャー企業の成長ネッ 各回に実務家・専門家を招き、 から急成長期までの起業ステー 上場後のIRなどは本講の対象と になります。多摩大学大学院M 読集による積極的なディスカッ	クになっています。本講では、ベンチャー企ベンチャーにおける機関設計、事業計画の策ジ、初期ラウンドの資金調達から売却までをしません)。本講は一般社団法人日本CFO協BAの大学院生に加え、同協会の個人会員も受ションを期待します。なお、実務家・専門家
到達目標 / Course Goals	受講生自身の抱える課題に関して、ディプロマポリシーにおけるDP1:「知識と理解」とDP2:「思考と判断」を達成するために、上記目的に資するベンチャービジネスでのCFO実務に必要な基本的な知識を一覧的に示し、本講を通じて理解することで、ベンチャーCFOに求められる思考力と判断力を涵養します。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、プレゼン テーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体	出席レポート(A4で1枚程度。各回に約2時間)
的な学習内容	最終レポート(A4で10枚まで。約20時間)

授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	ベンチャーとCFO	
事前,事後学習ポイント	出席レポート。「本講に期待すること」(A4で1枚程度)を第1講の当日に提出。	
詳細	ベンチャーという特殊な経営環境でのCFOの役割を知り、CFOの基本知識である株式会社の機関設計、整備すべき書類、決算や納税について理解します。外部講師を招きます。	
第三講・第四講		
概要	事業計画の策定	
事前,事後学習ポイント	出席レポート。「前回の振り返りと学んだこと」(A4で1枚程度)を第2講の当日に提出。	
詳細	CFOの主要業務である事業計画の作成を理解します。損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書の内容と関係性を知り、ベンチャーの戦略や事業構造に則した事業計画を策定する方法を学びます。外部講師を招きます。	
第五講・第六講		
概要	ファイナンスと企業価値算定	
事前,事後学習ポイント	出席レポート。「前回の振り返りと学んだこと」(A4で1枚程度)を第3講の当日に提出。	
詳細	ベンチャーが実施できるファイナンスの種類と、それぞれの特徴を学びます。また、ベンチャーの株式発行による資金調達 で必要になる企業価値の算定方法を理解します。外部講師を招きます。	
第七講・第八講		
概要	資本政策	
事前,事後学習ポイント	出席レポート。「前回の振り返りと学んだこと」(A4で1枚程度)を第4講の当日に提出。	
詳細	ベンチャーのファイナンスで特に重要であり、かつ難度が高い株式発行による資金調達について、長期計画である資本政策 のあり方を学びます。外部講師を招きます。	
第九講・第十講		
概要	企業法務と重要契約	
事前,事後学習ポイント	出席レポート。「前回の振り返りと学んだこと」(A4で1枚程度)を第5講の当日に提出。	
詳細	株式発行やM&Aによる売却時には、関係者の権利義務関係を規定する契約書の作成と締結が必要となります。企業ステージでとの企業法務と重要契約を学びます。外部講師を招きます。	

ごとの企業法務と重要契約を学びます。外部講師を招きます。

第十一講・第十二講		
概要	組織設計と戦略アライアンス	
事前,事後学習ポイント	出席レポート。「前回の振り返りと学んだこと」(A4で1枚程度)を第6講の当日に提出。	
詳細	ベンチャー企業の成長に欠かせない、組織のあり方に関するテーマを扱います。経営理念の策定や組織設計とはどのようなものか、また他社とのアライアンスはどのように実施すべきか、学びます。外部講師を招きます。	
第十三講・第十四講		
概要	CFOの経営実務	
事前,事後学習ポイント	出席レポート。「前回の振り返りと学んだこと」(A4で1枚程度)を第7講の当日に提出。	
詳細	ベンチャーを経営する局面でCFOが直面する様々な経営課題について理解します。また、実際にベンチャーのCFOとして活躍する講師を招き、実務的な観点から講演を実施し、議論します。外部講師を招きます。	
第十五講・第十六講		
概要	プレゼンテーション	
事前,事後学習ポイント	出席レポート。「前回の振り返りと学んだこと」(A4で1枚程度)と、最終レポート(A4で10枚まで)を第8講の当日に提出。	
詳細	第8講に最終レポートを提出しますが、希望者を募り、レポートのプレゼンテーションを実施します。発表者は成績に加点します。レポートのテーマは、①自社の経営計画 ②起業のための事業プラン ②任意のベンチャーの経営の分析 などを想定しています。	

教科書 / Textbook	適宜、資料を配布します。	
指定図書 / Course Readings	なし。	
参考文献・参考URL / Reference List	参考文献は、適宜、授業中に紹介します。 過去に実施された講座の内容は、一般社団法人日本CFO協会の以下のウェブサイトをご参考下さい。 ベンチャーCFO育成講座(第1期) http://www.cfo.jp/event/9657/ ベンチャーCFO育成講座(第2期) http://www.cfo.jp/event/11925/ ベンチャーCFO育成講座(第3期) http://www.cfo.jp/event/12671/ ベンチャーCFO育成講座(第4期) https://www.cfo.jp/event/16668/ ベンチャーCFO育成講座(第5期) http://www.cfo.jp/seminar/venture_cfo/	

評価方法 / Method of Evaluation	
配分(合計100%) 出席レポート40%・授業内での議論20%・最終レポート25%・発表15%	
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A・」(100~90 点):	CFOの実務に必要な知識・能力を深く習得し、議論・レポート内容が非常に優れている。
評価「A」(89~80点):	CFOの実務に必要な知識・能力を良く習得し、議論・レポート内容が優れている。
評価「B」(79~70点):	CFOの実務に必要な知識・能力を十分に取得し、議論・レポート内容が平均以上である。
評価「C」(69~60点):	CFOの実務に必要な知識・能力を最低限、習得し、議論・レポート内容が平均程度である。
評価「F」(59点以下):	出席不良で、議論・レポート内容に課題が多い。

一般社団法人日本CFO協会による寄付講座で、同協会との共同開催です。同協会の個人会員も受講可能です。
実務家・専門家の都合により、講義の順番が入れ替わる可能性があります。
出席レポート・最終レポートは、A4で提出して下さい。提出の方法は授業中に指示します。
出席レポート・最終レポートは、原則として、返却しません。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	ソーシャル・ファイナンス		
サブタイトル / Sub Title	SDG時代の新たなファイナンス手法の理解と実践		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Social Finance		
教員 / Instructor	小林 立明	E-mail	kobayashi-t@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	ソーシャルインパクトビジネス	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	国連持続可能な開発目標(SDGs)が普及し、グローバルな社会・環境課題の解決にビジネスが果たす役割はますます重要になっています。現代日本が抱える多様な課題を解決するために必要な資金を調達するためには、通常の企業ファイナンスとは異なるソーシャル・ファイナンスについての知識とノウハウが必要である。この講義では、ソーシャル・ファイナンスの基本的考え方と資金提供手法、モニタリング・評価のあり方、主要プレイヤーなどについての理解を深めながら、SDG目標を中心とした社会・環境ビジネスを展開する際のソーシャル・ファイナンスの活用に向けた戦略と実践スキルの習得を目的とします。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーでのDP1:「知識と理解」を達成するために、内外のソーシャル・ファイナンス市場の規模、分野、投資団体及び革新的な投資手法に関する知識を習得する。その上で、DP3:「関心と意欲」を涵養するため「ソーシャル・ファイナンス」手法を活用して社会課題解決に取り組む際に求められる戦略策定、資金調達、インパクト評価・報告、スケールアップ戦略などの実践的能力を習得する。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループ・ディスカッション、プレゼ ンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体	参考文献・URLを通じた予習・復習各1時間程度
的な学習内容	コース終了時のプレゼンテーション資料作成(全体で5~6時間程度)

授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	ソーシャル・ファイナンスとは何か	
事前,事後学習ポイント	ソーシャル・ファイナンス、社	会的インパクト、SDGs、ESG投資、サステナブル投資、インパクト投資
詳細	① 受講生・教員の自己紹介とオリエンテーション ② ソーシャル・ファイナンスとは何か。グローバルなマーケットの動向と主要分野の概観。ソーシャル・ファイナンス登場 の背景とビジネスに与える影響等。 ③ コース終了時のプレゼンテーション内容を提示。	
第三講・第四講		
概要	ソーシャル・ファイナンスの基	本枠組みと主要プレイヤー
事前,事後学習ポイント	ソーシャル・ファイナンス手法(戦略策定、目標・KPI設定、モニタリング・評価・報告)、ポジティブ・インパクト・ファイナンス、SDGインパクト	
詳細	①資金提供者の視点からみたソーシャル・ファイナンスの手法を、戦略策定から出口戦略に至る各段階において理解する。 ②ソーシャル・ファイナンス分野における主要プレイヤーを概観し、企業が資金を調達するに当たり留意すべき特徴を検討 する。グループ・ディスカッションを随時行う。	
第五講・第六講		
概要	ソーシャル・ファイナンスの実	践丨:社会・環境価値を追求するビジネス活動とSDG経営
事前,事後学習ポイント	CSR、CSV、SDG経営、SDG Compass	
詳細	①企業が社会・環境価値を追求するに至った背景をCSRからCSVを経てSDG経営という流れの中で理解する。 ②SDGの登場がもたらすビジネス機会を概観し、その中で企業が社会・環境価値を生み出すための基本枠組みとしてSDG Compassの活用を検討する。グループ・ディスカッションを随時行う。	
第七講・第八講		
概要	ソーシャル・ファイナンスの実践 :社会・環境価値を追求するビジネス戦略	
事前,事後学習ポイント	インパクト・マネジメント、SDG認証、サステナブル報告	
詳細	①社会・環境価値を追求するビジネスを展開する上で必須となるインパクト・マネジメント手法の基本的枠組みを概観する。 ②その上で、現在、内外で発展しつつある企業認証制度とサステナブル情報の開示・報告の動向を概観し、社会・環境価値を追求するビジネスが求められる要件について検討する。グループ・ディスカッションを随時行う。	
第九講・第十講		

概要	ソーシャル・ファイナンスの実践Ⅲ:資金調達戦略	
事前,事後学習ポイント	企業の成長戦略(インキュベーション、スタートアップ、グロース、スケールアップ)、ソーシャルIPO	
詳細	①社会・環境価値を追求するビジネスがソーシャル・ファイナンスを通じて資金を調達する際の戦略を、主にビジネスの成長・発展段階とビジネス分野に基づいて考察する。 ②その上で、日本の主要ソーシャル・ファイナンス機関を概観し、それぞれの特徴に応じた資金調達戦略の構築について検討する。グループ・ディスカッションを随時行う。	
第十一講・第十二講		
概要	ソーシャル・ファイナンスの実践III:革新的資金提供手法	
事前,事後学習ポイント	成果連動型資金提供(PFS)、ソーシャル・インパクト・ポンド(SIB)、クラウドファンディング、企業版ふるさと納税、 不動産特定共同事業、ブロックチェーン	
詳細	① 社会・環境価値を追求するビジネス固有の資金ニーズに応じてソーシャル・ファイナンスが開拓してきた革新的資金手法について、成果連動型資金提供(PFS)とクラウドファンディングを中心に概観する。 ②その上で、こうした革新的手法を活用した資金調達戦略について検討する。グループ・ディスカッションを随時行う。	
第十三講・第十四講		
概要	最終プレゼンテーション	
事前,事後学習ポイント	プレゼンテーション準備	
詳細	①これまでの講義で習得した知見とスキルを踏まえたプレゼンテーションを行う。SDGバリュー・チェーンに基づく社会・環境価値の創出、これをビジネス化するためのインパクト・マネジメント、及びソーシャル・ファイナンスを通じた資金調達戦略を組み込んだビジネス・モデルの提示が求められる。 ②その上で、グループ・ディスカッションを行う。	
第十五講・第十六講		
概要	総括セッション	
事前,事後学習ポイント	最終プレゼンテーションへの追加・修正	
詳細	①プレゼンテーションに対する講師のフィードバック②本講義のまとめ	

教科書 / Textbook	適宜、資料を配付。
指定図書 / Course Readings	L.M.サラモン(2014)「フィランソロピーのニューフロンティア」(ミネルヴァ書房)
参考文献・参考URL / Reference List	■主要参考文献 紫牟田伸子他編(2016)「日本のシビックエコノミー」(フィルムアート社) 金子郁容他編(2016)「ソーシャル・インパクト・ボンドとは何か」(ミネルヴァ書房) マーク・J・エプスタイン他(2015)「社会的インパクトとは何か」(英治出版) ロナルド・コーエン著(2021)「インパクト投資 社会を良くする資本主義」(日本経済新聞出版) 北川哲雄・加藤晃監訳(2021)「社会を変えるインパクト投資」(同文館出版) 澁澤健(2020)「SDGs投資:資産運用しながら社会貢献」(朝日新書) 北野隆志・藤田力(2021)「PFS/SIB実践ガイド」 環境省(2020)「インパクトファイナンスの基本的考え方」 環境省(2021)「グリーンから始めるインパクト評価ガイド」 内閣府(2021)「成果連動型民間委託契約方式共通的ガイドライン」 ■主要参考URL GSG国内諮問委員会 https://impactinvestment.jp/index.html SIMI社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ https://simi.or.jp グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン https://www.ungcjn.org PFS官民連携プラットフォーム https://www.pfs-platform.com 日本サステナブル投資フォーラム https://japansif.com

評価方法 / Method of Evaluation			
配分(合計100%)	出席(30%)、グループ・ディスカッション参加(30%)、プレゼン内容(40%)		
評価基準 / Evaluation Criteria			
評価「A・」(100~90 点):	ソーシャル・ファイナンスを活用して社会課題に取り組むために求められる市場、分野、投資団体、革新的な投資手法に関する専門知識を十分に習得している。また、実践に必要な戦略策定、資金調達、評価・報告、スケールアップ戦略などについての高度の運用スキルを習得し、現実に運用することが出来るレベルに達している。		
ソーシャル・ファイナンスを活用して社会課題に取り組むために求められる市場、分野、投資団体、革新的な投資手法に 評価「A」(89~80点): する一般的な知識を習得している。また、実践に必要な戦略策定、資金調達、評価・報告、スケールアップ戦略などについての運用スキルを習得し、現実に運用する準備が出来ている。			
評価「B」(79~70点):	ソーシャル・ファイナンスを活用して社会課題に取り組むために求められる市場、分野、投資団体、革新的な投資手法に関する知識を一定程度習得している。また、実践に必要な戦略策定、資金調達、評価・報告、スケールアップ戦略などについての運用スキルを一定程度習得している。		

評価「C」(69~60点):	ソーシャル・ファイナンスを活用して社会課題に取り組むために求められる市場、分野、投資団体、革新的な投資手法に関する最低限の知識を習得している。また、実践に必要な戦略策定、資金調達、評価・報告、スケールアップ戦略などについての最低限の運用スキルを習得している。
評価「F」(59点以下):	ソーシャル・ファイナンスを活用して社会課題に取り組むために求められる市場、分野、投資団体、革新的な投資手法に関する最低限の知識の習得を習得できていない。また、実践に必要な戦略策定、資金調達、評価・報告、スケールアップ戦略などについての最低限の運用スキルを習得していない。

留意点 / Additional Information	外部講師によるケース・スタディとディスカッションの内容については開講時に提示する。
---------------------------------	---

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	持続可能な地域創生と地域金融の役割		
サブタイトル / Sub Title	地域金融機関が社会的投融資等を通じ地域創生に与える影響について		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Role of Regional Financial Institutions forSustainable Regional Development		
教員 / Instructor	渡邉 泰之	E-mail	watanabe-ya@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	ソーシャルインパクトビジネス	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	社会課題が山積し、行政だけではその解決が困難となりつつある地域社会において、社会性と事業性を両立するソーシャルビジネスという形で課題解決を目指す民間企業等を支援する必要性が高まっています。本講義では、地域金融機関が、投融資等を通じどのようにかかる民間企業等を支援できるのか、先進的事例を取り上げて分析することを通じ、持続可能な地域創生のために果たす地域金融機関の役割について、知識と理解を深めることを目的とします。		
到達目標 / Course Goals	地域活動における民間企業等、行政機関(国、都道府県、市町村)、地域金融機関それぞれの役割を理解し、ディプロマポリシーでのDP1:「知識と理解」を達成するために、自らが地域金融機関の投融資担当者であるとした場合に、投融資先の民間企業等が社会課題を解決するために実施する活動の影響(ソーシャルインパクト)を測定した上で投融資判断できるレベルまで到達することを目標とします。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、グループ ワーク、プレゼンテーション	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

事前学習:次回に招聘するゲストスピーカーの仕事についての事前調査 (2時間程度)。事前に割り当てられた講義について、事前学習した内容をクラスで発表(一人一回担当)。事後学習:講義内容を踏まえ、ソーシャルビジネスへの投融資判断について自らの考え方を整理。教員が提示するソーシャルビジネスへの投融資判断についてのレポート提出(最終回時)に向けて準備 (2時間程度)。

授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	ソーシャルビジネスについて理解する	
事前,事後学習ポイント	ソーシャルビジネスが必要となった背景について、ニューパブリック・マネジメントの観点から概観	
詳細	1 教員・受講生の自己紹介(これまでの金融・ソーシャルビジネス・行政への関与など)、2 ソーシャルビジネスとニューパブリック・マネジメントとの関係の講義、 3 二回目以降の講義の進め方	
第三講・第四講		
概要	地域金融について理解する	
事前,事後学習ポイント	地域金融の役割について、金融行政の観点から概観	
詳細	1 政府における地域創生の取組みについての講義、2 事前に割り当てられた担当者による、当日ゲストスピーカーの仕事(地域金融関連に限定)についての事前調査・質問発表、3 ゲストスピーカー:金融庁職員	
第五講・第六講		
概要	ソーシャルビジネスと公的支援制度(政策金融)	
事前,事後学習ポイント	ソーシャルビジネスに対する公的支援の枠組みの理解	
詳細	1 ソーシャルインパクト評価についての講義、2 事前に割り当てられた担当者による、当日ゲストスピーカーの仕事 (ソーシャルビジネス関係に限定)についての事前調査・質問発表、3 ゲストスピーカー:政策金融公庫職員	
第七講・第八講		
概要	地域金融機関の投融資判断	
事前,事後学習ポイント	地域金融機関の投融資判断スタンスの理解	
1 ソーシャルインパクト評価についての講義、2 事前に割り当てられた担当者による、当日ゲストスピーカーの仕事に ついての事前調査・質問発表、3 ゲストスピーカー:多摩信用金庫職員		
第九講・第十講		
概要	ソーシャルビジネスに対する地域金融機関の投融資判断	
事前,事後学習ポイント	パイント ソーシャルビジネスに対する地域金融機関の投融資判断スタンスの理解	
詳細	1 「インパクト志向金融宣言」と「インパクト測定・マネジメント(IMM)」についての講義、2 事前に割り当てられ	

た担当者による、当日ゲストスピーカーの仕事についての事前調査・質問発表、 3 ゲストスピーカー:第一勧業信用組

	合職員		
第十一講・第十二講			
概要	ソーシャルビジネスに対する地域金融機関の投融資判断		
事前,事後学習ポイント	ソーシャル企業認証を受けた企業の事業に対する地域金融機関の投融資判断スタンスの理解		
詳細	1 ソーシャル企業認証についての講義、2 事前に割り当てられた担当者による、当日ゲストスピーカーの仕事についての事前調査・質問発表、3 ゲストスピーカー:京都信用金庫職員		
第十三講・第十四講			
概要	ソーシャルビジネスに対する地域金融機関の投融資判断		
事前,事後学習ポイント	SDG s に基づく事業に対する地域金融機関の投融資判断スタンスの理解		
詳細	1 SDG s とポジティブ・インパクト・ファイナンスについての講義、2 事前に割り当てられた担当者による、当日ゲストスピーカーの仕事についての事前調査・質問発表、3 ゲストスピーカー:静岡銀行職員		
第十五講・第十六講			
概要	投融資判断検討会		
事前,事後学習ポイント	教員が提示したソーシャルビジネスへの投融資判断について議論		
詳細	1 教員が提示したソーシャルビジネスへの投融資判断について受講者同士で議論、 2 教員等からの講評		
教科書 / Textbook	適宜配布		
指定図書 / Course Readings	別途、講義中配布		
参考文献・参考URL / Reference List	別途、講義中配布		
評価方法 / Method of Evaluat	ion		
配分 (合計100%)	出席(30%)、授業内での議論参加(40%)、レポート(30%)		
評価基準 / Evaluation Criteria			
評価「A・」(100~90 点):	授業内での議論参加、レポートの内容が優れている。 自らが地域金融機関の投融資担当者であるとした場合に、独力で、投融資先の民間企業等が社会課題を解決するために実施する活動の影響(ソーシャルインパクト)を測定した上で投融資判断ができるレベルに達していると認められる。		
評価「A」(89~80点):	授業内での議論参加、レポートの内容が良い。 自らが地域金融機関の投融資担当者であるとした場合に、専門家等のアドバイザーによる支援があれば、投融資先の民間企業等が社会課題を解決するために実施する活動の影響(ソーシャルインパクト)を測定した上で投融資判断ができるレベルに達していると認められる。		
評価「B」(79~70点):	授業内での議論参加、レポートの内容が普通。 投融資先の民間企業等が社会課題を解決するために実施する活動の影響(ソーシャルインパクト)の測定方法などの知識を 十分に有していると認められる。		
評価「C」(69~60点):	授業内での議論参加、レポートの内容が一応の水準を満たしている。 投融資先の民間企業等が社会課題を解決するために実施する活動の影響(ソーシャルインパクト)の測定方法などの知識を 有していると認められる。		
評価「F」(59点以下):	評価項目すべてにおいて不十分である。		
留意点 / Additional Information	ゲストスピーカーについては、招聘の調整等あるため流動的である。 また、ゲストスピーカーの日程の調整上、講義内容の順番が変更する可能性がある。		

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期	
科目名 / Course Title	最新テクノロジーとAIの世界			
サブタイトル / Sub Title	文系知(人間)が、理系知(最新テクノロジー)を活かす			
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Advanced Technology and ArtificialIntelligence			
教員 / Instructor	金野 索一 E-mail skonno212@gmail.com			
科目群 / Course Classification	テクノロジー&ベンチャー	単位数 / Credits	2単位	

講義目的 / Aim of Course	この講義は、最新技術を修得するのではなく、先端技術は何に活かせるのかを学びます。そしてAI(人工知能)革命、IT: 命によって、多くの仕事が消失するといわれる中、目的・価値そのものを創り出す文系知により、理系知=最新技術(AI ロボテックス等)を、自分のビジネス、企業、そして社会や人間のためにどう活用するかを探究し実践につなげます。			
到達目標 / Course Goals	「技術」と「既存の知見」の「新しい組み合わせ」によりイノベーションは生まれる。イノベーションの源泉は、テクノロジーとリベラルアーツの交差点にある。受講生自身の抱える課題に関して、ディプロマポリシーでのDP1:「知識と理解」、DP2:「思考と判断」、DP3:「関心と意欲」を獲得し、DP4:「表現と技能」を実践するために、上記目的に資するビジネスセクター全体を俯瞰した最新技術とそのビジネス実践の知見を得た上で、リサーチ・プレゼンテーションや議論を進め、先端技術を活かした仕事・実践への応用を通じてイノベーションを実現し得るビジネスパーソンとなることを目標とします。			
授業形態 / Form of Class	講義、ディスカッション、グループワーク、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし	

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体	講義内容のリサーチ・整理と指定文献の熟読
的な学習内容	1時間程度

授業の概要 / Course Desc	The state of the s	
第一講・第二講		
概要	最新テクノロジーとAI総論	
事前,事後学習ポイント	未来や技術がどうなるかではなく、自分自身が技術を活かし未来を創るために何を為すか。	
詳細	下記テーマについての講義とディスカッションを進めます ・最新テクノロジーの基本フレームワーク ・文系知(=人間)によって、理系知(=最新技術)を活かすとは ・「技術」と「既存の知見」の「新しい組み合わせ」によりイノベーションは生まれる	
第三講・第四講		
概要	Alとは何か	
事前,事後学習ポイント	Alの基本フレームワークの理解	
詳細	AIの沿革、基本技術、活用パターンを講義とディスカッションで学習する 必要に応じてゲスト講師を招く	
第五講・第六講		
概要	ブロックチェーン技術とは	
事前,事後学習ポイント	ブロックチェーン技術が、なぜフラット・自立型組織を必然とさせるのか	
詳細	下記のテーマについて講義とディスカッション。必要に応じてゲスト講師を招く ・ブロックチェーン技術のフレームワーク・あらゆるものを分散化させる ・社会や企業がブロックチェーン技術をどう活かすのか ・NFTや仮想通貨へどう活かされるのか	
第七講・第八講		
概要	ロボティクス、ドローン	
事前,事後学習ポイント	ロボティクス、ドローン等が、AI、IoT他と連動し、社会・ビジネスを変革する	
詳細	下記のテーマについて講義とディスカッション。必要に応じてゲスト講師を招く ・ロボティクス、ドローンのフレームワーク ・社会や企業がロボティクス、ドローンをどう活かすのか	
第九講・第十講		
概要	メタバース(AR/VR)、量子コンピュター、CAMBRIC総論	
事前,事後学習ポイント	・CAMBRIC (Cloud, AI, Mobility,Big data&Block chain, Robotics, IoT, Cyber security) 総論 ・メタバース(AR/VR)が、なぜ社会を変え、科学技術の透明化を加速させるのか	

	・量子コンピュターが、なぜ社会を変え、技術革命を加速させるのか		
詳細	下記のテーマについて講義とディスカッション。必要に応じてゲスト講師を招く ・CAMBRIC (Cloud, AI, Mobility,Big data&Block chain, Robotics, IoT, Cyber security) の理解 ・メタバース(AR/VR)のフレームワーク ・社会や企業が量子コンピュターやAR/VRをどう活かすのか		
第十一講・第十二講			
概要	最新テクノロジー・企業ケーススタディ		
事前,事後学習ポイント	既知の企業における最新テクノロジーの活用をベンチマークし、自身・自社へ活かす		
詳細	最新テクノロジー活用の具体的ケースをリサーチし、プレゼンとグループディスカッションを進める		
第十三講・第十四講			
概要	AI革命で変わる社会		
事前,事後学習ポイント	AI革命の本質、先端技術と人間、ビジネスの関係について、自分の頭で考える		
下記のテーマについて自身で調査研究し、そのプレゼンテーションとディスカッション 詳細 ・AI革命で社会と企業、人間がどう変わるのか ・真の人間の幸福達成のために、社会や企業が先端技術をどう活かすべきなのか?			
第十五講・第十六講			
概要	最新テクノロジー:自身・自社への応用計画プレゼンテーション		
事前,事後学習ポイント	自身・自社の課題は何か?その課題の中で、テクノロジーで解決できるものは何か?		
詳細	自身・自社への最新テクノロジーの応用計画を各自プレゼンテーションし、 ディカッション・グループワークを通じて教員・他メンバーへの共有とフィードバック、自身の振り返りを進める		

教科書 / Textbook	適宜、講義資料を配布する。
指定図書 / Course Readings	適宜、指定図書を紹介する。
参考文献・参考URL / Reference List	・日経クロステックWEB連載『出でよ!PeaceTechイノベーター』(金野索一著/日経BP社) https://xtech.nikkei.com/search/?KEYWORD=%E9%87%91%E9%87%8E%20%E7%B4%A2%E4%B8%80&author=1 ・フォーブス・ジャパン WEB連載 『テックで資本主義をアップデートする』(金野索一著/Forbes社) https://forbesjapan.com/author/detail/1810

配分(合計100%)	出席: ディスカッション: リサーチプレゼンテーション: 応用計画 = 25: 20: 25: 30		
評価基準 / Evaluation Crite	ria		
評価「A・」(100〜90 点):	1) 先端技術への知見。H:深いレベルで知見を得ている。M:通常レベルの知見である。L:知見不足である。 2) 講義内でのリサーチプレゼンテーション、議論参加。 H:プレゼン・議論で貢献大。主体的に参加している。M:プレセン・議論で貢献している。通常レベルで参加している。L:プレゼン・議論で貢献不足である。受動的な参加にとどまっている。 3) 各自の応用計画。 H:応用計画が優れている。 M:応用計画が通常レベルである L:応用計画が不十分である・上記の1) 2) 3) が、全てHレベルである。		
評価「A」(89~80点):	1) 先端技術への知見。H:深いレベルで知見を得ている。M:通常レベルの知見である。L:知見不足である。 2) 講義内でのリサーチプレゼンテーション、議論参加。 H:プレゼン・議論で貢献大。主体的に参加している。M:プレゼン・議論で貢献している。通常レベルで参加している。L:プレゼン・議論で貢献不足である。受動的な参加にとどまっている。 3) 各自の応用計画。 H:応用計画が優れている。 M:応用計画が通常レベルである L:応用計画が不十分である ・上記の1) 2) 3) うち、2つがHレベルである。		
評価「B」(79~70点):	1) 先端技術への知見。H:深いレベルで知見を得ている。M:通常レベルの知見である。L:知見不足である。 2) 講義内でのリサーチプレゼンテーション、議論参加。 H:プレゼン・議論で貢献大。主体的に参加している。M:プレゼン・議論で貢献している。通常レベルで参加している。L:プレゼン・議論で貢献不足である。受動的な参加にとどまっている。 3) 各自の応用計画。 H:応用計画が優れている。 M:応用計画が通常レベルである L:応用計画が不十分である ・上記の1) 2) 3) のうち、1つがHレベル、2つがMレベルである。		
評価「C」(69~60点):	1) 先端技術への知見。H:深いレベルで知見を得ている。M:通常レベルの知見である。L:知見不足である。 2) 講義内でのリサーチプレゼンテーション、議論参加。 H:プレゼン・議論で貢献大。主体的に参加している。M:プレセン・議論で貢献している。通常レベルで参加している。L:プレゼン・議論で貢献不足である。受動的な参加にとどまっている。 3) 各自の応用計画。 H:応用計画が優れている。 M:応用計画が通常レベルである L:応用計画が不十分である。		

	・上記の1)2)3)のうち、2つ以上がMレベルである。
評価「F」(59点以下):	1) 先端技術への知見。H:深いレベルで知見を得ている。M:通常レベルの知見である。L:知見不足である。 2) 講義内でのリサーチプレゼンテーション、議論参加。 H:プレゼン・議論で貢献大。主体的に参加している。M:プレゼン・議論で貢献している。通常レベルで参加している。L:プレゼン・議論で貢献不足である。受動的な参加にとどまっている。 3) 各自の応用計画。 H:応用計画が優れている。 M:応用計画が通常レベルである L:応用計画が不十分である。
	・上記の1)2)3)のうち、2つ以上がLレベルである。 ・出席不良である。

	・秋学期に開講する「SDGS(社会課題)×Techビジネス」「ITビジネス原理と事業創出」をあわせて履修すると学びの効果が
留意点 / Additional	大きい。 ・ 《読む・書く + 聴く・話す》 コミュニケーションスキルがリーダー/イノベーターのキーであるのでプレゼンテーションや議論には積極的に参画すること
IIIOIIIatioii	・なお、先端技術やAI分野は、既知のものがすぐに陳腐化してしまう高速変化が常ですので、最先端の学びのために、このシラバスの内容を一部変更して、実際の講義を行うことがありますので、了承いただければ幸いです。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	ITビジネス原理と事業創出演習		
サブタイトル / Sub Title	DX(デジタルトランスフォーメーション)、X-Tech(クロステック)を学び実践する		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Theory and Planning of IT business		
教員 / Instructor	金野 索一 E-mail skonno212@gmail.com		
科目群 / Course Classification	テクノロジー&ベンチャー	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	ITビジネス事業創出で拓く企業と自己キャリアの新たな地平~今やIT革命とは、IT産業だけではなく、全ての産業・業種に及ぶ「××業種とIT」=「X-Tech」のことであり、DX(デジタルトランスフォーメーション)と同義です。パーソナルコンピュターが登場して約30年、インターネットが普及を始めて約20年、ITというツールを的確に使いこなさずして、ビジネスの隆盛は成し得ません。クラウドやビッグデータ等のキーワードを知っていても、起業や経営にどのように活かすかの知見なくして、企業のイノベーションや自身のビジネス・キャリアは深化しません。本科目は、現代のビジネスパーソンに不可欠な、業種、職種の枠を超えて、ビジネスセクター全体の"最新のITビジネス原理と先端戦略の視点・ノウハウ=DX・X-Techを俯瞰し、体系化したものを学びます。そして、自身の目前の仕事やキャリア、所属企業の創造や戦略の明確化を図り、ITを駆使した新規事業計画を作成し、日本を代表する現役の起業家・経営者と投資家へ提案を行い、その結果によっては、実際の起業あるいは社内起業に繋げます。まさに、日本のITビジネスにおける最先端の理論と実践を往来し、企業と自分自身のイノベーションを推進する場とします。		
到達目標 / Course Goals	"イノベーションの源泉は、テクノロジーとリベラルアーツの交差点にある。"自身の抱える課題に関して、ディプロマポリシーでの、DP1:「知識と理解」、DP2:「思考と判断」、DP3:「関心と意欲」 を獲得し、DP4:「表現と技能」を実践するために、上記目的に資するビジネスセクター全体を俯瞰した"最新のITビジネス原理=X-Techの理論と実践"に精通し、ITを活用した実現性の高い新規事業を構想、計画し、実践・推進できるイノベーターシップを持ったビジネスパーソンとなることを目標とします。		
授業形態 / Form of Class	講義、ディスカッション、グループワーク、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

講義内容関してのリサーチ・整理と指定文献の熟読1時間程度

1		
授業の概要 / Course Descrip	otion	
第一講・第二講		
概要	ITビジネス原理と事業創造 総論	
事前,事後学習ポイント	あらゆる業種、職種、個人キャリア、組織そして、事業創造に活かせるツールとしてのITを理解 当科目における事業創造プロセスと科目進行の段取りを理解	
詳細	下記テーマについての講義とディスカション 1)IT革命とは、IT産業だけではなく、「××業種とIT」=「X-Tech」「DX(デジタルトランスフォーメーション)」のことである。 2)ITは、業種、職種を越えて、ビジネスモデルと仕事の仕方を変えている 3)AI/IT革命によって、中央集権的大組織(国家、伝統的大企業)は弱体化し、DAO(Decentralized Autonomous Organization、分散型自律組織)が必然となる 4)当科目における事業創造のプロセス 5)科目進行の段取り	
第三講・第四講		
概要	ゲスト講師・現役IT/AI企業家の講義①:上場経験者&エンジェル投資家編	
事前,事後学習ポイント	自分の現在地点(構想)と、目指すべき自分の到達地点(実践)の乖離を専門家(上場経験者であり同時にエンジェル投資家)から学ぶ	
詳細	現役IT/AIベンチャー経営者(上場経験者であり同時にエンジェル投資家)のノウハウ戦略とその実践を講義ディスカッションから学ぶ	
第五講・第六講		
概要	インターネットソリューション基本類型・原理 ITが変えた職種・仕事の最新原理	
事前,事後学習ポイント	・「既存のIT知見」と「既存のIT知見」の「新しい組み合わせ」によりイノベーションは生まれることを理解する ・既知の職種×ICT=職種別の新たな仕事の原理を理解する	
詳細	下記についての講義とプレゼンテーション、ディスカッションを進める ・インターネットソリューション基本類型・原理	

・ITが変えた職種・仕事の最新原理 1) 経営戦略:システム・デザイン・ストーリー思考へ 2) マーケティング:マーケッターからグロースハッカーへ 3) 人事・組織:野球型からサッカー型へ、コーディネーターからファシリテーターへ 4) 財務:フィンテック、決済 システム、暗号通貨、クラウドファンディング他 5) 製造: 3Dプリンター革命で、集中メインフレーム型から分散ネットワーク型へ 第七講・第八講 事業創造探究 概要 事前.事後学習ポイント 自身の事業創造における事業領域と解決すべき顧客課題、必要なリソースを探究し、仮設設定する 各自の仮設設定した事業領域と解決すべき顧客課題、必要なリソースをプレゼンテーション 詳細 上記についての講義とディスカッションを進める 第九講・第十講 X-Tech Timemachine(クロステック・タイムマシン)とは① 概要 既知の産業・業種×ICT=(X-Tech / DA)フェック(DX)=新たな原理を業種・産業別にベンチマークし、自分・自社に活かす 事前,事後学習ポイント ・「X-Tech」「DX」とは、「 $\times \times$ 業種とIT」のことである ・「X-Tech Timemachine」とは、下記1)の業種ごとに、下記2)の地域別にビジネスモデルを調査分析し、そのモデル・ ノウハウを自身自社のビジネス実践に活かすことである 1) X-Tech 業種分類例: Fin-Tech, Agri-Tech, Ed-Tech, Poli-Tech, Medi-Tech等 2) 地域分類例:北米、南米、西ヨーロッパ、東ヨーロッパ、アジア、中国、日本、アフリカ、オセアニア等 詳細 上記についての講義とプレゼンテーション、ディスカッションを進める ・「AD-Tech」とは、「広告・プロモーションとIT技術」のことである ・「X-Tech」「DX」が最も進んでいる業種が「AD-Tech」である ・「AD-Tech」を調査分析し、その技術・ノウハウを自身自社のビジネス実践に活かす 第十一講・第十二講 X-Tech Timemachine(クロステック・タイムマシン)とは② 概要 既知の産業・業種×ICT=(X-Techクロステック)(DX)=新たな原理を業種・産業別にベンチマークし、自分・自社に活かす 事前.事後学習ポイント ・「X-Tech」「DX」とは、「 $\times \times$ 業種とIT」のことである ・「X-Tech Timemachine」とは、下記1)の業種ごとに、下記2)の地域別にビジネスモデルを調査分析し、そのモデル・ ノウハウを自身自社のビジネス実践に活かすことである 1) X-Tech 業種分類例: Fin-Tech, Agri-Tech, Ed-Tech, Poli-Tech, Medi-Tech等 2) 地域分類例:北米、南米、西ヨーロッパ、東ヨーロッパ、アジア、中国、日本、アフリカ、オセアニア等 詳細 上記についての講義とプレゼンテーション、ディスカッションを進める ・「AD-Tech」とは、「広告・プロモーションとIT技術」のことである ・「X-Tech」「DX」が最も進んでいる業種が「AD-Tech」である ・「AD-Tech」を調査分析し、その技術・ノウハウを自身自社のビジネス実践に活かす 第十三講・第十四講 概要 ゲスト講師・現役IT/AIベンチャー経営者の講義②:スタートアップ経営者編(当科目OBの経営者) 自分の現在地点(構想)と、目指すべき自分の到達地点(実践)の乖離を実践者(スタートアップ経営者)から学ぶ 事前,事後学習ポイント 現役IT/AIベンチャー経営者(当科目OBのスタートアップ経営者編)のノウハウ戦略とその実践を講義ディスカッションから 詳細 学ぶ 第十五講・第十六講 概要 自身・自社のIT事業計画プレゼンテーション 白身・白社が特化すべき原理・戦略を明確化する 事前,事後学習ポイント 自身・自社のIT事業計画を、教員(金野、投資会社経営)へ各自プレゼンテーションし、 ディカッション・グループワーク 詳細 を通じて教員・他院生への共有をし、必要に応じて支援・出資を獲得し、新規IT事業を実現化する。教員、他院生からフィー ドバックと検証を進める 普通の君でも起業できる(大前研一、金野索一、他 著 ダイヤモンド社) 教科書 / Textbook 指定図書 / Course Readings 適宜、指定図書を紹介する。

①API ②CGM ③フリー戦略 ④決済最適化 ⑤P2P ⑥O2O ⑦SNS戦略 ⑧ロングテール ⑨プラットフォーム戦略

⑩VUI 他

http://business.nikkeibp.co.jp/atclcmp/15/071700001/

参考文献・参考URL /

Reference List

・日経ビジネス・カンパネラWEB連載『トライセクター・リーダーの時代』(金野索一著/日経BP社)

https://xtech.nikkei.com/search/?KEYWORD=%E9%87%91%E9%87%8E%20%E7%B4%A2%E4%B8%80&author=1 ・フォーブス・ジャパン WEB連載 『テックで資本主義をアップデートする』 (金野索一著/Forbes社) https://forbesjapan.com/author/detail/1810

評価方法 / Method of Evaluation		
配分(合計100%)	出席: ディスカッション: リサーチプレゼンテーション: 事業計画 = 25: 20: 25: 30	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90点):	ITビジネス原理に精通している—分析—事業計画立案—高実現性の事業計画提案を行える	
評価「A」(89~80点):	ITビジネス原理に精通している—分析—事業計画立案を行える	
評価「B」(79~70点):	ITビジネス原理に精通している―分析を行える	
評価「C」(69~60点):	ITビジネス原理に精通している	
評価「F」(59点以下):	ITビジネス原理の理解不十分	

	・春学期に開講する「最新テクノロジーとAIの世界」、秋学期に開講する「SDGS×Techビジネス」をあわせて履修すると学
	びの効果が大きい。
留意点 / Additional	・《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルがリーダー/イノベーターのキーであるのでプレゼンテーションや議
Information	論には積極的に参画すること
	・なお、IT分野は、既知のものがすぐに陳腐化してしまう高速変化が常ですので、最先端の学びのために、このシラバスの内
	容を一部変更して、実際の講義を行うことがありますので、了承いただければ幸いです。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期	
科目名 / Course Title	SDGS(社会課題)×Tech ビジネス			
サブタイトル / Sub Title	SDGS/社会課題(貧困と紛争他)を、Techビ	SDGS/社会課題(貧困と紛争他)を、Techビジネスで解決する		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	SDGS Tech Business			
教員 / Instructor	金野 索一 E-mail skonno212@gmail.com			
科目群 / Course Classification	テクノロジー&ベンチャー	単位数 / Credits	2単位	

講義目的 / Aim of Course	IT革命は、人を本当に幸せにしているのか?インターネットが普及して20年。ロケットで人が宇宙に行き、SNSが隆盛し、人工知能やIoT(Internet of Things)が登場しても、殺し合いも飢餓も21世紀を迎えた今も厳然と存在しています。「人類の科学技術の多くが、軍事のため、戦争の勝利を目的に発展してきた」この悲痛な負の歴史を、根源から変えなくてはなりません。情報技術が人間の幸福に多大に貢献し得るかは、勃興する起業家のIT産業のみならず、時代を越えた課題であるSDGS等の戦争と飢餓の根絶のために活かされてこそ、人類叡智の極みに達すると言えます。世界中が未だ道筋を見いだしていない、この深遠なるテーマに対して、グローバルビジネスと国際協力/紛争解決の最前線の知見と、先端テクノロジーの知見を結集し、飢餓と紛争がなく、SDGS17項目が解決された世界を実現するためにTechを活かしたビジネスを探究していきます。さらに、ITを活用した社会課題解決の事業をプランニングし、アフリカをはじめとするブルーオーシャン市場や、日本市場において、日本企業が人々とWin-Winで寄り添っていく、"アンバンクド"向けビジネス、"ラスト1マイル"ビジネスとしての"ポストマネー資本主義"のビジネスモデルを確立し、それを実践する人材を輩出する場とします。また、SDGS(社会課題)×Tech ビジネスの最先端の理論と実践を往来し、企業と自分自身のソーシャルイノベーションを推進します。		
到達目標 / Course Goals	"イノベーションの源泉は、テクノロジーとリベラルアーツの交差点にある。"自身の抱える課題に関して、ディプロマポリシーでの、DP1:「知識と理解」、DP2:「思考と判断」、DP3:「関心と意欲」を獲得し、DP4:「表現と技能」を実践するために、上記目的に資するSGDS全体を俯瞰し,世界の貧困・紛争の現場と"最新のIT・先端技術を理解した上で、その分析と実現性の高いSDGSビジネス立案・提案を行える力を修得する。		
授業形態 / Form of Class	講義、ディスカッション、グループワーク、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

準備学習	(予習	・復習等)	に必要な時間に準じる程度の具体
的か学習	力灾		

講義内容関してのリサーチ・整理と指定文献の熟読1時間程度

的な学習内容		
授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	SDGS(社会課題)×Tech ビジネ	- -ス 総論
事前,事後学習ポイント		困・紛争撲滅に活かせるツールとしてのIT、先端技術を理解 プロセスと科目進行の段取りを理解
詳細	2) 「Peace Tech」とは、情 ることである	だけでなく、ITで人類の課題を解決してこそ、真の革命と言える。 報技術を核とした先端技術により、社会課題を解決し、戦争や飢餓をなくし世界平和を実現す そ、アメリカでもない中国でもない,日本の差別化戦略である
第三講・第四講		
概要	ゲスト講師:SDGS Techビジネ	ネス実践者講義
事前,事後学習ポイント	ゲスト講師(SDGS Techビジジ	ネスを実践する経営者)による講義から学び、SDGS Techビジネス計画づくりに活かす
詳細	ゲスト講師(SDGS Techビジラを進める	ネスを実践する経営者)による講義から学び、教員・院生交えて、ディスカション、質疑応答
第五講・第六講	·	
概要	SDGS Techビジネス・企業ケ-	- -ススタディ
事前,事後学習ポイント	既知の企業におけるSDGS Tec	hビジネスをベンチマークし、自身・自社へ活かす

詳細	SDGS Techビジネスをベンチマークし、自身・自社へ活かす具体的ケースをリサーチし、プレゼンとグループディスカッションを進める
第七講・第八講	
概要	SDGS Techビジネス創造探究
事前,事後学習ポイント	自身のSDGS Techビジネス創造における事業領域と解決すべき社会課題、必要なリソースを探究し、仮設設定する
詳細	各自の仮設設定した事業領域と解決すべき社会課題、必要なリソースをプレゼンテーション 上記についての講義と、教員と院生にてフィードバックとディスカッションを進める
第九講・第十講	
概要	SDGS Techビジネス X-Tech Time Machine ①: FLEC 8 分野のうち 4 分野 FLEC 8 分野とは: F: ①Food/Agri, ②Finance L: ③Logistics, E: ④Education, ⑤ Environment, ⑥Energy, C: ⑦social Care, ⑧health Care
事前,事後学習ポイント	既存のSDGS Techビジネスを、FLEC 8 分野それぞれに、世界 9 エリアごとに各自調査研究し、X-Tech Time Machineフレームワークにまとめ、SDGS Techビジネス計画づくりに活かす SDGS Techビジネス X-Tech Time Machine とは: 既存企業のSDGS Techビジネスモデルを調査研究し、FLEC 8 分野それぞれに、世界 9 エリアごと(北米、南米、西欧、東欧、アジア、中国、日本、アフリカ、オセアニア)に、マトリックにしてまとめたフレームワーク
詳細	既存のSDGS Techビジネスを、FLEC 8 分野それぞれに、世界 9 エリアごと(北米、南米、西欧、東欧、アジア、中国、日本、アフリカ、オセアニア)に調査研究し、X-Tech Time Machineフレームワークに各自まとめたものをプレゼンテーションし、教員・院生交えて、ディスカション、質疑応答を進める
第十一講・第十二講	
概要	SDGS Techビジネス X-Tech Time Machine ②: FLEC 8 分野のうち 4 分野 FLEC 8 分野とは: F: ①Food/Agri, ②Finance L: ③Logistics, E: ④Education, ⑤ Environment, ⑥Energy, C: ⑦social Care, ⑧health Care
事前,事後学習ポイント	既存のSDGS Techビジネスを、FLEC 8 分野それぞれに、世界 9 エリアごとに各自調査研究し、X-Tech Time Machine フレームワークにまとめ、SDGS Techビジネス計画づくりに活かす SDGS Techビジネス X-Tech Time Machine とは: 既存企業のSDGS Techビジネスモデルを調査研究し、FLEC 8 分野それぞれに、世界 9 エリアごと(北米、南米、西欧、東欧、アジア、中国、日本、アフリカ、オセアニア)に、マトリックにしてまとめたフレームワーク
詳細	既存のSDGS Techビジネスを、FLEC 8 分野それぞれに、世界 9 エリアごと(北米、南米、西欧、東欧、アジア、中国、日本、アフリカ、オセアニア)に調査研究し、X-Tech Time Machineフレームワークに各自まとめたものをプレゼンテーションし、教員・院生交えて、ディスカション、質疑応答を進める
第十三講・第十四講	
概要	近未来のSDGS Techビジネス:先端戦略ケーススタディ (WEB 3.0, NFT, メタバース,仮想通貨他)
事前,事後学習ポイント	高速進歩変化するSDGS Techビジネスの先端戦略、先端技術を理解し、実践可能なポジションを獲得する
詳細	近未来のSDGS Techビジネスに戦略、技術を見通し、今後の自身・自社のアドバンテージを得るための講義とディスカッション
第十五講・第十六講	
概要	SDGS Techビジネス計画プレゼンテーション
事前,事後学習ポイント	自身・自社が特化すべき原理・戦略を明確化する
	自身・自社のSDGS Techビジネス計画を各自プレゼンテーションし、ディカッション・グループワークを通じて教員・他メ

教科書 / Textbook	・日経クロステックWEB連載『出でよ!Peace Techイノベーター』(金野索一著/日経BP社) https://xtech.nikkei.com/search/?KEYWORD=%E9%87%91%E9%87%8E%20%E7%B4%A2%E4%B8%80&author=1 ・フォーブス・ジャパン WEB連載 『テックで資本主義をアップデートする』(金野索一著/Forbes社) https://forbesjapan.com/author/detail/1810
指定図書 / Course Readings	適宜、指定図書を紹介する。
参考文献・参考URL / Reference List	・日経ビジネス・カンパネラWEB連載『トライセクター・リーダーの時代』(金野索一著/日経BP社) http://business.nikkeibp.co.jp/atclcmp/15/071700001/

評価方法 / Method of Evaluation		
配分(合計100%)	出席: ディスカッション: リサーチプレゼンテーション: 事業計画=25: 20: 25: 30	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	SDGSと社会課題に精通している—分析—実現性の高いSDGS×Techビジネス立案を行える	
評価「A」(89~80点):	SDGSと社会課題に精通している—分析—SDGS×Techビジネス立案を行える	
評価「B」(79~70点):	SDGSと社会課題に精通している—分析を行える	
評価「C」(69~60点):	SDGSと社会課題に精通している	
評価「F」(59点以下):	SDGSと社会課題の理解不十分	

・春学期に開講する「最新テクノロジーとAIの世界」「トライセクター・リーダー論」、秋学期に開講する「ITビジネス原
理と事業創出演習」をあわせて履修すると学びの効果が大きい。
・《読む・書く+聴く・話す》コミュニケーションスキルがリーダー/イノベーターのキーであるのでプレゼンテーションや議
論には積極的に参画すること
・なお、先端技術やAI分野は、既知のものがすぐに陳腐化してしまう高速変化が常ですので、最先端の学びのために、この
シラバスの内容を一部変更して、実際の講義を行うことがありますので、了承いただければ幸いです。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	プロジェクトマネジメントの基本と応用		
サブタイトル / Sub Title	プロジェクト・マネジメントからプロジェクト・デザインへ		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Elements of Project Management		
教員 / Instructor	中分 毅 E-mail nakawake.takeshi@gmail.com		
科目群 / Course Classification	テクノロジー&ベンチャー	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	プロジェクト・マネジメントの鉄の三角形「品問題となっています。肝腎の目標が適切に設定与、つまり前提条件として与えられるものだと設定を中核とするプロジェクト・デザインとフ加えて、コミュニケーション・マネジメント、間的側面にも焦点を当てます。 鉄の三角形については通り一遍の解説ではなく	されていないからです。国際標しています。本講義では、この プロジェクト・マネジメントを接 モティベーション・マネジメン	準と言えるPMBOKもプロジェクトの目標は所限界を乗り越えるため、プロジェクトの目標合することを目指します。 ト、ステイクホルダー・マネジメント等の人
到達目標 / Course Goals	変革の時代というビジネス環境下、変革をプロジェクトとして捉え、プロジェクト・マネジメントの知識を変革に対して実践的に活用できるような理解の醸成を目指します(DP1:「知識と理解」)。 プロジェクト・マネジメントの意義は、領域に関わらない体系だったマネジメント手法を用いて、効率に留まらない効果的なプロジェクト運営を図ることにあります。この一般性が障害となって、その有効性を理解することが容易ではありません。事例分析を交え、受講者が知識を活用する際の基本的視点を確立することを目標とします。		
授業形態 / Form of Class	講義、ワークショップ、プレゼンテーション	学外学習 / Off-Campus Learning	有

- ①. 毎回事前に配布するテキストによる予習と復習(各50ページ程度、約2時間)
- ②. 最終レポートを含め全体で4回のレポート提出を求めます(3時間X3回、最終は6時間程度の作成時間)

授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	なぜ今、プロジェクト・マネジメントが必要か? - プロジェクト的組織観の抬頭とプロジェクト・デザインの重要性	
事前,事後学習ポイント	オペレーションとプロジェクトの相違やプロジェクトと組織戦略との関係を理解し、組織活動全体におけるプロジェクトや プロジェクト・マネジメントの位置付けを理解します。国際標準ではマネジメントの前提とされるプロジェクト目標の設定 に、プロジェクト・マネージャーも参加すべきで、この活動をプロジェクト・デザインと捕らえる視点を獲得します。	
詳細	プロジェクトとは変革や革新を具体化する活動であり、組織活動はプロジェクトの集合体であるとのプロジェクト的組織観が抬頭しています。この流れの中で、プロジェクト・マネジメントの重要性に対する認識や期待が高まる一方、伝統的なプロジェクト・マネジメントの知識体系やその有効性への疑問が増大しています。つまり、プロジェクト・マネジメントは過渡期にあるといえ、組織戦略とプロジェクト実行をつなぐプロジェクト・デザインが重要となります。過渡期にあるプロジェクト・マネジメントを対象とする本講義の導入講として、以下の3点を検討し、以降の講義への展望を獲得します。 ① 組織活動におけるプロジェクトの位置付けと重要性 ② プロジェクト・マネジメントの有効性に対して疑問が高まる要因 ③ ②を克服する方略としてのプロジェクト・デザインのあり方	
第三講・第四講		
概要	そもそもプロジェクト・マネジメントは何か一その源流と伝統的プロジェクト・マネジメントの構成・限界を理解する	
事前,事後学習ポイント	伝統的なプロジェクト・マネジメントが対応した課題の性格と方法論の特徴を理解し、その有効性と限界性の両者を認識します。この認識を具体的なものとするため、受講者自身や所属する組織の業務をプロジェクトの観点から分析します。(レポートその1)	
詳細	プロジェクト・マネジメントは、国家レベルの基盤施設建設や冷戦時代の宇宙・軍事開発への対応として、手法開発と体系化がなされました。本講義では、その中核にあるGantt Chart、PERT、WBS(作業分割構成)、EVM(Earned Value Management)などの個別技法と全体構成を紹介します。伝統的なプロジェクト・マネジメントを理解することは、それを乗り越えていく上でも重要なので、事例分析や演習を通じて確実な理解を目指します。 ①、実際のプロジェクトにおける適用事例を紹介します。 ②、受講者自身の業務の分析結果であるWBSを比較検討します。	
第五講・第六講		
概要	プロジェクトの成功や失敗をどの様に評価するのか、プロジェクトを成功や失敗に導く要因とは何かを理解する	
事前,事後学習ポイント	プロジェクトそれ自体の成功・失敗とプロジェクト・マネジメントの成功・失敗は異なる概念であることを理解します。この理解を確かなものにするため、受講者自身の業務や受講者の属する組織の業務を、プロジェクトの成功・失敗、マネジメントの失敗・成功の両者の観点で分析します。(レポートその2)	

詳細	プロジェクト・マネジメントが普及する一方、プロジェクトの失敗率に改善が見られないことが問題視されています。これではプロジェクト・マネジメントを学ぶ意義は半減してしまいます。実践面での改善に向け、以下を講述します。 ①. プロジェクトの成功をどう評価するのかについての代表的な提案を紹介します。 ②. プロジェクトを成功や失敗に導く要因に関する調査研究を紹介します。 ③. ①②を踏まえた本講義としてのプロジェクト成功の評価軸、プロジェクトを失敗に導く要因を提案します。 ④. 受講者は③を用いた自身の業務の分析し、受講者の分析結果を比較検討します。
第七講・第八講	
概要	プロジェクト・デザイン(その1) - プロジェクトの有効な目標をどの様に設定するか
事前,事後学習ポイント	プロジェクトの有効な目標を設定するためのプロセスを理解します。 受講者自身や受講者が属する組織の業務の目標が適切に設定されているかを検討します。(レポート3の選択課題の1つ)
詳細	伝統的プロジェクト・マネジメントでは、プロジェクトの企画立案はマネジメントの対象ではなく、戦略側から与えられるものとされています。この企画立案と実行マネジメントの切断を克服するため、解決すべき問題の分析・構造化とその解決を目指すプロジェクト目標の設定を中核とするプロジェクト・デザインのプロセスを、以下の3点で検討します。 ①. 既往のプロジェクト・デザイン・プロセスに関する提案のレビュー ②. プロジェクト・デザインの観点からの事例分析と既往提案の不十分点の抽出 ③. ①②に基づく方法論の提案(基本的なプロセスと主要問題の解決方略)
第九講・第十講	
 概要	品質マネジメントにおける根本問題とは何か
事前,事後学習ポイント	プロジェクトにおける品質マネジメントの根本問題として3点、①コストと品質、複数の品質属性間のトレード・オフ、② プロジェクトの進行に応じたマネジメント焦点とスタイル、③品質に重大な悪影響を及ぼす手戻りの防止、を理解します。 品質マネジメントに関し、受講者自身や属する組織の現状を改善するための方策を提案します。(レポート3の選択課題の 1つ)
詳細	品質は、プロジェクトへの期待や要求事項が総合されたもので、プロジェクトの目標を実現する上で品質マネジメントは極めて重要となります。この品質マネジメントの軸となるのは品質目標ですが、目標の設定と目標の実現の2つのフェーズにおける根本問題として、次の3点を検討します。これらは類書では取り上げられていない重要な観点です。 ①. 質とコストに代表されるトレードオフを解決するための様々な手法を紹介し、実践的に有効な方法を絞り込みます。 ②. 品質目標の実現段階で、詳細化・具体化の進展に応したじたマネジメントの焦点やスタイルのあり方を検討します。 ③. 品質に重大な悪影響を及ぼす避けることのできた業務の手戻りを防止するための有効な手法を検討します。
第十一講・第十二講	
 概要	コスト・マネジメントという困難な仕事に、どう立ち向かえばよいのか
事前,事後学習ポイント	コスト・マネジメントを困難にする要因を理解した上で、コスト・マネジメントに従事する際の行動原理を整理します。受 講者自身や属する組織のコスト・マネジメントを改善するための方策を提案します。(レポート3の選択課題の1つ)
詳細	現実の世界では、何といってもお金が鍵を握ります。 このお金を対象とするコスト・マネジメントの核心として、①プロジェクトのコストが何を含むかの共通認識の醸成、②必ず起こる予算超過への対応、③コストとプライス(費用と価格)の違いを認識した上での適切な調達方法の選択、④情報の少ないプロジェクト初動期のコスト・マネジメントについて検討します。 また、⑤厳格な予算と膨らんでいく要求と言うマネジメントにおける不条理にどう立ち向かっていくのかを考えます。 更に、⑥買い手と売り手による恊働的なコスト・マネジメントという新しい流れを検討します。
第十三講・第十四講	
概要	プロジェクト・マネジメントにおける人間的側面 - コミュニケーション、ステイクホルダー、モティベーションのマネジメント
事前,事後学習ポイント	プロジェクトの成否における人間的側面の重要性を理解します。人間的側面に関し、受講者自身や属する組織の現状を改善するための方策を提案します。 (レポート3の選択課題の1つ)
詳細	プロジェクトを担うのは人間であるという原点に立ち返り、コミュニケーション、ステイクホルダー、モティベーション等のプロジェクト・マネジメントの人間的な側面を対象とします。これまで科学的方法論を適用してプロジェクトを管理すればプロジェクトは成功するとの考えが色濃かったのですが、これは是正される方向にあります。以下の点を取り上げます。①. プロジェクト関係者間にミス・コミュケーションが発生することは必定であることを理解し、どの様にして相互理解を促進するのかを考えます。②. プロジェクトの主要なステイクホルダーの利害関心に対立があることも必定なので、これをどの様に解決するかをフレームという見方で考えます。 ③. プロジェクトの成果に直結する実行を担うメンバーの動機付けを保持し高めるために、プロジェクト・マネージャーがなすべきことは何かを考えます。
第十五講・第十六講	
概要	プロジェクト・デザイン(その2)-どの様にして境界を越えるか
事前,事後学習ポイント	複数組織が協働・共創するために越えるべき壁として何があり、それらをどの様に越えるか理解します。最終レポートとして、「複数主体による共創プロジェクトのデザインー自らの業務や組織を題材にして」を作成します。
詳細	複数組織が協働して遂行するマルチステイクホルダー型のプロジェクトの重要性が高まっていますが、この様なプロジェクトをデザインする方法論は未確立です。典型的なマルチステイクホルダーな状況を想定し、この状況への対応方針を受講生各自に提案してもらい、これに基づく議論によって、境界をこえるプロジェクト・マネジメントのポイントを整理します。 臨場感を確保するため、社外の実企業のプロジェクトオフィス(日建設計竹橋オフィスを想定)における、アクティブ・ラーニングとして実施する予定です。

教科書 / Textbook	MBA向けのプロジェクト・マネジメントの適当な教科書がなく、本講義のために独自に作成した教科書を使用します。毎回の講義の事前にOn-lineで配布します。
指定図書 / Course Readings	上記の理由により指定図書はありません。
参考文献・参考URL / Reference List	重要な参考文献を講義の進行と合わせて、電子的に配布します。

評価方法 / Method of Evaluation	
配分 (合計100%)	出席:30%、3回のレポート:10%×3回、最終レポート40%
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A・」(100~90 点):	以下の①②③の全てを高い水準で満たす ①出席率が良好である。 ②各回のレポートにおいて自身の経験との関連付けができている。 ③最終レポートに問題意識とそれを解決しようとする能動性が感じられる。
評価「A」(89~80点):	以下の①②③の全てを満たす ①出席率が良好である。 ②各回のレポートにおいて自身の経験との関連付けができている。 ③最終レポートに問題意識とそれを解決しようとする能動性が感じられる。
評価「B」(79~70点):	以下の①②③の2者を満たす ①出席率が良好である。 ②各回のレポートにおいて自身の経験との関連付けができている。 ③最終レポートに問題意識とそれを解決しようとする能動性が感じられる。
評価「C」(69~60点):	以下の2者を満たす ①出席率が良好である。 ②レポートからプロジェクト・マネジメントに関する最低限の理解が認められる。
評価「F」(59点以下):	学習意欲が感じられない(出席不良orレポート未提出)。

留意点 / Additional	ファイナンスと企業会計に関し、プロジェクト・マネジメントの理解において必要最低限の知識については講義でも触れま
Information	すが、出来ればこれらの科目を履修して頂きたいと思います。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	【RSP】社会課題起点のルール形成戦略		
サブタイトル / Sub Title	社会課題を成長市場へと転じるルール形成とビジネスモデル		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Social Issue driven Rule Making Strategy		
教員 / Instructor	國分 俊史	E-mail	kokubun@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	ルール形成戦略	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	政府ではもはや解決できない様々な社会課題に対し、民間企業の力が求められている。しかし、日本企業は政府の補助金以外に市場化する構想力が無く、政府機能が不十分な新興国では完全に出遅れている。一方、欧米企業は社会課題解決に繋がる製品、サービスが市場から支持されるルールを自ら創造して成長を勝ち取っている。社会課題をルール形成によって市場化するアプローチを実例から研究する。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーにあるDP2:「思考と判断」を磨き、社会課題を解決するイシューエコシステム設計とグローバル市場へのルール形成アプローチを理解し、事業成長に応じて社会課題解決力も高まるビジネスモデルが構想できるようになる。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、 グループワーク、ディベート、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

準備学習(予習・復習等)	に必要な時間に準じる程度の具体
的か学習内容	

講義内容の整理と指定図書の熟読(各講義毎2時間程度)

的な学習内容		研教的各の定性と相定凶官の然前(台語教 年 2時間使反)	
授業の概要 / Course Desc	ription		
第一講・第二講			
概要	社会課題を市場化するルール刑	· ジ成戦略	
事前,事後学習ポイント	欧米企業はどのようにして社会	会課題を事業成長の機会に転じているのか?	
詳細	社会課題の解決を、ルール形成本の大手企業の経営戦略の違い	成を梃にリードする欧米企業と、そうした企業の取り組みの一翼を担うポジションに止まる日 、を把握する。	
第三講・第四講			
概要	思想力とイノベーションとルー	- -ル経営の関係	
事前,事後学習ポイント	ルールを創り出す意識はどのよ	うにして育まれるのか?	
詳細	ルールに囚われないイノベーシ 込む力の本質を理解する。	ィョンを実現するために必要なマインドセット、長期経営姿勢、ビジョンによって他者を巻き	
第五講・第六講	'		
概要	SDGsとESG投資のルール形成	· との関係	
事前,事後学習ポイント	国連が定めたSDGsの社会課題	に対して求められる取り組みは何か?ESG投資とはどのような投資行動なのか?	
詳細		っれる経営への関与の仕方、リターンを高めるために投資先だけでなく社会に対して行うべき R像を把握し、SDGsへの取り組みを梃に戦略的な資金調達の方法を学ぶ。	
第七講・第八講			
概要	イシューエコシステムと社会認	果題解決型経営モデル	
事前,事後学習ポイント	エコシステムとビジネスモデル	レの違いは何か?	
詳細	70/2/13 = 2/11/11/11/11/11/11/11	美のリサイクル率の高さや環境配慮型製品と欧米企業が取り組んでいるイシューエコシステム レ構築に求められる視座および時間軸、デザインのポイントを理解する。	
第九講・第十講			
概要	ケーススタディ(1)		
事前,事後学習ポイント	3.11後の日本のエネルギー政策	きの変化、サイバーセキュリティ政策の今日までの動き	
詳細		ィングから政策形成およびCOPへの展開、日本のインフラ輸出力を強化する国際ルール形成の一セキュリティの国際ルール形成を実例とした社会課題解決型ルール形成戦略を解説し、着想 『例を通して理解する。	
第十一講・第十二講			

概要	ケーススタディ(2)	
事前,事後学習ポイント	自分が関心を有する社会課題の解決と市場創造を促せるルール形成の切り口は何か?	
詳細	各自が関心を有する社会課題を取り上げてルール形成戦略を構想し、自社のビジネスモデルをどのように変革すべきかとい う改革案を策定してプレゼンテーションを実施。それぞれの構想に対してクラス全員で討議する。	
第十三講・第十四講		
概要	ケーススタディ (3)	
事前,事後学習ポイント	自らが構想したルール形成戦略の課題は何であったのか?を深堀する	
詳細	ケーススタディ2で指摘された課題や追加調査をすることが有効な視点を反映した改善案をプレゼンし、全員で討議。	
第十五講・第十六講	第十五講・第十六講	
概要	政産官学それぞれに求められる改革案とアクション	
事前,事後学習ポイント	アメリカおよび欧州の政策立案プロセスと日本の違いは?	
詳細	世界でルール形成を実現するために重要なファンクションとステークホルダーのかかわりを理解し、日本のルール形成力を高めるために、政産官学それぞれがどのような行動改革に取り組む必要があり、自身が所属する組織や立場からはどのような働きかけができるのかを議論する。	

教科書 / Textbook	「世界市場で勝つルールメイキング戦略 技術で勝る日本企業がなぜ負けるのか」編著者 國分俊史、福田峰之、角南篤 朝 日新聞出版
指定図書 / Course Readings	「持続可能な未来へ」ピーターセンゲ 日本経済新聞出版社、「チェンジ・ザ・ワールドの経営論」DIAMONDハーバード・ ビジネス・レビュー March 2012 ダイヤモンド社、「未来を拓く国際標準」 産業技術総合研究所、「WIDE LENS ワイドレ ンズ」 ロン・アドナー 東洋経済新報社
参考文献・参考URL / Reference List	なし

評価方法 / Method of Evaluation	
配分 (合計100%)	授業内での議論参加(40%)、出席(30%)、プレゼンテーション内容(30%)
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A・」(100~90 点):	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が優れており、社会課題に対する理解が深く、ルール形成の切り口を多面的な角度からアプローチし、ビジネスモデルを構想できる。
評価「A」(89~80点):	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が標準以上で、社会課題に対する理解が一定水準以上あり、ルール形成の切り口を多面的な角度からアプローチし、ビジネスモデルを構想できる。
評価「B」(79~70点):	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が一定水準であり、社会課題に対する理解が一定水準以上あり、ルール形成の切り口を構想できる。
評価「C」(69~60点):	授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が一定水準であり、最低限の社会課題に対する理解があり、ルール形成の切り口を理解できている。
評価「F」(59点以下):	出席不良、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分であり、最低限の社会課題に対する理解やルール形成の 切り口を理解できていない。

留意点 / Additional Information	なし
---------------------------------	----

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	国際通商と企業のルール形成		
サブタイトル / Sub Title	地政学インテリジェンスの理解を高めつつゲームチェンジを仕掛ける		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Global Trade Policies and Rule Making Strategy		
教員 / Instructor	羽生田 慶介 E-mail keisuke.hanyuda@owls-cg.com keisukehanyuda@gmail.com		,
科目群 / Course Classification	ルール形成戦略	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	保護主義 vs 自由貿易などの通商動向がビジネスに与える影響を理解し、正しい経営判断を行う手法を身に着ける。同時に、企業で可変なモノサシづくりとしてのルール形成戦略(標準化・規制)についても方法論を学ぶ。特に、近年のグローバルビジネスに欠かすことができないサステナビリティ(環境・人権ほか)に関するルール動向および企業の戦略的な取り組みについて学ぶ。(序盤の講義では戦略思考の基礎となるロジカルシンキング等の戦略コンサルティングスキルも学ぶ)		
到達目標 / Course Goals	DP1: 「知識と理解」の達成のため以下を目指す: 総論としての地政学理解にとどまらず、企業サプライチェーンへの影響や経営として採り得る打ち手(特に環境・人権を中心とするサステナビリティ)を具体的に理解する。ルール形成の具体的テーマに対し、特にビジネスインパクトを定量化して説明できるようになること(そのための経営戦略コンサルタントに準ずる思考スキルを身に着けること)		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

講義内容の整理と指定図書の熟読(1時間程度)

授業の概要 / Course Desc	ription
第一講・第二講	
概要	【第1・2講】(序論)戦略思考の基礎(ロジカルシンキング,ピラミッドストラクチャー等)
事前,事後学習ポイント	事前:課題図書の読了によるロジカルシンキング基礎(ピラミッドストラクチャー/MECE等)の理解
詳細	【第1講】(序論)戦略思考の基礎(ロジカルシンキング、ピラミッドストラクチャー等):ルール形成戦略は「戦略思考」(何をして/何をしないか)が極めて重要となる(「オペレーション改善」とは思考が異なる)。第1講では、戦略コンサルタントの研修方法に倣い、ロジカルシンキングの基礎トレーニングを行う
第三講・第四講	
概要	【第3・4講】ルール形成戦略概論
事前,事後学習ポイント	事前:「世界市場で勝つルールメイキング戦略」(國分俊史、福田峰之、角南 篤 編著, 朝日新聞出版社)読了が望ましい
詳細	【第3・4講】ルール形成戦略概論:なぜいまルール形成戦略なのか/ルール形成戦略とはなにか/先進企業事例ほかに関する講義中心
第五講・第六講	
概要	【第5・6講】戦略思考トライアル(戦略コンサルティングにおけるケースインタビュートライアル)
事前,事後学習ポイント	事前:「考える技術・書く技術」(バーバラ・ミント著)等から基礎的なロジカルシンキングを理解
詳細	【第5・6講】戦略思考トライアル(戦略コンサルティングにおけるケースインタビュートライアル):Issue Identification と Problem SolvingのステップやIssue tree構造の基礎を理解しながら簡易なビジネスケースを討議する
第七講・第八講	
概要	【第7・8講】国際通商の主要論点(米中摩擦、Brexitほか)
事前,事後学習ポイント	事前:米中貿易摩擦ほか近年の国際通商における関心事項の整理
詳細	【第7・8講】国際通商の主要論点(米中摩擦、Brexitほか):近年の国際通商・地政学における主要トピックを解説しその背景と討議する(他教授の授業に比すると「貿易」「産業」「サステナビリティ(環境・人権)」に重点を置く)
第九講・第十講	
概要	【第9・10講】経済連携(FTA/EPA)のビジネス影響
事前,事後学習ポイント	事前:近年の通商動向についての基礎的理解を各自で進める。そのうえで日系企業に与える影響(各自の関心事項で可)について簡易に発表・討議 【課題図書:『稼げるFTA大全』(日経BP社)】
詳細	【第9・10講】経済連携(FTA/EPA)のビジネス影響:TPP・RCEPなどの主要経済連携協定の要点および国際通商ルールが

	経営に与えるインパクトについて定性的・定量的に理解する。また、なぜ企業によって対応の巧拙に差が出る(結果、収益性に差が出る)のかを構造的に理解する
第十一講・第十二講	
概要	【第11・12講】国際通商のホットトピック(気候変動対策,人権)(1)
事前,事後学習ポイント	サステナビリティ関連のルールアジェンダ(環境・人権を想定)のうち関心分野について最新動向および企業への影響を整 理
詳細	【第11・12講】国際通商のホットトピック(気候変動対策,人権)(1):近年の国際通商の主要論点であるサステナビリティに関する主な論点と企業がとるべきアクションおよび今後の姿について理解する
第十三講・第十四講	
概要	【第13・14講】国際通商のホットトピック(気候変動対策,人権)(2)
事前,事後学習ポイント	事前: サステナビリティ関連のルールアジェンダ(環境・人権を想定)のうち関心分野について最新動向および企業への影響を整理
詳細	【第13·14講】国際通商のホットトピック(気候変動対策,人権)(2):近年の国際通商の主要論点であるサステナビリティに関する主な論点と企業がとるべきアクションおよび今後の姿について理解する
第十五講・第十六講	
概要	【第15講】国際通商のホットトピック(デジタル) 【最終プレゼン】全15講を通じた学びのまとめプレゼンを受講生が行う予定
事前,事後学習ポイント	事前:デジタル関連のルールアジェンダのうち関心分野について最新動向および企業への影響を整理
詳細	【第15講】国際通商のホットトピック(デジタル)(2):近年の国際通商の主要論点であるデジタルルール形成に関する 主な論点と企業がとるべきアクションおよび今後の姿について理解する (第15講ではそれまでの講義を踏まえたまとめプレゼンを受講生が行う予定)

教科書 / Textbook	適宜講義資料を配布する
指定図書 / Course Readings	「稼げるFTA大全」(羽生田慶介,日経BP社) 「考える技術・書く技術―問題解決力を伸ばすピラミッド原則」(バーバラミント,ダイヤモンド社) 「世界市場で勝つルールメイキング戦略」(國分俊史、福田峰之、角南 篤 編著, 朝日新聞出版社)
参考文献・参考URL / Reference List	

評価方法 / Method of Evaluation		
配分(合計100%)	授業内での議論参加(40%)、出席(30%)、プレゼンテーション内容(30%)	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	・ルール形成戦略の立案における必要要件としてのロジカルシンキングが身についている ・国際通商インテリジェンスとしての十分なリテラシーが備わっている ・企業として(受講生が企業人の場合)実施するルール形成の方法論を理解し、自身が検討を深める具体的テーマがイメー ジできるようになっている	
評価「A」(89~80点):	・ルール形成戦略の立案における必要要件としてのロジカルシンキングが身についている ・国際通商インテリジェンスとしての十分なリテラシーが備わっている	
評価「B」(79~70点):	・ルール形成戦略の立案における必要要件としてのロジカルシンキングの考え方を理解している ・国際通商インテリジェンスとしての一定のリテラシーが備わっている	
評価「C」(69~60点):	・国際通商インテリジェンスとしての一定のリテラシーが備わっている	
評価「F」(59点以下):	・国際通商インテリジェンスおよびルール形成の基礎的なリテラシー習得に至っていない	

留意点 / Additional	本論の通商論点のみならず、序論の戦略思考/戦略コンサルティングスキルについても鋭意学ぶことが必要。ルール形成は	
Information	(オペレーション改善と異なり)極めて戦略的な思考が求められることを理解すべし	

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期	
科目名 / Course Title	経済安全保障			
サブタイトル / Sub Title	理論・事例研究から見る経済安全保障環境の変化がもたらすリスクと機会			
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Economic security I			
教員 / Instructor	井形 彬 E-mail akira.igata@gmail.com			
科目群 / Course Classification	ルール形成戦略	単位数 / Credits	2単位	

講義目的 / Aim of Course	2022年も日本と日本を取り巻く国際環境が目まぐるしく変化する年となるだろう。米国では、ジョー・バイデン政権への審判が下される中間選挙が行われる。また、軍民融合や千人計画、一帯一路などを通じて戦略的な経済安全保障政策を進めてきた習近平体制の中国は、対外政策を更に強めてきている。米中競争の激化は、オーストラリア、カナダ、インド、英国、EUなどの政策にも影響を与えている。長らく「受け身外交」と揶揄されてきた日本。「インド太平洋」地域がこのような激動の渦中にある中で、日本は国家・企業・個人とそれぞれのレベルにおいて単なる傍観者になるのではなく、どのように世界に対して戦略的・能動的に関与していき、機会と転じていくことができるのか。現在日本が直面する様々な課題を概観し、具体的な事例研究を通じて「エコノミック・ステイトクラフト」と呼ばれる、「経済をテコに地政学的国益を追求する」方策について考え、これら経済安全保障上の変化が自社・自社産業にどのような影響を及ぼすかを理解するための知識を養う。		
到達目標 / Course Goals	世界の主要国は国際社会で生じている現象や経済安全保障上の動きを経営戦略に反映させる視座を有している。経済安全保障という視点から各国の戦略的意図がどのようなリスクとなり、いかに機会へと転じられるかを日々分析しているのだ。また、技術発展により無意識的に「軍事転用可能な」先端技術を開発する民間企業の数も飛躍的に増加している。本講義では、このような安全保障と経済の結節点にある事象へのDP1:「知識と理解」を深めDP3:「関心と意欲」を培う。さらに、このような時代認識と世界認識を正確に捉え、見えにくい経済安全保障動向を捉える情報収集能力と分析能力を高めるDP2:「思考と判断」を培い、ルール化の切り口を研究し、能動的に経営戦略に活かしていくDP5:「志」を習得する。春学期は国際政治、経済安全保障、Economic Statecraftの基礎的理解と、事例研究として特定問題領域に焦点を当てる。		
授業形態 / Form of Class	講義、双方向、グループディスカッション	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

事前学習:安全保障と経済が重なる分野のニュースをフォローし、参考文献を熟読する(2時

事後学習:講義配布資料と引用文献の熟読(2時間程度)

授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	経済安全保障とは何か	
事前,事後学習ポイント	国際政治における「パワー」、分析レベル、ウェストファリア体制、トゥキディデスの罠	
詳細	経済安全保障を理解する上で必要となる主要な理論・分析枠組・論者・キーワードを解説する。また、国際政治学・国際関係論・安全保障研究といった既存の学問分野で、安全保障政策と経済政策のリンケージがどのように位置づけられてきたかを概観する。	
第三講・第四講		
概要	国際政治経済の進展	
事前,事後学習ポイント	重商主義、自由貿易、ブロック経済、ブレトンウッズ体制、パックス・アメリカーナ	
詳細	15世紀末から現在に至る国際政治経済の歴史を概観する。また、「パックス・アメリカーナ後」の国際政治経済体制の行方がどこに行くのか、トランプ政権のアメリカ・ファースト政策やイギリスのプレグジット等は「保護主義」への回帰なのかを検討する。	
第五講・第六講		
概要	ユーラシア大陸を巡る地政学	
事前,事後学習ポイント	地政学、ネットワーク、一帯一路、EAEU、アクト・イースト、「ビジョン2023」	
詳細	ユーラシア大陸における秩序発展の歴史を概観する。その上で、現在中国・ロシア・インド・オーストラリア・イラン・トルコ・EU等各国がどのような思惑でユーラシア大陸における戦略構想を行っているかを検討する。	
第七講・第八講		
概要	日本の安全保障政策と米国	
事前,事後学習ポイント	湾岸戦争、「継続」か「変化」か、日米同盟、「トランプ現象」	
詳細	第二次世界大戦後、特に冷戦後日本の安全保障政策の歴史を概観する。また日本にとり最重要国家である米国の歴史と政治 制度を理解することで、日米関係についての理解を深める。	

制度を理解することで、日米関係についての理解を深める。

第九講・第十講		
概要	事例研究1:人道支援・災害救援活動	
事前,事後学習ポイント	「非伝統的」安全保障、軍民関係、HA/DR	
詳細	冷戦終結後、従来軍事団体の役割とは見做されていなかった「非伝統的」安全保障分野における活動が増加している。この一部をなす「人道支援・災害救援(HA/DR)活動」の歴史を概観し、各国のHA/DR活動の現状を把握する。また、軍と非政府組織のとるべき役割、日本のとるべき戦略、企業レベルにおける関与の是非と方法について議論する。	
第十一講・第十二講		
概要	事例研究 2 : 宇宙空間	
事前,事後学習ポイント	「第二の宇宙時代」、一帯一路と人工衛星網、デュアルユース、ニュースペース	
詳細	科学技術の発展により、「グローバル・コモンズ(国際公共空間)」の中で今まで問題となることが少なかった「サイバー空間」や「宇宙空間」が注目を浴びるようになってきた。本講義では、アジア太平洋諸国の宇宙政策を概観し、日本がとるべき戦略、企業レベルにおける関与の是非と方法について議論する。	
第十三講・第十四講		
概要	事例研究3:サイバー・セキュリティー	
事前,事後学習ポイント	サイバー・セキュリティー、技術移転	
詳細	本講義では「グローバル・コモンズ」のサイバー空間についてとりあげる。アジア太平洋諸国のサイバー・セキュリティー 政策を概観し、新たに浮上してきた経済安全保障上の課題をとりあげ、日本がとるべき戦略、企業レベルにおける関与の是 非と方法について議論する。	
第十五講・第十六講		
概要	経済安全保障を梃にした経営戦略の立案アプローチ	
事前,事後学習ポイント	企業レベルでの能動的関与の在り方とは	
詳細	本講義を踏まえて、企業レベルで必要となる施策は何か、能動的に関与すべき分野はどこか、経済安全保障上の動きで経営 戦略に反映すべきは何か、グループディスカッションする。	

教科書 / Textbook	適宜講義資料を紹介・配布する。
指定図書 / Course Readings	適宜講義資料を紹介・配布する。
参考文献・参考URL / Reference List	適宜講義資料を紹介・配布する。

評価方法 / Method of Evaluation		
配分 (合計100%)	出席(30%)、授業内での議論参加(40%)、レポート提出(30%)	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	授業内での議論に毎回参加をし、レポート内容が大変優れている。 経済安全保障に関するDP1:「知識と理解」とDP3:「関心と意欲」が大変優れている。また、このような時代認識と世界認識 を正確に捉え、見えにくい経済安全保障動向を捉える情報収集能力と分析能力を高めるDP2:「思考と判断」や、ルール化の 切り口を研究し、能動的に経営戦略に活かしていくDP5:「志」が大変優れている。	
評価「A」(89~80点):	授業内での議論へと積極的に関与し、レポート内容が優れている。 経済安全保障に関するDP1:「知識と理解」とDP3:「関心と意欲」が優れている。また、このような時代認識と世界認識を正確に捉え、見えにくい経済安全保障動向を捉える情報収集能力と分析能力を高めるDP2:「思考と判断」や、ルール化の切り口を研究し、能動的に経営戦略に活かしていくDP5:「志」が優れている。	
評価「B」(79~70点):	授業内での議論に関与し、レポート内容が良い。 経済安全保障に関するDP1:「知識と理解」とDP3:「関心と意欲」が良い。また、このような時代認識と世界認識を正確に捉え、見えにくい経済安全保障動向を捉える情報収集能力と分析能力を高めるDP2:「思考と判断」や、ルール化の切り口を研究し、能動的に経営戦略に活かしていくDP5:「志」が良い。	
評価「C」(69~60点):	授業内での議論への関与が不十分、レポート内容が普通。 経済安全保障に関するDP1:「知識と理解」とDP3:「関心と意欲」が見られる。また、このような時代認識と世界認識を正確に捉え、見えにくい経済安全保障動向を捉える情報収集能力と分析能力を高めるDP2:「思考と判断」や、ルール化の切り口を研究し、能動的に経営戦略に活かしていくDP5:「志」が見られる。	
評価「F」(59点以下):	出席不良、授業内での議論貢献度が極めて低く、レポートが不十分。 経済安全保障に関するDP1:「知識と理解」とDP3:「関心と意欲」が見られない。また、このような時代認識と世界認識を正確に捉え、見えにくい経済安全保障動向を捉える情報収集能力と分析能力を高めるDP2:「思考と判断」や、ルール化の切り口を研究し、能動的に経営戦略に活かしていくDP5:「志」が見られない。	

留意点 / Additional	
Information	

・「経済安全保障」は日本で体系化された書籍化無いことから、各講義に関係すると思われる書籍やレポートを事前に能動 的に読み込んで議論に参加すること。 ・本講義では各回冒頭に時事問題を取り上げてディスカッションを行う。よって、日頃より日本のメディアに加え、海外の主要メディア(NYT, Washington Post, BBC, Guardian, Le Monde等)に目を通しておくことを推奨する。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	経済安全保障Ⅱ		
サブタイトル / Sub Title	地域研究から見る経済安全保障環境の変化がもたらすリスクと機会		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Economic security II		
教員 / Instructor	井形 彬	E-mail	akira.igata@gmail.com
科目群 / Course Classification	ルール形成戦略	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	2022年も日本と日本を取り巻く国際環境が目まぐるしく変化する年となるだろう。米国では、ジョー・バイデン政権への審判が下される中間選挙が行われる。また、軍民融合や千人計画、一帯一路などを通じて戦略的な経済安全保障政策を進めてきた習近平体制の中国は、対外政策を更に強めてきている。米中競争の激化は、オーストラリア、カナダ、インド、英国、EUなどの政策にも影響を与えている。長らく「受け身外交」と揶揄されてきた日本。「インド太平洋」地域がこのような激動の渦中にある中で、日本は国家・企業・個人とそれぞれのレベルにおいて単なる傍観者になるのではなく、どのように世界に対して戦略的・能動的に関与していき、機会と転じていくことができるのか。現在日本が直面する様々な課題を概観し、具体的な事例研究を通じて「エコノミック・ステイトクラフト」と呼ばれる、「経済をテコに地政学的国益を追求する」方策について考え、これら経済安全保障上の変化が自社・自社産業にどのような影響を及ぼすかを理解するための知識を養う。		
到達目標 / Course Goals	世界の主要国は国際社会で生じている現象や経済安全保障上の動きを経営戦略に反映させる視座を有している。経済安全保障という視点から各国の戦略的意図がどのようなリスクとなり、いかに機会へと転じられるかを日々分析しているのだ。また、技術発展により無意識的に「軍事転用可能な」先端技術を開発する民間企業の数も飛躍的に増加している。本講義では、このような安全保障と経済の結節点にある事象へのDP1:「知識と理解」を深めDP3:「関心と意欲」を培う。さらに、このような時代認識と世界認識を正確に捉え、見えにくい経済安全保障動向を捉える情報収集能力と分析能力を高めるDP2:「思考と判断」を培い、ルール化の切り口を研究し、能動的に経営戦略に活かしていくDP5:「志」を習得する。秋学期は地域研究として、日本にとって重要な国・地域に焦点を当てる。		
授業形態 / Form of Class	講義、双方向、グループディスカッション	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

事前学習:安全保障と経済が重なる分野のニュースをフォローし、参考文献を熟読する(2時間程度)

]程度)

事後学習:講義配布資料と引用文献の熟読(2時間程度)

授業の概要 / Course Descri	ption	
第一講・第二講		
概要	国際関係理論から見る国家間関係	
事前,事後学習ポイント	社会科学の方法論、独立・従属変数、攻撃防御理論、安全保障のジレンマ	
詳細	国家間関係を説明しようと試みる欧米の国際関係理論を概観する。また、その理解の手助けとなる、社会科学の基礎的な方法論や因果関係の捉え方を理解する。	
第三講・第四講		
概要	「インド太平洋」を巡る大国間政治	
事前,事後学習ポイント	インド太平洋戦略、FOIP、インフラ投資、日米豪印・ASEAN・欧州の関わり方	
詳細	主要国で異なる解釈がされている「インド太平洋」概念について整理した上で、各国の政策を概観する。また、米国の「インド太平洋戦略」と中国の「一帯一路」の関係性について議論する。さらに、他国が当該地域でとる経済安全保障政策を概観する。	
第五講・第六講		
概要	地域研究1:中国	
事前,事後学習ポイント	一帯一路、米中戦略競争、相互依存の「武器化」、部分的デカップリング	
詳細	中国の国内政治制度・政策決定過程の変遷を概観し、習近平政権の特色を抑える。また、一帯一路をはじめとする中国の各国に対するエコノミック・ステイトクラフトについて学ぶ。また、米中戦略競争の行方について考え、日本政府・企業は中国とどのように関与していくべきかを論じる。	
第七講・第八講		
概要	地域研究2:ロシア	
事前,事後学習ポイント	プーチン体制、日露関係、米露関係、フェイクニュース	
詳細	ロシアの経済安全保障政策に関与する主要なアクターと国内制度、インド太平洋地域における国家・非国家主体の活動、および、日露関係の歴史を理解する。最後に、主要国がどのような対口政策をとっているかを理解した上で、今後日本がどの	

	ようにロシアに関与して行くべきかのディスカッションを行う。		
概要	地域研究3: 東南アジア		
事前,事後学習ポイント	ASEANの中心性、雁行型経済発展、グローバルサプライチェーン、コネクティビティ		
詳細	東南アジア諸国やASEANの基本的知識を理解する。そのうえで、人件費が上がっており、米国との競争関係も続く中国に代わる工業生産地としての東南アジア地域のポテンシャルについて議論する。また、日米豪の「ブルー・ドット・ネットワーク」をはじめとする投資協力機会に民間企業が乗じる方策について考える。		
第十一講・第十二講			
概要	地域研究4:中東		
事前,事後学習ポイント	イスラーム、オイルショック、アラブの春、イラン核合意、越境的脅威		
詳細	中東の地理的特徴・民族・宗教等を概観する。また、中東の不安定要因を伝統的なものから新たに浮上してきたものを解説する。さらに、中東諸国のエネルギー政策を詳細に検討する。最後に、米中等主要国がどのような対中東政策をとっているかを理解した上で、今後日本がどのように中東に関与して行くべきかのディスカッションを行う。		
第十三講・第十四講			
概要	地域研究 5 :欧州		
事前,事後学習ポイント	欧州統合の歴史、欧州軍事産業基盤、EUとブレグジット、日欧関係		
詳細	欧州統合の歴史、特に、当初存在していた明確な「外交・安全保障問題」と「経済問題」の区別ができなくなっていった過程を検討する。また、欧州における軍事産業を詳細に検討する。最後に、米中等主要国がどのような対欧州政策をとっているかを理解した上で、今後日本がどのように欧州に関与して行くべきかディスカッションする。		
第十五講・第十六講			
概要	総括		
事前,事後学習ポイント	企業レベルでの能動的関与の在り方とは		
詳細	春学期に焦点を当てた個別問題領域の分析視覚と、秋学期に焦点を当てた特定地域を詳細に見る分析視覚の双方を踏まえて グループディスカッションする。		
教科書 / Textbook	適宜講義資料を紹介・配布する。		
指定図書 / Course Readings	適宜講義資料を紹介・配布する。		
参考文献・参考URL / Reference List	適宜講義資料を紹介・配布する。		
評価方法 / Method of Evaluat	ion		
配分(合計100%)	出席 (30%) 、授業内での議論参加 (40%) 、レポート (30%)		
評価基準 / Evaluation Criteria			
評価「A・」(100~90 点):	授業内での議論に毎回参加をし、レポート内容が大変優れている。 経済安全保障に関するDP1:「知識と理解」とDP3:「関心と意欲」が大変優れている。また、このような時代認識と世界認識 を正確に捉え、見えにくい経済安全保障動向を捉える情報収集能力と分析能力を高めるDP2:「思考と判断」や、ルール化の 切り口を研究し、能動的に経営戦略に活かしていくDP5:「志」が大変優れている。		
評価「A」(89~80点):	授業内での議論へと積極的に関与し、レポート内容が優れている。 経済安全保障に関するDP1:「知識と理解」とDP3:「関心と意欲」が優れている。また、このような時代認識と世界認識を正確に捉え、見えにくい経済安全保障動向を捉える情報収集能力と分析能力を高めるDP2:「思考と判断」や、ルール化の切り口を研究し、能動的に経営戦略に活かしていくDP5:「志」が優れている。		
評価「B」(79~70点):	授業内での議論に関与し、レポート内容が良い。 経済安全保障に関するDP1:「知識と理解」とDP3:「関心と意欲」が良い。また、このような時代認識と世界認識を正確に扱え、見えにくい経済安全保障動向を捉える情報収集能力と分析能力を高めるDP2:「思考と判断」や、ルール化の切り口を研究し、能動的に経営戦略に活かしていくDP5:「志」が良い。		
評価「C」(69~60点):	授業内での議論への関与が不十分、レポート内容が普通。 経済安全保障に関するDP1:「知識と理解」とDP3:「関心と意欲」が見られる。また、このような時代認識と世界認識を正確に捉え、見えにくい経済安全保障動向を捉える情報収集能力と分析能力を高めるDP2:「思考と判断」や、ルール化の切り口を研究し、能動的に経営戦略に活かしていくDP5:「志」が見られる。		
評価「F」(59点以下):	出席不良、授業内での議論貢献度が極めて低く、レポートが不十分。 経済安全保障に関するDP1:「知識と理解」とDP3:「関心と意欲」が見られない。また、このような時代認識と世界認識を正確に捉え、見えにくい経済安全保障動向を捉える情報収集能力と分析能力を高めるDP2:「思考と判断」や、ルール化の切り口を研究し、能動的に経営戦略に活かしていくDP5:「志」が見られない。		

留意点 / Additional Information

- ・春学期同様、適宜講義資料を紹介・配布する。引き続き、各講義に関係すると思われる書籍・レポート・ニュースを事前 に能動的に読み込んで議論に参加すること。
- ・地域研究に関しては、当該地域における新進気鋭の若手研究者をゲストレクチャーとして招聘する。よって、外部講師とのスケジュール調整が必要となるため、第3-7講の講義内容は多少前後・変更する可能性があることをご了承ください。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	議院内閣制度における公的ルール形成プロセス論		
サブタイトル / Sub Title	政治内部の視点に基づくプロセス論は外部視点とここまで異なる		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	PublicRule-MakingProcessTheoryinParliamentaryCabinetSystem		
教員 / Instructor	福田 峰之	E-mail	fukuda-m@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	ルール形成戦略	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	議院内閣制度の下、法律が出来上がるプロセスは、国会の審議だけを見ても理解することは出来ない。政党内議論、与党間協議、与野党間協議、こうした国会での議論(本会議・委員会等)以外の過程を理解すると共に、政党がルール形成の為にいかに必要な情報を入手し、ルール改廃を望む組織と繋がっているのかを学ぶ。		
到達目標 / Course Goals	「技術で勝ってルールで負ける」今後の日本経済は国も企業もルールを作る側に回ることによって持続的な発展を遂げる。 その為には、ルール形成人材が必要不可欠であり、課題は各種あれどもルール形成の手法はスタンダードなものである。講 義によりDP4:「表現と技能」を身につけ、得た知識の下で課題を見出し、ルール形成のプロセスを作り上げ、社会変革を実 現する手法を考案し、具体的なケースにまとめ上げ、人に伝えていく力を取得する。		
授業形態 / Form of Class	講義・双方向・プレゼンテーション・グルー プディスカッション・ディベート	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体	,
的な学習内容	(復習)課題レポートの作成90分

H3 0. 3 E1 3E			
授業の概要 / Course Descr	iption		
第一講・第二講			
概要	議論の場としての国会と政党		
事前,事後学習ポイント	国会、内閣・衆議院・参議院各法制局の概要について調べておくこと		
詳細	国会と政党の役割分担を理解した上で、国会の機能、議員提出法案と内閣提出法案の提出手法の違いを理解すると共に法案 作成と内閣・衆参法制局との関係を学ぶ。		
第三講・第四講			
概要	政党内議論		
事前,事後学習ポイント	主たる政党の概要について調べておくこと		
詳細	政党本部と地方支部の関係を理解した上で、政務調査会の機能、超党派を含む議員連盟との役割分担、インナーと呼ばれる 非役職者の権限について学ぶ。		
第五講・第六講			
概要	与党間協議・与野党間協議と閣議決定		
事前,事後学習ポイント	前回の衆議院選挙における主たる政党の公約の概要を調べておくこと		
詳細	選挙公約と具体的な政策への反映、役職レベル別政党間協議の機能と国会対策委員会の役割について学ぶ。		
第七講・第八講			
概要	二元代表制度における地方議会の公的ルール形成		
事前,事後学習ポイント	国の議院内閣制度と地方自治体の首長・議会という二元代表制度の違い調べておくこと。		
詳細	政党と議会内会派との違いを理解すると共に地方議会における与野党区分や議員提出条例の事情、首長(知事・市長・町村 長)と職員の関係について学ぶ。		
第九講・第十講			
概要	EBPMデータに基づくルール形成		
事前,事後学習ポイント	民主党政権下の行政刷新会議・行政レビューシートの概要を調べておくこと		
詳細	エピソードとエビデンスの政治力、行政レビューシートを理解した上で、如何にしてデータに基づく政策・ルール形成を確立するかを学ぶ。		
第十一講・第十二講			
概要	事例研究1 官民データ活用推進基本法・資金決済法(暗号資産部分)		
事前,事後学習ポイント	官民データ活用推進基本法・資金決済法(暗号資産部分)の概要を調べておくこと		

詳細	個人情報保護法改正とその限界、官民データ活用推進基本法の制定。政党が定めるガイドラインによる価値記録の振興と資金決済法改正に至るプロセス及び国際ルール化を学ぶ。	
第十三講・第十四講	講・第十四講	
概要	事例研究2 マイナンバー制度・細胞農業	
事前,事後学習ポイント	マイナンバー制度の仕組みと海外事例、細胞農業の概要、海外・国内の細胞農業を取り巻く環境を調べておくこと	
詳細	マイナンバー制度がどの様なプロセスで策定されたのか、海外制度との整合性をいかに図ったのかを学ぶ。多摩大学ルール形成戦略研究所が、細胞農業のルールづくりにいかに関わりを持ち、主導しているのかを学ぶ。また参画企業・団体等がルールづくりにどのように関知し、そこからビジネスを展開していく方法論を学ぶ。	
第十五講・第十六講		
概要	公的ルール形成プロセス総論	
事前,事後学習ポイント	所属組織の課題解決の為につくりたいルールを定め、そのプロセス、理由を明確にしてくること	
詳細	各種ルール形成プロセスを理解した上で、ルールの階層と決定者の選択、エビデンスの用意等、日本企業のルール形成能力 向上を意識した上でプレゼンテーション&ディスカッションを行う。	

教科書 / Textbook	講義資料は適宜用意する。
指定図書 / Course Readings	なし。
参考文献・参考URL / Reference List	「世界市場で勝つルールメイキング戦略」(朝日新聞出版) 福田峰之ブログ https://ameblo.jp/fukudamineyuki

評価方法 / Method of Evaluation	
配分(合計100%)	出席:プレゼンテーション:ディスカッション:レポート = 20:20:25:35
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A・」(100~90 点):	ルール形成プロセスを理解し、課題・階層・場・手法の設定を確立出来る。
評価「A」(89~80点):	ルール形成プロセスを理解し、課題・階層・場の設定が出来る。
評価「B」(79~70点):	ルール形成プロセスを理解し、課題・階層の設定出来る。
評価「C」(69~60点):	ルール形成プロセスを理解し、課題の設定が出来る。
評価「F」(59点以下):	ルール形成プロセスを理解していない。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	ルール形成のためのメディア戦略		
サブタイトル / Sub Title	メディアから見た国家・社会制度の形成過程と	: 今後の課題	
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Media strategy for rule-making strategyprofessional		
教員 / Instructor	岡田 宏記 E-mail okada12031@tbz.t-com.ne.jp		
科目群 / Course Classification	ルール形成戦略	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	2016年の米大統領選挙や英国のEU離脱、デジタル権威主義の台頭等では、SNSが媒介した新たな民意の登場や情報の操作・統制といった問題が顕在化、既存の政治手法とメディアの関係が大きく変質し始めている。本講では、近代の「国民国家」が創出されたプロセスと様々なメディアの誕生に着目、①思想、②シンボル、③儀礼空間/パフォーマンス、④メディア、という4つのレイヤーを経て、メディアがいかに機能しているかを学ぶ。そして、この視座をベースに古今の体制・制度を検証、今後、新しいメディアが関与する政治・社会・国際関係の課題を探る。	
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーでのDP2:「思考と判断」を達成するために、具体的な事例を基に、メディアの機能の本質を理解し、新しい時代に即応したメディア・リテラシーを向上させる。同時に、「知の再武装」を図るために、情報収集能力と分析能力を高め、今後の社会課題解決に向けてメディアが為すべきことを構想し、その発信方法についても習得する。	
授業形態 / Form of Class	講義、プレゼンテーション、ディスカッショ 学外学習 / Off-Campus 上earning	

予習;関連図書・資料等の熟読(2時間程度)

発表の準備;プレゼンテーションの資料作成(4時間程度)

授業の概要 / Course Desci	iption	
第一講・第二講		
概要	オリエンテーション プレゼンテーションの進め方について	
事前,事後学習ポイント	時事的な問題について様々なメディアを熟読、視聴すること	
詳細	流動化する現下の国際情勢・国内政治とメディアの関係を包括的な視点から分析。特に、SNSの機能が未曾有のインパクをもって、政治や国際関係、社会のあり方に作用している現状を検証し、旧来のメディアの意義・役割・課題についてもめて学ぶ。 宿題;ある問題、テーマについて各メディアはどのように報じたか調べること。第8講までに、その調査結果と自分の意見順次発表し、全員で議論する。	
第三講・第四講		
概要	世論形成のツールとしてのメディア ①天皇制とメディア	
事前,事後学習ポイント	幕末から明治維新にかけての日本の政治と世界情勢 天皇制と今後のメディアの関係	
詳細	天皇制が誕生したのは、明治維新以降であることは余り知られていない。そして、日本国の「象徴」と憲法にうたわれる存在は、①思想、②シンボル、③儀礼空間/パフォーマンス、④メディア、という4つのレイヤーを経て、国民に浸透した。この稀有な統治形態と形成過程を検証することで、制度の成り立ちとメディアの関係の典型例を学び、今後の制度作りの課題を検討する。 第1講で出された宿題のプレゼンテーションとディスカッション①	
第五講・第六講		
概要	世論形成のツールとしてのメディア ②ヒトラーの時代から学ぶ	
事前,事後学習ポイント	20世紀前半の世界情勢、特に欧州の動向と今日の類似点	
詳細	世界各地で民族問題が軋轢を生み、排外主義も台頭している。そして、今、この稀代の煽動政治家への言及も増している。 不安定性が高まる世界情勢を読み解く意味で、ヒトラーの時代を再検証する。大衆を政治に統合するために、五輪のページェント化等で、新しいメディア戦略が開発され、今日まで継承されている。その時代の情況と残された課題を探ることで、現代への教訓を得る。 第1講で出された宿題のプレゼンテーションとディスカッション②	
第七講・第八講	見しまでは、一般などは、大きなない。 1985年 1987年 19	
概要	世論形成のツールとしてのメディア ③トランプとメディア戦略	
事前,事後学習ポイント	米国を巡る内外の政治情勢 「兵器化」するSNSの問題	
詳細	戦後、国際的な秩序、ルールつくりを主導してきた米国のプレゼンスが低下する中、2016年の選挙で誕生したトランプ大統領。その選挙手法は史上類を見ないもので、SNSを「兵器」として駆使。マイクロターゲティングを援用し、偽ニュースも含め、有権者にカスタマイズした情報を発信、世論誘導するなど、問題点も露わになった。現在トランプ氏がとったメディ	

ア戦略はどう継承され、政治や社会の在り様に影響を与えているのか?米国政治の現況から、今後の政治とメディアのあり

	方を検証する。 第1講で出された宿題のプレゼンテーションとディスカッション③		
第九講・第十講			
概要	世論形成のツールとしてのメディア ④新聞と近代制度		
事前,事後学習ポイント	19世紀以降のイギリスを中心とした政治過程と新聞の役割		
詳細	現在、自由・民主主義・人権といった普遍的価値が揺らいでいる。これら近代社会を支えたルールはかつて英国で新聞が世論を形成し、権力との壮絶な闘いを経て、獲得された。今なお、強い影響力を保持するこのメディアが歴史的に果たした功罪を学び、メディア本来の使命を再確認すると共に、ニューメディアが台頭する中、今後の課題解決についても考察する。第1講で出された宿題のプレゼンテーションとディスカッション④		
第十一講・第十二講			
概要	世論形成のツールとしてのメディア ⑤ラジオ・テレビと国家戦略		
事前,事後学習ポイント	20世紀の欧米・日本の歩みとメディアの興亡 その功罪と今後の課題		
詳細	SNSの浸透で、既存のメディアの退潮が指摘されるが、ラジオ・テレビは国民国家の政治過程で、国民を統合し、国家目標を完遂するために大きな役割を担った。反面、二度の大戦を経て、メディアが本来為すべき役割を果しえなかった歴史的教訓も踏まえ、メディアの今後のあり方について洞察する。 第1講で出された宿願のプレゼンテーションとディスカッション⑤		
概要	世論形成のツールとしてのメディア ⑥外交とメディア		
事前,事後学習ポイント	 戦後の米国を軸とした日本外交とメディアの歩み ロシアのメディア戦略		
詳細	前半は、戦後の同盟国である日米の外交関係をメディア史的な視点から俯瞰する。敗戦を経て、米国は日本をどのように国際関係に組み込んでいったか、節目の国家イベントとメディアを利用したPRの手法を通じて、外交におけるメディアの機能を学ぶ。後半、ロシアのメディア戦略を、クリミア侵攻で展開された「ハイブリッド戦」を中心に検証する。 第1講で出された宿題のプレゼンテーションとディスカッション⑥		
第十五講・第十六講			
概要	世論形成のツールとしてのメディア ⑦防衛とメディア		
事前,事後学習ポイント	今日の防衛力整備とメディアのあり方 中国のメディア戦略		
詳細	近隣の軍事的脅威が増す中、岐路に立つ日本の安全保障。米軍プレゼンスへの懸念、自衛隊のあり方等、数多の課題についてメディアとの関連から考察する。特に、中国を、その統治モデルたる「デジタル権威主義」の視点から分析。報道の自由はなく、国民をICTで統制しよういう試みは世界にどんな影響を及ぼすのか検証する。第1講で出された宿題のプレゼンテーションとディスカッション⑦		
教科書 / Textbook	適宜、講義資料を配布する。		
指定図書 / Course Readings	「現代メディア史」 佐藤卓巳著 岩波書店 「政治を動かすメディア」 佐々木毅・芹川洋一著 東京大学出版会		
参考文献・参考URL / Reference List	「近代ジャーナリズムの誕生」 村上直之著 岩波書店		
評価方法 / Method of Evaluat	ion		
配分(合計100%)	プレゼンテーション(40%)、出席(30%)、授業での議論参加(30%)		
評価基準 / Evaluation Criteria			

評価方法 / Method of Evaluation		
配分(合計100%) プレゼンテーション(40%)、出席(30%)、授業での議論参加(30%)		
評価基準 / Evaluation Criteri	a	
評価「A・」(100~90 点):	メディアの機能・戦略をよく理解し、ルール形成のための活用法を十分に構想できる。	
評価「A」(89~80点):	メディアの機能をよく理解し、ルール形成のための活用法を構想できる。	
評価「B」(79~70点):	メディアの機能を理解し、ルール形成のための良いプレゼンができる。	
評価「C」(69~60点):	メディアの機能を理解し、ルール形成のためのプレゼンができる。	
評価「F」(59点以下):	出席不良で、プレゼン・議論内容が不十分。	
留意点 / Additional Information	日頃から様々なメディアに多く接して、自らの問題意識を高めること。	

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	インターゼミ(寺島実郎学長ゼミ) 2022春		
サブタイトル / Sub Title	-寺島実郎学長ゼミ(社会工学研究会)-		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Inter Seminars		
教員 / Instructor	金 美徳 E-mail kim-m@tama.ac.jp		
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	インターゼミ(寺島実郎学長ゼミ)の目的は、学部生・院生・ゼミOB/OGなど約40名と寺島学長をはじめとする本学2学部と大学院の教員15名が、現代社会の抱える課題について、塾形式で切磋琢磨しながら多様な要素や手法を組み合わせた柔らかい発想で、体系的・総合的な答を志向する総合設計力を身に付けることである。 院生・学生自身による課題の発掘・発見から仮説の提示、そして多様な要素の組み合わせによる問題解決へ至るプロセスの中で、寺島学長以下、学内の教員や社会で活躍する学外の専門家による付加価値を高め、創造的問題解決策を志向する。 14年目を迎えるインターゼミは、13年間で59論文を完成させた。 テーマは、希望する分野・グループから選ぶこと。①アジアダイナミズム、②多摩学、③サービス・エンターテインメント、④DX。		
到達目標 / Course Goals	①産業社会の持つ課題を発見し、解決へのアプローチを目指す論文を作成する。 ②選択したテーマについて、文献研究とフィールドワーク、考察と執筆を行い、1年間で論文を完成させる。 ③この教育目標を実現することにより、ディプロマポリシー(学位授与方針)「深い時代認識と世界認識に基づいて、高い志を育み、新しい時代での事業機会、社会構想機会を見極める実践的教養を習得して、イノベーションを提起できる」の実質化を図る。 この到達目標を達成することによりDP2:「思考と判断」と DP5:「志」を身に付ける。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループワーク、ディスカッション、 プレゼンテーション 学外学習 / Off-Campus Learning 有		有

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体	各テーマに関する文献や教科書・指定図書などを通読する。(1時間)
的な学習内容	で Y に因りる人間で数付着 自己に囚責なこと処式する。(IFFIE)

四位子自り谷	
授業の概要 / Course Desc	ription
第一講・第二講	
概要	オリエンテーション
事前,事後学習ポイント	学長講話と自己紹介。 インターゼミは、どのようなゼミで、どのような課題解決や研究活動をするのかを知る。
詳細	①アジアダイナミズム、②多摩学、③サービス・エンターテインメント、④DXのこれまでの論文を通読する。
第三講・第四講	
概要	グループの決定と詳細テーマの検討。
事前,事後学習ポイント	今年度のテーマを決める。
詳細	①アジアダイナミズム、②多摩学、③サービス・エンターテインメント、④DXの各班のこれまでの論文を踏まえて、テーマについて各グループ毎にディスカッションする。
第五講・第六講	
概要	学長講話とグループワーク。
事前,事後学習ポイント	文献調査を行う。 寺島学長の講話内容を深く理解する。
詳細	各テーマに沿って文献一覧を作成すると共に文献を通読する。
第七講・第八講	
概要	研究計画の発表と学長のアドバイス。
事前,事後学習ポイント	研究計画を完成させる。
詳細	各分野・テーマ毎にグループワークとディスカッションを行い、研究計画を立てる。 研究計画の内容は、先行研究(文献一覧)、問題意識、フィールドワークやインタビュー、年間スケジュールなど。
第九講・第十講	

学長講話と各グループの担当教員と学生からの進捗報告。

概要

事前,事後学習ポイント	学長のアドバイスに従って研究の方向性を調整する。		
詳細	各分野・テーマ毎にグループワークとディスカッションを行い、学長の論考なども参照し、研究計画を練り直す。		
第十一講・第十二講			
概要	グループワークおよびフィールドワーク。		
事前,事後学習ポイント	フィールドワークの具体的な計画を立てる。		
詳細	各分野・テーマ毎にグループワークとディスカッションを行い、現地調査、研究者や関係者のインタビュー、アンケート調査、シンポジウムやセミナーへの参加などフィールドワークの内容を決定し、実施する。		
第十三講・第十四講			
概要	学長講話と学長のグループ別指導。		
事前,事後学習ポイント	院生と教員が共に文献研究とフィールドワークを積み重ねる。		
詳細	文献研究により問題意識を高く持つほど、フィールドワークでのギャップが大きくなり、このギャップの大きさが気付きとなる。 この気付きが、問題意識を研ぎ澄ませ、視点を先鋭化させる。また、論文の独創性や質を大きく左右する。		
第十五講・第十六講			
概要	中間発表。		
事前,事後学習ポイント	中間発表の準備をする。		
詳細	8月に箱根合宿(1泊2日)を行う。		
教科書 / Textbook	①『人間と宗教あるいは日本人の心の基軸』(寺島実郎、岩波書店、2021年) ②『日本再生の基軸――平成の晩鐘と令和の本質的課題』(寺島実郎、岩波書店、2020年) ③『ジェロントロジー宣言~「知の再武装」で100歳人生を生き抜く~』(NHK出版新書、2018年) ④『ユニオンジャックの矢-大英帝国のネットワーク戦略-』(寺島実郎、NHK出版、2017年) ⑤『中東・エネルギー・地政学』(寺島実郎、東洋経済新報社、2016年) ⑥『大中華圏-ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る-』(寺島実郎、NHK出版、2012年)		
指定図書 / Course Readings	①『世界を知る力』(寺島実郎、PHP新書、2010年) ②『世界を知る力 日本創生編』(寺島実郎、PHP新書、2011年) ③『何のために働くのか-自分を創る生き方-』(寺島実郎、文春新書、2013年) ④『脳力のレッスン -正気の時代のために-』(寺島実郎、岩波書店、2004年) ⑤『脳力のレッスン -脱9.11への視座-』(寺島実郎、岩波書店、2007年) ⑥『脳力のレッスン -問いかけとしての戦後日本と日米同盟-』(寺島実郎、岩波書店、2010年) ⑦『脳力のレッスン -問いかけとしての戦後日本と日米同盟-』(寺島実郎、岩波書店、2010年)		
*****	① 『シルバー・デモクラシー-戦後世代の覚悟と責任-』(寺島実郎、岩波新書、2017年) ② 『若き日本の肖像-1900年、欧州への旅-』(寺島実郎、新瀬文庫、2014年)		

評価方法 / Method of Evaluation			
配分 (合計100%)	グループワーク貢献度(50%)、中間および最終発表(50%)の割合で評価。		
評価基準 / Evaluation Criteria			
評価「A・」(100~90 点):	議論参画度と最終発表(相互評価)の合算点が、90点以上の場合。		
評価「A」(89~80点):	議論参画度と最終発表(相互評価)の合算点が、80~89点の場合。		
評価「B」(79~70点):	議論参画度と最終発表(相互評価)の合算点が、70~79点の場合。		
評価「C」(69~60点):	議論参画度と最終発表(相互評価)の合算点が、60~69点の場合。		
評価「F」(59点以下):	議論参画度と最終発表(相互評価)の合算点が、59点以下の場合。		

③『時代を見つめる「目」』(寺島実郎、潮出版社、2013年) ④『新しい世界観を求めて』(寺島実郎、毎日新聞社、2010年)

⑤『時代との対話 寺島実郎対談集』(寺島実郎、ぎょうせい、2010年) ⑥『二十世紀から何を学ぶか(上)(下)』(寺島実郎、新潮選書、2007年)

参考文献・参考URL /

Reference List

、16時20分であるが、原則15日	講義の開始時間は、1	留意点 / Additional Information
-------------------	------------	---------------------------------

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	インターゼミ(寺島実郎学長ゼミ) 2022秋		
サブタイトル / Sub Title	-寺島実郎学長ゼミ(社会工学研究会)-		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Inter Seminars		
教員 / Instructor	金 美徳	E-mail	kim-m@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	2単位

	-,		
講義目的 / Aim of Course	インターゼミ(寺島実郎学長ゼミ)の目的は、学部生・院生・ゼミOB/OGなど約40名と寺島学長をはじめとする本学2学部と大学院の教員15名が、現代社会の抱える課題について、塾形式で切磋琢磨しながら多様な要素や手法を組み合わせた柔らかい発想で、体系的・総合的な答を志向する総合設計力を身に付けることである。院生・学生自身による課題の発掘・発見から仮説の提示、そして多様な要素の組み合わせによる問題解決へ至るプロセスの中で、寺島学長以下、学内の教員や社会で活躍する学外の専門家による付加価値を高め、創造的問題解決策を志向する。14年目を迎えるインターゼミは、13年間で59論文を完成させた。テーマは、希望する分野・グループから選ぶこと。①アジアダイナミズム、②多摩学、③サービス・エンターテインメント、④DX。		
到達目標 / Course Goals	①産業社会の持つ課題を発見し、解決へのアプローチを目指す論文を作成する。 ②選択したテーマについて、文献研究とフィールドワーク、考察と執筆を行い、1年間で論文を完成させる。 ③この教育目標を実現することにより、ディプロマポリシー(学位授与方針)「深い時代認識と世界認識に基づいて、高い志を育み、新しい時代での事業機会、社会構想機会を見極める実践的教養を習得して、イノベーションを提起できる」の実質化を図る。 この到達目標を達成することによりDP2:「思考と判断」と DP5:「志」を身に付ける。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループワーク、ディスカッション、 プレゼンテーション	学外学習 / Off-Campus Learning	有

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体	
十冊子目(1日 及日寺) にめるな時間に十七つが住及の共体	各テーマに関する文献や教科書・指定図書などを通読する。(1時間)
的な学習内容	口, (区区, 3人間, 14人口目 30 (15)回)
HJ/6 T E 14	

11/47 日11日		
授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	オリエンテーション	
事前,事後学習ポイント	学長講話と自己紹介。 インターゼミは、どのようなゼミで、どのような課題解決や研究活動をするのかを知る。	
詳細	①アジアダイナミズム、②多摩学、③サービス・エンターテインメント、④DXのこれまでの論文を通読する。	
第三講・第四講		
概要	グループの決定と詳細テーマの検討。	
事前,事後学習ポイント	今年度のテーマを決める。	
詳細	①アジアダイナミズム、②多摩学、③サービス・エンターテインメント、④DXの各班のこれまでの論文を踏まえて、テーマについて各グループ毎にディスカッションする。	
第五講・第六講		
概要	学長講話とグループワーク。	
事前,事後学習ポイント 文献調査を行う。 寺島学長の講話内容を深く理解する。		
詳細	各テーマに沿って文献一覧を作成すると共に文献を通読する。	
第七講・第八講		
概要	研究計画の発表と学長のアドバイス。	
事前,事後学習ポイント	研究計画を完成させる。	
詳細	各分野・テーマ毎にグループワークとディスカッションを行い、研究計画を立てる。 研究計画の内容は、先行研究(文献一覧)、問題意識、フィールドワークやインタビュー、年間スケジュールなど。	
第九講・第十講		

学長講話と各グループの担当教員と学生からの進捗報告。

概要

事前,事後学習ポイント	学長のアドバイスに従って研究の方向性を調整する。		
詳細	各分野・テーマ毎にグループワークとディスカッションを行い、学長の論考なども参照し、研究計画を練り直す。		
第十一講・第十二講			
概要	グループワークおよびフィールドワーク。		
事前,事後学習ポイント	フィールドワークの具体的な計画を立てる。		
詳細	各分野・テーマ毎にグループワークとディスカッションを行い、現地調査、研究者や関係者のインタビュー、アンケート調査、シンポジウムやセミナーへの参加などフィールドワークの内容を決定し、実施する。		
第十三講・第十四講			
概要	学長講話と学長のグループ別指導。		
事前,事後学習ポイント	院生と教員が共に文献研究とフィールドワークを積み重ねる。		
詳細	文献研究により問題意識を高く持つほど、フィールドワークでのギャップが大きくなり、このギャップの大きさが気付きとなる。 この気付きが、問題意識を研ぎ澄ませ、視点を先鋭化させる。また、論文の独創性や質を大きく左右する。		
第十五講・第十六講			
概要	中間発表。		
事前,事後学習ポイント	中間発表の準備をする。		
詳細	8月に箱根合宿(1泊2日)を行う。		
教科書 / Textbook	①『人間と宗教あるいは日本人の心の基軸』(寺島実郎、岩波書店、2021年) ②『日本再生の基軸――平成の晩鐘と令和の本質的課題』(寺島実郎、岩波書店、2020年) ③『ジェロントロジー宣言~「知の再武装」で100歳人生を生き抜く~』(NHK出版新書、2018年) ④『ユニオンジャックの矢・大英帝国のネットワーク戦略-』(寺島実郎、NHK出版、2017年) ⑤『中東・エネルギー・地政学』(寺島実郎、東洋経済新報社、2016年) ⑥『大中華圏-ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る-』(寺島実郎、NHK出版、2012年)		
指定図書 / Course Readings	①『世界を知る力』(寺島実郎、PHP新書、2010年) ②『世界を知る力 日本創生編』(寺島実郎、PHP新書、2011年) ③『何のために働くのか-自分を創る生き方-』(寺島実郎、文春新書、2013年) ④『脳力のレッスン I -正気の時代のために-』(寺島実郎、岩波書店、2004年) ⑤『脳力のレッスン II -脱9.11への視座-』(寺島実郎、岩波書店、2007年) ⑥『脳力のレッスン III - 問いかけとしての戦後日本と日米同盟-』(寺島実郎、岩波書店、2010年) ⑦『脳力のレッスン IV-リベラル再生の基軸-』(寺島実郎、岩波書店、2014年)		
6 * - + 1	① 『シルバー・デモクラシー-戦後世代の覚悟と責任-』(寺島実郎、岩波新書、2017年) ② 『古さ日本の肖像-1900年、欧州への旅-』(寺島実郎、新瀬文庫、2014年)		

評価方法 / Method of Evaluation			
配分(合計100%)	グループワーク貢献度(50%)、中間および最終発表(50%)の割合で評価。		
評価基準 / Evaluation Criteria			
評価「A·」(100~90 点):	議論参画度と最終発表(相互評価)の合算点が、90点以上の場合。		
評価「A」(89~80点):	議論参画度と最終発表(相互評価)の合算点が、80~89点の場合。		
評価「B」(79~70点):	議論参画度と最終発表(相互評価)の合算点が、70~79点の場合。		
評価「C」(69~60点):	議論参画度と最終発表(相互評価)の合算点が、60~69点の場合。		
評価「F」(59点以下):	議論参画度と最終発表(相互評価)の合算点が、59点以下の場合。		

③『時代を見つめる「目」』(寺島実郎、潮出版社、2013年) ④『新しい世界観を求めて』(寺島実郎、毎日新聞社、2010年)

⑤『時代との対話 寺島実郎対談集』(寺島実郎、ぎょうせい、2010年) ⑥『二十世紀から何を学ぶか(上)(下)』(寺島実郎、新潮選書、2007年)

参考文献・参考URL /

Reference List

留意点 / Additional Information

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	フィールドスタディ 2022春		
サブタイトル / Sub Title	-アクティブ・ラーニング-		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Field Study		
教員 / Instructor	金 美徳 E-mail kim-m@tama.ac.jp		
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	重要な指標となっている。因みに世界のビジネである。このような要請を受けて、大学のみならず、クール(MBA)では、フィールドワーク、ケース導の下で発表・議論する授業形式で学習者自身されている。本学では、2016年度より「アクティブ・ラーは、「教員と学生の意思疎通、切磋琢磨、相互と考えている。また、SDGs(持続可能な開発目注目している。	こって実現しようとしている。そ 通通を図りつつ、一緒になって切り 解を見いだしていく能動的学修 は、フィールドワークやワーク・ススクール数は1,000大学院(う 企業の研修においてもALが積極、メソッド(院生がケースを事前に が主体的に学ぶ方法)、アジア・ ニングセンター」を設立し、本 の知的成長により新たな知識とは、フィールドワークやALを積 体が、ESD(持続可能な開発のたる は、フィールドワークやALを積 本であり、車の両輪のようなも 本験)や定性・定量的手法を用いた すった地方実習・海外研修な関 ナー・地方実習・海外研修なが が対していたであり、「理論と経験の繋 が対していた。 解決力の向上」などの機会を繋 解決力の向上」などの機会を提 に対している。	のためには、「従来のような知識の伝達・注磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成(AL)への転換が必要である」と中央教育審議ショップ(ファシリテーター)が評価を左右するち日本30大学院)、世界の大学数は18,000大学的に導入されている。特に大学院ビジネススニ学習し分析結果や意思決定の理由を教員の指新興国市場開拓のイノベーションなどが注目然的にALを導入している。本学が目指すALと知恵を創造し、問題や課題を解決すること」めの教育)、ESG(環境・社会・企業統治)にも極めに評価する。本来、研究活動や論文作成のである。フィールドワークとは、現地・現た実証的検証(アンケート、データ分析、実験)への参加も奨励し、評価する。がり」、「行動力・現場力・実践力の向供する。代認識と世界認識に基づいて、高い志を育み、代認識と世界認識に基づいて、高い志を育み、
到達目標 / Course Goals	「フィールドスタディ」は、院生の研究活動、修士論文や特定課題作成に資するフィールドワーク、学内外のプログラム・セミナー・地方実習・海外研修への参加などに対して、各学期毎に2単位を認定する。例えば本学学部で開講する寺島学長監修リレー講座、ALプログラム(飛騨高山プログラムなど)、地方実習、海外研修なども対象とする。この到達目標を達成することによりDP4:「表現と技能(イノベーションを創り出す力)」とDP5:「志(環境理解力と関与力)」を身に付ける。		
授業形態 / Form of Class	学内外のプログラム・セミナー・地方実習・ 海外研修	学外学習 / Off-Campus Learning	学外学習が中心となる。

的な学習内容		院生自身が研究計画を作成し、設定する。
授業の概要 / Course Descr	ription	
第一講・第二講		
概要	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
詳細	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
第三講・第四講		
概要	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
詳細	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
第五講・第六講		
概要	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。

院生自身が研究計画を作成し、設定する。

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体

詳細	院生自身が研究計画を作成し、実施する。
第七講・第八講	
概要	院生自身が研究計画を作成し、実施する。
事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、実施する。
詳細	院生自身が研究計画を作成し、実施する。
第九講・第十講	
概要	院生自身が研究計画を作成し、実施する。
事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、実施する。
詳細	院生自身が研究計画を作成し、実施する。
第十一講・第十二講	
概要	院生自身が研究計画を作成し、実施する。
事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、実施する。
詳細	院生自身が研究計画を作成し、実施する。
第十三講・第十四講	
概要	院生自身が研究計画を作成し、実施する。
事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、実施する。
詳細	院生自身が研究計画を作成し、実施する。
第十五講・第十六講	
概要	院生自身が研究計画を作成し、実施する。
事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、実施する。
詳細	院生自身が研究計画を作成し、実施する。
教科書 / Textbook	院生自身の研究計画に沿って設定する。
指定図書 / Course Readings	院生自身の研究計画に沿って設定する。
参考文献・参考URL / Reference List	院生自身の研究計画に沿って設定する。
評価方法 / Method of Evaluat	
配分(合計100%)	単位認定の時期と単位数 ①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。 ②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 ③単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。
評価基準 / Evaluation Criteria	1
評価「A・」(100~90 点):	単位認定の時期と単位数 ①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。 ②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 ③単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。
評価「A」(89~80点):	単位認定の時期と単位数 ①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。 ②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 ③単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。
評価「B」(79~70点):	単位認定の時期と単位数 ①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。 ②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 ③単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。
評価「C」(69~60点):	単位認定の時期と単位数 ①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。 ②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 ③単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。
評価「F」(59点以下):	単位認定の時期と単位数 ①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。

②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 ③単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	フィールドスタディ 2022春		
サブタイトル / Sub Title	-アクティブ・ラーニング-		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Field Study		
教員 / Instructor	金 美徳	E-mail	kim-m@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	1単位

講義目的 / Aim of Course	重要な指標となっている。因みに世界のビジネである。 このような要請を受けて、大学のみならず、クール(MBA)では、フィールドワーク、ケース導の下で発表・議論する授業形式で学習者自身されている。 本学では、2016年度より「アクティブ・ラーは、「教員と学生の意思疎通、切磋琢磨、相互と考えている。また、SDGs(持続可能な開発目注目している。	は、フィールドワークやALを を通びを関いでしていく能動的学修 では、フィールドワークやワーク なススクール数は1,000大学院(う 企業の研修においてもALが積極 なメソッド(院生がケースを事前に が主体的に学ぶ方法)、アジア・ ーニングセンター」を設立し、本 にの知的成長により新たな知識をなり、 は、フィールドワークやALを を表してもり、車の両輪のようなも、 本験)や定性・定量的手法を用いて は、フィールドワークやALを は、フィールドワークやALを は、フィールドワークやALを は、フィールドワークやALを は、フィールドワークでは は、フィールドワークでのような は、フィールドワークでは は、フィールドワークでは は、フィールドワークでのような は、フィールドワークでのような は、フィールドワークでは は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでは は、フィールドワークでは は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィー・地方実習・海外研修な は、 は、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に	のためには、「従来のような知識の伝達・注 は	
到達目標 / Course Goals	「フィールドスタディ」は、院生の研究活動、修士論文や特定課題作成に資するフィールドワーク、学内外のプログラム・セミナー・地方実習・海外研修への参加などに対して、各学期毎に2単位を認定する。例えば本学学部で開講する寺島学長監修リレー講座、ALプログラム(飛騨高山プログラムなど)、地方実習、海外研修なども対象とする。この到達目標を達成することによりDP4:「表現と技能(イノベーションを創り出す力)」とDP5:「志(環境理解力と関与力)」を身に付ける。			
授業形態 / Form of Class	学内外のプログラム・セミナー・地方実習・ 海外研修	学外学習 / Off-Campus Learning	学外学習が中心となる。	

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体 的な学習内容	院生自身が研究計画を作成し、設定する。
---------------------------------------	---------------------

授業の概要 / Course Descri	ption	
第一講・第二講		
概要	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
詳細	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
第三講・第四講		
概要	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
詳細	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
第五講・第六講		
概要	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。

詳細	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
第七講・第八講			
概要	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
詳細	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
第九講・第十講			
概要	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
 詳細	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
第十一講・第十二講			
概要	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
 詳細	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
概要	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
 事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
 詳細	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
 第十五講・第十六講			
 概要	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
 事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
詳細	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
教科書 / Textbook	院生自身の研究計画に沿って設定する。		
指定図書 / Course Readings	院生自身の研究計画に沿って設定する。		
参考文献・参考URL / Reference List	院生自身の研究計画に沿って設定する。		
評価方法/Method of Evaluat	tion		
配分(合計100%)	単位認定の時期と単位数 ①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。 ②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 ③単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。		
評価基準 / Evaluation Criteria			
評価「A・」(100〜90 点):	単位認定の時期と単位数 ①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。 ②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 ③単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。		
評価「A」(89~80点):	単位認定の時期と単位数 ①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。 ②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 ③単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。		
評価「B」(79~70点):	単位認定の時期と単位数 ①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。 ②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 ③単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。		
評価「C」(69~60点):	単位認定の時期と単位数 ①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。 ②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 ③単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。		
評価「F」(59点以下):	単位認定の時期と単位数		

①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。

②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 ③単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。

留意点 / Additional Information	特になし
---------------------------------	------

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	フィールドスタディ 2022秋		
サブタイトル / Sub Title	-アクティブ・ラーニング-		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Field Study		
教員 / Instructor	金 美徳	E-mail	kim-m@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	2単位

7						
講義目的 / Aim of Course	おり、これをアクティブ・ラーニング(AL)によ 入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎 長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し 会が提言している。 また、世界ビジネススクール・ランキングで 重要な指標となっている。因みに世界のビジネ である。 このような要請を受けて、大学のみならず、 クール(MBA)では、フィールドワーク、ケース 導の下で発表・議論する授業形式で学習者自身 されている。 本学では、2016年度より「アクティブ・ラー は、「教員と学生の意思疎通、切磋琢磨、相互 と考えている。また、SDGs(持続可能な開発目 主目している。	って実現しようとしている。その通を図りつつ、一緒になって別解を見いだしていく能動的学修は、フィールドワークやワークススクール数は1,000大学院(う企業の研修においてもALが積極メソッド(院生がケースを事前にが主体的に学ぶ方法)、アジア・ニングセンター」を設立し、本の知的成長により新たな知識とは、フィールドワークやALを積本であり、ESD(持続可能な開発のたらは、フィールドワークやALを積本であり、上であり手法を用いた。サー・地方実習・海外研修な製け、サー・地方実習・海外研修な製解決力の向上」などの機会を繋解決力の向上」などの機会を提リシー(学位授与方針)「深い時で	磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成(AL)への転換が必要である」と中央教育審議ショップ(ファシリテーター)が評価を左右するち日本30大学院)、世界の大学数は18,000大学館的に導入されている。特に大学院ビジネススに学習し分析結果や意思決定の理由を教員の指新興国市場開拓のイノベーションなどが注目法格的にALを導入している。本学が目指すALと知恵を創造し、問題や課題を解決すること」めの教育)、ESG(環境・社会・企業統治)にも証極的に評価する。本来、研究活動や論文作成のである。フィールドワークとは、現地・現た実証的検証(アンケート、データ分析、実験)への参加も奨励し、評価する。がり」、「行動力・現場力・実践力の向供する。代認識と世界認識に基づいて、高い志を育み、代認識と世界認識に基づいて、高い志を育み、			
到達目標 / Course Goals	「フィールドスタディ」は、院生の研究活動、修士論文や特定課題作成に資するフィールドワーク、学内外のプログラム・セミナー・地方実習・海外研修への参加などに対して、各学期毎に2単位を認定する。例えば本学学部で開講する寺島学長監修リレー講座、ALプログラム(飛騨高山プログラムなど)、地方実習、海外研修なども対象とする。この到達目標を達成することによりDP4:「表現と技能(イノベーションを創り出す力)」とDP5:「志(環境理解力と関与力)」を身に付ける。					
拇睾形能 / Form of Clace	学内外のプログラム・セミナー・地方実習・ 海外研修 学外学習 / Off-Campus Learning					

準備学習	(予習	・復習等)	に必要な時間に準じる程度の具	具体
的な学習	内容			

院生自身が研究計画を作成し、設定する。

授業の概要 / Course Description		
第一講・第二講		
概要	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
詳細	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
第三講・第四講	·	
概要	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
詳細	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
第五講・第六講		
概要	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。

詳細	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
 第七講・第八講			
	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
 事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
 第九講・第十講			
———————————————————— 概要	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
 事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
 詳細	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
 第十一講・第十二講			
概要	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
 事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
 詳細	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
概要	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
 第十五講・第十六講			
 概要	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
 事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
 詳細	院生自身が研究計画を作成し、実施する。		
	. [
教科書 / Textbook	院生自身の研究計画に沿って設定する。		
指定図書 / Course Readings	院生自身の研究計画に沿って設定する。		
参考文献・参考URL /	院生自身の研究計画に沿って設定する。		
Reference List	30-133 TM70H 1-13H T TM32 7 G0		
評価方法 / Method of Evaluat	tion.		
計順方法 / IVIELTION OF EVALUAT	単位認定の時期と単位数		
配分(合計100%)	①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する ②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 ③単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。		
評価基準 / Evaluation Criteria	a		
評価「A・」(100〜90 点):	単位認定の時期と単位数 ①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。 ②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 ③単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。		
評価「A」(89~80点):	単位認定の時期と単位数 ①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。 ②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 ③単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。		
評価「B」(79~70点):	単位認定の時期と単位数 ①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。 ②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 ③単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。		
評価「C」(69~60点):	単位認定の時期と単位数 ①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。 ②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 ③単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。		
評価「F」(59点以下):	単位認定の時期と単位数 ①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。		

①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。

②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 ③単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。

|--|

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	フィールドスタディ 2022秋		
サブタイトル / Sub Title	-アクティブ・ラーニング-		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Field Study		
教員 / Instructor	金 美徳	E-mail	kim-m@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	1単位

講義目的 / Aim of Course	重要な指標となっている。因みに世界のビジネである。 このような要請を受けて、大学のみならず、クール(MBA)では、フィールドワーク、ケース導の下で発表・議論する授業形式で学習者自身されている。 本学では、2016年度より「アクティブ・ラーは、「教員と学生の意思疎通、切磋琢磨、相互と考えている。また、SDGs(持続可能な開発目注目している。	は、フィールドワークやALを を通びを関いでしていく能動的学修 では、フィールドワークやワーク なススクール数は1,000大学院(う 企業の研修においてもALが積極 なメソッド(院生がケースを事前に が主体的に学ぶ方法)、アジア・ ーニングセンター」を設立し、本 にの知的成長により新たな知識をなり、 は、フィールドワークやALを を表してもり、車の両輪のようなも、 本験)や定性・定量的手法を用いて は、フィールドワークやALを は、フィールドワークやALを は、フィールドワークやALを は、フィールドワークやALを は、フィールドワークでは は、フィールドワークでのような は、フィールドワークでは は、フィールドワークでは は、フィールドワークでのような は、フィールドワークでのような は、フィールドワークでは は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでは は、フィールドワークでは は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィールドワークでと は、フィー・地方実習・海外研修な は、 は、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に	のためには、「従来のような知識の伝達・注 は
到達目標 / Course Goals	「フィールドスタディ」は、院生の研究活動、修士論文や特定課題作成に資するフィールドワーク、学内外のプログラムセミナー・地方実習・海外研修への参加などに対して、各学期毎に2単位を認定する。例えば本学学部で開講する寺島学修リレー講座、ALプログラム(飛騨高山プログラムなど)、地方実習、海外研修なども対象とする。この到達目標を達成することによりDP4:「表現と技能(イノベーションを創り出す力)」とDP5:「志(環境理解力と与力)」を身に付ける。		定する。例えば本学学部で開講する寺島学長監 なども対象とする。
授業形態 / Form of Class	学内外のプログラム・セミナー・地方実習・ 海外研修	学外学習 / Off-Campus Learning	学外学習が中心となる。

授業の概要 / Course Description		
第一講・第二講		
概要	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
詳細	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
第三講・第四講		
概要	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
詳細	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
第五講・第六講		
概要	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。
事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、	実施する。

詳細	院生自身が研究計画を作成し、実施する。	
第七講・第八講		
概要	院生自身が研究計画を作成し、実施する。	
事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、実施する。	
 詳細	院生自身が研究計画を作成し、実施する。	
第九講・第十講		
概要	院生自身が研究計画を作成し、実施する。	
事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、実施する。	
 詳細	院生自身が研究計画を作成し、実施する。	
 概要	院生自身が研究計画を作成し、実施する。	
 事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、実施する。	
詳細	院生自身が研究計画を作成し、実施する。	
	院生自身が研究計画を作成し、実施する。	
事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、実施する。	
詳細		
第十五講・第十六講		
概要	院生自身が研究計画を作成し、実施する。	
デーニー 事前,事後学習ポイント	院生自身が研究計画を作成し、実施する。	
詳細	院生自身が研究計画を作成し、実施する。	
教科書 / Textbook	院生自身の研究計画に沿って設定する。	
指定図書 / Course Readings	院生自身の研究計画に沿って設定する。	
参考文献・参考URL / Reference List	院生自身の研究計画に沿って設定する。	
評価方法 / Method of Evaluat		
配分(合計100%)	単位認定の時期と単位数 ①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。 ②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 ③単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。	
評価基準 / Evaluation Criteria	3	
評価「A・」(100~90 点):	単位認定の時期と単位数 ①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。 ②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 ③単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。	
評価「A」(89~80点):	単位認定の時期と単位数 ①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。 ②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 ③単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。	
評価「B」(79~70点):	単位認定の時期と単位数 ①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。 ②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 ③単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。	
評価「C」(69~60点):	単位認定の時期と単位数 ①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。 ②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 ③単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。	
評価「F」(59点以下):	単位認定の時期と単位数	

①単位認定は、2月~7月末までに提出した場合は春学期、8月~1月末までに提出した場合は秋学期の単位として認定する。

②事前申請されずに事後報告だけの場合は、認めない。また、実施時期(最終日)が、1年を過ぎたものは認めない。 ③単位数は、各学期毎に2単位を限度とする。また、2年間で認定される最大単位数は、8単位とする。

留意点 / Additional Information	特になし
---------------------------------	------

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	ビジネス実践知探究		
サブタイトル / Sub Title	"編集工学"で実践知を磨く		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Business Practical Wisdom Study		
教員 / Instructor	佐藤 勝彦	E-mail	satou-k@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	松岡正剛氏が提唱する"編集工学"の基礎を学びながら、多様な情報や知を自らの中で綜合する実践知を 修得し、モノゴトの認識力・理解力を磨き、イノベーターシップのベースとなる教養力基盤を築く		
到達目標 / Course Goals	編集工学アプローチ、技法を実践的な演習・ディスカッションなどを通じ修得するとともに、 ビジネス最前線でのリーダーも招き、その実践知を学び、DP2:「思考と判断」を身に着ける		·
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、 形態 / Form of Class グループワーク、ディベート、 プレゼンテーション、双方向		有

予習:課題図書や推薦図書、関連図書の読むこと

質問・疑問の用意(2時間程度)

復習:授業内容の整理、小レポート作成(2時間程度)

	授業の概要 / Course Description	
	第一講・第二講	
概要編集工学入門		

概要	編集工字人門
事前,事後学習ポイント	レポート提出を課します。 課題図書を事前に読んでおくこと
詳細	講師:編集工学研究所 専務取締役 安藤昭子氏 "編集"とは何か? 編集工学とビジネス実践知をつなぐ 編集工学の基礎を演習を交え学ぶ

第三講・第四講

概要	編集術 1 編集工学のアプローチ、手法を学ぶ
事前,事後学習ポイント	レポート提出を課します。
詳細	講師:編集工学研究所 専務取締役 安藤昭子氏 編集工学アプローチの実際 (わけるとわかる、くらべる・あわせる・ずらす、乗り換え・持ち替え・着替えなど) 演習・ディスカッションを通して学ぶ

第五講・第六講

概要	編集術 2 編集工学応用編
事前,事後学習ポイント	簡単なレポート提出を課します。
詳細	講師:編集工学研究所 専務取締役 安藤昭子氏 アナロジー・アブダクション・アフォーダンス ストーリー 探求型読書

第七講・第八講

概要	ビジネス実践知と編集 1	
事前,事後学習ポイント	レポート提出を課します。	
詳細	ゲストスピーカー: ビジネスリーダーから学ぶ リアルビジネスと編集 (交渉中)	

第九講・第十講

概要 ビジネス実践知と編集 2

	ビジネスリーダーから学ぶ	
事前,事後学習ポイント	レポート提出を課します。	
詳細	講師:安藤昭子氏編集工学研究所が手がけた編集工学を駆使したビジネス展開実例から学ぶ 1. 科学道100冊プロジェクト 2. 近畿大学図書館プロジェクト	
第十一講・第十二講		
概要	ビジネス実践知と編集 3 ビジネスリーダーから学ぶ	
事前,事後学習ポイント	レポート提出を課します。	
詳細	講師:佐藤勝彦 1. 従業員4000人の工場を動かすコミュニケーション 2. 長期赤字会社を黒字化、ミッションインポッシブルに挑む	
第十三講・第十四講		
概要	千夜千冊探索	
事前,事後学習ポイント	レポート作成	
詳細	松岡正剛著書評集"千夜千冊"から関心のある1編を選択し、 これまで学んだ編集工学知・ビジネス実践知を使って書評レポート作成・発表	
第十五講・第十六講		
概要	編集工学まとめ 編集工学をどうビジネスに活かすか? 編集力をどう磨いていくか?	
事前,事後学習ポイント	レポート提出を課します。	
詳細	編集工学をビジネス実践知として綜合する 編集工学をどうビジネスに活かすか? 編集力をどう磨いていくか?	
教科書 / Textbook	毎回講義資料を配布します	
指定図書 / Course Readings	安藤昭子著『才能をひらく編集工学』	
参考文献・参考URL / Reference List	今井むつみ著『学びとは何か』 松岡正剛著『千夜千冊』	
評価方法 / Method of Evaluat		
配分(合計100%)	配分(合計100%) 出席30%、クラスでの積極的な発言とその内容35%、レポート・発表35%	
評価基準 / Evaluation Criteria		

評価方法 / Method of Evaluation			
配分(合計100%)	出席30%、クラスでの積極的な発言とその内容35%、レポート・発表35%		
評価基準 / Evaluation Criteria	評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	編集工学の理解が深く、その応用、適用にも発展性がある		
評価「A」(89~80点):	編集工学の理解が十分で、その応用、適用が出来る		
評価「B」(79~70点):	編集工学の理解が進んでいるが、その応用・適用には課題が残る		
評価「C」(69~60点):	編集工学の理解にむらがあり、その応用・適用は難しい		
評価「F」(59点以下):	編集工学の理解が不十分		

安藤氏の講義4回のうち1回は、世田谷区赤堤(豪徳寺駅)にある編集工学研究所・本楼で行います。(但し、コロナ	の私流
留意点 / Additional 次第)	
国子生ももらろん歓迎いにしますが、かなりの日本語能力が来められます。	
IIIIoIIIIatioii 留学生で受講希望者は必ず事前に申し出てください。個別面談いたします。	
毎回小レポートの作成を課しますが、その内容については講義の中でディスカッション、フィードバックを行います	o

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	21世紀の日本の社会課題		
サブタイトル / Sub Title	なぜ解決できないのか。「失敗の本質」の構造問題		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	21st Century Japanese Social Issues		
教員 / Instructor	近藤 洋介	E-mail	kondo-y@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	長引くコロナ感染は経済社会を大きく変貌させている。DXに代表されるデジタル革命が加速、ビジネス環境や経済社会が劇的に変わる中で、世界における日本の比重は埋没(30年間で世界GDP に占める割合99年16% \rightarrow 20年5%に)している。多くの社会課題の本質的解決が先送りされていることが、日本の産業のイノベーションを停滞させ、企業活動の大きな足かせとなっている。講義では、コロナ対策、原発、再生可能エネルギーといったエネルギー問題、政府主導の成長戦略の限界とDXの出遅れ、ポピュリズム(大衆迎合)に揺れる政党政治と統治機構改革など日本社会の根底にある課題を取り上げ、その失敗の本質を探る。同時に、グループディスカッション等を通じて、各テーマについて、複数の解決策のシナリオの提示、議論を通じて本質的な解決策を考える。		
到達目標 / Course Goals	日本社会が抱える最先端の課題(DX、エネルギー、少子高齢化)とポストコロナの社会像について、その知識と基本的なを身につける。同時に危機下のリーダーシップ、組織論を考察する。また解決の分析し、先送りの失敗の原因を探るとともに、その解決策について議論し合うことで、DP1:「知識と理解」、DP2:「思考と判断」を身につける。また、危機感を共有することで、DP3:「関心と意欲」とDP4:「表現と技能」を高めることを目標とする。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループワーク、グループディスカッション、 ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	無

詳細

概要

第七講・第八講

事前学習:指定図書、及び、宿題資料の読み込み、資料調査などで毎回一時間ほど 東係学習・講義振り返りで20分ほど

的な学習内容		事後学習:講義振り返りで30分ほど		
授業の概要 / Course Desc	ription			
第一講・第二講				
概要	コロナ禍と原発 二つの「敗戦	数」から学ぶべきもの		
事前,事後学習ポイント		日本のエネルギー全体像について経産省HPからエネルギー白書に目を通しておく。また、国会事故調、コロナ民間臨調の報告書をHPから一読し、危機の元のリーダーシップの在り方について考察しておく。		
詳細	み」も明らかにした。なぜ、話 も、振り返り、日本の組織にお	グローバルパンデミックとなったコロナ感染。経済社会全体にも機能不全をもたらし、その対応の遅れは、日本社会の「弱み」も明らかにした。なぜ、諸外国の後塵を拝することになったのか、分析する。国際的な危機に陥った原発事故についても、振り返り、日本の組織における課題を分析する。二つの「敗戦」の共通項を抽出することで、危機におけるリーダーシップの在り方、社会の思考回路の問題点を見つめ直す。		
第三講・第四講				
概要	金融は大丈夫か? 失われた3	- 90年と今		
事前,事後学習ポイント		本講義の基本書となる野中教授の「失敗の本質」を通読し、現代社会、企業に当てはまるものは何か、考察しておく。また、金融機関とイノベーションの関係について、考えをまとめておく。		
詳細	コロナ対策で膨らみ続ける国の借金。超低金利策を続け、政府の資金繰りを支え続ける日本銀行。先進各国がポストコロナをにらみ金融政策を変更する中で、日本だけが取り残された格好だ。金融の要・日銀の漂流は30年前から続いている。バブル発生・混迷から現在の金融史を再検討するととにに、現在の金融機関を抱える課題を考察。旧日本軍と金融(行政も含む)との類似点を考察するととも、DX時代における金融像を議論する。			
第五講・第六講	'			
概要	エネルギー(どうする再エネ・	・CO2削減,SDGsの道と課題)		
事前,事後学習ポイント		原発の再稼働の賛否、リスクとメリット、長期的な是非について、考えを整理しておく。気泡変動の影響とCO2削減、SDGsのビジネス上の意義について事前に考えておく。人口減少が自社のビジネスにどのような影響を与えているか、その対策について考察しておく。		
	3・11の東日本大震災以降、	脱原子力発電へパラダイムシフトを迫られた日本のエネルギー事情、また、その中で進んで		

成長戦略・遅れるDX 失敗の本質1 (なぜイノベーションは起きないのか?)

いる大規模な規制緩和=電力自由化、が「暮らし」「産業界」に与えている影響について学ぶ。原発のリスク、政府が主張するメリット、を分析、社会的なコスト、世界情勢を踏まえ、日本のシナリオを提示、選択する。太陽光など再生可能エネ

ルギーの現状と可能性、その課題について学ぶ。パリ協定など温暖化防止への国際環境、またSDGsなどビジネス環境、企業行動にも大きく影響を与えている。「エネルギーと食料は海外から買う」という日本産業の骨格を変えることができるか?

事前,事後学習ポイント	参考図書「バブル」永野健二著を読み、受け止めをまとめておく。		
詳細	毎年のように作られる政府の「成長戦略」だが、効果がないと言われて久しい。なぜ、アベノミクスの「第三の矢」、イノベーションは起きないのか? DX、IX(インダストリアル・トランスフォー、メーション)に向け、日本の社会構造には何が不足しているのか?米国と比較しながら金融の側面から要因を分析する。		
第九講・第十講			
概要	成長戦略・失敗の本質 2 (ルールは自らつくる)		
事前,事後学習ポイント	参考図書「経営学」小倉昌男を読み、「ヤマト成功の秘訣」をまとめておく。 新しいイノベーションがなぜ起きにくくなったのか、自社に照らして考えておく。		
詳細	ヤマト運輸「宅急便」の創設者・小倉昌男会長が、なぜ成功したのか、取材経験をもとに「ルール形成に積極的に関わる意義」を解説するとともに、今日的必要性と事業への「志」の重要性を学ぶ。また、過去30年間、ルールづくりで「出遅れていた日本」の実情を欧米と比較する。		
第十一講・第十二講			
概要	考察:ポスト・コロナ社会 新・田湾都市構想のススメ		
事前,事後学習ポイント	.移民制度の是非について、考えをまとめておく。これまでの講義を通じ、各自が経済再生担当大臣だったなら、どのような「成長戦略」を打ち出すか、どのような法案(税制含む)を提出するか?構想をまとめておく。		
詳細	コロナ禍で、東京集中の人の流れが変わりつつある。一極集中から分散の流れは、新たなビジネスを生みつつある。ローカル経済の新たな仕組み、分権社会への道筋を考察する。移民制度は必要かも考察。同時に地方では、命を支える医療、そして食料分野。実はこの分野が大きく出遅れているのも事実。大半の病院は赤字続き、農地も崩壊しつつある。その要因、今後の可能性について学習、各自が自身の考える「成長戦略」を発表する。その中で、Society5.0について、課題解決策としての可能性を学ぶ。		
第十三講・第十四講			
概要	経済安全保障法制はビジネスを変えるか?		
事前,事後学習ポイント	今国会に上程される「経済安全保障法案」について、事前に調査し、各自考えをまとめておく。また、日本国憲法の改正の 是非、について意見をまとめる。		
詳細	岸田政権の目玉とされる「経済安全保障法案」が今国会で上程される見込み。中国を「仮想敵国」とする米国と歩調を合わせる内容で、技術流出の防止と資源確保を狙う。同時に最大の貿易相手国・中国との関係悪化にもつながりかねないだけに、運用次第では日本経済にも大きな影響を与える。法案の実際の効果、影響を分析。また、中国が加盟を表明したTPPの行方も考察する。		
第十五講・第十六講			
概要	統治機構改革・国会 日本に野党は必要か? 強すぎる官邸と民意		
事前,事後学習ポイント	社長に「否」と言ったことがあるか? 言うべきか、考えてみる。		
詳細	権力を持つ首相官邸、政と官の関係が劇的に変化している、その功と危うさについて学ぶ。また、SNSと新聞、テレビなどメディアの在り方の変容、ポピュリズムの影響について、昭和初期と比較しながら考える。二大政党を志向した小選挙区制度。政権交代により政策論争を期待したが、完全な失敗に終わった。なぜか? なぜ、野党は機能しないのか? 必要なのか? 日本の政党政治、選挙制度についてグループディスカッションしてもらう。		

教科書 / Textbook	適宜配布する	
指定図書 / Course Readings	「失敗の本質」(野中郁次郎編著 中公文庫) 「DXの思考法」(西山圭太 文芸春秋) 「原発敗戦」(船橋洋一著 文春文庫) 「フクシマ戦記 上・下」(同 文芸春秋) 「バブル」(永野健二著 新潮社)「経営者」(永野健二 同) 「経営学」(小倉昌男 日経BP) 「日銀漂流」(西野智彦 岩波書店) 「感染症の国家戦略」(阿部圭史 東洋経済新報社)	
参考文献・参考URL / Reference List	エネルギー白書 https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/2019html/ コロナ民間臨調 https://apinitiative.org/project/covid19/#:~:text 国会事故調査委員会報告書 https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/3514602 経済財政白書令和3年度 https://www5.cao.go.jp/j-j/wp/wp-je21/index_pdf.html 日本国憲法 https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=321CONSTITUTION	

評価方法 / Method of Evaluation			
配分 (合計100%)	出席30%、授業内での議論参加25%、プレゼン内容25%、レポート20%		
評価基準 / Evaluation Criteria			
評価「A・」(100~90 点):	日本の社会的課題について、構造的な原因を分析し、少なくとも4分野について、自ら解決策を提言できる。		
評価「A」(89~80点):	日本の社会的課題について、構造的な要因を分析し、理解し、改善案を提言できる。		

評価「B」(79~70点):	日本の社会的課題について、概要を理解し、問題点を指摘できる。
評価「C」(69~60点):	日本の社会的課題について、概要を理解できる。
評価「F」(59点以下):	日本の社会的課題について、理解が不十分。出席も不良で、授業内でのプレゼンのなお用意も不十分である。

留意点 / Additional Information

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	実践リベラルアーツ論		
サブタイトル / Sub Title	現代社会で自己実現するための思考基盤構築		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Practical Liberal Arts		
教員 / Instructor	矢萩 邦彦	E-mail	yahagi-k@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	この講座では、今この時代を豊かに生きていくために基盤となる知識と思考スキルを「リベラルアーツ」と捉え、古典的な知識や方法の獲得だけではなく、最新の世界観(インフラ、テクノロジー、文化、価値観)や自らの特性と価値観を結合することで、プランを創造・選択し決定する素養の育成を目指します。具体的には、A I ・ロボットにはできないことを整理し、人間らしさとは何かに向き合うことで、学ぶべき方向性を明確にし、また毎回最新のニュースをトピックに上げながら時代に合った思考にチューニングしていきます。		
到達目標 / Course Goals	世界の構造・最新の世界観・自分自身の価値観と特性をメタ認知すること。また、それらを言語化したうえで意図的に活用して、ディプロマポリシーでのDP2:「思考と判断」を実践し、課題解決に向けた独自の構想と最適な戦略を創造するマインドとスキルを習得する。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、グループ ワーク、プレゼンテーション、双方向、ワー クショップ	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

第十一講・第十二講

課題についての予習。指定時にレポートの提出。予習1時間程度、復習1時間程度。

4,00,000			
授業の概要 / Course Desc	ription		
第一講・第二講			
概要	リベラルアーツとは何か~「情報」を探究する		
事前,事後学習ポイント	リベラルアーツとは何か、いくつかの定義を引用した上で自分の意見を言語化しておくこと。		
詳細	自然科学的な法則の中での壮大な歴史観を踏まえた上で現代社会のスピード感を掴み、改めて「情報」とは何かについて考え、メタ認知していくことで、リベラルアーツとはどのような方法論なのか大枠を捉える。		
第三講・第四講			
概要	A I ・ロボット時代を生きるスキル~「人間らしさ」を探究する		
事前,事後学習ポイント	人間らしさとは何かについて、いくつかの定義を引用した上で自分の意見を言語化しておくこと。		
詳細	現状のAIには幾ら進歩しても構造的に不可能なことがたくさんある。また、人間にも得手不得手や思い込みが存在する。それらを認知して自らが磨くべき能力を知る。		
第五講・第六講			
概要	ちゃんと考え、ちゃんと伝える~「論理」を探究する		
事前,事後学習ポイント	演繹・帰納・仮説推論とは何かを調べておくこと。		
詳細	思考実験や論理問題に取り組みながら、どんな分野でも応用できる「ロジカルシンキング」の視点と方法を手に入れる。また、自分の考えを共有すること難しさや、改善の方法を考える。		
第七講・第八講			
概要	母語の性質を活用した思考とは~「言語」を探究する		
事前,事後学習ポイント	日本語を分析し、その特徴を挙げておくこと。		
詳細	「思考」のベースになる母語(日本語)の本質を捉えて、使いこなすための視点を把握した上でトレーニングをする。また 日本語表現について、詩における比喩を題材に解釈し、共有する。		
第九講・第十講			
概要	思い込みの構造と対策~「メディア」を探究する		
事前,事後学習ポイント	主要なメディアの成り立ちを調べ、その影響が分かる具体的な事例を探しておくこと。		
詳細	メディアの特性と歴史を知り、「メディアリテラシー」の基本となる題材について考えて意見交換をする。また、SNSをは じめとしたネットワークの中で、どう振る舞うべきかを考える。		

概要	メタ認知とアンラーニング~「バイアス」を探究する		
事前,事後学習ポイント	自分自身の思い込みを探してリストアップしておくこと。		
詳細	様々なバイアスに触れることでメタ認知の視点を認識し、境界を編集し、具体と抽象を行き来する「クリティカルシンキング」「ラテラルシンキング」のための視点と方法を手に入れる。		
第十三講・第十四講			
概要	ナラティブに活動するために~「	自分」を探究する	
事前,事後学習ポイント	自分の価値観を整理し、真善美について言語化しておくこと。また、自分の価値観や人生に関わるキーワード及び歴史的事 象を列挙しておくこと。		
詳細	編集的世界観で社会の動きを捉え、自分自身が何者なのかを改めて認識し、世界と編集していく準備をする。また、自分の 生きている世界を、自分の言葉で捉え直し、その中に自らの描く未来を織り込んでいくための認知と方法を考える。		
第十五講・第十六講			
概要	まとめ		
事前,事後学習ポイント	これまでの講義全体を振り返っておく。		
詳細	講義全体を振り返りながら、改めてこれから必要となるマインドやスキルを整理して、行動指針を考える。		

教科書 / Textbook	適宜配布する	
指定図書 / Course Readings	『情報の歴史21』松岡正剛監修、編集工学研究所 その他、適宜紹介する	
参考文献・参考URL / Reference List	『大人のための国語ゼミ』野矢茂樹、筑摩書房 その他、適宜紹介する	

評価方法 / Method of Evaluat	ion		
配分(合計100%)	出席(20%)、グループワーク、グループディスカッション(20%)、ワークショップ、プレゼンテーション(10%)、課題、修了課題レポート(50%)		
評価基準 / Evaluation Criteria			
評価「A・」(100~90 点):	自らが捉える世界の構造・最新の世界観・自分軸を、他者の共感を得られる形で表現できており、それらを思考や判断において効果的に活用できる。リベラルアーツの観点から社会の問題を発見し、他者と共有して解決していくことをキャリアとして実践できる。		
評価「A」(89~80点):	自らが捉える世界の構造・最新の世界観・自分軸を明確に言語化でき、それらを思考や判断において効果的に活用できる。 リベラルアーツの観点から自らが抱える問題を発見し、解決していくことをキャリアとして実践できる。		
評価「B」(79~70点):	リベラルアーツを理解しており、思考や判断に活用することができている。他者と共有することで思考や判断を先に進める ことができる。		
評価「C」(69~60点):	リベラルアーツを基本レベルで理解しており、思考や判断に活用することができているが、他者との共有に課題がある。		
評価「F」(59点以下):	リベラルアーツの理解が基本レベルで留まっており、思考や判断に活用できているとはいえない。		

留意点 / Additional Information	なし	
---------------------------------	----	--

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	ビジネスリーダーのための実践的課題解決		
サブタイトル / Sub Title	理論と企業実例で学ぶリーダーのための問題解決手法		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Practical Problem Solving for Business Leaders		
教員 / Instructor	高田 貴久	E-mail	takahisa.takada@precena.com
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	世界経済フォーラム(World Economic Forum)が発表した「第4次産業革命で活躍するために必要な10のスキル」において、「複雑な問題解決(Complex Problem Solving)」が2015年・2020年ともに1位となった。グローバルに活躍するビジネスリーダーにとって、組織を正しい方向に導くための問題解決力は今や不可欠な能力である。本講座ではビジネスリーダーに求められる問題解決・問題解決指導力の理論を体えってて学んだ後、職場課題から経営課題に至るまでの様々な企業実例を記する。		
到達目標 / Course Goals	を通じて、リーダーに求められる実践力を身につける。 議論に基づく問題解決の方法論の習得により、ディプロマポリシーのDP1「知識と理解」・DP2「思考と判断」を身に着けた後、様々な企業における実例について討議を行う。最後には自ら設定したテーマに関する問題解決につき発表を行う。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、グループ ワーク、ディベート、プレゼンテーション、 双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	無

準備学習 (予習・復習等) に必要な時間に準じる程度の具体 的な学習内容 事前学習:指定図書予習及び宿題資料の読み込み(毎回2時間程度) 事後学習:講義内容の振り返り(毎回1時間程度)

授業の概要 / Course Desc	ription		
第一講・第二講			
概要	問題解決の理論①:ビジネスリーダーに求められる問題解決力とは		
事前,事後学習ポイント	グローバルで活躍するビジネスリーダーに必要な能力とは何かを考える。同時に現時点における自らの状況について振り り、最終プレゼンのテーマについて検討を始める。		
詳細	グローバルで活躍するビジネスリーダーに必要な能力の全体像を理解し、問題解決力がいかに重要な役割を果たすかを学ぶ。課題と問題の本質的な違いを理解し、ビジネスにおける様々な課題・問題についてグループ討議を通じて考察を行う。		
第三講・第四講			
概要	問題解決の理論②:課題設定の方法論		
事前,事後学習ポイント	課題図書によって課題設定の手順・ラーニングポイントを理解した上で、自テーマにおける課題設定について準備を始める。		
詳細	成果指標や目標の設定の仕方など、課題設定の手順・ポイントの詳細を確認した上で、企業の事例および事前学習内容をに様々な課題設定についてグループ討議を通じて理解を深める。		
第五講・第六講			
概要	問題解決の理論③:問題解決の方法論		
事前,事後学習ポイント	課題図書によって問題解決の手順・ラーニングポイントを理解した上で、自テーマにおける問題解決について準備を始める。		
詳細	現状把握や原因分析など、問題解決の手順・ポイントの詳細を確認した上で、企業の事例および事前学習内容を元に様々な 問題解決についてグループ討議を通じて理解を深める。		
第七講・第八講			
概要	問題解決の理論④:ビジネスリーダーに求められる問題解決指導力		
事前,事後学習ポイント	仕事の中身だけでなく、部下育成における問題解決のラーニングポイントを理解した上で、部下に対する問題解決の指導方法を学習する。		
詳細	部下が作成したという想定の実際の問題解決レポートを元に、これまでに学んだ問題解決の考え方を活かして仕事の内容についてまず問題解決を行う。次いで「部下が、問題解決が出来ないこと」の問題解決を行い指導方法についてグループ討談を通じて検討する。		
第九講・第十講			
概要	問題解決の実践①:企業事例 職場課題レベル		
事前,事後学習ポイント	職場で必要となるレベルの問題解決について企業実例を元に考察を深める。		

残業やミスなど職場課題レベルのテーマを元に、これまでに学んだ問題解決の考え方を活かして実際の自分の業務について

詳細

	の問題解決を行い、グループ討議を通じて理解を深める。		
第十一講・第十二講			
概要	問題解決の実践②:企業事例 事業課題レベル		
事前,事後学習ポイント	事業で必要となるレベルの問題解決について企業実例を元に考察を深める。		
詳細	売上拡大やコスト低減など事業課題レベルのテーマを元に、これまでに学んだ問題解決の考え方を活かして実際の自分の会社や自分の業務についての問題解決を行い、グループ討議を通じて理解を深める。		
第十三講・第十四講			
概要	問題解決の実践③:企業事例 経営課題レベル		
事前,事後学習ポイント	経営で必要となるレベルの問題解決について企業実例を元に考察を深める。		
詳細	ガバナンス向上やグローバル展開など経営課題レベルのテーマを元に、これまでに学んだ問題解決の考え方を活かして実際 の自分の会社や自分の業務についての問題解決を行い、グループ討議を通じて理解を深める。		
第十五講・第十六講			
概要	問題解決の実践④:自テーマの問題解決		
事前,事後学習ポイント	全ての学習内容の総括として、自ら定めたテーマについての問題解決を行う。		
詳細	各自で定めたテーマについて、テーマ選定の理由・課題の内容・問題解決の方法についてプレゼンテーションを行い、フィードバック・グループ討議を通じて理解を深める。		
教科書 / Textbook	適宜、講義資料を配布する。		
指定図書 / Course Readings	問題解決一あらゆる課題を突破する ビジネスパーソン必須の仕事術: 高田貴久・岩澤智之著 英治出版		

教科書 / Textbook	適宜、講義負料を配布する。		
指定図書 / Course Readings	問題解決―あらゆる課題を突破する ビジネスパーソン必須の仕事術:高田貴久・岩澤智之著 英治出版		
参考文献・参考URL / Reference List	ロジカル・プレゼンテーション一自分の考えを効果的に伝える戦略コンサルタントの「提案の技術」 : 高田貴久著 英治 出版		
評価方法 / Method of Evaluati	ion		

評価方法 / Method of Evaluation		
配分 (合計100%)	出席(10%)、授業内での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容(20%)、最終レポート(40%)	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	納得感の高い問題解決を行い、ビジネスリーダーとして周囲を動かし推進するレベルの説明が出来る。	
評価「A」(89~80点):	納得感の高い問題解決を行い、ビジネスリーダーとして十分に伝わる説明が出来る。	
評価「B」(79~70点):	問題解決を行い、ビジネスリーダーとして説明が出来る。	
評価「C」(69~60点):	問題解決の考え方を理解している。	
評価「F」(59点以下):	問題解決の考え方が十分に理解出来ていない。	

留意点 / Additional Information	なし
---------------------------------	----

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	留学生のための日本経済・経営基礎		
サブタイトル / Sub Title	大学院での学びの基礎・基盤つくり		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Introduction of Japanese Economy and Management		
教員 / Instructor	佐藤 勝彦	E-mail	satou-k@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	留学生支援	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	日本における実務経験がない(浅い)留学生に 当大学院での学びを支援する	対し、日本経済・経営に関する	基礎知識を取得することで
到達目標 / Course Goals	日本経済・経営に関する基礎的な知識を修得す 解を深め、DP2:「思考と判断」力を磨き、同時	0.00.	
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、 プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

第九講・第十講

当回、次回のテーマに関する疑問・質問を その理由を添えてそれぞれ3つ以上用意すること 最低でも2時間程度の予習・復習

on	
日本概要	
当回、次回のテーマに関する疑問・質問を その理由を添えてそれぞれ3つ以上用意すること(事前に提出すること)	
・日本の国土、人口、歴史、文化、法制度、政治など概説 (特に中国・アジアとのつながり) ・本の読み方解説 ・第2講以降、最新の経済・経営に関する新聞・雑誌記事を読み、その要約を 事前に提出すること。	
日本経済史(特に戦後)	
・当回、次回のテーマに関する疑問・質問を その理由を添えてそれぞれ3つ以上用意すること(事前に提出すること) ・第2講終了後関心のある日本人を一人選び、wikipediaだけに頼らず、調べ A4で1-2枚程度のレポートを作成すること(個人ワーク:提出は第5講まで)	
・戦後に日本経済の歴史を振り返り、その特徴を把握し、現状を理解すること ・前回課題の記事に関する発表、ディスカッション及び解説	
産業構造・企業形態・ガバナン	ス
	疑問・質問を 以上用意すること(事前に提出すること)
・経済成長とともに日本の産業構造や企業形態などがどう変化したか? ・前回課題の記事に関する発表、ディスカッション及び解説 ・2-3人でチームを組み新書(例・岩波新書から関心のある本を一冊選び 共読し、チームでA4,1-2枚の要約レポートを作成すること (チームワーク:提出は第6講まで) (推薦図書『人口と日本経済』吉川 洋著 『タテ社会と現代日本』中根千枝著『戦後の日本経済』橋本寿朗著)	
教育・労働・雇用	
	問・質問を 以上用意すること(事前に提出すること)
	行などについて現状と課題を学ぶ 、ディスカッション及び解説
	日本概要 当回、次回のテーマに関する疑 その理由を添えてそれぞれ3つ」 ・日本の国土、人口、歴史、なが ・本の調力解説 ・第2請以降、最新の経済・経済事前に提出すること。 日本経済史(特に戦後) ・当四のテーマに関するのが、第2請終了のあるでであるでであるででである。 ・第2請終了の歴史を振り、次には関するをでは、第2時に関係をでは、では、ののでは、では、ののでは、では、ののでは、では、ののでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で

概要	"日本的経営"	
事前,事後学習ポイント	当回、次回のテーマに関する疑問・質問を その理由を添えてそれぞれ3つ以上用意すること(事前に提出すること)	
詳細	・いわゆる日本的経営とは何か?その起源や現在も機能しているのか? ・前回課題の記事に関する発表、ディスカッション及び解説	
第十一講・第十二講		
概要	グローバル化と日本の経済・経営	
事前,事後学習ポイント	当回、次回のテーマに関する疑問・質問を その理由を添えてそれぞれ3つ以上用意すること(事前に提出すること)	
詳細	・日本は経済のグローバリゼーションが進む中でどのように対処してきたのか? 歴史と現状そして課題を探る ・前回課題の記事に関する発表、ディスカッション及び解説 ・個人ワーク発表・ディスカッション及び解説	
第十三講・第十四講		
概要	現在の日本経済・経営の課題(少子高齢化など)	
事前,事後学習ポイント	当回、次回のテーマに関する疑問・質問を その理由を添えてそれぞれ3つ以上用意すること(事前に提出すること)	
詳細	・現在の日本経済・経営が直面する課題について学ぶ ・前回課題の記事に関する発表、ディスカッション及び解説 ・個人ワーク発表・ディスカッション及び解説 ・チームワーク発表・ディスカッション及び解説	
第十五講・第十六講		
概要	まとめ	
事前,事後学習ポイント	当回、次回のテーマに関する疑問・質問を その理由を添えてそれぞれ3つ以上用意すること(事前に提出すること)	
詳細	・これまでの講義などでの疑問の整理 ・前回課題の記事に関する発表、ディスカッション及び解説 ・個人ワーク発表・ディスカッション及び解説 ・チームワーク発表・ディスカッション及び解説	

教科書 / Textbook	適宜配布する。
指定図書 / Course Readings	なし
参考文献・参考URL / Reference List	『日本経済図説』岩波新書

評価方法 / Method of Evaluation		
配分(合計100%)	出席率25%、クラス参画度・発言20%、事前質問提出15%、 個人ワーク発表20%、チームワーク発表20%	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	上記項目が全て非常に優れており、日本経済・経営に関して自分の言葉で語れる	
評価「A」(89~80点):	上記項目が全て優れており、日本経済・経営に関して理解が出来ている	
評価「B」(79~70点):	上記項目が70%程度であり、日本経済・経営に関し理解が進んでいる	
評価「C」(69~60点):	上記項目が60%程度であり、日本経済・経営に関し理解がまだら模様である	
評価「F」(59点以下):	上記項目が60%未満であり、日本経済・経営に関して理解が不十分	

留意点 / Additional	留学生必修科目です。	
Information	レポートは提出後、講義内でフィードバックします。	

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	ビジネスジャパニーズ丨		
サブタイトル / Sub Title	日本語の口頭発表		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Business Japanese I		
教員 / Instructor	藏夛 礼佳	E-mail	me_chen2008@yahoo.co.jp
科目群 / Course Classification	留学生支援	単位数 / Credits	1単位

講義目的 / Aim of Course	日本語での口頭発表の表現とその手法を学び、聞く力、話す力を向上させ、ビジネスパーソンとしての基礎教養を身につけることを目的とします。		
到達目標 / Course Goals	DP4: 「表現と技能」に沿って、人前で発表することに慣れ、日本語の表現力を向上させ、自分の意見を論理的に述べることができること、グループ内でのコミュニケーションを取り(協調性、傾聴力を習得)、最善なアウトプットにたどり着くプロセスを習得する。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループワーク、グループディスカッ ション、ディベート、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体	グループディスカッションに備え、データ収集を含む事前準備を行うこと(予習・復習2時間
的な学習内容	程度)

17公子目77台	IEA/
授業の概要 / Course Descr	iption
第一講・第二講	
概要	オリエンテーション ①講義の目標、単位の取得条件 ②自己紹介 ③敬語、謙譲語、丁寧語の復習
事前,事後学習ポイント	敬語、謙譲語、丁寧語などを復習する
詳細	オリエンテーション及び自己紹介、ビジネスマナー①
第三講・第四講	
概要	スピーチについて学ぶ ①魅力的なスピーチとは ②スピーチの事例学習 ③スピーチの原稿作成
事前,事後学習ポイント	スピーチのポイント、原稿の書き方を復習する
詳細	スピーチのポイント、準備、原稿の書き方を学ぶ/ビジネスマナー②
第五講・第六講	
概要	スピーチを実践する ①効果的なスピーチとは ②スピーチの練習
事前,事後学習ポイント	① 事前に今回のスピーチテーマを考えておく② 授業後スピーチの基本ポイントを復習する
詳細	第2講で学んだことを踏まえて自分が興味を持つデーマを決めて、スピーチの原稿を書き、クラスで発表、それについて講師からフィードバックする
第七講・第八講	
概要	ディスカッションについて学ぶ ①ディスカッションの概要説明 ②あるテーマについて学習し、グループディスカッションを体験する
事前,事後学習ポイント	グループ内で意見の違うメンバーにどのように自分の考えを伝えればいいのかを考えること
詳細	① ディスカッションのポイント、ディスカッションの流れ、ディスカッションの形式② グループディスカッションの練習
第九講・第十講	
概要	ディスカッションについて学ぶ II ①ブレーンストーミングとは ②あるテーマについてブレーンストーミングを体験する

事前,事後学習ポイント	ブレーンストーミングのルールを理解し、ディスカッションに臨むこと		
詳細	ブレーンストーミングとしてのディスカッションを学ぶ		
第十一講・第十二講			
概要	ディスカッションについて学ぶII ある事例について、グループディスフ	ディスカッションについて学ぶ ある事例について、グループディスカッションを通じて現状分析し、解決策を見いだす。	
事前,事後学習ポイント	自分の意見を他人に伝え、他のメンバ	「一の意見をうまく引き出し、グループの意見をまとめることを心がける	
詳細	第4講、第5講の内容を踏まえてディ	(スカッションをし、グループごと発表	
第十三講・第十四講			
概要	ディベートについて学ぶ ①ディベートの特徴と流れ ②肯定側と否定側に分かれてディベー	- ト <i>の</i> 練習	
事前,事後学習ポイント	立論・反論組み立てる		
詳細	ディベートの目的、方法と技術について学ぶ		
第十五講・第十六講			
概要	ディベートについて学ぶ II 2つのグループに分かれて最終ディベ	ートを行う	
事前,事後学習ポイント	ディスカッションの手法を用いてグループ内での立論、反対尋問、最終弁論をまとめることを心がける		
詳細	グループAとBに分かれて、ディベートを行い、講師からフィードバック		
# A = 1 = 1	文字中型ナナマ		
教科書 / Textbook	適宜配布する		
指定図書 / Course Readings	なし		
参考文献・参考URL / Reference List	なし		

評価方法 / Method of Evaluation		
配分 (合計100%)	出席率30% 講義・議論参加度35% 各セッションの発表35%	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	上記評価方法配分合計の到達点、90%以上を原則とする 積極的に授業に参加し、日本語で自分の意見を論理的に述べることができること。また、グループ内でリーダー的役割を果たし、最善のアウトプットに導くことができる。	
評価「A」(89~80点):	上記評価方法配分合計の到達点、80%以上を原則とする 積極的に授業に参加し、日本語で自分の意見を論理的に述べることができること。グループのメンバーとコミュニケーションを積極的にとる。	
評価「B」(79~70点):	上記評価方法配分合計の到達点、70%以上を原則とする 積極的に授業に参加し、日本語で自分の意見を述べる努力をすること。グループディスカッションに積極的に参加する。	
評価「C」(69~60点):	上記評価方法配分合計の到達点、60%以上を原則とするまじめに授業に参加し、日本語で自分の意見を述べる努力をすること。	
評価「F」(59点以下):	上記評価方法配分合計の到達点、60%未満を原則とする	

評価「F」(59点以下):	上記評価万法配分合計の到達点、60%未満を原則とする
留意点 / Additional Information	なし

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	ビジネスジャパニーズ		
サブタイトル / Sub Title	ビジネス文書の基礎技術		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Business Japanese II		
教員 / Instructor	宋 岩群	E-mail	song-y@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	留学生支援	単位数 / Credits	1単位

講義目的 / Aim of Course	日本での成功の基礎である、ビジネスジャパニ	ーズの基礎技術を身につけるこ	とを目的とする。
到達目標 / Course Goals	DP4:「表現と技能」を達成するために、ビジ いや敬語などの表現面、及び情報や分析結果を		
授業形態 / Form of Class	講義、グループワーク、プレゼンテーション、双方向、グループワーク、グループディスカッション	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

テーマ:

- 1) 第7・8講まで学習した内容を活用し、決まったテーマから一つ選択して、第9・10講に解説するためのメール文を作成する(予習・復習1時間程度)
- 2) プレゼンテーションに備え、データ収集及びプレゼンテーション資料の作成を行うこと (予習・復習2時間程度)

	() 了自 · 该自 Z 时间任反 /	
授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	ビジネス文書の全体像	
事前,事後学習ポイント	ビジネス文書に対するイメージ	
詳細	タイプ別に解説する ①社内/社外向け公文書 ②メール文 ③プレゼンテーション資料	
第三講・第四講		
概要	言葉で伝える①:表記	
事前,事後学習ポイント	日本語のフォント、記号、レイアウト	
詳細	①読みやすい文字の選び ②的確な記号の使い方 ③見やすいレイアウトの組み方 ④事例学習	
第五講・第六講		
概要	言葉で伝える②:表現	
事前,事後学習ポイント	日本語の接続詞、異字同訓	
詳細	①ビジネス文書にふさわしい接続詞 ②異字同訓について ③事例学習	
第七講・第八講		
概要	適切な敬語	
事前,事後学習ポイント	謙譲語、尊敬語、丁寧語	
詳細	①敬意の表現が過剰になってはいけない ②なんでも「お、ご/御」をつければいいのか ③「させていただく」はいつ使える?	
第九講・第十講		
概要	メール文の解説	
事前,事後学習ポイント	事前課題 三つのテーマより一つ選び、メール文を作成し、講師に送る。	

	①多摩株式会社の営業要員に応募したく、応募書類を送付する ②多摩株式会社人事部より一次選考を通過し、二次面接の連絡を受け、承諾する ③予定していた面接日の前日に、体調不良により、面接日の変更可否を問い合わせる	
詳細	課題(メール文)への解説。	
第十一講・第十二講		
概要	プレゼンテーションの仕方	
事前,事後学習ポイント	統計データのグラフ化	
詳細	①プレゼンテーションの基礎知識②効果的な図形の活用③シナリオを考える④最終プレゼンテーションに向けての準備	
第十三講・第十四講		
概要	プレゼンテーション実践①	
事前,事後学習ポイント	事前課題 下記のテーマより一つ選んで、プレゼンテーション資料を作成し、発表する。 テーマ ①私と日本 ②多摩大学で学びたいこと ③卒業後の展望	
詳細	第1·2講から第11·12講まで習得したものを活用して、プレゼンテーション資料を作成し、発表する。 全員発表し、講師よりフィードバック。	
第十五講・第十六講		
概要	プレゼンテーション実践②	
事前,事後学習ポイント	事前課題 下記のテーマより一つ選んで、プレゼンテーション資料を作成し、発表する。 テーマ ①私と日本 ②多摩大学で学びたいこと ③卒業後の展望	
詳細	第1·2講から第11·12講まで習得したものを活用して、プレゼンテーション資料を作成し、発表する。 全員発表し、講師よりフィードバック。	
教科書 / Textbook	適宜配布する	
指定図書 / Course Readings	なし	
参考文献・参考URL / Reference List	講義内で適宜案内する	

歌压士法 / Mathod of Fugluation		
評価方法 / Method of Evaluation		
配分 (合計100%)	出席及びディスカッションへの参加合せて40%、課題提出30%、最終プレゼンテーション30%	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	漢字やレイアウトなどの正しい表記及び正しい表現を身につけ、情報や分析結果を活用したビジネスジャパニーズによって、自身の考えを表現でき、相手に十分理解させることができる。更に、相手の意見及び見解を理解し、双方向のコミュニケーションが可能である。	
評価「A」(89~80点):	漢字やレイアウトなどの正しい表記及び正しい表現を身につけ、情報や分析結果を活用したビジネスジャパニーズによって、自身の考えを表現でき、相手に十分理解させることができる。	
評価「B」(79~70点):	漢字やレイアウトなどの正しい表記及び正しい表現を身につけ、情報や分析結果を活用したビジネスジャパニーズによって、自身の考えを一程度の表現ができ、伝えることができる。相手の意見もある程度理解できる。	
評価「C」(69~60点):	漢字やレイアウトなどの正しい表記及び正しい表現を身につけ、情報や分析結果を活用したビジネスジャパニーズによって、自身の考えを一程度の表現ができ、伝えることができる。	
評価「F」(59点以下):	漢字やレイアウトなどの正しい表記及び正しい表現を身につけているが、相手が理解出来る記述論述のレベルに到達していない。	

Reference List

留意点 / Additional Information	
---------------------------------	--

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	論文スタートアップ丨		
サブタイトル / Sub Title	留学生修士論文・実践知論文の前指導		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Article Startup I		
教員 / Instructor	劉麗娜	E-mail	mizukisumaru11@yahoo.co.jp
科目群 / Course Classification	留学生支援	単位数 / Credits	1単位

講義目的 / Aim of Course	外国人にとって日本語で文書を書くことにハードルが存在し、論文にまとめることとなると尚更難しくなる。そこで一人一人の国や経験を踏まえ、論文作成に必要な独自な問題提起、先行文献の検索方法、仮設や検証方法など講義を通じて論文の方向性を気付かせ、枠組みを構築し、作成の手助けとなるのが目的。		
到達目標 / Course Goals	多摩大学大学院の教育理念である「知の再武装」とディプロマポリシーでのDP2:「思考と判断」を達成するために、論理的構造が明確な修士論文または、実践知論文の作成(仮説を立て、文献調査とフィールドワーク調査をもとに検証、分析し考察)に当たり、以下の7項目について、評価できる論文作成を行えることを求める。 (1) 問題意識と課題設定(2) 先行研究(3) 事実調査(4) 切り口と論理展開(5) オリジナリティ(6) 説得性(7) 未解明なことへの貢献、ビジネスに対する有用性		
授業形態 / Form of Class	講義、プレゼンテーション、グループディス カッション	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

事前学習:自身の経験や今後の方向性を踏まえ、日頃から好奇心を働かせ、様々な業界の中から自分の主となる強みを確立させ、授業時に自分が興味を持つことについて紹介し、徐々に論文の方向性を決めて、論文については発表していただく。(所要時間:2時間程度)事後学習:発表内容を深堀してさらに広げて情報収集していく。(所要時間:2時間程度)

授業の概要 / Course Descript	tion	
第一講・第二講		
概要	論文演習に関するガイダンス①を行う。	
事前,事後学習ポイント	今までの社会経験を踏まえた問題提起を羅列	
詳細	教員による個人面談を行い、問題意識や得意分野を確認し、適宜アドバイスを	行う。
第三講・第四講		
概要	論文に関するガイダンス②を行う。	
事前,事後学習ポイント	問題設定から論文作成に必要な基礎知識の共有	
詳細	教員による論文の構成、先行文献の検索方法、仮設や注意事項などについての	共有
第五講・第六講		
概要	先輩たちの論文を分析①	
事前,事後学習ポイント	自分が興味を持つ分野から他者の論文を解読	
詳細	本校或いは他校の論文を読み、その構成から自身の課題をより具現化できるよ	うに手掛ける。
第七講・第八講		
概要	先輩たちの論文を分析②	
事前,事後学習ポイント	自分が興味を持つ分野から他者の論文を解読	
詳細	本校或いは他校の論文を読み、その構成から自身の課題をより具現化できるよ	うに手掛ける。
第九講・第十講		
概要	サークル形式による全体の発表と研究テーマに関する個別指導を行う。	
事前,事後学習ポイント	研究テーマに関する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた発表資料	の作成
詳細	受講生による発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスを行う。発表者は参考となる部分をピックアップして 自身の論文に活かす。	
第十一講・第十二講		
概要	サークル形式による全体の発表と研究テーマに関する個別指導を行う。	
事前,事後学習ポイント	研究テーマに関する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた発表資料	の作成

詳細	受講生による発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスを行う。発表者は参考となる部分をピックアップして 自身の論文に活かす。	
第十三講・第十四講		
概要	サークル形式による全体の発表	と研究テーマに関する個別指導を行う。
事前,事後学習ポイント	研究テーマに関する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた発表資料の作成	
詳細	受講生による発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスを行う。発表者は参考となる部分をピックアップして 自身の論文に活かす。	
第十五講・第十六講		
概要	サークル形式による全体の発表と研究テーマに関する個別指導を行う。	
事前,事後学習ポイント	研究テーマに関する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた発表資料の作成	
詳細	受講生による発表に対し、教員 自身の論文に活かす。	とメンバーからコメントやアドバイスを行う。発表者は参考となる部分をピックアップして

教科書 / Textbook	教科書や図書は特に定めはないが、随時紹介する。	
指定図書 / Course Readings	枚科書や図書は特に定めはないが、随時紹介する。	
参考文献・参考URL / Reference List	先輩たちの論文を少なくても5部読んで分析する。 観光庁や経産省などの公的機関データを確認。	

評価方法 / Method of Evaluation		
配分 (合計100%)	出席率(30%)授業内での議論参加(30%)演習成果及び報告(40%)	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	授業内で学んだことを活かし、自身の問題意識に対し、先行研究や事実調査などを経て課題設定及び検証をし、説得性かつ 有用性のある論文の枠組みができること。また、自身の論文のみならず、同クラス他者の発表へ助言を惜しまない。	
評価「A」(89~80点):	授業内で学んだことを活かし、自身の問題意識に対し、先行研究や事実調査などを経て課題設定及び検証をし、説得性かつ 有用性のある論文の枠組みができる。	
評価「B」(79~70点):	論文の枠組みが理解してある。かつ、自身の問題意識に対し、先行研究や事実調査をし、課題設定及び検証ができる。	
評価「C」(69~60点):	論文の枠組みが理解してある。かつ、自身の問題意識に対し、先行研究や事実調査をしたが、課題設定や仮説検証が不十分。	
評価「F」(59点以下):	論文の枠組みが理解しているが、自身の問題意識や課題設定ができない。	

留意点 / Additional	自分の論文発表だけではなく、他の受講者が発表しているときも、きちんと確認し、考え方や発表、資料作成方法などを学	
Information	びながらアドバイスすること。	

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	論文スタートアップ川		
サブタイトル / Sub Title	留学生修士論文・実践知論文の前指導		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Article startup II		
教員 / Instructor	劉麗娜	E-mail	mizukisumaru11@yahoo.co.jp
科目群 / Course Classification	留学生支援	単位数 / Credits	1単位

講義目的 / Aim of Course	外国人にとって日本語で文書を書くことにハードルが存在し、論文にまとめることとなると尚更難しくなる。そこで一人一 人の国や経験を踏まえ、論文作成に必要な独自な問題提起、先行文献の検索方法、仮設や検証方法など講義を通じて論文の 方向性を気付かせ、枠組みを構築し、論文作成の手助けとなるのが目的。		
到達目標 / Course Goals	多摩大学大学院の教育理念である「知の再武装」とディプロマポリシーでのDP2:「思考と判断」を達成するために、論理的構造が明確な修士論文または、実践知論文の作成(仮説を立て、文献調査とフィールドワーク調査をもとに検証、分析し考察)に当たり、以下の7項目について、評価できる論文作成を行えることを求める。 (1) 問題意識と課題設定(2) 先行研究(3) 事実調査(4) 切り口と論理展開(5) オリジナリティ(6) 説得性(7) 未解明なことへの貢献、ビジネスに対する有用性		
授業形態 / Form of Class	講義、プレゼンテーション、グループディス カッション	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

概要

事前,事後学習ポイント

事前学習:自身の経験や今後の方向性を踏まえ、日頃から好奇心を働かせ、様々な業界において自分の主となる強みを確立させ、授業時に自分の気づきについて紹介し、徐々に論文の方向性を決めて、論文については発表していただく。(所要時間:2時間程度)

事後学習:発表内容を深堀してさらに広げて情報収集していく。(所要時間:2時間程度)

		争後子白・光衣内谷で 木掘してきりに広りて 和秋果していて。 (別女时间・2时间住反)
授業の概要 / Course Descr	iption	
第一講・第二講		
概要	論文演習に関するガイダンス①	を行う。
事前,事後学習ポイント	今までの社会経験を踏まえた問	fl題提起を羅列
詳細	教員による個人面談を行い、問	問題意識や得意分野を確認し、適宜アドバイスを行う。
第三講・第四講		
概要	論文に関するガイダンス②を行	ŢĴ.
事前,事後学習ポイント	問題設定から論文作成に必要な	よ 基礎知識の共有
詳細	教員による論文の構成、先行文	x献の検索方法、仮設や注意事項などについての共有
第五講・第六講		
概要	先輩たちの論文を分析①	
事前,事後学習ポイント	自分が興味を持つ分野から他者の論文を解読	
詳細	本校或いは他校の論文を読み、	その構成から自身の課題をより具現化できるように手掛ける。
第七講・第八講		
概要	先輩たちの論文を分析②	
事前,事後学習ポイント	自分が興味を持つ分野から他者	台の論文を解読
詳細	本校或いは他校の論文を読み、	その構成から自身の課題をより具現化できるように手掛ける。
第九講・第十講		
概要	サークル形式による全体の発表	長と研究テーマに関する個別指導を行う。
事前,事後学習ポイント	研究テーマに関する参考資料や	Pデータ、情報の収集、分析に基づいた発表資料の作成
詳細	受講生による発表に対し、教員 自身の論文に活かす。	しとメンバーからコメントやアドバイスを行う。発表者は参考となる部分をピックアップして
第十一講・第十二講		
		1

研究テーマに関する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた発表資料の作成

サークル形式による全体の発表と研究テーマに関する個別指導を行う。

詳細	受講生による発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスを行う。発表者は参考となる部分をピックアップして 自身の論文に活かす。	
第十三講・第十四講		
概要	サークル形式による全体の発表と研究テーマに関する個別指導を行う。	
事前,事後学習ポイント	研究テーマに関する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた発表資料の作成	
詳細	受講生による発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスを行う。発表者は参考となる部分をピックアップして 自身の論文に活かす。	
第十五講・第十六講		
概要	サークル形式による全体の発表と研究テーマに関する個別指導を行う。	
事前,事後学習ポイント	研究テーマに関する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた発表資料の作成	
詳細	受講生による発表に対し、教員とメンバーからコメントやアドバイスを行う。発表者は参考となる部分をピックアップして 自身の論文に活かす。	

教科書 / Textbook	教科書や図書は特に定めはないが、随時紹介する。
指定図書 / Course Readings	教科書や図書は特に定めはないが、随時紹介する。
参考文献・参考URL / Reference List	先輩たちの論文を少なくても5部読んで分析する。 観光庁や経産省などの公的機関データを確認。

評価方法 / Method of Evaluation		
配分 (合計100%)	出席率(30%)授業内での議論参加(30%)演習成果及び報告(40%)	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	授業内で学んだことを活かし、自身の問題意識に対し、先行研究や事実調査などを経て課題設定及び検証をし、説得性かつ 有用性のある論文の枠組みができること。また、自身の論文のみならず、同クラス他者の発表へ助言を惜しまない。	
評価「A」(89~80点):	授業内で学んだことを活かし、自身の問題意識に対し、先行研究や事実調査などを経て課題設定及び検証をし、説得性かつ 有用性のある論文の枠組みができる。	
評価「B」(79~70点):	論文の枠組みが理解してある。かつ、自身の問題意識に対し、先行研究や事実調査をし課題設定及び検証ができる。	
評価「C」(69~60点):	論文の枠組みが理解してある。かつ、自身の問題意識に対し、先行研究や事実調査をしたが、課題設定や仮説検証が不十分。	
評価「F」(59点以下):	論文の枠組みが理解しているが、自身の問題意識や課題設定ができない。	

留意点 / Additional	自分の論文発表にだけではなく、他の受講者が発表しているときも、きちんと確認し、考え方や発表、資料作成方法などを	
Information	学びながらアドバイスすること。	

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	留学生のためのビジネス日本地理・日本史I		
サブタイトル / Sub Title	日本のビジネスパーソンとコミュニケーション	をとるための基礎知識	
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Introduction of Japanease Geography and Japanease Historyl		
教員 / Instructor	瀧川 浩人	E-mail	takikawa@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	留学生支援	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	グローバル社会を意識し、自然と人間社会・国際社会との関わりを基盤に、ビジネスコミュニケーションツールとして、日本語・日本地理・日本史を学修する。本講義では、日々の"生きたニュース"を多数取り上げ、日本の状況を正しく理解し、学び通じて得た知見を「知恵」として、自己変容を体感し、日本企業で活躍できる力を醸成する。留学生が資質・能力を身につけるために、「論理的思考が重要」という行動規定に囚われず、地理・歴史を通じて「日本を理解することが楽しい」「社会のために日本企業を通じてやりたいことがある」という向上心を抱かせる。
到達目標 / Course Goals	日本地理・日本史に関する基礎知識の学修することにより、ディプロマポリシーにあるDP1:「知識と理解」を確実なものとする。また、十分な日本語と、異文化として日本の風土・文化を理解することで、DP3:「意欲と関心」を高め、DP4:「表現と技能」とDP5:「志」を磨き、日本企業で活躍できる人格形成を構築することを到達目標とする。
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、グループ 学外学習 / Off-Campus Learning なし

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体

- 1. 講義の予習、最新の新聞の精読とニュースのまとめ(毎回3時間程度)
 2. 講義内容のふりかえりと小テストの準備(毎回1.5時間程度)

的な学習内容	2. 講義内容のふりかえりとホテストの準備(毎回1.5時間程度) 3. 授業参画レポート作成(毎回1時間程度)	
授業の概要 / Course Desc	printion	
	inpuon	
第一講・第二講		
概要	オリエンテーション・関東地方の都県名・47都道府県と県庁所在地	
事前,事後学習ポイント	事前学習:新聞の精読とニュースのまとめ(第2講より) 事後学習:授業感想のレポート提出及び講義内容の復習	
詳細	受講生・教員の自己紹介とオリエンテーション(講義目的、到達目標の確認、授業の進め方、予習・復習の内容、レポート提出、ビジネスレター作成、参考文献の紹介等)を行う。 東京と関東地方の都県名と位置を理解する。また、47都道府県と県庁所在地を学ぶ。授業のポイント及び授業参画レポートを添削し、フィードバックを行う。	
第三講・第四講		
概要	日本の旅行・温泉地	
事前,事後学習ポイント	事前学習:新聞の精読とニュースのまとめ、日本での旅行先についてのプレゼンテーション 事後学習:授業感想のレポート提出及び講義内容の復習	
詳細	前講義の学修到達度を確認する小テストを行う。 受講生による日本での旅行先についてのプレゼンテーションを行い、その地の魅力について解説を加える。 全国の有名な温泉地を紹介するとともに、九州地方に有数の温泉地が広がる要因を探る。 また、コロナウイルスによるインバウンドの影響と、それに伴う問題解決に向けた企業の様々な対応についてディスカッションを行う。 授業のポイント及び授業参画レポートを添削し、フィードバックを行う。	
第五講・第六講		
概要	日本の時代・日本紙幣	
事前,事後学習ポイント	事前学習:新聞の精読とニュースのまとめ、日本紙幣の登場人物についてのプレゼンテーション 事後学習:授業感想のレポート提出及び講義内容の復習	
	前講義の学修到達度を確認する小テストを行う。 日本の時代区分を先土器から令和まで学ぶ。	

事前,事後学習ポイント	事前学習:新聞の精読とニュースのまとめ、日本紙幣の登場人物についてのプレゼンテーション 事後学習:授業感想のレポート提出及び講義内容の復習
詳細	前講義の学修到達度を確認する小テストを行う。 日本の時代区分を先土器から令和まで学ぶ。 日本紙幣の登場人物を学ぶ。日本紙幣の登場人物について、受講生によるプレゼンテーションを行う。特に2024年の新紙幣 発行に伴い、「日本経済の父」渋沢栄一と現1万円の福沢諭吉に重点を置く。また、約20年をめどに紙幣デザインを変更する 理由についてディスカッションを行う。 授業のポイント及び授業参画レポートを添削し、フィードバックを行う。
第七講・第八講	

概要	四国地方・中国地方
事前,事後学習ポイント	事前学習:新聞の精読とニュースのまとめ

	事後学習:授業参画のレポート提出及び講義内容の復習		
詳細	前講義の学修到達度を確認する小テストを行う。 四国地方・中国地方について学ぶ。 授業のポイント及び授業参画レポートを添削し、フィードバックを行う。		
第九講・第十講			
概要	気候変動・近畿地方		
事前,事後学習ポイント	事前学習:新聞の精読とニュースのまとめ 事後学習:授業参画のレポート提出及び講義内容の復習		
詳細	前講義の学修到達度を確認する小テストを行う。 日本の気候と梅雨を学ぶ。近年毎年繰り返される「ゲリラ豪雨」について理解し、どのような問題が発生し、どのように問題解決を見出しているか、またCOP26を踏まえた国際ルールの枠組みに対し、中国・日本の立場についてディスカッションを行う。 近畿地方について学ぶ。 授業のポイント及び授業参画レポートを添削し、フィードバックを行う。		
第十一講・第十二講			
概要	事前学習:新聞の精読とニュースのまとめ 事後学習:授業参画のレポート提出及び講義内容の復習		
事前,事後学習ポイント	事前学習:新聞の精読とニュースのまとめ 事前学習:授業参画レポート提出及び講義内容の復習		
詳細	前講義の学修到達度を確認する小テストを行う。 「2020東京オリンピック・2022冬季北京オリンピックがもたらしたもの」を理解し、オリンピックと政治について、ロシア とウクライナの紛争を絡め様々な角度からディスカッションを行う。 また「1964東京オリンピックがもたらしたもの」をテーマに、戦後の高度経済成長を多岐に学ぶ。 授業のポイント及び授業参画レポートを添削し、フィードバックを行う。		
第十三講・第十四講			
概要	日本の夏の風物詩		
事前,事後学習ポイント	事前学習:新聞の精読とニュースのまとめ 事後学習:授業参画レポート提出及び講義内容の復習		
詳細	前講義の学修到達度を確認する小テストを行う。 日本の夏の風物詩、日本の祭りを紹介し、「ふるさと」という意味合いの理解を深める。 授業のポイント及び授業参画レポートを添削し、フィードバックを行う。		
第十五講・第十六講			
概要	第1講から第14講の講義内容の総合テスト		
事前,事後学習ポイント	事前学習:第1講から第14講の講義内容の総合テストの準備 事後学習:授業感参画レポート提出		
詳細	第1講から第14講の講義内容の復習として、漢字・日本地理・日本史の総合問題(80分)を実施する。 授業のポイント、授業参画レポート添削と総合テストのフィードバックを行う。		

教科書 / Textbook	適宜資料配布予定。	
指定図書 / Course Readings	なし。	
参考文献・参考URL / Reference List	【参考文献】 日本国勢図会(公益財団法人矢野恒太記念会) 経済は地理から学べ(宮路秀作著 ダイヤモンド社) 熱海の奇跡(市来広一郎著 東洋経済新報社) 一度読んだら絶対に忘れない日本史の教科書(山﨑圭一著 SBクリエイティブ) テーマ別だから理解が深まる日本史(山岸良二監修 朝日新聞出版) さかのぼり現代史(祝田秀全監修 朝日新聞出版) 日本経済新聞読み方の流儀(田中慎一著 明日香出版社) 考える力と情報力が身につく新聞の読み方(池上彰著 祥伝社) スーパー白地図(文英堂)・スーパー歴史年表(文英堂) 新聞・テレビ ニュースの日本語(The Japan Times)	

評価方法 / Method of Evaluation	
配分(合計100%) 授業参画レポート(30%)、授業内の発言・プレゼンテーション(20%)、授業理解度(50%)	
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A·」(100~90 点):	授業参画レポートに対し、提出期限を遵守し、フィードバック内容を的確に捉え、提出回を重ねるごとに表現力・志の力 (達成意欲)が特に優れてレベルアップしている。 授業準備が十分、かつ最新の新聞の精読・ニュースをまとめる理解力があり、日本語での表現力が特に優れて身についてい

	る。 プレゼンテーションのパワーポイントの作成にオリジナリティが見られ、教養力が特に優れて身についている。 異国の「日本」を理解することで、自身と価値観や考え方の異なる人々との言語運用能力が特に優れて身についている。 授業で取り扱う自然と人間社会・国際社会において的確な問題提起ができ、問題解決力が特に優れて身についている。 小テスト及び授業理解度が特に優れ、実践知を獲得する力が特に優れて身についている。
評価「A」(89~80点):	授業参画レポートに対し、提出期限を遵守し、フィードバック内容を的確に捉え、提出回を重ねるごとに表現力・志の力(達成意欲)が優れてレベルアップしている。 授業準備が十分、かつ最新の新聞の精読・ニュースをまとめる理解力があり、日本語での表現力が優れて身についている。 プレゼンテーションのパワーポイントの作成にオリジナリティが見られ、教養力が優れて身についている。 異国の「日本」を理解することで、自身と価値観や考え方の異なる人々との言語運用能力が優れて身についている。 授業で取り扱う自然と人間社会・国際社会において的確な問題提起ができ、問題解決力が優れて身についている。 小テスト及び授業理解度が優れ、実践知を獲得する力が優れて身についている。
評価「B」(79~70点):	授業参画レポートに対し、提出期限を遵守し、フィードバック内容を標準的に捉え、提出回を重ねるごとに改善努力をしている。 授業準備が十分、かつ最新の新聞の精読・ニュースをまとめる努力が見られ、日本語での表現力が標準的に身についている。 プレゼンテーションのパワーポイントの作成に努力が見られ、教養力が標準的に身についている。 異国の「日本」を理解する努力が見られ、自身と価値観や考え方の異なる人々との言語運用能力が標準的についている。 授業で取り扱う自然と人間社会・国際社会において一定の問題提起ができ、問題解決力が標準的に身についている。 小テスト及び授業理解度が標準的であり、実践知を獲得する努力が見られる。
評価「C」(69~60点):	授業参画レポートに対し、提出期限を遵守しているが、フィードバック内容に改善があまり見られず平均的である。 授業準備が十分、かつ最新の新聞の精読・ニュースをまとめるまでには達していないが、日本語での表現力を身につける努力が見られる。 プレゼンテーションのパワーポイントの作成及び発表内容が平均的であり、教養力を身につける努力が見られる。 異国の「日本」を理解する努力が見られ、自身と価値観や考え方の異なる人々との言語運用能力を身につける努力が見られる。 授業で取り扱う自然と人間社会・国際社会において問題提起と問題解決力を身につける努力が見られる。 小テスト及び授業理解度が標準的であり、実践知を獲得する努力が見られる。
評価「F」(59点以下):	授業参画度が低く、レポート内容が希薄である。 授業に対する予習が不十分であり、授業中の発言が消極的である。 プレゼンテーションの作成が不十分であり、発表内容が不十分である。 異国の「日本」を理解する努力が不十分であり、自身と価値観や考え方の異なる人々を理解する力と日本語でのコミュニケーション力が不足している。 授業で取り扱う自然と人間社会・国際社会において、問題提起に至っていない。 小テストの得点が概ね半分以下であり、授業内容を正しく理解できていない。

	留学生支援科目ではあるが、必修科目ではない。秋学期「Ⅱ」を履修することを前提として展開する。 第1講は、4月13日(水)とする。
	欠席・遅刻は、やむを得ない事情を除き認めない。
留意点 / Additional	予習・復習に相当な時間を要し、13回の小テストと1回の総合テストを課す。日本人ビジネスパーソンと対等にコミュニケー
Information	ションを取るためには、相当な努力が必要であり、日本企業で本気で活躍したいという「強い志」のある者を対象とした授
	業であることを理解の上、履修することを勧める。
	既履修者であっても、2021年度の「Ⅰ」・「Ⅱ」とは内容が異なる「知識と理解」が修得できるため、日本国内就職を目指
	す者には、聴講を認める場合がある(担当教員と事前相談必須)。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	留学生のためのビジネス日本地理・日本史II		
サブタイトル / Sub Title	日本のビジネスパーソンとコミュニケーションをとるための基礎知識		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Introduction of Japanease Geography and Japanease HistoryII		
教員 / Instructor	瀧川 浩人	E-mail	takikawa@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	留学生支援	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	グローバル社会を意識し、自然と人間社会・国際社会との関わりを基盤に、ビジネスコミュニケーションツールとして、日本語・日本地理・日本史を学修する。本講義では、日々の"生きたニュース"を多数取り上げ、日本の状況を正しく理解し、学び通じて得た知見を「知恵」として、自己変容を体感し、日本企業で活躍できる力を醸成する。留学生が資質・能力を身につけるために、「論理的思考が重要」という行動規定に囚われず、地理・歴史を通じて「日本を理解することが楽しい」「社会のために日本企業を通じてやりたいことがある」という向上心を抱かせる。		
到達目標 / Course Goals	日本地理・日本史に関する基礎知識の学修することにより、ディプロマポリシーにあるDP1:「知識と理解」を確実なものとする。また、十分な日本語と、異文化として日本の風土・文化を理解することで、DP3:「意欲と関心」を高め、DP4:「表現と技能」とDP5:「志」を磨き、日本企業で活躍できる人格形成を構築することを到達目標とする。		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、グループ ワーク、プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体

第五講・第六講

- 1. 講義の予習、最新の新聞の精読とニュースのまとめ(毎回3時間程度)
 2. 講義内容のふりかえりと小テストの準備(毎回1.5時間程度)

的な学習内容	3. 授業参画レポート作成(毎回1時間程度)	
授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	オリエンテーション・関東地方の都県名・47都道府県と県庁所在地	
事前,事後学習ポイント	事前学習:新聞の精読とニュースのまとめ(第2講より) 事後学習:授業感想のレポート提出及び講義内容の復習	
詳細	受講生・教員の自己紹介とオリエンテーション(講義目的、到達目標の確認、授業の進め方、予習・復習の内容、レポート 提出、ビジネスレター作成、参考文献の紹介等)を行う。 東京と関東地方の都県名と位置を理解する。また、47都道府県と県庁所在地を学ぶ。授業のポイント及び授業参画レポート を添削し、フィードバックを行う。	
第三講・第四講		
概要	日本の旅行・中部地方・稲作文化	
事前,事後学習ポイント	事前学習:新聞の精読とニュースのまとめ 日本での旅行先についてのプレゼンテーション	

事前,事後学習ポイント		自身が購入している「お米」の産地とブランド米について調べる。 事後学習:授業感想のレポート提出及び講義内容の復習
	詳細	前講義の学修到達度を確認するテストを行う。 受講生による日本での旅行先についてのプレゼンテーションを行い、その地の魅力について解説を加える。 中部地方について学ぶ。特に「世界のトヨタ」の自動車工業を中心とした中部工業地帯と日本の「コメ」の産地とブランド 米に重点をおく。また、日本の稲作文化を通じ、イノベーターシップを学ぶ。 授業のポイント及び授業参画レポートを添削し、フィードバックを行う。

概要	日本の時代・織豊政権・江戸時代	
事前,事後学習ポイント	事前学習:新聞の精読とニュースのまとめ 戦国時代の三英傑についてのプレゼンテーション 事後学習:授業感想のレポート提出及び講義内容の復習	
詳細	前講義の学修到達度を確認する小テストを行う。 留学生がゲームを通じて認知度の高い戦国時代の三英傑についてプレゼンテーションを行い、解説を加える。武家社会の成立から江戸時代が260年続く体制について学ぶ。 授業のポイント及び授業参画レポートを添削し、フィードバックを行う。	
第七講・第八講		

概要	関東地方
事前,事後学習ポイント	事前学習:新聞の精読とニュースのまとめ

	事後学習:授業参画のレポート提出及び講義内容の復習		
詳細	前講義の学修到達度を確認する小テストを行う。 関東地方を学ぶ。北関東に本社をおく企業を紹介する。 授業のポイント及び授業参画レポートを添削し、フィードバックを行う。		
第九講・第十講			
概要	江戸幕府滅亡・明治時代		
事前,事後学習ポイント	事前学習:新聞の精読とニュー 事後学習:授業参画のレポート		
詳細	前講義の学修到達度を確認する小テストを行う。 江戸時代がなぜ260年の歴史に幕を閉じることになったのかディスカッションを行う。 明治時代を学ぶ。 授業のポイント及び授業参画レポートを添削し、フィードバックを行う。		
第十一講・第十二講			
概要	東北地方・北海道地方		
事前,事後学習ポイント	事前学習:新聞の精読とニュースのまとめ 事前学習:授業参画レポート提出及び講義内容の復習		
詳細	前講義の学修到達度を確認する小テストを行う。 東北地方・北海道地方を学ぶ。 授業のポイント及び授業参画レポートを添削し、フィードバックを行う。		
第十三講・第十四講			
概要	流行語大賞/世相漢字・日本の	正月文化・神仏の相違点	
事前,事後学習ポイント	事前学習:新聞の精読とニュースのまとめ 事後学習:授業参画レポート提出及び講義内容の復習		
詳細	前講義の学修到達度を確認する小テストを行う。 2022度流行語大賞/世相漢字から、日本の2022年度を理解する。 日本の正月文化を紹介し、「ふるさと」という意味合いの理解を深める。 神道と仏教の相違点についてディスカッションを行う。 授業のポイント及び授業参画レポートを添削し、フィードバックを行う。		
第十五講・第十六講			
概要	第1講から第14講の講義内容の終	総合テスト	
事前,事後学習ポイント	事前学習:第1講から第14講の記事後学習:授業感参画レポート		
詳細	第1講から第14講の講義内容の復習として、漢字・日本地理・日本史の総合問題(80分)を実施する。 授業のポイント、授業参画レポート添削と総合テストのフィードバックを行う。		

教科書 / Textbook	適宜資料配布予定。
指定図書 / Course Readings	なし。
参考文献・参考URL / Reference List	【参考文献】 日本国勢図会(公益財団法人矢野恒太記念会) 経済は地理から学べ(宮路秀作著 ダイヤモンド社) 熱海の奇跡(市来広一郎著 東洋経済新報社) 一度読んだら絶対に忘れない日本史の教科書(山﨑圭一著 SBクリエイティブ) テーマ別だから理解が深まる日本史(山岸良二監修 朝日新聞出版) さかのぼり現代史(祝田秀全監修 朝日新聞出版) 日本経済新聞読み方の流儀(田中慎一著 明日香出版社) 考える力と情報力が身につく新聞の読み方(池上彰著 祥伝社) スーパー白地図(文英堂)・スーパー歴史年表(文英堂)

評価方法 / Method of Evaluation				
配分(合計100%)	授業参画レポート(30%)、授業内の発言・プレゼンテーション(20%)、授業理解度(50%)			
評価基準 / Evaluation Criteria	評価基準 / Evaluation Criteria			
評価基準/ Lvaluation Citteria				

	授業で取り扱う自然と人間社会・国際社会において的確な問題提起ができ、問題解決力が特に優れて身についている。 小テスト及び授業理解度が特に優れ、実践知を獲得する力が特に優れて身についている。
評価「A」(89~80点):	授業参画レポートに対し、提出期限を遵守し、フィードバック内容を的確に捉え、提出回を重ねるごとに表現力・志の力 (達成意欲)が優れてレベルアップしている。 授業準備が十分、かつ最新の新聞の精読・ニュースをまとめる理解力があり、日本語での表現力が優れて身についている。 プレゼンテーションのパワーポイントの作成にオリジナリティが見られ、教養力が優れて身についている。 異国の「日本」を理解することで、自身と価値観や考え方の異なる人々との言語運用能力が優れて身についている。 授業で取り扱う自然と人間社会・国際社会において的確な問題提起ができ、問題解決力が優れて身についている。 小テスト及び授業理解度が優れ、実践知を獲得する力が優れて身についている。
評価「B」(79~70点):	授業参画レポートに対し、提出期限を遵守し、フィードバック内容を標準的に捉え、提出回を重ねるごとに改善努力をしている。 授業準備が十分、かつ最新の新聞の精読・ニュースをまとめる努力が見られ、日本語での表現力が標準的に身についている。 プレゼンテーションのパワーポイントの作成に努力が見られ、教養力が標準的に身についている。 異国の「日本」を理解する努力が見られ、自身と価値観や考え方の異なる人々との言語運用能力が標準的についている。 授業で取り扱う自然と人間社会・国際社会において一定の問題提起ができ、問題解決力が標準的に身についている。 小テスト及び授業理解度が標準的であり、実践知を獲得する努力が見られる。
評価「C」(69~60点):	授業参画レポートに対し、提出期限を遵守しているが、フィードバック内容に改善があまり見られず平均的である。 授業準備が十分、かつ最新の新聞の精読・ニュースをまとめるまでには達していないが、日本語での表現力を身につける努力が見られる。 プレゼンテーションのパワーポイントの作成及び発表内容が平均的であり、教養力を身につける努力が見られる。 異国の「日本」を理解する努力が見られ、自身と価値観や考え方の異なる人々との言語運用能力を身につける努力が見られる。 授業で取り扱う自然と人間社会・国際社会において問題提起と問題解決力を身につける努力が見られる。 小テスト及び授業理解度が標準的であり、実践知を獲得する努力が見られる。
評価「F」(59点以下):	授業参画度が低く、レポート内容が希薄である。 授業に対する予習が不十分であり、授業中の発言が消極的である。 プレゼンテーションの作成が不十分であり、発表内容が不十分である。 異国の「日本」を理解する努力が不十分であり、自身と価値観や考え方の異なる人々を理解する力と日本語でのコミュニケーション力が不足している。 授業で取り扱う自然と人間社会・国際社会において、問題提起に至っていない。 小テストの得点が概ね半分以下であり、授業内容を正しく理解できていない。

留意点 / Additional Information	留学生支援科目ではあるが、必修科目ではない。春学期「I」を履修することを前提として展開する。 第1講は、9月28日(水)とする。 欠席・遅刻は、やむを得ない事情を除き認めない。 予習・復習に相当な時間を要し、13回のハテストと1回の総合テストを課す。日本人ビジネスパーソンと対等にコミュニケーションを取るためには、相当な努力が必要であり、日本企業で本気で活躍したいという「強い志」のある者を対象とした授業であることを理解の上、履修することを勧める。 既履修者であっても、2021年度の「I」・「II」とは内容が異なる「知識と理解」が修得できるため、日本国内就職を目指すまたは、暗護を認める場合がある(知当な品)を可能が必須)
	す者には、聴講を認める場合がある(担当教員と事前相談必須)。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	論文実践		
サブタイトル / Sub Title	留学生修士論文・実践知論文指導ゼミ		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Thesis Seminar I		
教員 / Instructor	齋藤 春光	E-mail	saito-h@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	留学生支援	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	修士論文を初めて書く人にとっては、論文作成作業を1人で行うことは容易ではない。課題・問題設定の方法、先行文献の探索、自身の課題・問題の深堀りの方法、仮設の設定、主張の詳述と分析方法や実際の論文作成のスケジュール管理、作法などを履修生お互いの発表と実践を通して習得する。			
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーにあるDP2:「思考と判断」を磨き、各種講義で学んだ実践知に基づく「イノベーターシップ」にあふれた挑戦的なテーマをまとめ、社会人として変革を起こしていくDP5:「志」やDP3:「関心と意欲」の底力をつける。これによりビジネスパーソンとしての自己キャリアを明確にし、次の段階への方向性について明確にできるようになる。また、多摩大学院にふさわしい実践と理論を取り入れた修士論文、実践知論文(特定課題研究論文)の完成を目指すために、以下の7項目について、評価できる論文作成を行えること。(1)問題意識と課題設定、(2)先行研究、(3)事実調査、(4)切り口と論理展開、(5)オリジナリティ、(6)説得性、(7)未解明なことへの貢献、ビジネスに対する有用性。			
授業形態 / Form of Class	プレゼンテーション、グループディスカッション、グループワーク	学外学習 / Off-Campus Learning	なし	

事前学習:問題定義・トピックの抽出、資料集め、先行研究探索、資料・調査研究、論文骨子作成、データつくり、論文文章作成などの各作成ステップでの研究、また予備審査会用PPT作成、最終試験用のPPT作成を論文作成スケジュールにより適宜行う。

事後学習:履修生それぞれの各作成ステップでの研究発表に対する教員、他の履修生からのアドバイスを参考とし、次のステップへ研究を進める。

	アドバイスを参考とし、次のステップへ研究を進める。 		
授業の概要 / Course Desc	ription		
第一講・第二講			
概要	論文演習に関するガイダンスを行う。		
事前,事後学習ポイント	課題・問題の設定から論文作成に関する基本的な知識を再確認するとともに、その時点で設定している研究テーマに関する プレゼンテーションを行う。 事前事後の学習時間は合計 3 時間とする。		
詳細	①教員の修士論文を事例に、課題・問題提議、先行研究、文献とフィールド調査、切り口と論理展開など修士論文の構造や作成スケジュールを紹介する。 ②履修生各自の自己紹介とその時点での研究テーマの発表を行う。 ③教員による個人面談を行い、研究テーマの設定状況や進捗状況を確認し適宜アドバイスを行う。		
第三講・第四講			
概要	サークル形式による全体での発表と研究テーマに関する個別指導を行う。履修期末に論文提出する院生は、予備審査会用の PPTによるプレゼンを行う。		
事前,事後学習ポイント	研究テーマに関連する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた発表資料の作成。 履修期末に論文提出する院生は、予備審査会用のPPT資料を作成し発表の準備をする。 事前事後の学習時間は3時間とする。		
詳細	履修生による研究発表に対し、教員と履修生からコメントやアドバイスを行う。発表者は、それを整理し、次回以降の発表に活かし論文作成に役立てる。		
第五講・第六講			
概要	サークル形式による全体での発表と研究テーマに関する個別指導を行う。		
事前,事後学習ポイント	前回指摘のあったコメントやアドバイスを反映した研究テーマに関連する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた 発表資料の作成。 事前事後の学習時間は3時間とする。		
詳細	履修生による研究発表に対し、教員と履修生からコメントやアドバイスを行う。発表者は、それを整理し、次回以降の発表 に活かし論文作成に役立てる。		
第七講・第八講			
概要	サークル形式による全体での発表と研究テーマに関する個別指導を行う。		
事前,事後学習ポイント	前回指摘のあったコメントやアドバイスを反映した研究テーマに関連する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた 発表資料の作成。		

	事前事後の学習時間は3時間とする。		
詳細	履修生による研究発表に対し、教員と履修生からコメントやアドバイスを行う。発表者は、それを整理し、次回以降の発表に活かし論文作成に役立てる。		
第九講・第十講			
概要	サークル形式による全体での発表と研究テーマに関する個別指導を行う。		
事前,事後学習ポイント	前回指摘のあったコメントやアドバイスを反映した研究テーマに関連する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた 発表資料の作成。 事前事後の学習時間は3時間とする。		
詳細	履修生による研究発表に対し、教員と履修生からコメントやアドバイスを行う。発表者は、それを整理し、次回以降の発表 に活かし論文作成に役立てる。		
第十一講・第十二講			
概要	サークル形式による全体での発表と研究テーマに関する個別指導を行う。		
事前,事後学習ポイント	前回指摘のあったコメントやアドバイスを反映した研究テーマに関連する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた 発表資料の作成。 事前事後の学習時間は3時間とする。		
詳細	履修生による研究発表に対し、教員と履修生からコメントやアドバイスを行う。発表者は、それを整理し、次回以降の発表 に活かし論文作成に役立てる。		
第十三講・第十四講			
概要	サークル形式による全体での発表と研究テーマに関する個別指導を行う。		
事前,事後学習ポイント	前回指摘のあったコメントやアドバイスを反映した研究テーマに関連する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた 発表資料の作成。 事前事後の学習時間は3時間とする。		
詳細	履修生による研究発表に対し、教員と履修生からコメントやアドバイスを行う。発表者は、それを整理し、次回以降の発表 に活かし論文作成に役立てる。		
第十五講・第十六講			
概要	総括・まとめ(最終発表)		
事前,事後学習ポイント	事前学習として、履修期末に論文提出する院生は、論文の進捗状況をまとめ授業の中で報告をできるよう準備する。更に論文のドラフト構成を最終試験に向けてPPT形式にまとめ、発表する準備を行う。履修期末に論文提出予定がない院生は、現時点での論文の内容、進捗状況をPPT形式で資料を作成し発表する準備を行う。		
詳細	履修生全員による研究成果の発表を行い、総括を行う。それに対して教員及び履修生からコメントやアドバイスを行う。履 修期末に論文提出する院生は、最終試験用PPT資料に、履修期末に論文提出予定がない院生は、作成中の論文に、役立て る。		

教科書 / Textbook	教科書は特に定めないが、適宜資料を配布する。		
指定図書 / Course Readings	指定図書は特に定めないが、適宜紹介する。		
参考文献・参考URL / Reference List	経済産業省HP: https://www.meti.go.jp/日本貿易振興機構HP: http://www.jetro.go.jp/wprld/asia/cn/日本財務省貿易統計HP: http://www.customs.go.jp/toukei/info/日本政府観光局HP: https://www.jnto.go.jp/jpn/ 「日本経済新聞」「東洋経済」「エコノミスト」「日経ビジネス」、CNN、BBC、WSJ等の新聞 他		

評価方法 / Method of Evaluation				
配分(合計100%)	履修期末に論文提出する院生:演習への取り組み態度(15%)、演習での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容 (25%)、作成した論文内容(30%) 履修期末に論文提出予定がない院生:演習への取り組み態度(30%)、演習での議論参加(40%)、プレゼンテーション 容(30%)			
評価基準 / Evaluation Criteria	評価基準 / Evaluation Criteria			
評価「A・」(100~90 点):	積極的に議論に参加し、他者への貢献に優れるとともに、プレゼンテーション内容が特に優れている。 履修期末に論文提出する院生においては、論文内容(1)~(7)の5項目が達成されている。			
評価「A」(89~80点):	授業内での議論に積極的に参加し、プレゼンテーション内容が優れている。 履修期末に論文提出する院生においては、論文内容(1)~(7)の4項目が達成されている。			
評価「B」(79~70点):	授業内での議論参加が標準的であり、プレゼンテーション内容が良い。 履修期末に論文提出する院生においては、論文内容(1)~(7)の3項目が達成されている。			
評価「C」(69~60点):	授業内の議論参加がやや弱く、プレゼンテーション内容が標準的。 履修期末に論文提出する院生においては、論文内容(1)~(7)の2項目が達成されている。			

評価「F」(59点以下): 授業内の議論参加が殆どなく、プレゼンテーション内容が不十分。 履修期末に論文提出する院生においては、論文内容(1)~(7)の項目がいずれも達成されていない。

留意点 / Additional Information Additional Information Abel の研究活動と論文作成支援が目的なので、授業には毎回出席し、全体発表、クラスディスカッション、論文の個別指導など、積極的に取り組むこと。また他の履修生へのアドバイス、コメントなどで気づきを導き貢献することを心がけること。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	論文実践Ⅱ		
サブタイトル / Sub Title	留学生修士論文・実践知論文指導ゼミ		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Thesis Seminar II		
教員 / Instructor	齋藤 春光	E-mail	saito-h@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	留学生支援	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	修士論文を初めて書く人にとっては、論文作成作業を1人で行うことは容易ではない。課題・問題設定の方法、先行文献の探索、自身の課題・問題の深堀りの方法、仮設の設定、主張の詳述と分析方法や実際の論文作成のスケジュール管理、作法などを履修生お互いの発表と実践を通して習得する。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーにあるDP2:「思考と判断」を磨き、各種講義で学んだ実践知に基づく「イノベーターシップ」にあふれた挑戦的なテーマをまとめ、社会人として変革を起こしていくDP5:「志」やDP3:「関心と意欲」の底力をつける。これによりビジネスパーソンとしての自己キャリアを明確にし、次の段階への方向性について明確にできるようになる。また、多摩大学院にふさわしい実践と理論を取り入れた修士論文、実践知論文(特定課題研究論文)の完成を目指すために、以下の7項目について、評価できる論文作成を行えること。(1)問題意識と課題設定、(2)先行研究、(3)事実調査、(4)切り口と論理展開、(5)オリジナリティ、(6)説得性、(7)未解明なことへの貢献、ビジネスに対する有用性。		
授業形態 / Form of Class	プレゼンテーション、グループディスカッション、グループワーク	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

事前学習:問題定義・トピックの抽出、資料集め、先行研究探索、資料・調査研究、論文骨子作成、データつくり、論文文章作成などの各作成ステップでの研究、また予備審査会用PPT作成、最終試験用のPPT作成を論文作成スケジュールにより適宜行う。

事後学習:履修生それぞれの各作成ステップでの研究発表に対する教員、他の履修生からのアドバイスを参考とし、次のステップへ研究を進める。

	アドバイスを参考とし、次のステップへ研究を進める。 	
授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	論文演習に関するガイダンスを行う。	
事前,事後学習ポイント	課題・問題の設定から論文作成に関する基本的な知識を再確認するとともに、その時点で設定している研究テーマに関する プレゼンテーションを行う。 事前事後の学習時間は合計 3 時間とする。	
詳細	①教員の修士論文を事例に、課題・問題提議、先行研究、文献とフィールド調査、切り口と論理展開など修士論文の構造や作成スケジュールを紹介する。 ②履修生各自の自己紹介とその時点での研究テーマの発表を行う。 ③教員による個人面談を行い、研究テーマの設定状況や進捗状況を確認し適宜アドバイスを行う。	
第三講・第四講		
概要	サークル形式による全体での発表と研究テーマに関する個別指導を行う。履修期末に論文提出する院生は、予備審査会用の PPTによるプレゼンを行う。	
事前,事後学習ポイント	研究テーマに関連する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた発表資料の作成。 履修期末に論文提出する院生は、予備審査会用のPPT資料を作成し発表の準備をする。 事前事後の学習時間は3時間とする。	
詳細	履修生による研究発表に対し、教員と履修生からコメントやアドバイスを行う。発表者は、それを整理し、次回以降の発表 に活かし論文作成に役立てる。	
第五講・第六講		
概要	サークル形式による全体での発表と研究テーマに関する個別指導を行う。	
事前,事後学習ポイント	前回指摘のあったコメントやアドバイスを反映した研究テーマに関連する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた 発表資料の作成。 事前事後の学習時間は3時間とする。	
詳細	履修生による研究発表に対し、教員と履修生からコメントやアドバイスを行う。発表者は、それを整理し、次回以降の発表 に活かし論文作成に役立てる。	
第七講・第八講		
概要	サークル形式による全体での発表と研究テーマに関する個別指導を行う。	
事前,事後学習ポイント	前回指摘のあったコメントやアドバイスを反映した研究テーマに関連する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた 発表資料の作成。	

	事前事後の学習時間は3時間とする。		
詳細	履修生による研究発表に対し、教員と履修生からコメントやアドバイスを行う。発表者は、それを整理し、次回以降の発表に活かし論文作成に役立てる。		
第九講・第十講			
概要	サークル形式による全体での発表と研究テーマに関する個別指導を行う。		
事前,事後学習ポイント	前回指摘のあったコメントやアドバイスを反映した研究テーマに関連する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた 発表資料の作成。 事前事後の学習時間は3時間とする。		
詳細	履修生による研究発表に対し、教員と履修生からコメントやアドバイスを行う。発表者は、それを整理し、次回以降の発表に活かし論文作成に役立てる。		
第十一講・第十二講			
概要	サークル形式による全体での発表と研究テーマに関する個別指導を行う。		
事前,事後学習ポイント	前回指摘のあったコメントやアドバイスを反映した研究テーマに関連する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた 発表資料の作成。 事前事後の学習時間は3時間とする。		
詳細	履修生による研究発表に対し、教員と履修生からコメントやアドバイスを行う。発表者は、それを整理し、次回以降の発表に活かし論文作成に役立てる。		
第十三講・第十四講			
既要	サークル形式による全体での発表と研究テーマに関する個別指導を行う。		
事前,事後学習ポイント	前回指摘のあったコメントやアドバイスを反映した研究テーマに関連する参考資料やデータ、情報の収集、分析に基づいた 発表資料の作成。 事前事後の学習時間は3時間とする。		
詳細	履修生による研究発表に対し、教員と履修生からコメントやアドバイスを行う。発表者は、それを整理し、次回以降の発表に活かし論文作成に役立てる。		
第十五講・第十六講			
 既要	総括・まとめ(最終発表)		
事前,事後学習ポイント	事前学習として、履修期末に論文提出する院生は、論文の進捗状況をまとめ授業の中で報告をできるよう準備する。更に論文のドラフト構成を最終試験に向けてPPT形式にまとめ、発表する準備を行う。履修期末に論文提出予定がない院生は、現時点での論文の内容、進捗状況をPPT形式で資料を作成し発表する準備を行う。		
詳細	履修生全員による研究成果の発表を行い、総括を行う。それに対して教員及び履修生からコメントやアドバイスを行う。履 修期末に論文提出する院生は、最終試験用PPT資料に、履修期末に論文提出予定がない院生は作成中の論文に、役立てる。		
数科書 / Textbook	教科書は特に定めないが、適宜資料を配布する。		

教科書 / Textbook	教科書は特に定めないが、適宜資料を配布する。	
指定図書 / Course Readings	指定図書は特に定めないが、随時紹介する。	
参考文献・参考URL / Reference List	経済産業省HP: https://www.meti.go.jp/日本貿易振興機構HP: http://www.jetro.go.jp/wprld/asia/cn/日本財務省貿易統計HP: http://www.customs.go.jp/toukei/info/日本政府観光局HP: https://www.jnto.go.jp/jpn/	

評価方法 / Method of Evaluat	ion
履修期末に論文提出する院生:演習への取り組み態度(15%)、演習での議論参加(30%)、プレゼンテーシ (25%)、作成した論文内容(30%) 履修期末に論文提出予定がない院生:演習への取り組み態度(30%)、演習での議論参加(40%)、プレゼンで容(30%)	
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A・」(100~90 点):	積極的に議論に参加し、他者への貢献に優れるとともに、プレゼンテーション内容が特に優れている。 履修期末に論文提出する院生においては、論文内容(1)~(7)の5項目が達成されている。
評価「A」(89~80点):	授業内での議論に積極的に参加し、プレゼンテーション内容が優れている。 履修期末に論文提出する院生においては、論文内容(1)~(7)の4項目が達成されている。
評価「B」(79~70点):	授業内での議論参加が標準的であり、プレゼンテーション内容が良い。 履修期末に論文提出する院生においては、論文内容(1)~(7)の3項目が達成されている。
評価「C」(69~60点):	授業内の議論参加がやや弱く、プレゼンテーション内容が標準的。 履修期末に論文提出する院生においては、論文内容(1)~(7)の2項目が達成されている。

評価「F」(59点以下):	授業内の議論参加が殆どなく、プレゼンテーション内容が不十分。	
	履修期末に論文提出する院生においては、論文内容(1)~(7)の項目がいずれも達成されていない。	

各自の研究活動と論文作成支援が目的なので、授業には毎回出席し、全体発表、クラスディスカッション、論文の個別指導など、積極的に取り組むこと。また他の履修生へのアドバイス、コメントなどで気づきを導き貢献することを心がけること。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	論文演習 2022春 河野		
サブタイトル / Sub Title			
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Thesis Seminar		
教員 / Instructor	河野 龍太	E-mail	kono-r@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	ある程度まとまった文章を書いた経験のない者にとり、論文作成の作業は一人では容易ではない。 そこで、 問題の設定の仕方、関連する先行文献の探索方法、自身の問題関心の深堀の仕方、仮説の設定、推論・考 察の進め 方、実証の方法、実際の論文作成の作法など、お互いの発表と実践を通して修得する。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーにあるDP2:「思考と判断」 た挑戦的なテーマをまとめ、社会人として変革 りビジネスパーソンとしての自己のキャリアを また、多摩大学大学院にふさわしい実践と理論 に、以下の7項目について、評価できる論文作 査、(4)切り口と論理展開、(5)オリジナリ	を起こしていくDP5:「志」やD 明確にし、次の段階への方向性 を取り入れた修士論文、実践知 成を行えること。(1)問題意詞	P3:「関心と意欲」の底力をつける。これによ について明確できるようになる。 論文(特定課題研究論文)の完成を目指すため 哉と課題設定、(2)先行研究、(3)事実調
授業形態 / Form of Class	グループディスカッション、プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

的な学習内容

準備学習(予習・復習等)に必要な時間に準じる程度の具体 自分の論文について準備発表するだけでなく、他のメンバーの発表についても理解しアドバ イスできるようにすること。

授業の概要 / Course Descr	iption	
第一講・第二講		
概要	論文演習の概要説明とメンバーの相互理解	
事前,事後学習ポイント	論文のテーマ設定や進め方など基本と全体像を理解する。 予習1時間程度、復習1時間程度	
詳細	当論文ゼミの方針や進行を理解する。メンバー相互について、個人のバックグラウンド、研究テーマ、問題意識、ゼミを通じた抱負などを理解する。	
第三講・第四講		
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表	
事前,事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる 予習1時間程度、復習1時間程度	
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアド バイス、クラス全体でのディスカッション。	
第五講・第六講		
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表	
事前,事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる 予習1時間程度、復習1時間程度	
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアド バイス、クラス全体でのディスカッション。	
第七講・第八講		
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表	
事前,事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる 予習1時間程度、復習1時間程度	
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアドバイス、クラス全体でのディスカッション。	
第九講・第十講		
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表、ディスカッション	
事前,事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる 予習1時間程度、復習1時間程度	

詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアドバイス、クラス全体でのディスカッション。	
第十一講・第十二講		
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表、ディスカッション	
事前,事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる 予習1時間程度、復習1時間程度	
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアド パイス、クラス全体でのディスカッション。	
第十三講・第十四講		
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表、ディスカッション	
事前,事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる 予習1時間程度、復習1時間程度	
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアドバイス、クラス全体でのディスカッション。	
第十五講・第十六講		
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表、ディスカッション	
事前,事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる 予習1時間程度、復習1時間程度	
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアド バイス、クラス全体でのディスカッション。	

教科書 / Textbook	適宜、講義内において紹介する
指定図書 / Course Readings	「情報生産者になる」上野千鶴子、筑摩新書 「社会科学系のための優秀論文作成術」川崎剛著、勁草書房 「超」文章法 (中公新書) 野口 悠紀雄 著、中公新書
参考文献・参考URL / Reference List	「創造的論文の書き方」伊丹敬之、有斐閣 「理科系の作文技術」木下是雄著、中公新書

評価方法 / Method of Evalua	tion
配分(合計100%)	履修期末に論文提出する院生:演習への取組態度(15%)、演習での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容(25%)、作成した論文内容(30%) 履修期末に提出予定でない院生:演習への取組態度(30%)、演習での議論参加(40%)、プレゼンテーション内容(30%)
評価基準 / Evaluation Criteri	a
評価「A・」(100~90 点):	積極的に議論に参加し、他者への貢献に優れるとともに、プレゼンテーションが特に優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で5項目が達成されている。
評価「A」(89~80点):	授業内での議論に積極的に参加し、プレゼンテーション内容が優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で4項目が達成されている。
評価「B」(79~70点):	授業内での議論参加が標準的であり、プレゼンテーション内容が良い。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で3項目が達成されている。
評価「C」(69~60点):	授業内での議論参加がやや弱く、プレゼンテーション内容が普通。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で2項目が達成されている。
評価「F」(59点以下):	取組態度が不良で、授業内での議論參加、プレゼンテーション内容が不十分。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)のいずれも達成されていない。

留意点 / Additional	各自の研究活動と論文作成の支援が目的なので、授業には毎回出席し、全体発表、クラスディスカッション、論文の個別指
Information	導など、積極的に取り組むこと。また、クラスメンバーへの助言などの貢献も心がけること。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	論文演習 2022秋 河野		
サブタイトル / Sub Title			
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Thesis Seminar		
教員 / Instructor	河野 龍太	E-mail	kono-r@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	ある程度まとまった文章を書いた経験のない者にとり、論文作成の作業は一人では容易ではない。 そこで、 問題の設定の仕方、関連する先行文献の探索方法、自身の問題関心の深堀の仕方、仮説の設定、推論・考 察の進め 方、実証の方法、実際の論文作成の作法など、お互いの発表と実践を通して修得する。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーにあるDP2:「思考と判断」 た挑戦的なテーマをまとめ、社会人として変革 りビジネスパーソンとしての自己のキャリアを また、多摩大学大学院にふさわしい実践と理論 に、以下の7項目について、評価できる論文作 査、(4)切り口と論理展開、(5)オリジナリ	を起こしていくDP5:「志」やD 明確にし、次の段階への方向性 を取り入れた修士論文、実践知 成を行えること。(1)問題意詞	P3:「関心と意欲」の底力をつける。これによ について明確できるようになる。 論文(特定課題研究論文)の完成を目指すため 哉と課題設定、(2)先行研究、(3)事実調
授業形態 / Form of Class	グループディスカッション、プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

自分の論文について準備発表するだけでなく、他のメンバーの発表についても理解しアドバイスできるようにすること。

授業の概要 / Course Descrip	otion	
第一講・第二講		
概要	論文演習の概要説明とメンバーの相互理解	
事前,事後学習ポイント	論文のテーマ設定や進め方など基本と全体像を理解する。 予習1時間程度、復習1時間程度	
詳細	当論文ゼミの方針や進行を理解する。メンバー相互について、個人のバックグラウンド、研究テーマ、問題意識、ゼミを通 じた抱負などを理解する。	
第三講・第四講		
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表	
事前,事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる 予習1時間程度、復習1時間程度	
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアド バイス、クラス全体でのディスカッション。	
第五講・第六講		
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表	
事前,事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる 予習1時間程度、復習1時間程度	
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアド バイス、クラス全体でのディスカッション。	
第七講・第八講		
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表	
事前,事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる 予習1時間程度、復習1時間程度	
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアドバイス、クラス全体でのディスカッション。	
第九講・第十講		
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表、ディスカッション	
事前,事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる 予習1時間程度、復習1時間程度	

詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアド バイス、クラス全体でのディスカッション。	
第十一講・第十二講		
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表、ディスカッション	
事前,事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる 予習1時間程度、復習1時間程度	
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアドバイス、クラス全体でのディスカッション。	
第十三講・第十四講		
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表、ディスカッション	
事前,事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる 予習1時間程度、復習1時間程度	
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアド バイス、クラス全体でのディスカッション。	
第十五講・第十六講		
概要	各自の研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表、ディスカッション	
事前,事後学習ポイント	教員やクラスメンバーからのコメントやアドバイスを整理し、論文作成に適宜取り入れる 予習1時間程度、復習1時間程度	
詳細	各自の論文テーマに基づいたプレゼンテーション、教員による課題指摘等のフィードバック、ゼミ生によるコメントやアドバイス、クラス全体でのディスカッション。	

教科書 / Textbook	適宜、講義内において紹介する
指定図書 / Course Readings	「情報生産者になる」上野千鶴子、筑摩新書 「社会科学系のための優秀論文作成術」川崎剛著、勁草書房 「超」文章法 (中公新書) 野口 悠紀雄 著、中公新書
参考文献・参考URL / Reference List	「創造的論文の書き方」伊丹敬之、有斐閣 「理科系の作文技術」木下是雄著、中公新書

評価方法 / Method of Evalua	tion
配分(合計100%)	履修期末に論文提出する院生:演習への取組態度(15%)、演習での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容(25%)、作成した論文内容(30%) 履修期末に提出予定でない院生:演習への取組態度(30%)、演習での議論参加(40%)、プレゼンテーション内容(30%)
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A·」(100~90 点):	積極的に議論に参加し、他者への貢献に優れるとともに、プレゼンテーションが特に優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で5項目が達成されている。
評価「A」(89~80点):	授業内での議論に積極的に参加し、プレゼンテーション内容が優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で4項目が達成されている。
評価「B」(79~70点):	授業内での議論参加が標準的であり、プレゼンテーション内容が良い。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で3項目が達成されている。
評価「C」(69~60点):	授業内での議論參加がやや弱く、プレゼンテーション内容が普通。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で2項目が達成されている。
評価「F」(59点以下):	取組態度が不良で、授業内での議論參加、プレゼンテーション内容が不十分。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)のいずれも達成されていない。

留意点 / Additional	各自の研究活動と論文作成の支援が目的なので、授業には毎回出席し、全体発表、クラスディスカッション、論文の個別指
Information	導など、積極的に取り組むこと。また、クラスメンバーへの助言などの貢献も心がけること。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	論文演習 2022春 宇佐美【CFP】		
サブタイトル / Sub Title	テーマ選択から論文執筆まで		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Thesis Seminar		
教員 / Instructor	宇佐美 洋	E-mail	usami@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	2単位

	-,		
講義目的 / Aim of Course	ある程度まとまった文章を書いた経験のない者にとり、論文作成の作業は一人では容易ではない。 そこで、 問題の設定の仕方、関連する先行文献の探索方法、自身の問題関心の深堀の仕方、仮説の設定、推論・考察の進め 方、実証の方法、実際の論文作成の作法など、お互いの発表と実践を通して修得する。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーにあるDP2:「思考と判断」 た挑戦的なテーマをまとめ、社会人として変革 りビジネスパーソンとしての自己のキャリアを また、多摩大学大学院にふさわしい実践と理論 に、以下の7項目について、評価できる論文作 査、(4)切り口と論理展開、(5)オリジナリ	を起こしていくDP5:「志」やD 明確にし、次の段階への方向性 を取り入れた修士論文、実践知 成を行えること。(1)問題意誰	P3:「関心と意欲」の底力をつける。これによについて明確できるようになる。 論文(特定課題研究論文)の完成を目指すため 後と課題設定、(2)先行研究、(3)事実調
授業形態 / Form of Class	プレゼンテーション、ディベート、グループ ディスカッション	学外学習 / Off-Campus Learning	無し

授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	論文の対象・主題・テーマ 修論のテーマは卒業後も「雪だるま」のように大きく育つ。「小さく生んで大きく育つ」の方針でのぞむのが大事。	
事前,事後学習ポイント	教科書に沿って説明するので、事前に読んでおくこと。2時間	
詳細	「土地勘」のある領域でのテーマ選び 「入り口は狭いが、奥行きは深そうにみえる」対象が理想。 「面白そうで、不思議なところがある」テーマは好奇心を刺激。 タイトルは、読み手が「これを読むと何が分かるか」という視点で決める	
第三講・第四講		
概要	先行研究 探求のための「プラットフォーム」の見つけ方	
事前,事後学習ポイント	自分のテーマに沿った先行研究探索を開始する。3時間	
詳細	問題に「重ね書き」や、問題の「見立て」ができそうな枠組みはないか? 未知の学問分野に踏み込むことを畏れない。 複眼思考による組み合わせ	
第五講・第六講		
概要	仮説のつくり方 問題を詰め込んで、疲れ果て、散歩にでたり、寝たりすると、何かの拍子に「ひらめく」ことがあります。	
事前,事後学習ポイント	自分の仮説をいろいろと考えて試行錯誤する。3時間	
詳細	「発見的探索(Heuristics)」、「切り貼り細工(Bricolage)」、間違い・失敗(根本的な軌道修正)、「ひらめき (Serendipity)」	
第七講・第八講		
概要	論証 (考えを導く方法) まず結論や「ひらめき」があり、それから逆順で論証方法 (テーマによりさまざまです) を考える方が楽。	
事前,事後学習ポイント	教科書などを参照しながら、自分なりの論証方法を思考実験。2時間	
詳細	演繹(Deduction):トップダウンの論証で(真か偽か)、新しい視界を開いていく力はない。結論は正しいけど、新しいことは何も言っていない。 帰納(Induction):観察や事例の収集による規則性(飛躍がともなう)。結論は正しくないけど新しいことを言っている。 仮説形成(Abduction):名探偵の推理のように、想像力と仮説で推理する	

概要	ー 「仮説形成(abduction)、「演繹」とは異なり、「観察」から「推理」する方法		
事前,事後学習ポイント	教科書などを参照しながら、自分なりの論証(とくに仮説形成法)を思考実験。2時間		
詳細	結論は必然ではないが、手持ちの材料から判断するかぎり、もっとも蓋然性の高い仮説である。 		
第十一講・第十二講			
概要	論文書き方の留意点、読む人に分かりやすい文		
事前,事後学習ポイント	教科書で章の書きかたの基本を確認。2時間		
詳細	論理的で「一文一義」の文、パラグラフ・節・章の構成、接続詞の上手な使い方		
第十三講・第十四講			
概要	日本語との付き合い方 論理的な文を書くには、「外国語」のように日本語の構造をとらえる知識が必要		
事前,事後学習ポイント	教科書で文章を書く訓練。3時間		
詳細	文体は「である」「だ」で統一し、言い切る。分かりやすく論理的な文の鍵は、接続詞でのつながりの付け方。内容語は漢字に。機能語は平仮名。		
第十五講・第十六講			
概要	全体的な留意点 論文は内容だけではなく、「形式(裃の付け方)」も大事		
事前,事後学習ポイント	教科書全部を参照して「抜け」や形式の「間違い」がないかをチェック。3時間		
詳細	文章の質(文頭と文末の対応はとれているか。長すぎる文は含まれていないか。漢字・かな・カタカナの使い分けは一貫しているか。) 論文の形式(注の番号に重複や脱落はないか。引用のしかたが一貫しているか。参考文献表に記載漏れや過剰記載はないか。)		
教科書 / Textbook	『新版論文の教室』戸田山和久、NHK出版、2012年 『理科系の作文技術』木下是雄、中公新書、1981年		
指定図書 / Course Readings	各人のテーマに合わせて指示する。		
参考文献・参考URL / Reference List	各人のテーマに合わせて指示する。		
評価方法 $/$ Method of Evaluat	tion		
配分(合計100%)	履修期末に論文提出する院生:演習への取組態度(15%)、演習での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容(25%)、作成した論文内容(30%) 履修期末に提出予定でないもの:演習への取組態度(30%)、演習での議論参加(40%)、プレゼンテーション内容(30%)		
評価基準 / Evaluation Criteria			
評価「A・」(100~90 点):	積極的に議論に参加し、他者への貢献に優れるとともに、プレゼンテーションが特に優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で5項目が達成されている。		
評価「A」(89~80点):	授業内での議論に積極的に参加し、プレゼンテーション内容が優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で4項目が達成されている。		
評価「B」(79~70点):	授業内での議論参加が標準的であり、プレゼンテーション内容が良い。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で3項目が達成されている。		
評価「C」(69~60点):	授業内での議論参加が標準的であり、プレゼンテーション内容が良い。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で3項目が達成されている。		
評価「F」(59点以下):	授業内での議論参加が標準的であり、プレゼンテーション内容が良い。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で3項目が達成されている。		
留意点 / Additional	本講義はCFP®認定教育プログラムとなっている。 各自の研究活動と論文作成の支援が目的なので、授業には毎回出席し、全体発表、クラスディスカッション、論文の個別打 道がど、積極的に取り組むこと、また、クラスメンバーへの助意などの貢献も心がけること、悪くことに慣れていない者		

は、できるだけ早い機会に、教科書を読み、書く力を身につける努力をすること。

Information

導など、積極的に取り組むこと。また、クラスメンバーへの助言などの貢献も心がけること。書くことに慣れていない者

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	論文演習 2022秋 宇佐美【CFP】		
サブタイトル / Sub Title	テーマ選択から論文執筆まで		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Thesis Seminar		
教員 / Instructor	宇佐美 洋	E-mail	usami@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	ある程度まとまった文章を書いた経験のない者にとり、論文作成の作業は一人では容易ではない。 そこで、 問題の設定の仕方、関連する先行文献の探索方法、自身の問題関心の深堀の仕方、仮説の設定、推論・考察の進め 方、実証の方法、実際の論文作成の作法など、お互いの発表と実践を通して修得する。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーにあるDP2:「思考と判断」を磨き、各種講義で学んだ実践知に基づく「イノベーターシップ」にあふれた挑戦的なテーマをまとめ、社会人として変革を起こしていくDP5:「志」やDP3:「関心と意欲」の底力をつける。これによりビジネスパーソンとしての自己のキャリアを明確にし、次の段階への方向性について明確できるようになる。また、多摩大学大学院にふさわしい実践と理論を取り入れた修士論文、実践知論文(特定課題研究論文)の完成を目指すために、以下の7項目について、評価できる論文作成を行えること。(1)問題意識と課題設定、(2)先行研究、(3)事実調査、(4)切り口と論理展開、(5)オリジナリティ、(6)説得性、(7)未解明なことへの貢献、ビジネスに対する有用性		
授業形態 / Form of Class	プレゼンテーション、ディベート、グループ ディスカッション	学外学習 / Off-Campus Learning	無し

授業の概要 / Course Desc	ription	
第一講・第二講		
概要	論文の対象・主題・テーマ 修論のテーマは卒業後も「雪だるま」のように大きく育つ。「小さく生んで大きく育つ」の方針でのぞむのが大事。	
事前,事後学習ポイント	教科書に沿って説明するので、事前に読んでおくこと。2時間	
詳細	「土地勘」のある領域でのテーマ選び 「入り口は狭いが、奥行きは深そうにみえる」対象が理想。 「面白そうで、不思議なところがある」テーマは好奇心を刺激。 タイトルは、読み手が「これを読むと何が分かるか」という視点で決める	
第三講・第四講		
概要	先行研究 探求のための「プラットフォーム」の見つけ方	
事前,事後学習ポイント	自分のテーマに沿った先行研究探索を開始する。3時間	
詳細	問題に「重ね書き」や、問題の「見立て」ができそうな枠組みはないか? 未知の学問分野に踏み込むことを畏れない。 複眼思考による組み合わせ	
第五講・第六講		
概要	仮説のつくり方 問題を詰め込んで、疲れ果て、散歩にでたり、寝たりすると、何かの拍子に「ひらめく」ことがあります。	
事前,事後学習ポイント	自分の仮説をいろいろと考えて試行錯誤する。3時間	
詳細	「発見的探索(Heuristics)」、「切り貼り細工(Bricolage)」、間違い・失敗(根本的な軌道修正)、「ひらめき (Serendipity)」	
第七講・第八講		
概要	論証 (考えを導く方法) まず結論や「ひらめき」があり、それから逆順で論証方法 (テーマによりさまざまです) を考える方が楽。	
事前,事後学習ポイント	教科書などを参照しながら、自分なりの論証方法を思考実験。2時間	
詳細	演繹(Deduction):トップダウンの論証で(真か偽か)、新しい視界を開いていく力はない。結論は正しいけど、新しいことは何も言っていない。 帰納(Induction):観察や事例の収集による規則性(飛躍がともなう)。結論は正しくないけど新しいことを言っている。 仮説形成(Abduction):名探偵の推理のように、想像力と仮説で推理する	

既要	仮説形成(abduction)、「演繹」とは異なり、「観察」から「推理」する方法		
	数科書などを参照しながら、自分なりの論証(とくに仮説形成法)を思考実験。2時間		
事前,事後学習ポイント			
詳細 	結論は必然ではないが、手持ちの材料から判断するかぎり、もっとも蓋然性の高い仮説である。 		
第十一講・第十二講			
既要	論文書き方の留意点、読む人に分かりやすい文		
事前,事後学習ポイント	教科書で書きかたの基本を確認。2時間		
詳細	論理的で「一文一義」の文、パラグラフ・節・章の構成、接続詞の上手な使い方 		
第十三講・第十四講 			
既要	日本語との付き合い方論理的な文を書くには、「外国語」のように日本語の構造をとらえる知識が必要		
事前,事後学習ポイント	教科書2,4で文章を書く訓練。3時間		
詳細	文体は「である」「だ」で統一し、言い切る。分かりやすく論理的な文の鍵は、接続詞でのつながりの付け方。内容語は漢字に。機能語は平仮名。		
第十五講・第十六講			
既要	全体的な留意点 論文は内容だけではなく、「形式(裃の付け方)」も大事		
事前,事後学習ポイント	教科書全部を参照して「抜け」や形式の「間違い」がないかをチェック。3時間		
詳細	文章の質(文頭と文末の対応はとれているか。長すぎる文は含まれていないか。漢字・かな・カタカナの使い分けは一貫しているか。) 論文の形式(注の番号に重複や脱落はないか。引用のしかたが一貫しているか。参考文献表に記載漏れや過剰記載はないか。)		
枚科書 / Textbook	『新版論文の教室』戸田山和久、NHK出版、2012年 『理科系の作文技術』木下是雄、中公新書、1981年 1. 『新版論文の教室』戸田山和久、NHK出版		
指定図書 / Course Readings	各人のテーマに合わせて指示する。		
参考文献・参考URL / Reference List	各人のテーマに合わせて指示する。		
評価方法 / Method of Evaluatio	on		
配分(合計100%)	履修期末に論文提出する院生:演習への取組態度(15%)、演習での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容 (25%)、作成した論文内容 (30%) 履修期末に提出予定でないもの:演習への取組態度(30%)、演習での議論参加(40%)、プレゼンテーション内容 (30%)		
評価基準 / Evaluation Criteria			
評価「A・」(100~90 点):	積極的に議論に参加し、他者への貢献に優れるとともに、プレゼンテーションが特に優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で5項目が達成されている。		
評価「A」(89~80点):	授業内での議論に積極的に参加し、プレゼンテーション内容が優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で4項目が達成されている。		
評価「B」(79~70点):	授業内での議論参加が標準的であり、プレゼンテーション内容が良い。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で3項目が達成されている。		
評価「C」(69~60点):	授業内での議論参加が標準的であり、プレゼンテーション内容が良い。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で3項目が達成されている。		
評価「F」(59点以下):	授業内での議論参加が標準的であり、プレゼンテーション内容が良い。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で3項目が達成されている。		

は、できるだけ早い機会に、教科書を読み、書く力を身につける努力をすること。

導など、積極的に取り組むこと。また、クラスメンバーへの助言などの貢献も心がけること。書くことに慣れていない者

Information

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	論文演習 2022春 紺野		
サブタイトル / Sub Title	修士論文の論座		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Thesis Seminar		
教員 / Instructor	紺野 登	E-mail	konno-n@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	ある程度まとまった文章を書いた経験のない者にとり、論文作成の作業は一人では容易ではない。そこで、 問題の設定の仕方、関連する先行文献の探索方法、自身の問題関心の深堀の仕方、仮説の設定、推論・考察の進め方、実証の方法、実際の論文作成の作法など、お互いの発表と実践を通して修得する。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーにあるDP2:「思考と判断」を磨き、各種講義で学んだ実践知に基づく「イノベーターシップ」にあふれた挑戦的なテーマをまとめ、社会人として変革を起こしていくDP5:「志」やDP3:「関心と意欲」の底力をつける。これによりビジネスパーソンとしての自己のキャリアを明確にし、次の段階への方向性について明確できるようになる。また、多摩大学大学院にふさわしい実践と理論を取り入れた修士論文、実践知論文(特定課題研究論文)の完成を目指すために、以下の7項目について、評価できる論文作成を行えること。(1)問題意識と課題設定、(2)先行研究、(3)事実調査、(4)切り口と論理展開、(5)オリジナリティ、(6)説得性、(7)未解明なことへの貢献、ビジネスに対する有用性		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

授業の概要 / Course Descrip	tion	
第一講・第二講		
概要	修士論文とはなにか(ガイダンス)	
事前,事後学習ポイント	修士論文(dissertation)とは何か 事前・事後学習時間計3時間	
詳細	論文は自分自身の知識を概念化・体系化する作業	
第三講・第四講		
概要	論文作成者との対話、テーマ設定	
事前,事後学習ポイント	テーマの討議、RQ(Research Question) 事前・事後学習時間計3時間	
詳細	テーマ発見は論文作成の三大要素の一つ	
第五講・第六講		
概要	論文作成者による相互プレゼン、討議	
事前,事後学習ポイント	基本的な論文のコンセプト、先行研究など 事前・事後学習時間計3時間	
詳細	個人の頭だけからは良いコンセプトは生まれない	
第七講・第八講		
概要	論文作成者との対話、構成	
事前,事後学習ポイント	仮説、検証へのアプローチ 事前・事後学習時間計3時間	
詳細	第二の重要要素:仮説とは何か、できるだけ早くから取り組む検証	
第九講・第十講		
概要	論文作成者による相互プレゼン、討議	
事前,事後学習ポイント	論文の作成への展開 事前・事後学習時間計3時間	
詳細	第三の重要要素プレゼンテーションとは何か	
第十一講・第十二講		
概要	論文作成者との対話、構成	
事前,事後学習ポイント	どんな論文にするのか?自分のコンセプトは何か? 事前・事後学習時間計3時間	
詳細	(何回ものクイックプレゼンを行う)	

第十三講・第十四講		
概要	論文作成者との対話、構成、形成 (1)	
事前,事後学習ポイント	論文の作成、練磨 事前・事後学習時間計3時間	
詳細	論文作成者間による相互プレゼン、討議	
第十五講・第十六講		
概要	論文作成者との対話、構成、形成(2)	
事前,事後学習ポイント	論文の作成、練磨 事前・事後学習時間計3時間	
詳細	論文作成者間による相互プレゼン、討議	

教科書 / Textbook	適宜、講義資料を配布する。
指定図書 / Course Readings	・各自自分の特性にあった「マニュアル本」を見つけること ・各自自分の特性にあった他者の論文を探索、収集していくこと
参考文献・参考URL / Reference List	参考:修論説明資料 初回オリエンで配布

評価方法 / Method of Evaluation		
配分(合計100%)	履修期末に論文提出する院生:演習への取組態度(15%)、演習での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容(25%)、作成 た論文内容(30%) 履修期末に提出予定でないもの:演習への取組態度(30%)、演習での議論参加(40%)、プレゼンテーション内容(30%)	
評価基準 / Evaluation Criteria	а	
評価「A・」(100~90 点):	積極的に議論に参加し、他者への貢献に優れるとともに、プレゼンテーションが特に優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で5項目が達成されている。	
評価「A」(89~80点):	授業内での議論に積極的に参加し、プレゼンテーション内容が優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で4項目が達成されている。	
評価「B」(79~70点):	授業内での議論参加が標準的であり、プレゼンテーション内容が良い。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1) ~ (7) で3項目が達成されている。	
評価「C」(69~60点):	授業内での議論参加がやや弱く、プレゼンテーション内容が普通。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で2項目が達成されている。	
評価「F」(59点以下):	取組態度が不良で、授業内での議論參加、プレゼンテーション内容が不十分。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)のいずれも達成されていない。	

留意点 / Additional 対話・参加型指導。各自の研究活動と論文作成の支援が目的なので、授業には毎回出席ョン、論文の個別指導など、積極的に取り組むこと。また、クラスメンバーへの助言なりの発表を15分を単位として、発表とクリティークを行なう一これを繰り返す方式。	
--	--

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	論文演習 2022秋 紺野		
サブタイトル / Sub Title	修士論文の論座		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Thesis Seminar		
教員 / Instructor	紺野 登	E-mail	konno-n@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	ある程度まとまった文章を書いた経験のない者にとり、論文作成の作業は一人では容易ではない。そこで、 問題の設定の仕方、関連する先行文献の探索方法、自身の問題関心の深堀の仕方、仮説の設定、推論・考察の進め方、実証の方法、実際の論文作成の作法など、お互いの発表と実践を通して修得する。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーにあるDP2:「思考と判断」を磨き、各種講義で学んだ実践知に基づく「イノベーターシップ」にあふれた挑戦的なテーマをまとめ、社会人として変革を起こしていくDP5:「志」やDP3:「関心と意欲」の底力をつける。これによりビジネスパーソンとしての自己のキャリアを明確にし、次の段階への方向性について明確できるようになる。また、多摩大学大学院にふさわしい実践と理論を取り入れた修士論文、実践知論文(特定課題研究論文)の完成を目指すために、以下の7項目について、評価できる論文作成を行えること。(1)問題意識と課題設定、(2)先行研究、(3)事実調査、(4)切り口と論理展開、(5)オリジナリティ、(6)説得性、(7)未解明なことへの貢献、ビジネスに対する有用性		
授業形態 / Form of Class	講義、グループディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

授業の概要 / Course Descrip	tion		
第一講・第二講			
概要	修士論文とはなにか(ガイダンス)		
事前,事後学習ポイント	修士論文(dissertation)とは何か 事前・事後学習時間計3時間		
詳細	論文は自分自身の知識を概念化・体系化する作業		
第三講・第四講			
概要	論文作成者との対話、テーマ設定		
事前,事後学習ポイント	テーマの討議、RQ(Research Question) 事前・事後学習時間計3時間		
詳細	テーマ発見は論文作成の三大要素の一つ		
第五講・第六講			
概要	論文作成者による相互プレゼン、討議		
事前,事後学習ポイント	基本的な論文のコンセプト、先行研究など 事前・事後学習時間計3時間		
詳細	個人の頭だけからは良いコンセプトは生まれない		
第七講・第八講			
概要	論文作成者との対話、構成		
事前,事後学習ポイント	仮説、検証へのアプローチ 事前・事後学習時間計3時間		
詳細	第二の重要要素:仮説とは何か、できるだけ早くから取り組む検証		
第九講・第十講			
概要	論文作成者による相互プレゼン、討議		
事前,事後学習ポイント	論文の作成への展開 事前・事後学習時間計3時間		
詳細	第三の重要要素プレゼンテーションとは何か		
第十一講・第十二講			
概要	論文作成者との対話、構成		
事前,事後学習ポイント	どんな論文にするのか?自分のコンセプトは何か? 事前・事後学習時間計3時間		
詳細	(何回ものクイックプレゼンを行う)		

第十三講・第十四講		
概要	論文作成者との対話、構成、形成(1)	
事前,事後学習ポイント	論文の作成、練磨 事前・事後学習時間計3時間	
詳細	論文作成者間による相互プレゼン、討議	
第十五講・第十六講		
概要	論文作成者との対話、構成、形成(2)	
事前,事後学習ポイント	論文の作成、練磨 事前・事後学習時間計3時間	
詳細	論文作成者間による相互プレゼン、討議	

教科書 / Textbook	適宜、講義資料を配布する。
指定図書 / Course Readings	・各自自分の特性にあった「マニュアル本」を見つけること ・各自自分の特性にあった他者の論文を探索、収集していくこと
参考文献・参考URL / Reference List	参考:修論説明資料 初回オリエンで配布

評価方法 / Method of Evaluation			
配分(合計100%)	履修期末に論文提出する院生:演習への取組態度(15%)、演習での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容(25%)、作成した論文内容(30%) 履修期末に提出予定でないもの:演習への取組態度(30%)、演習での議論参加(40%)、プレゼンテーション内容(30%)		
評価基準 / Evaluation Criteria	а		
評価「A・」(100~90 点):	積極的に議論に参加し、他者への貢献に優れるとともに、プレゼンテーションが特に優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で5項目が達成されている。		
評価「A」(89~80点):	授業内での議論に積極的に参加し、プレゼンテーション内容が優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で4項目が達成されている。		
評価「B」(79~70点):	授業内での議論参加が標準的であり、プレゼンテーション内容が良い。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1) ~ (7) で3項目が達成されている。		
評価「C」(69~60点):	授業内での議論参加がやや弱く、プレゼンテーション内容が普通。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で2項目が達成されている。		
評価「F」(59点以下):	取組態度が不良で、授業内での議論參加、プレゼンテーション内容が不十分。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)のいずれも達成されていない。		

留意点 / Additional 対話・参加型指導。各自の研究活動と論文作成の支援が目的なので、授業には毎回出席ョン、論文の個別指導など、積極的に取り組むこと。また、クラスメンバーへの助言なりの発表を15分を単位として、発表とクリティークを行なう一これを繰り返す方式。	
--	--

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	論文演習 2022春 佐々木		
サブタイトル / Sub Title			
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Thesis Seminar		
教員 / Instructor	佐々木 弘明	E-mail	sasaki-hi@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	ある程度まとまった文章を書いた経験のない者にとり、論文作成の作業は一人では容易ではない。そこで、 問題の設定の仕方、関連する先行文献の探索方法、自身の問題関心の深堀の仕方、リサーチクェッション/仮説の設定、推論・考察の進め方、データドリブンの実証方法、実際の論文作成の作法など、お互いの発表と実践を通して修得する。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーにあるDP2:「思考と判断」を磨き、各種講義で学んだ実践知に基づく「イノベーターシップ」にあふれた挑戦的なテーマをまとめ、社会人として変革を起こしていくDP5:「志」の昇華へ向けたの基礎力を養成する。これによりビジネスパーソンとしての自己のキャリアを明確にし、次の段階へステップアップできるように指導する。また、多摩大学大学院にふさわしい実践と理論を取り入れた修士論文、実践知論文(特定課題研究論文)の完成を目指すために、以下の7項目について、重点的に指導する。 (1) 問題意識と課題設定 (2) 先行研究 (3) 事実調査 (4) 切り口と論理展開 (5) オリジナリティ (6) 説得性 (7) 未解明なことへの貢献、ビジネスに対する有用性		
授業形態 / Form of Class	双方向、グループディスカッション、プレゼ ンテーション	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

自身の論文や必読書の担当部分について発表準備するだけではなく、他の履修者の研究発表について理解し、アドバイスできるようになる。(予習・復習含め毎回3時間程度)

授業の概要 / Course Desc	iption		
第一講・第二講			
概要	論文演習の進行説明とメンバーの相互理解。 論文を書くことの意義と今後のキャリアへの展開についてのダイアローグ。		
事前,事後学習ポイント	論文の作成:問題の設定から書き方までの基本を理解する。		
詳細	論文演習の進行を理解するとともに、アクティビティを通じてメンバー相互を理解する。 ※ゼミ卒業生より優秀論文のコツの指導①		
第三講・第四講			
概要	研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表によるサークル形式指導。		
事前,事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。		
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカックン。双方向ダイアローグ。		
	※ゼミ卒業生より優秀論文のコツの指導②		
第五講・第六講			
概要	前講に同じ。期末の論文提出者から順に行う		
事前,事後学習ポイント	前講に同じ。		
詳細	前講に同じ。		
	※ゼミ卒業生より優秀論文のコツの指導③		
第七講・第八講			
概要	前講に同じ。期末の論文提出者から順に行う。		
事前,事後学習ポイント	前講に同じ。		
≘¥√m	前講に同じ。		
詳細	※ゼミ卒業生より優秀論文のコツの指導④		

概要	前講に同じ。期末の論文提出者から順に行う		
事前,事後学習ポイント 	前講に同じ。		
詳細	前講に同じ。		
	※ゼミ卒業生より優秀論文のコツの指導⑤		
第十一講・第十二講			
概要	前講に同じ。期末の論文提出者から順に行う		
事前,事後学習ポイント	前講に同じ。		
詳細	前講に同じ。		
5十·加山	※ゼミ卒業生より優秀論文のコツの指導⑥		
第十三講・第十四講			
概要	前講に同じ。期末の論文提出者から順に行う。		
事前,事後学習ポイント	前講に同じ。		
	前講に同じ。		
詳細	※ゼミ卒業生より優秀論文のコツの指導⑦		
第十五講・第十六講			
概要	前講に同じ。個別指導とする		
事前,事後学習ポイント	前講に同じ。		
	前講に同じ。		
詳細	※ゼミ卒業生より優秀論文のコツの指導®		
教科書 / Textbook	「論文の書き方」清水幾太郎著、岩波新書		
	「優秀論文」作成術 川﨑剛著、勁草書房		
指定図書 / Course Readings	「知性を磨く」田坂広志著、光文社新書		
参考文献・参考URL / Reference List	「博士・修士・卒業論文の書き方」新堀聰(同文館出版) 、「論文の教室(新版)」戸田山和久 (NHKブックス)、「問題解 決」高田貴久・岩澤智之(英治出版)		
Therefelice List	NJ BERN HITECONHEIM		
	ion		
	履修期末に論文提出する院生:演習への取組態度(15%)、演習での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容(25%)、作成し		
配分(合計100%)	た論文内容 (30%) 履修期末に提出予定でない者:演習への取組態度(30%)、演習での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容 (25%)、期末課		
	題「論文で使えそうな理論」(15%)		
評価基準 / Evaluation Criteria			
評価「A・」(100~90 点):	積極的に議論に参加し、他者への貢献に優れるとともに、プレゼンテーションが特に優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で5項目が達成されている。		
評価「A」(89~80点):	授業内での議論に積極的に参加し、プレゼンテーション内容が優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で4項目が達成されている。		
評価「B」(79~70点):	授業内での議論参加が標準的であり、プレゼンテーション内容が良い。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で3項目が達成されている。		
評価「C」(69~60点):	授業内での議論参加がやや弱く、プレゼンテーション内容が普通。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で2項目が達成されている。		
	取組態度が不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)のいずれも達成されていない。		
評価「F」(59点以下):	│ 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)のいずれも達成されていない。 		
評価「F」(59点以下):	履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)のいずれも達成されていない。 各自の研究活動と論文作成の支援が目的なので、授業には毎回出席し、全体発表、クラスディスカッション、論文の個別指		

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	論文演習 2022秋 佐々木		
サブタイトル / Sub Title			
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Thesis Seminar		
教員 / Instructor	佐々木 弘明	E-mail	sasaki-hi@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	ある程度まとまった文章を書いた経験のない者にとって、論文作成の作業は一人では容易ではない。そこで、 問題の設定の 仕方、関連する先行文献の探索方法、自身の問題関心の深堀の仕方、仮説とリサーチクェッションの設定、推論・考察の進め 方、実証の方法、実際の論文作成の作法など、お互いの発表と実践を通して修得する。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーにあるDP2:「思考と判断」を磨き、各種講義で学んだ実践知に基づく「イノベーターシップ」にあふれた挑戦的なテーマをまとめ、社会人として変革を起こしていくDP5:「志」昇華へ向けた基礎力をつける。これによりビジネスパーソンとしての自己のキャリアを明確にし、次の段階へステップアップできるようになる。また、多摩大学大学院にふさわしい実践と理論を取り入れた修士論文、実践知論文(特定課題研究論文)の完成を目指すために、以下の7項目について、評価できる論文作成を行う。(1)問題意識と課題設定(2)先行研究(3)事実調査(4)切り口と論理展開(5)オリジナリティ(6)説得性(7)未解明なことへの貢献、ビジネスに対する有用性		
授業形態 / Form of Class	双方向、グループディスカッション、プレゼ ンテーション	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

自身の論文や必読書の担当部分について発表準備するだけではなく、他の履修者の研究発表について理解し、アドバイスできるようになる。(予習・復習を含め毎回3時間程度)

授業の概要 / Course Descr	ription		
第一講・第二講			
概要	論文演習の進行説明とメンバーの相互理解。		
事前,事後学習ポイント	論文の作成:問題の設定から書き方までの基本を理解する。		
詳細	論文演習の進行を理解するとともに、アクティビティを通じてメンバー相互を理解する。 ※ゼミOBの優秀論文受賞者からのアドバイス①		
第三講・第四講			
概要	研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表によるサークル形式指導。		
事前,事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。		
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカッション。 (双方向コミュニケーション)		
	※ゼミOBの優秀論文受賞者からのアドバイス②		
第五講・第六講			
概要	前講に同じ。期末の論文提出者から順に行う		
事前,事後学習ポイント	前講に同じ。		
詳細	前講に同じ。 ※ゼミOBの優秀論文受賞者からのアドバイス③		
第七講・第八講			
概要	前講に同じ。期末の論文提出者から順に行う		
事前,事後学習ポイント	前講に同じ。		
詳細	前講に同じ。 ※ゼミOBの優秀論文受賞者からのアドバイス④		
第九講・第十講			
概要	前講に同じ。期末の論文提出者から順に行う		
	前講に同じ。		

事前,事後学習ポイント			
= 4 4m	前講に同じ。		
詳細	※ゼミOBの優秀論文受賞者か	らのアドバイス⑤	
第十一講・第十二講			
概要	前講に同じ。期末の論文提出者	がら順に行う	
事前,事後学習ポイント	前講に同じ。		
=\-4m	前講に同じ。		
詳細	※ゼミOBの優秀論文受賞者か	らのアドバイス⑥	
第十三講・第十四講			
概要	前講に同じ。期末の論文提出者から順に行う		
事前,事後学習ポイント	前講に同じ。		
≘¥ √m	前講に同じ。		
詳細	※ゼミOBの優秀論文受賞者からのアドバイス⑦		
第十五講・第十六講			
概要	論文演習まとめ 前講に同じ。個別指導とする。		
事前,事後学習ポイント	前講に同じ。		
詳細	前講に同じ。		

教科書 / Textbook	「論文の書き方」清水幾太郎著、岩波新書 「優秀論文」作成術、川﨑剛著、勁草書房
指定図書 / Course Readings	「知性を磨く」田坂広志著、光文社新書
参考文献・参考URL / Reference List	「博士・修士・卒業論文の書き方」新堀聰(同文館出版) 、「論文の教室(新版)」戸田山和久 (NHKブックス)、「問題解決」高田貴久・岩澤智之(英治出版)

評価方法 / Method of Evaluation		
配分(合計100%)	履修期末に論文提出する院生:演習への取組態度(15%)、演習での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容(25%)、作成した論文内容(30%) 履修期末に提出予定でない者:演習への取組態度(30%)、演習での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容(25%)、課題:論文に使える理論(15%)	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	積極的に議論に参加し、他者への貢献に優れるとともに、プレゼンテーションが特に優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(8)で5項目が達成されている。	
評価「A」(89~80点):	授業内での議論に積極的に参加し、プレゼンテーション内容が優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(8)で4項目が達成されている。	
評価「B」(79~70点):	授業内での議論参加が標準的であり、プレゼンテーション内容が良い。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(8)で3項目が達成されている。	
評価「C」(69~60点):	授業内での議論參加がやや弱く、プレゼンテーション内容が普通。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(8)で2項目が達成されている。	
評価「F」(59点以下):	取組態度が不良で、授業内での議論參加、プレゼンテーション内容が不十分。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(8)のいずれも達成されていない。	

	各自の研究活動と論文作成の支援が目的なので、授業には毎回出席し、全体発表、クラスディスカッション、論文の個別指
留意点 / Additional	導など、積極的に取り組むこと。また、クラスメンバーへの助言などの貢献も心がけること。
Information	ロールモデル企業や同業他社、異業種からあるべき姿の探究支援あり。
	本ゼミでは、OB・OGがアドバイザーとして参加を予定しています。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	論文演習 2022春 徳岡		
サブタイトル / Sub Title	論文作成指導		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Thesis Seminar		
教員 / Instructor	徳岡 晃一郎	E-mail	tokuoka@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	ある程度まとまった文章を書いた経験のない者にとり、論文作成の作業は一人では容易ではない。そこで、 問題の設定の仕方、関連する先行文献の探索方法、自身の問題関心の深堀の仕方、仮説の設定、推論・考察の進め方、実証の方法、実際の論文作成の作法など、お互いの発表と実践を通して修得する。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーにあるDP2:「思考と判断」 た挑戦的なテーマをまとめ、社会人として変革 りビジネスパーソンとしての自己のキャリアを また、多摩大学大学院にふさわしい実践と理論 に、以下の7項目について、評価できる論文作 査、(4)切り口と論理展開、(5)オリジナリ	を起こしていくDP5:「志」やD 明確にし、次の段階への方向性 を取り入れた修士論文、実践知 成を行えること。(1)問題意識	P3:「関心と意欲」の底力をつける。これによについて明確できるようになる。 論文(特定課題研究論文)の完成を目指すため 後と課題設定、(2) 先行研究、(3) 事実調
授業形態 / Form of Class	グループディスカッション、ディベート、プ レゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	あり

授業の概要 / Course Descript	ion		
第一講・第二講			
概要	論文演習の進行説明とメンバー	- の相互理解	
事前,事後学習ポイント	論文の作成:問題の設定から書	書き方までの基本を理解する。1.5時間	
詳細	論文演習の進行を理解するとともに、アクティビティを通じてメンバー相互を理解する。 宿題:必読書を担当し、パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する。		
第三講・第四講			
概要	研究テーマに基づいた個別指導	P 及び全体発表によるサークル形式指導。	
事前,事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。各自の発表とディスカッションを一人30分ずつで、計6人		
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカッション。(双方向) 第1講で出された検討課題への回答をプレゼンテーション。		
第五講・第六講			
概要	前講に同じ。期末の論文提出者から順に行う		
事前,事後学習ポイント	前講に同じ。		
詳細	前講に同じ。	前講に同じ。	
第七講・第八講			
概要	前講に同じ。期末の論文提出者から順に行う		
事前,事後学習ポイント	前講に同じ。		
詳細	前講に同じ。		
第九講・第十講			
概要	前講に同じ。期末の論文提出者から順に行う		
事前,事後学習ポイント	前講に同じ。		
詳細	前講に同じ。		
第十一講・第十二講			

概要	前講に同じ。期末の論文提出者	から順に行う
事前,事後学習ポイント	前講に同じ。	
詳細	前講に同じ。	
第十三講・第十四講		
概要	前講に同じ。期末の論文提出者	から順に行う
事前,事後学習ポイント	前講に同じ。	
詳細	前講に同じ。	
第十五講・第十六講		
概要	前講に同じ。期末の論文提出者から順に行う	
事前,事後学習ポイント	前講に同じ。	
詳細	前講に同じ。	

教科書 / Textbook	適宜配布する。		
指定図書 / Course Readings	「知性を磨く」田坂広志、光文社新書		
参考文献・参考URL / Reference List	「論文の教室(新版)」戸田山和久、NHKブックス、 「論文マニュアル」山内志朗、平凡社新書、 「調査のためのインターネット」アリアドネ著、 「アイデアのちから」チップ・ハース、ダアン・ハース、日経BP社 「問いのデザイン」安齋勇樹、塩瀬隆之、学芸出版社		

評価方法 / Method of Evaluation		
配分(合計100%)	履修期末に論文提出する院生:演習への取組態度(15%)、演習での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容 (25%)、作成した論文内容 (30%) 履修期末に提出予定でないもの:演習への取組態度(30%)、演習での議論参加(40%)、プレゼンテーション内容 (30%)	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	積極的に議論に参加し、他者への貢献に優れるとともに、プレゼンテーションが特に優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で5項目が達成されている。	
評価「A」(89~80点):	授業内での議論に積極的に参加し、プレゼンテーション内容が優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で4項目が達成されている。	
評価「B」(79~70点):	授業内での議論参加が標準的であり、プレゼンテーション内容が良い。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で3項目が達成されている。	
評価「C」(69~60点):	授業内での議論参加がやや弱く、プレゼンテーション内容が普通。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で2項目が達成されている。	
評価「F」(59点以下):	取組態度が不良で、授業内での議論參加、プレゼンテーション内容が不十分。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)のいずれも達成されていない。	

留意点 / Additional	各自の研究活動と論文作成の支援が目的なので、授業には毎回出席し、全体発表、クラスディスカッション、論文の個別指
Information	導など、積極的に取り組むこと。また、クラスメンバーへの助言などの貢献も心がけること。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	論文演習 2022秋 徳岡		
サブタイトル / Sub Title	論文作成指導		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Thesis Seminar		
教員 / Instructor	徳岡 晃一郎	E-mail	tokuoka@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	ある程度まとまった文章を書いた経験のない者 方、関連する先行文献の探索方法、自身の問題 文作成の作法など、お互いの発表と実践を通し	[関心の深堀の仕方、仮説の設定	
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーにあるDP2:「思考と判断」 た挑戦的なテーマをまとめ、社会人として変革 りビジネスパーソンとしての自己のキャリアを また、多摩大学大学院にふさわしい実践と理論 に、以下の7項目について、評価できる論文作 査、(4)切り口と論理展開、(5)オリジナリ	を起こしていくDP5:「志」やD 明確にし、次の段階への方向性 を取り入れた修士論文、実践知 成を行えること。(1)問題意詳	P3:「関心と意欲」の底力をつける。これによ について明確できるようになる。 論文(特定課題研究論文)の完成を目指すため 哉と課題設定、(2)先行研究、(3)事実調
授業形態 / Form of Class	グループディスカッション、ディベート、プ レゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	あり

授業の概要 / Course Description		
第一講・第二講		
概要	論文演習の進行説明とメンバー	- の相互理解
事前,事後学習ポイント	論文の作成:問題の設定から書	書き方までの基本を理解する。1.5時間
詳細		:もに、アクティビティを通じてメンバー相互を理解する。 -ポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する。
第三講・第四講		
概要	研究テーマに基づいた個別指導	P 及び全体発表によるサークル形式指導。
事前,事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから ンを一人30分ずつで、計6人	貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。各自の発表とディスカッショ
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカッション。(双方向) 第1講で出された検討課題への回答をプレゼンテーション。	
第五講・第六講		
概要	前講に同じ。期末の論文提出者	から順に行う
事前,事後学習ポイント	前講に同じ。	
詳細	前講に同じ。	
第七講・第八講		
概要	前講に同じ。期末の論文提出者から順に行う	
事前,事後学習ポイント	前講に同じ。	
詳細	前講に同じ。	
第九講・第十講		
概要	前講に同じ。期末の論文提出者から順に行う	
事前,事後学習ポイント	前講に同じ。	
詳細	前講に同じ。	
第十一講・第十二講		

概要	前講に同じ。期末の論文提出者	から順に行う
事前,事後学習ポイント	前講に同じ。	
詳細	前講に同じ。	
第十三講・第十四講		
概要	前講に同じ。期末の論文提出者	から順に行う
事前,事後学習ポイント	前講に同じ。	
詳細	前講に同じ。	
第十五講・第十六講		
概要	前講に同じ。期末の論文提出者	から順に行う
事前,事後学習ポイント	前講に同じ。	
詳細	前講に同じ。	

教科書 / Textbook	適宜配布する。
指定図書 / Course Readings	「知性を磨く」田坂広志、光文社新書
参考文献・参考URL / Reference List	「論文の教室(新版)」戸田山和久、NHKブックス、 「論文マニュアル」山内志朗、平凡社新書、 「調査のためのインターネット」アリアドネ著、 「アイデアのちから」チップ・ハース、ダアン・ハース、日経BP社 「問いのデザイン」安齋勇樹、塩瀬隆之、学芸出版

評価方法 / Method of Evaluation		
配分(合計100%)	履修期末に論文提出する院生:演習への取組態度(15%)、演習での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容(25%)、作成した論文内容(30%) 履修期末に提出予定でないもの:演習への取組態度(30%)、演習での議論参加(40%)、プレゼンテーション内容(30%)	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	積極的に議論に参加し、他者への貢献に優れるとともに、プレゼンテーションが特に優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で5項目が達成されている。	
評価「A」(89~80点):	授業内での議論に積極的に参加し、プレゼンテーション内容が優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で4項目が達成されている。	
評価「B」(79~70点):	授業内での議論参加が標準的であり、プレゼンテーション内容が良い。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で3項目が達成されている。	
評価「C」(69~60点):	授業内での議論参加がやや弱く、プレゼンテーション内容が普通。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で2項目が達成されている。	
評価「F」(59点以下):	取組態度が不良で、授業内での議論參加、プレゼンテーション内容が不十分。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)のいずれも達成されていない。	

留意点 / Additional	各自の研究活動と論文作成の支援が目的なので、授業には毎回出席し、全体発表、クラスディスカッション、論文の個別指
Information	導など、積極的に取り組むこと。また、クラスメンバーへの助言などの貢献も心がけること。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	論文演習 2022春 今泉・久保田		
サブタイトル / Sub Title			
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Thesis Seminar		
教員 / Instructor	今泉 忠	E-mail	imaizumi@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	ある程度まとまった文章を書いた経験のない者にとり、論文作成の作業は一人では容易ではない。 そこで、 問題の設定の仕方、関連する先行文献の探索方法、自身の問題関心の深堀の仕方、仮説の設定、推論・考察の進め 方、実証の方法、実際の論文作成の作法など、お互いの発表と実践を通して修得する。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーにあるDP2:「思考と判断」 た挑戦的なテーマをまとめ、社会人として変革 りビジネスパーソンとしての自己のキャリアを また、多摩大学大学院にふさわしい実践と理論 に、以下の7項目について、評価できる論文作 査、(4)切り口と論理展開、(5)オリジナリ	を起こしていくDP5:「志」やD 明確にし、次の段階への方向性 を取り入れた修士論文、実践知 成を行えること。(1)問題意詞	P3:「関心と意欲」の底力をつける。これによについて明確できるようになる。 論文(特定課題研究論文)の完成を目指すため 後と課題設定、(2) 先行研究、(3) 事実調
授業形態 / Form of Class	双方向, グループディスカッション, プレゼ ンテーション	学外学習 / Off-Campus Learning	あり

授業の概要 / Course Descr	iption	
第一講・第二講		
概要	論文テーマ	
事前,事後学習ポイント	これまでの授業・自身の研究を踏まえて、論文テーマの方向性を検討し決定する(3時間)	
詳細	ビジネスに関する課題としての論文テーマなどについて情報を共有する	
第三講・第四講		
概要	課題からの仮説構築(2~3名の院生)	
事前,事後学習ポイント	事前学習として、論文進捗状況をまとめ、授業の中で報告出来るように準備する。また、事後学修として、授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。必要であれば文献をあたり、研究を進める。(3時間)	
詳細	仮説構築と分析についてグループでディスカッションを行う。	
第五講・第六講		
概要	課題からの仮説構築(2~3名の院生)	
事前,事後学習ポイント	事前学習として、論文進捗状況をまとめ、授業の中で報告出来るように準備する。また、事後学修として、授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。必要であれば文献をあたり、研究を進める。(3時間)	
詳細	課題からの仮説構築とモデル構築と分析について 2 ~ 3 名の院生より進捗状況を報告してもらい, 研究の方向性や分析の手法などについて学修します。	
第七講・第八講		
概要	課題からの仮説構築とモデル構築(2~3名の院生)	
事前,事後学習ポイント	事前学習として、論文進捗状況をまとめ、授業の中で報告出来るように準備する。また、事後学修として、授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。(3時間)	
詳細	分析結果をもとにした提案ついてグループでディスカッションを行う。	
第九講・第十講		
概要	課題からの仮説構築とモデル構築と分析 (2~3名の院生)	
事前,事後学習ポイント	事前学習として、論文進捗状況をまとめ、授業の中で報告出来るように準備する。また、事後学修として、授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。さらに、分析結果をもとにした提案へとすすめ、論文のDraftを作成する。(3時間)	
詳細	レポートと論文の違いを確認し,論文の構成検討を行います。	

第十一講・第十二講		
概要	課題からの仮説構築とモデル構築と分析II (2~3名の院生)	
事前,事後学習ポイント	事前学習として、論文進捗状況をまとめ、授業の中で報告出来るように準備する。また、事後学修として、授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。さらに、論文のDraftの構成を検討する。(3時間)	
詳細	レポートと論文の違いを確認し,論文の構成検討を行います。	
第十三講・第十四講		
概要	論文の構成検討	
事前,事後学習ポイント	事前学習として、論文進捗状況をまとめ、授業の中で報告出来るように準備する。また、事後学修として、授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。さらに、論文のDraftへの記述を図る。(3時間)	
詳細	論文のDraftを確認し、論文の構成検討を行います。	
第十五講・第十六講		
概要	<u>整</u> 理	
事前,事後学習ポイント	これまでの指摘を論文のDraftに落とし込み,レポートを完成させる。(3時間)	
詳細	これまでの指摘をレポートに落とし込み、レポートを完成させます。また、論文のDraftへの記述を図ります.	
教科書 / Textbook	適宜配布する。	
指定図書 / Course Readings	なし。	
参考文献・参考URL / Reference List	なし。	
評価方法 / Method of Evaluati	on	
配分(合計100%)	今学期末に論文提出するもの:演習への取組態度(15%),演習での議論参加(30%),プレゼンテーション内容(25%),作成した言文内容(30%) 今学期末に提出予定でないもの:演習への取組態度(30%),演習での議論参加(40%),プレゼンテーション内容(30%)	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	積極的に議論に参加し 他者への貢献に優れるとともに、プレゼンテーションが特に優れている。 今学期末に論文提出するもの:論文内容(1) \sim (7)で5項目が達成されている	
評価「A」(89~80点):	授業内での議論に積極的に参加し、プレゼンテーション内容が優れている。 今学期末に論文提出するもの:論文内容(1) \sim (7)で4項目が達成されている	
評価「B」(79~70点):	授業内での議論参加が標準的であり、プレゼンテーション内容が良い。 今学期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で3項目が達成されている	
評価「C」(69~60点):	授業内での議論参加がやや弱く、プレゼンテーション内容が普通。 今学期末に論文提出するもの:論文内容(1) \sim (7)で2項目が達成されている	
評価「F」(59点以下):	取組態度が不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。 今学期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)のいずれも達成されていない	

留意点 / Additional	各自の研究活動と論文作成の支援が目的なので、授業には毎回出席し、全体発表、 クラスディスカッション、論文の個別指
Information	導など、積極的に取り組むこと。また、 クラスメンバーへの助言などの貢献も心がけること。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	論文演習 2022秋 久保田・今泉		
サブタイトル / Sub Title	修士論文・実践知論文入門		
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Thesis Seminar		
教員 / Instructor	久保田 貴文	E-mail	kubota@tama.ac.jp imaizumi@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	ある程度まとまった文章を書いた経験のない者 方、関連する先行文献の探索方法、自身の問題 文作成の作法など、お互いの発表と実践を通し	関心の深堀の仕方、仮説の設定	
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーにあるDP2:「思考と判断」 た挑戦的なテーマをまとめ、社会人として変革 りビジネスパーソンとしての自己のキャリアを また、多摩大学大学院にふさわしい実践と理論 に、以下の7項目について、評価できる論文作 査、(4)切り口と論理展開、(5)オリジナリ	を起こしていくDP5:「志」やD 明確にし、次の段階への方向性 を取り入れた修士論文、実践知 成を行えること。(1)問題意詞	P3:「関心と意欲」の底力をつける。これによ について明確できるようになる。 論文(特定課題研究論文)の完成を目指すため 哉と課題設定、(2)先行研究、(3)事実調
授業形態 / Form of Class	双方向、グループディスカッション、プレゼ ンテーション	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

授業の概要 / Course Descripti	on	
第一講・第二講		
概要	論文テーマ	
事前,事後学習ポイント	これまでの授業・自身の研究を踏まえて,論文テーマの方向性を検討し決定する(3時間程度)	
詳細	ビジネスに関する課題としての論文テーマなどについて情報を共有する	
第三講・第四講		
概要	課題からの仮説構築(2~3名の院生)	
事前,事後学習ポイント	事前学習として、論文進捗状況をまとめ、授業の中で報告出来るように準備する。また、事後学修として、授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。必要であれば文献をあたり、研究を進める。(3時間程度)	
詳細	仮説構築と分析についてグループでディスカッションを行う。	
第五講・第六講		
概要	課題からの仮説構築とモデル構築 (2~3名の院生)	
事前,事後学習ポイント	事前学習として、論文進捗状況をまとめ、授業の中で報告出来るように準備する。また、事後学修として、授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。必要であれば文献をあたり、研究を進める。(3時間程度)	
詳細	課題からの仮説構築とモデル構築と分析について 2 ~ 3 名の院生より進捗状況を報告してもらい, 研究の方向性や分析の手法などについて学修します。	
第七講・第八講		
概要	課題からの仮説構築とモデル構築(2~3名の院生)	
事前,事後学習ポイント	事前学習として、論文進捗状況をまとめ、授業の中で報告出来るように準備する。また、事後学修として、授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。(3時間程度)	
詳細	分析結果をもとにした提案ついてグループでディスカッションを行う。	
第九講・第十講		
概要	課題からの仮説構築とモデル構築と分析 (2~3名の院生)	
事前,事後学習ポイント	事前学習として、論文進捗状況をまとめ、授業の中で報告出来るように準備する。また、事後学修として、授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。さらに、分析結果をもとにした提案へとすすめ、論文のDraftを作成する。(3時間程度)	
詳細	分析結果をもとにした提案について2~3名の院生より進捗状況を報告してもらい,研究の方向性や分析の手法などについ	

	て学修します。また,作成したDraftについても確認します。	
第十一講・第十二講		
概要	課題からの仮説構築とモデル構築と分析Ⅱ(2~3名の院生)	
事前,事後学習ポイント	事前学習として、論文進捗状況をまとめ、授業の中で報告出来るように準備する。また、事後学修として、授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。さらに、論文のDraftの構成を検討する。(3時間程度)	
詳細	レポートと論文の違いを確認し,論文の構成検討を行います。	
第十三講・第十四講		
概要	論文の構成検討	
事前,事後学習ポイント	事前学習として、論文進捗状況をまとめ、授業の中で報告出来るように準備する。また、事後学修として、授業の中で出された意見を研究・レポートに反映させる。さらに、論文のDraftへの記述を図る。(3時間程度)	
詳細	論文のDraftを確認し,論文の構成検討を行います。	
第十五講・第十六講		
概要	整理	
事前,事後学習ポイント	これまでの指摘を論文に落とし込み,修士論文を完成させる。(最低3時間程度)	
詳細	これまでの指摘を論文に落とし込み、修士論文を完成させる。	
教科書 / Textbook	適宜、講義内において紹介する	
指定図書 / Course Readings	指定なし	
参考文献・参考URL / Reference List	指定なし	
評価方法 / Method of Evaluat	ion	
配分(合計100%)	履修期末に論文提出する院生:演習への取組態度(15%)、演習での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容(25%)、作成した論文内容(30%) 履修期末に提出予定でないもの:演習への取組態度(30%)、演習での議論参加(40%)、プレゼンテーション内容(30%)	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	積極的に議論に参加し、他者への貢献に優れるとともに、プレゼンテーションが特に優れている。履修期末に論文提出する もの:論文内容(1)~(7)で5項目が達成されている。	
評価「A」(89~80点):	授業内での議論に積極的に参加し、プレゼンテーション内容が優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で4項目が達成されている。	
評価「B」(79~70点):	授業内での議論参加が標準的であり、プレゼンテーション内容が良い。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で3項目が達成されている。	
評価「C」(69~60点):	授業内での議論參加がやや弱く、プレゼンテーション内容が普通。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で2項目が達成されている。	
評価「F」(59点以下):	取組態度が不良で、授業内での議論參加、プレゼンテーション内容が不十分。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)のいずれも達成されていない。	

留意点 / Additional	各自の研究活動と論文作成の支援が目的なので、授業には毎回出席し、全体発表、クラスディスカッション、論文の個別指
Information	導など、積極的に取り組むこと。また、クラスメンバーへの助言などの貢献も心がけること。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	論文演習 2022春 國分		
サブタイトル / Sub Title			
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Thesis Seminar		
教員 / Instructor	國分 俊史	E-mail	kokubun@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	ある程度まとまった文章を書いた経験のない者にとり、論文作成の作業は一人では容易ではない。そこで、 問題の設定の仕方、関連する先行文献の探索方法、自身の問題関心の深堀の仕方、仮説の設定、推論・考察の進め方、実証の方法、実際の論文作成の作法など、お互いの発表と実践を通して修得する。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーにあるDP2:「思考と判断」 た挑戦的なテーマをまとめ、社会人として変革 りビジネスパーソンとしての自己のキャリアを また、多摩大学大学院にふさわしい実践と理論 に、以下の7項目について、評価できる論文作 査、(4)切り口と論理展開、(5)オリジナリ	を起こしていくDP5:「志」やD 明確にし、次の段階への方向性 を取り入れた修士論文、実践知 成を行えること。(1)問題意詞	P3:「関心と意欲」の底力をつける。これによについて明確できるようになる。 論文(特定課題研究論文)の完成を目指すため 後と課題設定、(2)先行研究、(3)事実調
授業形態 / Form of Class	グループディスカッション、ディベート、プ レゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	あり

授業の概要 / Course Descrip	ption
第一講・第二講	
概要	論文演習の進行説明とメンバーの相互理解。
事前,事後学習ポイント	論文の作成:問題の設定から書き方までの基本を理解する。 事前事後の学習時間は合計3時間とする。
詳細	論文演習の進行を理解するとともに、アクティビティを通じてメンバー相互を理解する。 宿題:必読書を担当し、パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する。
第三講・第四講	
概要	研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表によるサークル形式指導。
事前,事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。事前事後の学習時間は合計3時間とする。
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカッション。(双方向) 第1講で出された宿題のプレゼンテーション。
第五講・第六講	
概要	研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表によるサークル形式指導。
事前,事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。事前事後の学習時間は合計3時間とする。
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカッション。(双方向)
第七講・第八講	
概要	研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表によるサークル形式指導。
事前,事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。事前事後の学習時間は合計3時間とする。
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカッション。 (双方向)
第九講・第十講	
概要	研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表によるサークル形式指導。
事前,事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。事前事後の学習時間は合計3時

	間とする。	
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカッション。 (双方向)	
第十一講・第十二講		
概要	研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表によるサークル形式指導。	
事前,事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。事前事後の学習時間は合計3時間とする。	
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカッション。 (双方向)	
第十三講・第十四講		
概要	研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表によるサークル形式指導。	
事前,事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。事前事後の学習時間は合計3時間とする。	
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカッション。 (双方向)	
第十五講・第十六講		
概要	研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表によるサークル形式指導。	
事前,事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。事前事後の学習時間は合計3時間とする。	
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカッション。 (双方向)	
教科書 / Textbook	適宜配布する。	
指定図書 / Course Readings	なし	

教科書 / Textbook	適宜配布する。
指定図書 / Course Readings	なし
参考文献・参考URL / Reference List	なし

評価方法 / Method of Evaluation		
配分(合計100%)	履修期末に論文提出する院生:演習への取組態度(15%)、演習での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容(25%)、作成した論文内容(30%) 履修期末に提出予定でないもの:演習への取組態度(30%)、演習での議論参加(40%)、プレゼンテーション内容(30%)	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	積極的に議論に参加し、他者への貢献に優れるとともに、プレゼンテーションが特に優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で5項目が達成されている。	
評価「A」(89~80点):	授業内での議論に積極的に参加し、プレゼンテーション内容が優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で4項目が達成されている。	
評価「B」(79~70点):	授業内での議論参加が標準的であり、プレゼンテーション内容が良い。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で3項目が達成されている。	
評価「C」(69~60点):	授業内での議論參加がやや弱く、プレゼンテーション内容が普通。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で2項目が達成されている。	
評価「F」(59点以下):	取組態度が不良で、授業内での議論參加、プレゼンテーション内容が不十分。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)のいずれも達成されていない。	

留意点 / Additional	各自の研究活動と論文作成の支援が目的なので、授業には毎回出席し、全体発表、クラスディスカッション、論文の個別指
Information	導など、積極的に取り組むこと。また、クラスメンバーへの助言などの貢献も心がけること。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	論文演習 2022秋 國分		
サブタイトル / Sub Title			
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Thesis Seminar		
教員 / Instructor	國分 俊史	E-mail	kokubun@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	ある程度まとまった文章を書いた経験のない者にとり、論文作成の作業は一人では容易ではない。そこで、 問題の設定の仕方、関連する先行文献の探索方法、自身の問題関心の深堀の仕方、仮説の設定、推論・考察の進め方、実証の方法、実際の論文作成の作法など、お互いの発表と実践を通して修得する。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーにあるDP2:「思考と判断」 た挑戦的なテーマをまとめ、社会人として変革 りビジネスパーソンとしての自己のキャリアを また、多摩大学大学院にふさわしい実践と理論 に、以下の7項目について、評価できる論文作 査、(4)切り口と論理展開、(5)オリジナリ	を起こしていくDP5:「志」やD 明確にし、次の段階への方向性 を取り入れた修士論文、実践知 成を行えること。(1)問題意詞	P3:「関心と意欲」の底力をつける。これによについて明確できるようになる。 論文(特定課題研究論文)の完成を目指すため 後と課題設定、(2)先行研究、(3)事実調
授業形態 / Form of Class	グループディスカッション、ディベート、プ レゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	あり

授業の概要 / Course Descr	iption	
第一講・第二講		
概要	論文演習の進行説明とメンバーの相互理解。	
事前,事後学習ポイント	論文の作成:問題の設定から書き方までの基本を理解する。 事前事後の学習時間は合計3時間とする。	
詳細	論文演習の進行を理解するとともに、アクティビティを通じてメンバー相互を理解する。 宿題:必読書を担当し、パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する。	
第三講・第四講		
概要	研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表によるサークル形式指導。	
事前,事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。事前事後の学習時間は合計3時間とする。	
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカッション。 (双方向) 第1講で出された宿題のプレゼンテーション。	
第五講・第六講		
概要	研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表によるサークル形式指導。	
事前,事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。事前事後の学習時間は合計3時間とする。	
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカッション。 (双方向)	
第七講・第八講		
概要	研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表によるサークル形式指導。	
事前,事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。事前事後の学習時間は合計3時間とする。	
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカッション。 (双方向)	
第九講・第十講		
概要	研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表によるサークル形式指導。	
事前,事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。事前事後の学習時間は合計3時	

	間とする。		
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカッション。 (双方向)		
第十一講・第十二講			
概要	研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表によるサークル形式指導。		
事前,事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。事前事後の学習時間は合計3時間とする。		
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカッション。 (双方向)		
第十三講・第十四講			
既要	研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表によるサークル形式指導。		
事前,事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。事前事後の学習時間は合計3時間とする。		
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカッション。 (双方向)		
第十五講・第十六講			
概要	研究テーマに基づいた個別指導及び全体発表によるサークル形式指導。		
事前,事後学習ポイント	授業内で教員及びメンバーから貰ったコメントやアドバイスを整理し、論文作成に役立てる。事前事後の学習時間は合計3時間とする。		
詳細	論文作成者による作成論文のプレゼンテーション、教員及びメンバーによる問題点の指摘、アドバイス、ディスカッション。 (双方向)		
教科書 / Textbook	適宜配布する。		
指定図書 / Course Readings			

教科書 / Textbook	適宜配布する。
指定図書 / Course Readings	なし
参考文献・参考URL / Reference List	なし

評価方法 / Method of Evaluation		
配分(合計100%)	履修期末に論文提出する院生:演習への取組態度(15%)、演習での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容(25%)、作成した論文内容(30%) 履修期末に提出予定でないもの:演習への取組態度(30%)、演習での議論参加(40%)、プレゼンテーション内容(30%)	
評価基準 / Evaluation Criteria		
評価「A・」(100~90 点):	積極的に議論に参加し、他者への貢献に優れるとともに、プレゼンテーションが特に優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で5項目が達成されている。	
評価「A」(89~80点):	授業内での議論に積極的に参加し、プレゼンテーション内容が優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で4項目が達成されている。	
評価「B」(79~70点):	授業内での議論参加が標準的であり、プレゼンテーション内容が良い。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で3項目が達成されている。	
評価「C」(69~60点):	授業内での議論參加がやや弱く、プレゼンテーション内容が普通。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で2項目が達成されている。	
評価「F」(59点以下):	取組態度が不良で、授業内での議論参加、プレゼンテーション内容が不十分。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)のいずれも達成されていない。	

留意点 / Additional	各自の研究活動と論文作成の支援が目的なので、授業には毎回出席し、全体発表、クラスディスカッション、論文の個別指
Information	導など、積極的に取り組むこと。また、クラスメンバーへの助言などの貢献も心がけること。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	春学期
科目名 / Course Title	論文演習 2022春 真野		
サブタイトル / Sub Title			
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Thesis Seminar		
教員 / Instructor	真野 俊樹	E-mail	mano@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	ある程度まとまった文章を書いた経験のない者にとり、論文作成の作業は一人では容易ではない。そこで、 問題の設定の仕方、関連する先行文献の探索方法、自身の問題関心の深堀の仕方、仮説の設定、推論・考察の進め方、実証の方法、実際の論文作成の作法など、お互いの発表と実践を通して修得する。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーにあるDP2:「思考と判断」 た挑戦的なテーマをまとめ、社会人として変革 りビジネスパーソンとしての自己のキャリアを また、多摩大学大学院にふさわしい実践と理論 に、以下の7項目について、評価できる論文作 査、(4)切り口と論理展開、(5)オリジナリ	を起こしていくDP5:「志」やD 明確にし、次の段階への方向性 iを取り入れた修士論文、実践知 成を行えること。(1)問題意論	P3:「関心と意欲」の底力をつける。これによ について明確できるようになる。 論文(特定課題研究論文)の完成を目指すため 我と課題設定、(2)先行研究、(3)事実調
授業形態 / Form of Class	グループディスカッション、ディベート、プ レゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

授業の概要 / Course Desci	rintion		
第一講・第二講			
概要	院生による発表と討議		
事前,事後学習ポイント	論文の作成:問題の設定から書き方までの基本を理解する 学習時間[1.5時間~3時間		
詳細	アクティビティ (プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート)を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する		
第三講・第四講			
概要	院生による発表と討議		
事前,事後学習ポイント	論文の作成:問題の設定から書き方までの基本を理解する 学習時間[1.5時間~3時間		
詳細	アクティビティ(プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート)を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する		
第五講・第六講			
概要	院生による発表と討議		
事前,事後学習ポイント	論文の作成:問題の設定から書き方までの基本を理解する 学習時間[1.5時間~3時間		
詳細	アクティビティ(プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート)を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する		
第七講・第八講			
概要	院生による発表と討議		
事前,事後学習ポイント	論文の作成:問題の設定から書き方までの基本を理解する 学習時間[1.5時間~3時間		
詳細	アクティビティ(プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート)を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する		
第九講・第十講			
概要	院生による発表と討議		
事前,事後学習ポイント	論文の作成:問題の設定から書き方までの基本を理解する 学習時間[1.5時間~3時間		
詳細	アクティビティ(プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート)を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する		
第十一講・第十二講			

概要	院生による発表と討議		
事前,事後学習ポイント	論文の作成:問題の設定から書き方までの基本を理解する 学習時間[1.5時間~3時間		
詳細	アクティビティ(プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート)を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する		
第十三講・第十四講			
概要	院生による発表と討議		
事前,事後学習ポイント	論文の作成:問題の設定から書き方までの基本を理解する 学習時間[1.5時間~3時間		
詳細	アクティビティ(プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート)を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する		
第十五講・第十六講			
概要	院生による発表と討議		
事前,事後学習ポイント	論文の作成:問題の設定から書き方までの基本を理解する 学習時間[1.5時間~3時間		
詳細	アクティビティ(プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート)を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する		

教科書 / Textbook	資料を適宜配布する
指定図書 / Course Readings	なし
参考文献・参考URL / Reference List	なし

評価方法 / Method of Evaluation	
配分(合計100%)	履修期末に論文提出する院生:演習への取組態度(15%)、演習での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容(25%)、作成した論文内容(30%) 履修期末に提出予定でないもの:演習への取組態度(30%)、演習での議論参加(40%)、プレゼンテーション内容(30%)
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A・」(100~90 点):	積極的に議論に参加し、他者への貢献に優れるとともに、プレゼンテーションが特に優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で5項目が達成されている。
評価「A」(89~80点):	授業内での議論に積極的に参加し、プレゼンテーション内容が優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で4項目が達成されている。
評価「B」(79~70点):	授業内での議論参加が標準的であり、プレゼンテーション内容が良い。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で3項目が達成されている。
評価「C」(69~60点):	授業内での議論參加がやや弱く、プレゼンテーション内容が普通。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で2項目が達成されている。
評価「F」(59点以下):	取組態度が不良で、授業内での議論參加、プレゼンテーション内容が不十分。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)のいずれも達成されていない。

留意点 / Additional	各自の研究活動と論文作成の支援が目的なので、授業には毎回出席し、全体発表、クラスディスカッション、論文の個別指
Information	導など、積極的に取り組むこと。また、クラスメンバーへの助言などの貢献も心がけること。

講義年度 / Year	2022年度	開講学期 / Semester	秋学期
科目名 / Course Title	論文演習 2022秋 真野		
サブタイトル / Sub Title			
英文科目名 / Course Title (Eng.)	Thesis Seminar		
教員 / Instructor	真野 俊樹	E-mail	mano@tama.ac.jp
科目群 / Course Classification	本質思考力	単位数 / Credits	2単位

講義目的 / Aim of Course	ある程度まとまった文章を書いた経験のない者にとり、論文作成の作業は一人では容易ではない。そこで、 問題の設定の仕方、関連する先行文献の探索方法、自身の問題関心の深堀の仕方、仮説の設定、推論・考察の進め方、実証の方法、実際の論文作成の作法など、お互いの発表と実践を通して修得する。		
到達目標 / Course Goals	ディプロマポリシーにあるDP2:「思考と判断」 た挑戦的なテーマをまとめ、社会人として変革 りビジネスパーソンとしての自己のキャリアを また、多摩大学大学院にふさわしい実践と理論 に、以下の7項目について、評価できる論文作 査、(4)切り口と論理展開、(5)オリジナリ	を起こしていくDP5:「志」やD 明確にし、次の段階への方向性 を取り入れた修士論文、実践知 成を行えること。(1)問題意詳	P3:「関心と意欲」の底力をつける。これによ について明確できるようになる。 論文(特定課題研究論文)の完成を目指すため 哉と課題設定、(2)先行研究、(3)事実調
授業形態 / Form of Class	グループディスカッション、ディベート、プ レゼンテーション、双方向	学外学習 / Off-Campus Learning	なし

授業の概要 / Course Desc	ription		
第一講・第二講			
概要	院生による発表と討議		
事前,事後学習ポイント	論文の作成:問題の設定から書き方までの基本を理解する 学習時間[1.5時間~3時間		
詳細	アクティビティ(プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート)を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する		
第三講・第四講			
概要	院生による発表と討議		
事前,事後学習ポイント	論文の作成:問題の設定から書き方までの基本を理解する 学習時間[1.5時間~3時間		
詳細	アクティビティ(プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート)を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する		
第五講・第六講			
既要	院生による発表と討議		
事前,事後学習ポイント	論文の作成:問題の設定から書き方までの基本を理解する 学習時間[1.5時間~3時間		
詳細	アクティビティ(プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート)を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する		
第七講・第八講			
既要	院生による発表と討議		
事前,事後学習ポイント	論文の作成:問題の設定から書き方までの基本を理解する 学習時間[1.5時間~3時間		
詳細	アクティビティ(プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート)を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する		
第九講・第十講			
概要	院生による発表と討議		
事前,事後学習ポイント	論文の作成:問題の設定から書き方までの基本を理解する 学習時間[1.5時間~3時間		
詳細	アクティビティ(プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート)を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する		
 第十一講・第十二講	·		

概要	院生による発表と討議	
事前,事後学習ポイント	論文の作成:問題の設定から書き方までの基本を理解する 学習時間[1.5時間~3時間	
詳細	アクティビティ(プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート)を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する	
第十三講・第十四講		
概要	院生による発表と討議	
事前,事後学習ポイント	論文の作成:問題の設定から書き方までの基本を理解する 学習時間[1.5時間~3時間	
詳細	アクティビティ(プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート)を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する	
第十五講・第十六講		
概要	院生による発表と討議	
事前,事後学習ポイント	論文の作成:問題の設定から書き方までの基本を理解する 学習時間[1.5時間~3時間	
詳細	アクティビティ(プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート)を通じてメンバー相互を理解する。パワーポイントでまとめてくること。第8講までに全員が発表する	

教科書 / Textbook	資料を適宜配布する
指定図書 / Course Readings	なし
参考文献・参考URL / Reference List	なし

評価方法 / Method of Evaluation	
配分(合計100%)	履修期末に論文提出する院生:演習への取組態度(15%)、演習での議論参加(30%)、プレゼンテーション内容(25%)、作成した論文内容(30%) 履修期末に提出予定でないもの:演習への取組態度(30%)、演習での議論参加(40%)、プレゼンテーション内容(30%)
評価基準 / Evaluation Criteria	
評価「A・」(100~90 点):	積極的に議論に参加し、他者への貢献に優れるとともに、プレゼンテーションが特に優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で5項目が達成されている。
評価「A」(89~80点):	授業内での議論に積極的に参加し、プレゼンテーション内容が優れている。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で4項目が達成されている。
評価「B」(79~70点):	授業内での議論参加が標準的であり、プレゼンテーション内容が良い。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で3項目が達成されている。
評価「C」(69~60点):	授業内での議論參加がやや弱く、プレゼンテーション内容が普通。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)で2項目が達成されている。
評価「F」(59点以下):	取組態度が不良で、授業内での議論參加、プレゼンテーション内容が不十分。 履修期末に論文提出するもの:論文内容(1)~(7)のいずれも達成されていない。

留意点 / Additional	各自の研究活動と論文作成の支援が目的なので、授業には毎回出席し、全体発表、クラスディスカッション、論文の個別指
Information	導など、積極的に取り組むこと。また、クラスメンバーへの助言などの貢献も心がけること。